

平成 27 事業年度 業務実績報告書

第 13 期（平成 27 年 4 月 1 日から平成 28 年 3 月 31 日まで）

平成 28 年 6 月

独立行政法人日本芸術文化振興会

平成 27 事業年度業務実績報告書

目 次

I	国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置	
1	文化芸術活動に対する援助	1
2	伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演	
	伝統芸能の公開	12
	現代舞台芸術の公演	60
	青少年等を対象とした公演	78
	快適な観劇環境の形成	88
	広報・営業活動の充実	99
	劇場施設の使用効率の向上等	112
3	伝統芸能の伝承者の養成及び現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修	
	伝統芸能の伝承者の養成	116
	現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修	130
4	伝統芸能及び現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用	
	伝統芸能に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用	139
	現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用	156
II	業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置	165
III	財務内容の改善に関する事項	181
IV	その他主務省令で定める業務運営に関する事項	185

I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するため
とるべき措置

文化芸術活動に対する援助

文化芸術活動に対する援助 p.1

- 助成金の交付 p.3
- 助成に関する情報等の収集・提供 p.8
- 基金の管理運用 p.10

1 文化芸術活動に対する援助

《中期計画の概要》

1 文化芸術活動に対する援助

(1) 助成金の交付

ア 芸術家及び芸術団体等が実施する活動に対する助成金の交付

イ 助成金交付事務の効率化等

- ① 審査方法等選考に関する基準の策定及び事前公表
- ② 助成の成果等に対する評価等を踏まえた客観性・透明性の高い審査
- ③ 助成対象活動の実施状況の調査
- ④ 助成対象分野の現状等の調査
- ⑤ 地方公共団体との連携協力の推進
- ⑥ 情報通信技術等を活用した申請手続き等の合理化

ウ 芸術文化振興基金（以下「基金」という。）の安全かつ安定した管理運用

エ 外部資金の確保

オ プログラムディレクター及びプログラムオフィサー（以下「PD・PO」という。）等を活用した新たな審査・評価の仕組みについての検証、国際芸術交流支援事業の一元化を含む芸術文化振興のための助成事業の在り方の検討

(2) 助成に関する情報等の収集及び提供

《年度計画の概要》

I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

1 文化芸術活動に対する援助

(1) 助成金の交付

ア 基金の運用収入等を財源とし、次に掲げる活動に対して助成金を交付

① 芸術家及び芸術団体が行う芸術の創造又は普及を図るための活動

(a) 現代舞台芸術の公演、伝統芸能の公開その他の活動

(b) 美術の展示、映像芸術の普及その他の活動

(c) 異なる芸術の分野の芸術家又は芸術に関する団体が共同して行う活動、特定の芸術の分野に分類することが困難な活動等

② 地域の文化の振興を目的として行う活動

(a) 文化会館、美術館その他の地域の文化施設において行う公演、展示その他の活動

(b) 伝統的建造物群、遺跡、民俗芸能その他の文化財を保存し、又は活用する活動

③ 文化に関する団体が行う文化の振興又は普及を図るための活動

(a) アマチュア、青少年等の文化団体が行う公演、展示その他の活動

(b) 文化財である工芸技術又は文化財の保存技術の復元、伝承その他文化財を保存する活動

イ 文化芸術振興費補助金（以下「補助金」という。）を財源とし、次に掲げる活動に対して助成金を交付

① 我が国の舞台芸術の水準を向上させる牽引力となっているトップレベルの芸術団体が国内で実施する舞台芸術の創造活動

② 優れた日本映画の製作活動

ウ 助成金交付事務の効率化等

① 審査方法等に関する基準を策定し、ホームページ等で公表

審査基準を事前公表する分野を舞台芸術以外にも拡大

② 外部有識者、PD・PO等による公演等調査を実施

補助金を財源とする助成金の舞台芸術分野について事後評価を実施、結果を審査等に活用

・ 公演等調査：400件以上（助成対象活動数）

③ 職員による会計調査を実施

PD・POが中心となって助成対象団体との意見交換を実施

- ・ 会計調査：90 件以上（団体数）
- ④ 助成対象分野の現状等の調査分析
- ⑤ 地域の文化振興等の活動について、地方公共団体と連携・協力して応募書類の受付に係る業務等を効率的に実施
- ⑥ 応募書類の電子データによる受付等の実施について検討
 - ・ 助成事業の交付申請書受理から交付決定までの期間：35 日以下
- エ 基金の管理運用について、安全性に留意するとともに、資金内容及び経済情勢の把握に努め、資金管理委員会において運用方針、金融商品等の検討を行い、効率的な方法により実施
- オ 芸術文化振興基金賛助会制度及び社会貢献信託制度の周知、基金の受入拡充
芸術文化復興支援基金による助成事業の周知、必要な資金の確保、交付方法等の検討
- カ PD・PO 等を活用した審査・評価の仕組みについて、成果や課題を検証
- (2) 助成に関する情報等の収集及び提供
- ア 広く文化芸術活動に関する情報を収集し、ホームページ等を通じて提供
 - ・ ホームページ目標アクセス件数：129,500 件
- イ 振興会が実施する助成事業について、ホームページでの情報提供を充実、助成対象活動の事例集を作成・配布
- ウ 助成対象活動の募集に当たり、ホームページへの情報掲載等を行うとともに、地方公共団体及び全国の公立文化施設等にポスター等を配布
- エ 応募相談会を、東京及び大阪に加え、他地域でも開催

1-(1) 助成金の交付

《主要な業務実績》

1. 助成金の交付

- ・ 基金による助成金：交付件数 658 件、助成金交付額 1,030,102 千円
補助金による助成金：交付件数 314 件、助成金交付額 3,480,940 千円
- 2. 助成金交付事務の効率化等
 - ・ 基金及び補助金による助成の全分野についての審査基準を事前公表
 - ・ 公演等調査 542 件（助成対象活動数。延べ調査回数は 1,433 回）、会計調査 102 件（団体数）を実施
 - ・ 「トップレベルの舞台芸術創造事業」については、全ての助成対象活動について公演調査を実施
 - ・ PD・PO が助成対象団体との間で助成対象活動等についての意見交換を実施し、助成対象分野の状況を把握
 - ・ 芸術文化活動に対する助成に必要な調査研究を実施
 - ・ 「トップレベルの舞台芸術創造事業」の 26 年度の全ての助成対象活動について事後評価を実施し、結果を団体に伝達するとともに、専門委員会に対して情報提供を行い、28 年度の助成対象活動の採択に係る審査に活用

《業務実績詳細》

<1> 助成金の交付

1. 27年度助成金の交付実績

(1) 基金による助成金

助 成 対 象 分 野		交付件数(件)	助成金交付額(千円)
芸術創造普及活動	現代舞台芸術創造普及活動	239	528,082
	音楽	(48)	(173,368)
	舞踊	(42)	(59,224)
	演劇	(149)	(295,490)
	伝統芸能の公開活動	38	46,870
	美術の創造普及活動	8	17,347
	多分野共同等芸術創造活動	15	16,608
小 計	300	608,907	
映像芸術創造活動	国内映画祭等の活動	45	93,500
	国内映画祭	(33)	(85,500)
	日本映画上映活動	(12)	(8,000)
小 計	45	93,500	
地域文化振興活動	地域文化施設公演・展示活動	174	214,232
	文化会館公演活動	(106)	(106,462)
	美術館等展示活動	(68)	(107,770)
	歴史的集落・町並み、文化的景観保存活用活動	10	8,385
	民俗文化財の保存活用活動	20	14,007
小 計	204	236,624	
文化振興普及団体活動	アマチュア等の文化団体活動	99	75,158
	伝統工芸技術・文化財保存技術の保存伝承等活動	10	15,913
	小 計	109	91,071
合 計	658	1,030,102	

(2) 補助金による助成金

助 成 対 象 分 野		交付件数(件)	助成金交付額(千円)
トップレベルの 舞台芸術創造事業	音 楽	109	1,690,026
	舞 踊	31	505,257
	演 劇	104	654,425
	伝統芸能	20	69,843
	大衆芸能	11	150,899
	小 計	275	3,070,450
映画製作への支援	劇映画	21	306,170
	記録映画	11	52,200
	アニメーション映画	7	52,120
	小 計	39	410,490
合 計		314	3,480,940

2. 28年度助成対象活動の採択に係る審査の状況

芸術文化振興基金運営委員会（以下「運営委員会」という。）、4部会及び13専門委員会において、以下のとおり審査を行った。

①運営委員会

第39回：9月8日、第40回：1月21日、第41回：3月16日

②舞台芸術等部会（2回開催・9月、2月）

- ・音楽専門委員会（3回開催・8月、12月、2月）
- ・舞踊専門委員会（3回開催・7月、12月、2月）
- ・演劇専門委員会（4回開催・8月（合同）、12月（合同）、2月（第1分科会1回、第2分科会1回））
- ・伝統芸能・大衆芸能専門委員会（3回開催・8月、12月、1月）
- ・美術専門委員会（3回開催・8月、12月、2月）
- ・多分野共同等専門委員会（2回開催・12月、2月）

③映像芸術部会（2回開催・8月、3月）

- ・劇映画専門委員会（2回開催・12月、2月）
- ・記録映画専門委員会（2回開催・12月、2月）
- ・アニメーション映画専門委員会（2回開催・12月、2月）
- ・映画祭等専門委員会（2回開催・12月、2月）

④地域文化・文化団体活動部会（1回開催・3月）

- ・地域文化活動専門委員会（2回開催・12月、2月）
- ・文化団体活動専門委員会（2回開催・12月、2月）

⑤文化財部会（1回開催・3月）

- ・文化財保存活用専門委員会（2回開催・12月、2月）

○審査経過概要

9月8日	第39回運営委員会において、28年度の助成対象活動募集案内の内容等を了承。
11月下旬～12月中旬	各専門委員会において、書面審査及び合議審査に先立ち、「専門委員会における審査の方法等について」を審議、決定。
12月下旬～2月上旬	各専門委員による応募活動1件ごとの書面審査。
1月21日	第40回運営委員会において、応募状況についての報告を行うとともに、助成金の分野別配分予算案について決定。
1月下旬～2月下旬	各専門委員会において、書面審査の結果を踏まえた合議審査を行い、助成対象活動を選定。
2月下旬～3月上旬	各部会において助成対象活動及び助成金交付予定額を審議。
3月16日	第41回運営委員会において、助成対象活動及び助成金交付予定額を決定し、理事長に答申。

3. 28年度助成対象活動及び助成金交付予定額等の公表

- ・ 28年度の基金及び補助金による助成対象活動及び助成金交付予定額等について、審査に当たった委員の氏名及び審査の方法等と併せ、ホームページ等において28年3月29日付けで公表した。助成対象分野別の応募件数、採択件数及び助成金交付予定額については以下のとおり。

(1) 基金による助成金

助 成 対 象 分 野		応募件数(件)	採択件数(件)	助成金交付 予定額(千円)
芸術創造普及活動	現代舞台芸術創造普及活動	539	297	550,753
	音楽	(120)	(68)	(163,267)
	舞踊	(80)	(46)	(63,581)
	演劇	(339)	(183)	(323,905)
	伝統芸能の公開活動	84	32	51,785
	美術の創造普及活動	26	15	18,843
	多分野共同等芸術創造活動	62	27	20,750
国内映画祭等の活動(※)	43	33	63,903	
小 計	754	404	706,034	
地域文化振興活動	地域文化施設公演・展示活動	319	184	242,961
	文化会館公演	(191)	(105)	(118,004)
	美術館等展示	(128)	(79)	(124,957)
	歴史的集落・町並み、文化的 景観保存活用活動	9	9	7,035
	民俗文化財の保存活用活動	28	21	18,137
小 計	356	214	268,133	
文化振興普及団体 活動	アマチュア等の文化団体活動	186	120	87,290
	伝統工芸技術・文化財保存技 術の保存伝承等活動	10	10	16,765
	小 計	196	130	104,055
合 計	1,306	748	1,078,222	

※国内映画祭等の活動には、第2回募集分は含まれていない。

(2) 補助金による助成金

助 成 対 象 分 野		応募件数(件)	採択件数(件)	助成金交付 予定額(千円)
舞台芸術創造活動 活性化事業(※1)	音 楽	144	113	1,770,327
	舞 踊	37	32	550,158
	演 劇	171	103	717,536
	伝統芸能	33	22	60,177
	大衆芸能	17	11	165,609
	小 計	402	281	3,263,807
映画製作への支援 (※2)	劇映画	27	9	145,000
	記録映画	12	4	12,100
	アニメーション映画	8	5	45,000
	小 計	47	18	202,100
合 計	449	299	3,465,907	

※1：28年度予算の成立により、「トップレベルの舞台芸術創造事業」から名称が変更となった。

※2：映画製作への支援には、第2回募集分は含まれていない。

<2>助成金交付事務の効率化等

1. 審査に関する基準の策定と公表

- ・ 28年度助成対象活動の募集に先立ち、基金及び補助金による助成の全分野についての審査基準をホームページ等で事前公表した。

2. 助成対象活動の調査

(1) 助成対象活動に対する調査

区 分	実 績
公演等調査 (助成対象活動数)	542 件 (延べ調査回数 1,433 回) (目標：400 件以上)
会計調査 (団体数)	102 件 (助成対象活動数 249 活動) (目標：90 件以上)

- ・ 助成対象活動について、専門委員、専門調査員、PD・PO 及び文化芸術活動調査員による公演等調査を実施した。特に「トップレベルの舞台芸術創造事業」においては、27 年度の全ての助成対象活動について調査を実施した。
- ・ 助成金に係る会計処理が適切であったかどうかを確認するため、職員による会計調査を実施した。
- ・ PD・PO が助成対象団体との間で助成対象活動等についての意見交換を実施し、助成対象分野の状況把握を行った。

(2) 専門委員会に対する情報提供

- ・ PD・PO から専門委員会に対し、助成対象活動に対する調査を踏まえた情報提供を行った。

(3) 助成対象活動に対する評価

- ・ 「トップレベルの舞台芸術創造事業」の26年度の全ての助成対象活動について、芸術文化振興基金運営委員会による事後評価を実施した。その結果については、芸術団体の今後の活動に資するよう、PD・POより助成対象団体に伝達するとともに、専門委員会に対して情報提供を行い、28年度の助成対象活動の採択に係る審査に活用した。

3. 芸術文化活動に対する助成に関する調査分析

- ・ 鑑賞行動と公的助成に関する調査を行い、公的助成を行った公演の鑑賞者の動向を把握し、公的助成と鑑賞者の伸長度との関係を分析した。
- ・ 「国内映画祭等の活動」に対する助成事業の改善や広報に活用するため、全国で実施されている映画祭の実態調査を開始した。
- ・ 28年度の助成対象活動の応募団体に対し、日本版アーツカウンシルの試行的取組に対する認知度等を把握するためのアンケート調査を実施した。
- ・ 28年度の助成対象活動の採択に係る審査に活用するため、応募のあった助成対象活動に係る申請書類のデータを分析した。

4. 地方公共団体との協力

- ・ 地域の文化振興等の活動に対する助成について、都道府県・指定都市担当者向けの説明会を2回実施した。また、都道府県に作成を依頼している書類の見直し等により、都道府県の事務負担の軽減を図った。

5. 事務手続きの簡素化・合理化

(1) 応募書類の電子データによる受付等の実施についての検討

- ・ 助成事業に応募した団体を対象に実施している「文化芸術活動への助成制度及び日本版アーツカウンシル（試行）に関するアンケート」に電子申請システムの導入に関する質問を設け、その集計結果を基に、応募書類の電子データによる受付等の実施の可能性について、引き続き検討を行った。

(2) 助成金の交付申請書受理から交付決定までの期間の短縮

区 分	実 績	目 標
基金による助成金	24.5 日	35 日
補助金による助成金	14.6 日	35 日
全 体	21.3 日	35 日

6. 新たな審査・評価の仕組みに関する検証

PD・POの意見を踏まえ、以下の取組を行った。

- ・ 募集案内を作成するに当たり、応募する活動内容や助成の対象となる経費が分野の特性を踏まえたものとして記入できるよう、改善を図った。
- ・ 審査基準を体系化するとともに、年度により審査基準の解釈に大きなずれが生じないように、審査基準に当てはまる具体的な活動例や判断の際の留意点等について分野ごとに整理した「審査基準申し合わせ」の作成について検討を行った。
- ・ 助成対象活動に対する事後評価を行うに当たり、まずPD・POが評価コメントの素案を作成し、当該素案を基に専門委員会においてコメント案を審議することとした。

《数値目標の達成状況》

【公演等調査及び会計調査の実施状況】

公演等調査：実績542件／目標400件以上（達成度135.5%）

会計調査：実績102件／目標90件以上（達成度113.3%）

【交付決定に係る期間の効率化の達成状況】 実績21.3日／目標35日以下（達成度164.3%）

《自己点検評価》

○ 自己評価

A

(根拠)

- ・ 公演等調査の件数、会計調査の件数及び交付決定に係る期間については計画を大きく上回り、数値目標を達成できた。
 - ・ 基金及び補助金による助成の全分野についての審査基準の事前公表、「トップレベルの舞台芸術創造事業」の26年度の全助成対象活動に対する公演調査及び事後評価の実施、新たなテーマの調査研究の実施等、積極的な取組を行った。
- 良かった点・特色ある点
- ・ 基金及び補助金による助成の全分野について審査基準を事前公表し、助成対象活動の採択に係る審査の透明性を向上させることができた。
 - ・ 「トップレベルの舞台芸術創造事業」の26年度の全助成対象活動に対して公演調査及び事後評価を実施し、文化芸術活動への支援に係る計画・実行・検証・改善のPDCAサイクルを機能させるために役立てることができた。
 - ・ 新たなテーマの調査研究を実施することにより、文化芸術活動に対する助成制度の改善策を検討する基礎的資料とすることができた。
- 見直し又は改善を要する点
- ・ 助成対象活動の事後評価については、助成事業をより有効かつ適切なものとするとともに、助成対象団体の今後の活動に資するよう、引き続き実施方法について改善を図っていく必要がある。
 - ・ 「審査基準申し合わせ」については、分野ごとの実態を踏まえ、今後とも内容を検討していく必要がある。
 - ・ 調査分析については、助成事業に有効に活用できるよう、適宜内容を見直すとともに、必要なものは継続的に実施する。また、新たなテーマの調査研究の実施についても必要に応じて検討する。

1-(2) 助成に関する情報等の収集・提供

《主要な業務実績》

1. ホームページの利便性の向上
 - ・ 27年度アクセス件数：159,690件（目標129,500件）
2. 助成事業の周知
 - ・ 日本版アーツカウンシルの試行的取組についてホームページで紹介するとともに、広報用のリーフレットを配布
 - ・ パンフレット、ポスター、チラシ等により事業を周知
 - ・ 助成対象活動の事例集を作成
 - ・ 全国公立文化施設協会主催のアートマネジメントフォーラムにおいて広報
3. 助成対象活動の募集
 - ・ 助成事業の内容や応募手続について説明する動画をホームページ上で公開
 - ・ 舞台公演情報サイトやチケット販売サイト、検索エンジン等のホームページにおいて、助成対象活動募集のバナー広告を掲載（9月上旬～10月下旬）
 - ・ 関係団体の会報やメールマガジンにおいて募集に関する広報を実施
4. 助成事業に関する応募相談会等の開催
 - ・ 団体の個別の関心事項にきめ細かく対応するための「応募相談会」を全国9会場で実施

《業務実績詳細》

1. ホームページの利便性の向上
 - ・ 27年度アクセス件数：159,690件（目標129,500件）
 - ・ 助成事業の内容等が分かりやすく伝わるよう、記述内容について見直しを行った。
2. 助成事業の周知
 - ・ 基金の概要を紹介したパンフレットを配布した。
 - ・ 助成事業に関する次のポスター・チラシを作成・配布した。
 - ・ 助成団体に活動時に配布・掲示してもらう広報用ポスター、チラシ（基金による全ての助成対象団体に配布依頼を行い、ポスター1,300枚、チラシ250,000枚を配布）
 - ・ 芸術文化復興支援基金のリーフレット、ポスター、チラシ
 - ・ 芸術文化振興基金賛助会員制度に関するリーフレット
 - ・ 日本版アーツカウンシルの試行的取組に関するリーフレットを作成、配布した。
 - ・ 助成対象活動の事例集を作成し、ホームページ上でも公開した。
 - ・ 「日本芸術文化振興会ニュース」に基金の概要、助成対象活動の募集の案内及び助成対象活動の事例等、広く助成事業に関する情報を掲載した（毎月）。
 - ・ 地域の文化振興等の活動に対する助成について、2月4日に開催された全国公立文化施設協会主催のアートマネジメントフォーラムにおいて広報を行った。
3. 助成対象活動の募集
 - ・ 28年度助成対象活動の募集に関する特設ページを開設した。
 - ・ 助成対象活動の募集に当たり、場所や時間を問わず芸術団体等が基本的な情報を得られるよう、助成事業や応募手続について説明した動画を作成し、ホームページ上で公開した。
 - ・ 舞台公演情報サイトやチケット販売サイト等のホームページにおいて、28年度助成対象活動募集のバナー広告を掲載した。（9月上旬～10月下旬）
 - ・ 28年度助成対象活動の募集に関するチラシ及びポスターを都道府県、政令指定都市、公立文化施設、大学など3,306箇所へ送付し、広報協力を依頼した。
 - ・ 地域の文化振興等の活動に対する助成について、関係団体の会報やメールマガジンにおいて募集に関する広報を行うとともに、都道府県、政令指定都市及びその他の市町村にも募集案内を送付した。
4. 助成事業に関する応募相談会の開催
 - ・ 助成事業の基本的な事項はホームページ上の動画により解説することとし、具体的な要望書の作成方

法や提出資料の内容など、団体の個別の関心事項にきめ細かく対応するための「応募相談会」を9～10月にかけて全国9会場（東京、大阪、滋賀、北海道、福井、愛知、山口、福岡、宮崎）で開催した。（参加団体239団体）

《数値目標の達成状況》

【芸術文化振興基金ホームページへのアクセス件数】実績159,690件／目標129,500件（達成度123.3%）

《自己点検評価》

○ 自己評価

B

（根拠）

- ・ 事業の周知に広く取り組んだほか、ホームページのアクセス件数については数値目標を大きく上回る実績を達成できた。
 - ・ 日本版アーツカウンシルの試行的取組に関し、ホームページ及びリーフレットにより、積極的に周知を図った。
 - ・ 助成事業や応募手続について説明する動画を公開し、基本的な情報を容易に得られる環境を提供した。さらに、応募相談会を実施することにより、団体の個別の関心事項にきめ細かく対応することができた。
- 良かった点・特色ある点
- ・ 日本版アーツカウンシルの試行的取組の内容について周知を図ることにより、文化芸術への公的支援に関する考え方の変化を文化芸術団体に理解してもらい、意識改革を促すことができた。
 - ・ 助成事業や応募手続について説明する動画を公開することにより、場所や時間を問わず文化芸術団体に基本的な情報を提供することができた。
 - ・ 応募相談会をより多くの会場で実施することにより、団体の個別の関心事項にきめ細かく対応することができた。
- 見直し又は改善を要する点
- ・ 28年度から日本版アーツカウンシルが本格導入されることを踏まえ、更なる情報発信に努める必要がある。

1-(3) 基金の管理運用

《主要な業務実績》

1. 基金の管理運用

- ・ 基金運用益：1,133,066 千円、利回り 1.68%
- ・ 再運用等については地方債により運用を行った。

2. 資金の受入拡充

- ・ 基金への寄付：27 年度実績 13 件 600,440,000 円
(26 年度実績 830,007,906 円、229,587,906 円の減)
- ・ 芸術文化復興支援基金への寄付：27 年度実績 1,834,061 円
(26 年度実績 5,207,028 円、3,372,967 円の減)
- ・ 3 月新派公演期間中、募金者に出演俳優のサイン入りブロマイド写真を進呈するチャリティー企画を実施（募金額 690,808 円）

《業務実績詳細》

<1>基金の管理運用

(1) 運用益 1,133,066 千円

(2) 利回り 1.68%

基金の管理運用については、安全性を重視するとともに安定した収益の確保によって継続的な助成が可能となるよう、資金の状況及び経済情勢の正確な把握に努めた。

20 年 4 月に設置した資金管理委員会において、運用の基本的考え方を定めるとともに金融商品・運用先等の検討を行うことにより、低金利下においても必要とする運用益が得られるよう、リスクとリターンを考慮しながら引き続き効率的な管理運用に努めた。

<2>資金の受入拡充

1. 資金の受入拡充

(1) 寄付先への感謝状の贈呈並びにホームページ等での広報

- ・ 原則 10 万円を超える寄付者(団体)については、通常の礼状に加え感謝状を贈呈したほか、承諾を得た寄付者(団体)については、寄付者(団体)名をホームページで広報するなどの顕彰により、寄付金の増額に向けて取り組んだ。

- ・ 基金への寄付：13件600,440,000円

(社会貢献寄付信託1件100,000円・賛助会員8件320,000円含む)

(26 年度実績 830,007,906 円、229,587,906 円の減)

(2) 「芸術文化復興基金賛助会制度」「社会貢献信託制度」による寄付受入

- ・ 「芸術文化復興基金賛助会員制度」の周知を図るとともに、寄付金受入に向け広報活動を行った。
- ・ 三井住友信託銀行の「社会貢献寄付信託」の文化芸術分野の寄付先として、寄付受入に向け関係金融機関と連携し広報活動を行った。

2. 芸術文化復興支援基金による助成

- ・ 東日本大震災における被災地の復興支援を目的とする芸術文化活動の支援に必要な資金確保に向け、広報活動を行った。承諾を得た寄付者(団体)については、寄付者(団体)名をホームページで広報するなど募金活動に努めた。
- ・ 募金箱及び本館大劇場ロビーに設置した寄付金付き飲料自動販売機による募金活動を引き続き実施した。
- ・ 3 月新派公演期間中、ロビー中央に募金スペースを設置し、募金者に出演俳優のサイン入りブロマイド写真を進呈するチャリティー企画を実施した（募金額 690,808 円）。
 - ・ 芸術文化復興支援基金への寄付：27年度実績1,834,061円
(26年度実績5,207,028円、3,372,967円の減) (23年度以降の累計13,783,894円)
- ・ 28 年度からの助成事業の実施に向け、「芸術文化復興支援基金助成金交付要綱」を制定するとともに、「公益財団法人岩手県文化復興事業団」、「公益財団法人宮城県文化復興財団」及び「特定非営利活動法人民俗芸能を継承するふくしまの会」の 3 団体から助成金交付申請書が提出されたことを受け、

岩手県、宮城県及び福島県において 28～30 年度に行われる事業の内容について運営委員会で審議を行い、了承を得た。

《自己点検評価》

○ 自己評定

B

(根拠)

- ・ 基金及び芸術文化復興支援基金において、寄付の受入拡充及び広報等の取組を実施した。
 - ・ 当初の予定どおり、「芸術文化復興支援基金助成金交付要綱」を制定し、岩手県、宮城県及び福島県の各団体が実施する28～30年度の事業内容について、運営委員会の承認を得た。
- 良かった点・特色ある点
- ・ 3月の新派公演で実施したチャリティー企画により寄付金を増加させることができた。
 - ・ 基金及び芸術文化復興支援基金の原資が増えたことにより、今後の助成の充実につなげることができた。また、「芸術文化復興支援基金助成金交付要綱」を制定し、岩手県、宮城県及び福島県の各団体が実施する 28～30 年度の事業内容について、運営委員会の承認を得ることにより、28 年度からの助成事業の開始が確実なものとなった。
- 見直し又は改善を要する点
- ・ 基金及び芸術文化復興支援基金の目的及び趣旨について今後とも広く周知し、資金の受入れの拡充に努める必要がある。
 - ・ 基金管理運用において、金利が低い局面にあるが、引き続き安定性・安全性を重視しつつ有利な運用が行えるよう情報収集に努める。

I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するため
とるべき措置

伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

伝統芸能の公開

伝統芸能の公開 p.12

- 歌舞伎・新派 p.14
- 文楽 p.18
- 舞踊・邦楽・雅楽・声明・民俗芸能ほか p.23
 - 舞踊 p.25
 - 邦楽 p.26
 - 雅楽 p.27
 - 声明 p.27
 - 民俗芸能 p.28
 - 特別企画 p.29
- 大衆芸能 p.31
 - 定席公演（上席・中席） p.35
 - 若手新人公演（花形演芸会） p.36
 - 新春国立名人会／国立名人会 p.37
 - 特別企画公演 p.38
 - 浪曲名人会／浪曲錬声会／上方演芸特選会 p.39
- 能楽 p.41
 - 定例公演 p.44
 - 普及公演 p.45
 - 企画公演 p.45
- 組踊等沖縄伝統芸能 p.48
- 演目の拡充 p.52

伝統芸能の公開に際しての留意事項等 p.55

2-(1) 伝統芸能の公開

《中期計画の概要》

2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

(1) 伝統芸能の公開

つとめて古典伝承のままの姿で公開

ア 歌舞伎公演 筋の展開が理解しやすい「通し狂言」での上演、上演の途絶えた優れた演目・場面の復活、新作の上演、解説を付した公演等の実施、年間7公演程度

イ 文楽公演 「通し狂言」や見せ場を中心に複数演目を並べる「見取り狂言」等の様々な形態で上演、上演の途絶えた優れた演目・場面の復活、新作の上演、解説を付した公演等の実施、年間10公演程度

ウ 舞踊・邦楽・雅楽・声明・民俗芸能等公演 質の高い技芸の公開、芸能の特性を踏まえた企画性が高い公演等の実施、年間21公演程度

エ 大衆芸能公演 寄席を中心に受け継がれてきた伝統的な大衆芸能の公演、多彩な出演者による企画性の高い公演等の実施、年間64公演程度

オ 能楽公演 伝統的な能狂言の演目と各流の演者を、能楽全体を見渡す視点に立って組み合わせた公演、上演の途絶えた優れた演目の復曲、新作の上演、解説を付した公演、企画性の高い公演等の実施、年間51公演程度

カ 組踊等沖縄伝統芸能公演 上演の途絶えた優れた演目の復曲、新作の上演、解説を付した公演、本土の芸能やアジア・太平洋地域の芸能も取り上げる企画性の高い公演等の実施、年間30公演程度

(4) 伝統芸能の公開の実施に際しての留意事項等

ア 適切な鑑賞者数の目標設定

イ 外部専門家等の意見聴取、アンケート調査の実施

ウ 伝統芸能の保存振興の中核的拠点としての公演等の実施

① 国、地方公共団体、芸術団体、企業等との連携協力公演等

② 全国各地の文化施設等における公演等

③ 国際文化交流の進展に寄与するための国等との連携協力公演等

エ 国立劇場開場50周年記念公演等の各種記念事業の実施

《年度計画の概要》

2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

(1) 伝統芸能の公開

ア 伝統芸能の保存と振興を図るため、中期計画の方針に従い、別表1のとおり主催公演を実施

イ 演目の拡充

① (歌舞伎) 「復活上演候補演目一覧」の見直し

「国立劇場文芸研究会」における上演候補台本準備稿の作成作業

新作脚本募集の周知及び応募受付

② 新派の上演

③ (文楽) 新作の上演

廃絶演目の復曲作業及び上演に向けた準備作業

④ (大衆芸能) 「落語」新作脚本募集、選考及び表彰

⑤ (能楽) 廃絶曲の復曲上演

国立能楽堂及び他の能楽堂等で上演された新作・復曲作品の再演

⑥ (組踊等沖縄伝統芸能) 上演機会が少ない優れた演目の上演

古典の様式を踏まえた新作組踊の上演

(4) 伝統芸能の公開の実施に際しての留意事項

ア 外部専門家等の意見の聴取、観客へのアンケート調査の適宜実施

イ 我が国における伝統芸能の保存振興の中核的拠点として、次のとおり公演等を実施

① 共催、受託などによる公演等を別表5のとおり実施

② 各地の文化施設等における公演等を別表6のとおり実施

③ 国際文化交流の進展に寄与する公演等を別表7のとおり実施

2-(1)-① 伝統芸能の公開

《業務実績詳細》

1. 公演実績

分野名	公演数	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数
	劇場						
歌舞伎・新派	7 公演	実績	211 回	166 日	225,458 人	(70.3%)	320,720 人
	本館大劇場	計画	213 回	168 日	226,500 人	(70.0%)	323,760 人
文楽	10 公演	実績	371 回	176 日	186,550 人	(76.3%)	244,357 人
	本館小劇場、文楽劇場	計画	371 回	176 日	175,900 人	(72.0%)	244,357 人
舞踊・邦楽・雅楽・声明・民俗芸能等	22 公演	実績	32 回	25 日	17,842 人	(76.5%)	23,313 人
	本館大小劇場、文楽劇場	計画	32 回	26 日	17,600 人	(75.5%)	23,313 人
舞踊	5 公演	実績	8 回	6 日	4,785 人	(83.1%)	5,756 人
	本館大小劇場、文楽劇場	計画	8 回	6 日	3,900 人	(67.8%)	5,756 人
邦楽	5 公演	実績	6 回	6 日	3,098 人	(83.7%)	3,703 人
	本館小劇場、文楽劇場	計画	6 回	6 日	2,800 人	(75.6%)	3,703 人
雅楽	2 公演	実績	3 回	2 日	2,167 人	(77.7%)	2,790 人
	本館大小劇場	計画	3 回	2 日	2,440 人	(87.5%)	2,790 人
声明	1 公演	実績	1 回	1 日	1,577 人	(98.0%)	1,610 人
	本館大劇場	計画	1 回	1 日	1,300 人	(80.7%)	1,610 人
民俗芸能	4 公演	実績	6 回	4 日	2,601 人	(71.7%)	3,627 人
	本館小劇場、文楽劇場	計画	6 回	5 日	2,900 人	(80.0%)	3,627 人
特別企画	5 公演	実績	8 回	6 日	3,614 人	(62.0%)	5,827 人
	本館大小劇場、文楽劇場	計画	8 回	6 日	4,260 人	(73.1%)	5,827 人
大衆芸能	64 公演 演芸場、文楽劇場、 文楽劇場小ホール	実績	313 回	288 日	52,537 人	(57.9%)	90,687 人
		計画	313 回	288 日	52,000 人	(57.3%)	90,687 人
能楽	51 公演	実績	61 回	56 日	37,448 人	(97.9%)	38,247 人
	能楽堂	計画	61 回	56 日	36,140 人	(94.5%)	38,247 人
小計	154 公演	実績	988 回	711 日	519,835 人	(72.5%)	717,324 人
		計画	990 回	714 日	508,140 人	(70.5%)	720,364 人
組踊等沖縄伝統芸能	30 公演	実績	45 回	42 日	18,373 人	(70.0%)	26,234 人
	国立劇場おきなわ大小劇場	計画	45 回	42 日	17,753 人	(68.3%)	26,010 人
総合計	184 公演	実績	1,033 回	753 日	538,208 人	(72.4%)	743,558 人
		計画	1,035 回	756 日	525,893 人	(70.5%)	746,374 人

- 1) 3月新派公演「遊女夕霧」「寺田屋お登勢」は、政府主催「東日本大震災五周年追悼式」開催のため、3月10日、11日を休演とした。

<1> 歌舞伎・新派

《制作方針》

10月から1月の公演については、上演の途絶えた場面を復活して「通し狂言」として上演することを基本とし、また過去に復活上演した演目を見直して再演することにより演目の定着を企図する。

6、7月には解説を付した公演を行う。

6月に、伝統芸能の海外発信と位置付ける、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた文化プログラムの試行として、初めての外国人向け公演を実施する。

配役の工夫により、歌舞伎俳優にとっての芸の継承にも配慮する。

以上により、歌舞伎の保存と振興を図る。

歌舞伎に対抗しつつ歌舞伎の演技演出の影響を受けた演劇として、明治以来の長い伝統を有する新派について、その継承を図るため、国立劇場では昭和47年以来19回の公演を実施してきた。本年度3月に第20回公演を15年ぶりに実施する。

○

10月公演は、53年ぶりの上演となる「太々講の場」を含む本格的な通し狂言として「伊勢音頭恋寝刃」を国立劇場で初めて上演する。11月公演は「神霊矢口渡」を、100年ぶりとなる「由良兵庫之助新邸の場」を中心に、明治以来の通し狂言として復活する。12月公演は、「東海道四谷怪談」を「忠臣蔵もの」という視点から新たに構成し、通し上演を行う。平成28年の初春公演は、河竹黙阿弥生誕200年に因み、14年前に138年ぶりに復活通し上演した黙阿弥の作品「小春穂沖津白浪」を、台本・演出を見直して再演する。3月公演は、歌舞伎に次ぐ日本の伝統演劇である新派を15年ぶりに取り上げ、新派の財産演目である「花柳十種の内 遊女夕霧」「八重子十種の内 寺田屋お登勢」を上演する。

青少年等を対象とした公演として歌舞伎鑑賞教室を実施し、6月は32年ぶりに「壺坂霊験記」を、7月は三大名作のひとつ「義経千本桜」の「渡海屋・大物浦」を取り上げ、解説を付して上演することにより歌舞伎の振興、技芸の継承を図る。6月には、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた文化プログラムを想定し、初めての外国人向けの公演「Discover KABUKI」を実施する。

《主要な業務実績》

1. 公演実績

- ・ 歌舞伎公演4公演と新派公演1公演、歌舞伎鑑賞教室2公演を計画どおり実施
- ・ 上演機会の少ない場面等を含む通し狂言の上演（10月「伊勢音頭恋寝刃」、11月「神霊矢口渡」、12月「東海道四谷怪談」）
- ・ 国立劇場で復活した「小春穂沖津白浪」を台本・演出・配役を見直して再演
- ・ 国立劇場では初めての外国人向けの公演「Discover KABUKI」を実施【新規】
- ・ ともに文化功労者であった新派の名優花柳章太郎と初代水谷八重子がそれぞれ得意とした新派の財産演目である「花柳十種の内 遊女夕霧」、「八重子十種の内 寺田屋お登勢」を上演

2. 営業・広報

- ・ マスコミ各社への記者会見や取材依頼のほか、各種媒体により公演情報を周知
- ・ 公演演目に因んだイベントの実施のほか、幅広いニーズに応える観劇プランの提供やDMの定期的な送付等、多様な取組による誘客
- ・ 6月歌舞伎鑑賞教室内の企画「Discover KABUKI－外国人のための歌舞伎鑑賞教室－」の広報・営業活動を通して、外国人に対するアピールを強化

3. 外部専門家等の意見

- ・ 外部専門家等の意見を聴取するため、公演専門委員会を2回開催

4. アンケート調査

- ・ 全7公演で実施(8回)、満足回答率80.8%
- ・ 「Discover KABUKI」で上記のうち1回を実施、満足回答率89.6%（外国人の満足度は91.3%）

1. 公演実績

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数
10月歌舞伎公演 通し狂言「伊勢音頭恋寝刃」	本館 大劇場	10/3(土) ～27(火)	実績	25回	25日	14,521人	(38.2%)	38,000人
			計画	25回	25日	21,500人	(56.6%)	38,000人
11月歌舞伎公演 通し狂言「神霊矢口渡」		11/3(火・祝) ～26(木)	実績	24回	24日	20,683人	(56.7%)	36,480人
			計画	24回	24日	20,000人	(54.8%)	36,480人
12月歌舞伎公演 通し狂言「東海道四谷怪談」		12/3(木) ～26(土)	実績	24回	24日	27,382人	(75.1%)	36,480人
			計画	24回	24日	23,500人	(64.4%)	36,480人
初春歌舞伎公演 通し狂言「小春穂沖津白浪 －小狐礼三－」		1/3(日) ～27(水)	実績	25回	25日	26,784人	(70.5%)	38,000人
			計画	25回	25日	28,000人	(73.7%)	38,000人
3月新派公演 「花柳十種の内 遊女夕霧」 「八重子十種の内 寺田屋お 登勢」		3/3(木) ～27(日)	実績	23回	23日	13,146人	(37.6%)	34,960人
			計画	25回	25日	19,000人	(50.0%)	38,000人
【歌舞伎・新派公演 小計】 5公演 (計画:5公演)			実績	121回	121日	102,516人	(55.7%)	183,920人
			計画	123回	123日	112,000人	(59.9%)	186,960人
6月歌舞伎鑑賞教室 解説「歌舞伎のみかた」 「壺坂霊験記」	本館 大劇場	6/2(火) ～24(水)	実績	46回	23日	56,647人	(81.0%)	69,920人
			計画	46回	23日	53,100人	(75.9%)	69,920人
7月歌舞伎鑑賞教室 解説「歌舞伎のみかた」 「義経千本桜」		7/3(金) ～24(金)	実績	44回	22日	66,295人	(99.1%)	66,880人
			計画	44回	22日	61,400人	(91.8%)	66,880人
【歌舞伎鑑賞教室 小計】 2公演 (計画:2公演)			実績	90回	45日	122,942人	(89.9%)	136,800人
			計画	90回	45日	114,500人	(83.7%)	136,800人
【歌舞伎・新派 合計】 7公演 (計画:7公演)			実績	211回	166日	225,458人	(70.3%)	320,720人
			計画	213回	168日	226,500人	(70.0%)	323,760人

※ 3月新派公演「遊女夕霧」「寺田屋お登勢」は、政府主催「東日本大震災五周年追悼式」開催のため、3月10日、11日を休演とした。

2. 営業・広報

- ・ 出演者のテレビ出演、ポスター、チラシ、ホームページ、あぜくら会報、振興会ニュース等での広報、公演情報の周知拡大を図り、一般の集客に努めた。
- ・ テレビ放送局、新聞社、雑誌社等に積極的に広報の働きかけを行い、多くの取材を受け入れ公演のPRを行った。
- ・ 出演者による記者会見を実施し（歌舞伎4公演、新派1公演、歌舞伎教室2公演）、公演の趣旨や出演者の意気込み等について取材する機会を設けた。また、舞台稽古の取材、出演者による稽古後の囲み取材を実施し（歌舞伎2公演、新派1公演）、公演直前の様子取材する機会を設け、報道各社を通じて公演PRを行った。
- ・ 9月文楽・10月歌舞伎にゆかりの「葵紋康継」と「折紙」のロビー展示を行い、観劇の雰囲気盛り上げるとともに、ホームページを通じて告知し観客の動員を図った。
- ・ 公演の見所や出演者からのメッセージ等をホームページに掲載し、インターネットを積極的に利用して公演のPRを行った。
- ・ 演目ゆかりの地において、出演者による安全祈願及び囲み取材を行った（12月歌舞伎公演では、妙行寺、田宮神社、陽運寺において市川染五郎、初春歌舞伎公演では、日枝神社において尾上菊之助）。
- ・ 団体の営業活動として、公演演目に因んだイベントを実施したほか、集客に困難が予想される公演

について、観劇団体の幅広いニーズに応える特別価格の「公演プログラム付きプラン」や付加価値のある「舞台見学付きプラン」「セミナー付きプラン」等の観劇プランを各種提供して、団体客の増加に努めた。

- ・ 歌舞伎・新派公演の公演内容の周知と団体客の集客のため、過去10年間に観劇履歴のある団体及び新規見込み団体に向けて、定期的に最新の公演情報や団体観劇プランのご案内等の内容のDMを送付した（年8回、のべ9,756通）。
- ・ 鑑賞教室公演の企画内容の周知と学校団体客の集客のため、関東甲信越地方中学・高等学校、首都圏専門学校を中心にDMを送付した（年3回、のべ20,049通）。
- ・ 28年度の鑑賞教室利用促進のため、過去3年間観劇履歴のない首都圏の高等学校・専門学校等の担当者及び教育委員会担当者を対象に鑑賞教室の企画説明及び鑑賞教室公演の観劇による「劇場見学会」を実施した。（6月歌舞伎鑑賞教室期間中に2回実施。参加者数：29校46名）
- ・ 6月歌舞伎鑑賞教室内の企画「Discover KABUKI－外国人のための歌舞伎鑑賞教室－」の集客のため、大学留学生センター・留学生支援団体・日本語学校等の外国人関係団体及びホテル・在日大使館を個別訪問するとともに、より広く周知するため3ヶ国語（英中韓）の特別チラシを作成して、外国人関係団体・ホテル等へDMを送付した（2,457件）。
- ・ 「Discover KABUKI－外国人のための歌舞伎鑑賞教室－」の上演を2020年オリンピック・パラリンピック競技大会の文化プログラム参画に向けた取組と位置付け、3ヶ国語（英中韓）の特別チラシを海外からの旅行者の目に留まりやすい空港・観光案内所・主要ホテル等に配布したほか、公演当日に在日大使館日本文化担当者の特別招待を実施した。
- ・ 10月歌舞伎公演と9月文楽公演での同一演目上演による観客増加策として、演目の重要アイテムの刀剣に因み刀剣博物館での歌舞伎俳優と文楽技芸員の出席による取材会を開催し周知を図った。
- ・ 公演チラシ、振興会ホームページ、国立劇場メールマガジン、あぜくら会報、振興会ニュースでダブル観劇キャンペーンを周知し、10月歌舞伎公演・9月文楽公演、両公演のチケットを持参された方にオリジナルトートバックをプレゼントするサービスを実施した（配布数1,566枚）。
- ・ 職員のコミュニティー等を活用した「ご観劇おすすめキャンペーン」を引き続き実施し、27年度は特に集客努力が重要となる10月歌舞伎公演と3月新派公演を「実施重点月」に指定して、理事長及び営業部担当理事のリーダーシップの発揮により、各職員に一層の働きかけを行った。

3. 外部専門家等の意見

- ・ 外部専門家等の意見を聴取するため、公演専門委員会を6月と3月の2回開催した。

4. アンケート調査

全7公演で実施（8回）した。

回答数4,307人（配布数7,046人、回収率61.1%）。回答者の80.8%が概ね満足と答えた（3,478人）。

うち1回を「Discover KABUKI」で実施した。

回答数668人（配布数1,585人、回収率42.1%）。回答者（国籍問わず）の89.7%（599人）が満足と答え、外国人は91.3%（430人）が満足と答えた。

【特記事項】

- ・ 平成27年度（第70回）文化庁芸術祭主催公演（10月公演）
- ・ 平成27年度（第70回）文化庁芸術祭協賛公演（11月公演）
- ・ 字幕表示装置により、演奏に合わせて詞章を表示し、鑑賞の助けとした（6月、7月鑑賞教室）。
- ・ 初めての外国人向けの公演「Discover KABUKI」を実施した（6月19日）。
- ・ 政府主催「東日本大震災五周年追悼式」開催のため、3月10日、11日を休演とした（3月公演）。
- ・ 3月公演において、出演者の協力により、東日本大震災復興支援の募金を行い、募金者にサイン入りブロマイドをプレゼントした。

《数値目標の達成状況》

【目標入場者数の達成状況】

実績225,458人／目標226,500人（達成度99.5%）

《自己点検評価》

○ 自己評定

B

(根拠)

- ・ “通し狂言” “上演が途絶えていた場面の復活” “復活狂言の再演” という制作方針に従い、各公演とも充実した内容の舞台を制作し、外部専門家等から企画内容を高く評価された。
- ・ 文化プログラムへの参画を見据え、これに先駆けて「Discover KABUKI ー外国人のための歌舞伎鑑賞教室ー」を国立劇場で初めて企画し、上演した。観客や外部専門家等から高く評価された上、文化プログラムの取組への有用な情報を得て、次年度以降の外国人向け伝統芸能公演につなげることができた。
- ・ 営業・広報に関し、各種の取組により順調に事業を実施した。

○ 良かった点・特色ある点

- ・ 各公演とも、“上演が途絶えていた場面の復活を含む通し狂言” “視点を変えた通し狂言” “復活狂言の再演” が高い評価を得て、充実した舞台となった。また、適材適所の配役や、俳優の技芸の伝承が的確に行われ、舞台効果を高めるための工夫を凝らした演出も功を奏した。11月・12月・初春公演では、国立劇場文芸研究会の補綴により原作を効果的にアレンジすること等により、作品本来の魅力を失わずに、筋のわかりやすい通し狂言として高い完成度が得られた。
- ・ 15年ぶりの新派公演で、近年は他劇場で上演されていない新派の財産演目を上演することにより、演目と技芸の伝承が行われた。
- ・ 6月歌舞伎鑑賞教室内の企画で初めての外国人向けの公演「Discover KABUKIー外国人のための歌舞伎鑑賞教室ー」が成功し、多くの観客、専門家から好評を得た。
- ・ 「Discover KABUKI」の広報・営業活動を通して、外国人に対するアピールを強化した。
- ・ 公演演目に因んだイベントの実施のほか、幅広いニーズに応える観劇プランの提供やDMの定期的な送付等、多様な取組による誘客を行った。

○ 見直し又は改善を要する点

- ・ 10月の“通し狂言”、初春の“復活狂言”の再演や、国立劇場として久しぶりの新派公演で、入場者数は目標に及ばなかった。公演の魅力を広く伝えることができるよう、今後も、企画内容、広報宣伝等の効果的な施策を十分検討していきたい。

<2>文 楽

《制作方針》

文楽の保存と振興のため、「通し狂言」「見取り狂言」等の様々な形態により上演する。

また、それらの公演の中で、上演頻度が少ない演目や場면을積極的に取り上げ、文楽技芸員にとり、次世代への技芸の継承やレパートリー拡充につながるように努める。

上演にあたっては、古典的演出とともに、迫り、廻り舞台や宙乗りなど劇場の舞台機構を活かした演出も試み、観客層の拡大を図る。

また、解説を付した公演を継続して実施する。初心者や低年齢層にも鑑賞しやすく、文楽の魅力に触れることができるような新作の上演にも取り組む。



本館 5 月公演においては、「祇園祭礼信仰記」で 100 年以上上演のない立廻りの場면을復活する。9 月公演は 46 年ぶりに「妹背山婦女庭訓」のお三輪を中心とした四段目の全通しを上演する。12 月は学生向け文楽鑑賞教室と中堅若手の公演を行う。後者では今後が期待される技芸員の技芸継承の場となるよう「奥州安達原」と「紅葉狩」を上演する。2 月は、東京ではおよそ 45 年ぶりの「桜鏢恨鮫鞘」を上演する。また同月公演第 3 部で、三大狂言「義経千本桜」から知盛編を上演する。

文楽劇場の 4 月・錦秋（11 月）・初春（1 月）公演では、名作の通し狂言として「玉藻前囃袂」や「国性爺合戦」の、見取り狂言として「一谷嫩軍記」や「新版歌祭文」の上演に留まらず、上演の途絶えていた演目（段）や場面として「生写朝顔話」の「真葛ヶ原茶店の段」を復活させ、新しい演出にも挑戦する。夏休み文楽特別公演の第一部「親子劇場」では、子どもにも分かりやすい内容の作品と、親子でも楽しめる新作「ふしぎな豆の木」を上演する。6 月鑑賞教室は、学生・生徒や勤め帰りの社会人が人形を体験するコーナーも設けて、初心者への啓発に努める。

なお、文楽劇場 4 月・本館 5 月公演で二代目吉田玉男襲名披露（「一谷嫩軍記」）、文楽劇場初春・本館 2 月公演で豊竹嶋太夫引退披露（「関取千両轡」）を行う。記念の演目にふさわしい舞台成果を目指すとともに、話題性を活かして文楽の一層の普及に努める。

《主要な業務実績》

1. 公演実績

- ・（本館）文楽公演4公演と文楽鑑賞教室1公演を計画どおり実施
- ・（文楽劇場）文楽公演 4 公演と文楽鑑賞教室 1 公演を計画どおり実施
- ・ 通し狂言での上演（文楽劇場夏休み文楽特別公演「生写朝顔話」半通し、文楽劇場錦秋「玉藻前囃袂」半通し、文楽劇場初春「国性爺合戦」半通し）
- ・ 上演機会の少ない場面の復活等（本館5月「祇園祭礼信仰記」、本館9月「妹背山婦女庭訓」、文楽劇場錦秋・本館2月「桜鏢恨鮫鞘」、文楽劇場夏休み文楽特別公演「生写朝顔話」、文楽劇場錦秋「玉藻前囃袂」、文楽劇場初春「国性爺合戦」）
- ・ 全体で目標を上回る入場者数を達成（達成度 106.1%）
- ・ 新作の上演（文楽劇場夏休み文楽特別公演「ふしぎな豆の木」）

2. 営業・広報

- ・ マスコミ各社への記者会見及び取材依頼の積極的な働きかけ、動画を用いたホームページの有効活用、地元の関係団体との協力、祭礼行事やイベントへの参加や協力により、効果的に公演を広報
- ・ 公演演目に因んだイベントの実施や演劇フリーペーパーへの記事広告掲出、DM の定期的な送付等、多様なアプローチによる団体誘客
- ・ 文楽公演ごとに二か国語パンフレット（日英）を作成し、ホテル、ターミナル駅等へ配布し、外国人に対するアピールを強化

3. 外部専門家等の意見

- ・ 外部専門家等の意見を聴取するため、公演専門委員会を2回開催

4. アンケート調査

- ・（本館）9 月公演、12 月公演で実施（2 回）、満足回答率 81.8%
- ・（文楽劇場）本公演及び 6 月鑑賞教室で計 5 回実施、満足回答率 94.2%

《業務実績詳細》

1. 公演実績

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	
5月文楽公演 「五條橋」「新版歌祭文」「一谷嫩軍記」 「祇園祭礼信仰記」「桂川連理柵」	本館 小劇場	5/9(土) ~25(月)	実績	34回	17日	17,632人	(92.6%)	19,040人	
			計画	34回	17日	17,200人	(90.3%)	19,040人	
9月文楽公演 「面売り」「鎌倉三代記」「伊勢音頭恋寝刃」 「妹背山婦女庭訓」		9/5(土) ~21(月・祝)	実績	34回	17日	17,091人	(89.8%)	19,040人	
			計画	34回	17日	17,500人	(91.9%)	19,040人	
12月文楽公演 「奥州安達原」「紅葉狩」		12/2(水) ~14(月)	実績	13回	13日	6,978人	(95.9%)	7,280人	
			計画	13回	13日	6,700人	(92.0%)	7,280人	
2月文楽公演 「靱猿」「信州川中島合戦」「桜鐙恨鮫鞘」 「閑取千両幟」「義経千本桜」		2/6(土) ~22(月)	実績	51回	17日	22,091人	(77.3%)	28,560人	
			計画	51回	17日	22,300人	(78.1%)	28,560人	
【文楽(本館)小計】 4公演 (計画:4公演)			実績	132回	64日	63,792人	(86.3%)	73,920人	
			計画	132回	64日	63,700人	(86.2%)	73,920人	
12月文楽鑑賞教室 「二人禿」解説「文楽の魅力」「三十三間堂棟由来」	本館 小劇場	12/2(水) ~14(月)	実績	24回	13日	13,132人	(98.9%)	13,272人	
			計画	24回	13日	12,600人	(94.9%)	13,272人	
【文楽鑑賞教室(本館)小計】 1公演 (計画:1公演)			実績	24回	13日	13,132人	(98.9%)	13,272人	
			計画	24回	13日	12,600人	(94.9%)	13,272人	
【文楽(本館)合計】 5公演 (計画:5公演)			実績	156回	77日	76,924人	(88.2%)	87,192人	
			計画	156回	77日	76,300人	(87.5%)	87,192人	
4月文楽公演 「靱猿」「一谷嫩軍記」「卅三間堂棟由来」 「絵本太功記」「天網島時雨炬燵」 「伊達娘恋緋鹿子」	文楽 劇場	4/4(土) ~26(日)	実績	44回	22日	23,435人	(72.9%)	32,164人	
			計画	44回	22日	18,900人	(58.8%)	32,164人	
夏休み文楽特別公演 「ふしぎな豆の木」解説「ぶんらくつてなあに」 「東海道中膝栗毛」「生写朝顔話」 「きぬたと大文字」「生写朝顔話」		7/18(土) ~8/3(月)	実績	51回	17日	22,634人	(60.7%)	37,281人	
			計画	51回	17日	21,600人	(57.9%)	37,281人	
錦秋文楽公演 「碁太平記白石嘶」「桜鐙恨鮫鞘」 「団子売」「玉藻前曦袂」		10/31(土) ~11/23(月・祝)	実績	46回	23日	19,646人	(58.4%)	33,626人	
			計画	46回	23日	19,100人	(56.8%)	33,626人	
初春文楽公演 「新版歌祭文」「閑取千両幟」「釣女」 「国性爺合戦」		1/3(日) ~26(火)	実績	46回	23日	23,323人	(69.4%)	33,626人	
			計画	46回	23日	21,700人	(64.5%)	33,626人	
【文楽(文楽劇場)小計】 4公演 (計画:4公演)			実績	187回	85日	89,038人	(65.1%)	136,697人	
			計画	187回	85日	81,300人	(59.5%)	136,697人	
6月文楽鑑賞教室 「五条橋」解説「文楽へようこそ」 「曾根崎心中」	文楽 劇場	6/5(金) ~18(木)	実績	28回	14日	20,588人	(100.6%)	20,468人	
			計画	28回	14日	18,300人	(89.4%)	20,468人	

【文楽鑑賞教室(文楽劇場)小計】 1 公演 (計画:1 公演)	実績	28 回	14 日	20,588 人	(100.6%)	20,468 人
	計画	28 回	14 日	18,300 人	(89.4%)	20,468 人
【文楽(文楽劇場)合計】 5 公演 (計画:5 公演)	実績	215 回	99 日	109,626 人	(69.8%)	157,165 人
	計画	215 回	99 日	99,600 人	(63.4%)	157,165 人
【文楽 総合計】 10 公演 (計画:10 公演)	実績	371 回	176 日	186,550 人	(76.3%)	244,357 人
	計画	371 回	176 日	175,900 人	(72.0%)	244,357 人

2. 営業・広報

- ・ 二代目吉田玉男、吉田和生、桐竹勘十郎による二代目吉田玉男襲名披露記者発表を東京・大阪で実施し、新聞、雑誌等を通じて公演 PR を行った。
- ・ 二代目吉田玉男襲名披露特設サイトを開設し、本館と文楽劇場とで連携した広報活動を行った。
- ・ 八代豊竹嶋太夫引退記者会見を大阪で実施し、新聞、雑誌等を通じて PR を行った。

(本館)

- ・ ポスター、チラシ、ホームページ、あぜくら会報、振興会ニュース等、公演情報の周知拡大を図り、一般の集客に努めた。
- ・ テレビ放送局、新聞社、雑誌社などに積極的に広報の働きかけを行い、多くの取材を受け入れ公演の PR を行った。
- ・ 襲名幟と襲名披露飾りを設置し、襲名披露口上のない第 2 部では、前月の襲名披露映像をロビーで放映するなどし、観劇の雰囲気盛り上げるとともに、ホームページを通じて告知し観客の動員を図った。また、公演の見所やゆかりの地の情報などをホームページに掲載し、インターネットを積極的に利用した公演の PR を行った。
- ・ 9 月文楽公演において、芸員と新聞記者を同行し演目「妹背山婦女庭訓」ゆかりの地キャンペーンを実施し、その様子の新聞記事を通じて、公演を周知した。
- ・ 過去 10 年間に観劇履歴のある団体及び新規見込み団体に向けて、定期的に最新の公演情報等の内容の DM を送付した（年 8 回、のべ 9,756 通）。
- ・ 海外からの旅行者の観劇を増やすため、旅行代理店・ホテル等との連携強化を一層進め、外国人から好評なデザインの英文スケジュールチラシを、引き続き劇場内のほか、空港・観光案内所・主要ホテル等に配布した。
- ・ 職員のコミュニティー等を活用した「ご観劇おすすめキャンペーン」を引き続き実施し、理事長及び営業部担当理事のリーダーシップの発揮により、各職員に一層の働きかけを行った。
- ・ 10 月歌舞伎公演と 9 月文楽公演での同一演目上演による観客増加策として、演目の重要アイテムの刀剣に因み刀剣博物館での歌舞伎俳優と文楽芸員の出席による取材会を開催し周知を図った。
- ・ 公演チラシ、振興会ホームページ、国立劇場メールマガジン、あぜくら会報、振興会ニュースでダブル観劇キャンペーンを周知し、10 月歌舞伎公演・9 月文楽公演、両公演のチケットを持参された方にオリジナルトートバックをプレゼントするサービスを実施した（配布数 1,566 枚）。

(文楽劇場)

- ・ 初めて芸員のインタビュー動画や三味線音楽を紹介する動画を作成し、公演記録映像を活用した筋立てを説明するダイジェスト動画とともにホームページで公開した。
- ・ 観劇の雰囲気盛り上げるために、正面玄関の柱に写真ポスターを装飾し、ロビー大階段周辺に大型懸垂幕ポスターを飾り付けた。
- ・ 地下鉄・JR 他の交通機関の駅構内や車内吊りのポスターを掲示した他、巨大壁面広告やデジタルサイネージ（電子ポスター）による公演宣伝を行った。
- ・ 新作文楽の公開舞台稽古等、在阪テレビ及びラジオ放送局に積極的に広報の働きかけを行い、多くの取材を受け入れることにより、ニュース番組、情報番組を通じて公演 PR を行った。番組内で定期的に公演紹介を行うコーナーを設けることができた。
- ・ 大阪・道頓堀リバーパレード 2015・光の饗宴への協力のほか、地元で行われる祭礼行事等で出演者と一般のお客様との交流の機会を設け、広く一般への普及活動を行った。
- ・ 「国立文楽劇場 文楽ポスター展」を関西国際空港 KIX ギャラリーや市立図書館で開催し、訪日外国人も対象に文楽と錦秋文楽公演の PR を行った。
- ・ 阪急百貨店うめだ本店で開催した「文楽の世界展」の会場内で、報道発表を兼ねた「ふしぎな豆の

木」のスペシャルデモンストレーションを行い、百貨店のお客様にも新作文楽のPRを行った。また、同時期に、1日に約50万人の通行があると言われる同店1階コンコースのショーウィンドウ2箇所に文楽人形等を飾り付け、文楽や夏休み特別公演を周知した。

- ・ 広報協力により、映画（「ターミネーター：ジェネシス」）、ミュージカル（「ライオンキング」）、ドラマ（「ちかえもん」）と文楽との宣伝活動について、相乗効果を上げるための取組を行った。
- ・ 夏休み文楽特別公演において、若者で賑わう繁華街（アメリカ村）にて企業の協力を得てギャラリースペースでの展示を実施した。また大阪近隣の各市に依頼し、親子劇場子供向けチラシの配布を拡充した。
- ・ 産経新聞社のインバウンド向けの中国語ガイド紙に劇場・公演の案内を掲載した。

3. 外部専門家等の意見

- ・ 外部専門家等の意見を聴取するため、公演専門委員会を2回開催した。

4. アンケート調査

（本館）

9月公演、12月公演で実施（2回）した。

回答数 582 人（配布数 726 人、回収率 80.2%）。回答者の 81.8%が概ね満足と答えた（476 人）。

（文楽劇場）

4月公演、夏休み文楽特別公演、錦秋公演、初春公演及び6月鑑賞教室で実施（5回）した。

回答数 1,329 人（配布数 2,132 人、回収率 62.3%）。回答者の 94.2%が概ね満足と答えた（1,252 人）。

【特記事項】

- ・ 二代目吉田玉男襲名披露公演（文楽劇場4月公演及び本館5月公演）
- ・ 平成27年度（第70回）文化庁芸術祭主催公演（文楽劇場錦秋公演）
- ・ 八代豊竹嶋太夫引退公演（文楽劇場初春公演及び本館2月公演）
- ・ 関西元気文化圏共催事業（文楽劇場の全公演）
- ・ 「毎日芸術賞」の演劇・邦舞・演芸部門で桐竹勘十郎が受賞（文楽劇場夏休み文楽特別公演「生写朝顔話」の祐仙と国立小劇場「妹背山婦女庭訓」のお三輪の成果に対して）
- ・ 各公演とも字幕表示装置により、演奏に合わせて義太夫の詞章を表示し鑑賞の助けとした。

《数値目標の達成状況》

【目標入場者数の達成状況】

実績 186,550 人／目標 175,900 人（達成度 106.1%）

《自己点検評価》

○ 自己評価

B

（根拠）

- ・ 制作方針に従い、上演機会の少ない優れた場面の復活等を含め、各公演とも充実した内容の舞台を制作し、外部専門家等から企画内容を高く評価された。
- ・ 上演機会の少ない作品として、本館5月「祇園祭礼信仰記」では文楽古典演目の上演準備事業で作成された資料に基づき100年以上上演のない立廻りの場면을復活することで、より現代に分かりやすい構成ができた。9月公演は「妹背山婦女庭訓」を、お三輪を中心とした展開で構成し、さらに端場の井戸替、結末の入鹿誅伐を付けて46年ぶりに上演することで、見所を際立たせた。2月公演でも「桜鏢恨鮫鞘」を東京で45年ぶりに上演した。
文楽劇場では、大阪で125年ぶり、東京を含めても41年ぶりとなった文楽劇場錦秋「玉藻前囃袂」の「化粧殺生石」を始め、夏休み文楽特別公演、初春公演において場面の復活を行った。また、ストーリーが分かりやすい「半通し」上演を3公演で実施した。
- ・ 本館12月は、引き続き中堅若手の技芸員を中心に起用することで技芸の伝承に配慮した公演とし、季節感あふれる「奥州安達原」と「紅葉狩」の上演により、文楽らしい悲劇、そして美しい姫が鬼に変身する文楽ならではのかしらを使ったスペクタクルな演目でレパートリーの多様さを示した。
- ・ 文楽劇場夏休み文楽特別公演「ふしぎな豆の木」（作＝竹田真砂子）において、詞章や曲にも工夫を

加えた低年齢層向けの新作を上演し、文楽普及に資する演目を拡充した。さらに、この新作で文楽劇場としては初めて外部劇場（日生劇場）での受託公演を実施し、文楽の本拠地大阪の劇場から文化発信する新たな展開を示した。

- ・ 芸芸員の去就に関連し、文楽劇場 4 月・本館 5 月公演で二代目吉田玉男襲名披露、文楽劇場初春・本館 2 月公演で豊竹嶋太夫引退披露を記念する演目（「一谷嫩軍記」・「関取千両幟」）を上演し、いずれも記念公演にふさわしい舞台成果を残した。また話題性を広報活動に効果的につなげ、文楽全体の一層の普及を進めた。
- ・ 営業・広報に関し、様々な施設や媒体と連携を深めた各種の取組により、順調に事業を実施した。

○ 良かった点・特色ある点

- ・ 制作方針に従い、通しでの上演、上演機会の少ない優れた場面の復活、新作の上演等を実施した。
- ・ 公演演目に因んだイベントの実施や DM の定期的な送付など、多様な取組による誘客を行った。
- ・ 周年事業年度の翌年度は反動で入場者数が大きく落ち込むのが通例であるが、文楽劇場では開場 30 周年の翌年度である 27 年度、メディアへの積極的なアピールや様々な外部組織との連携・協力、新作の上演、外部展示など、多様な努力・工夫により通例を覆して前年度に迫る入場者数を達成できた。特に二代目吉田玉男の襲名披露公演である文楽劇場 4 月公演・本館 5 月公演では、襲名披露特設サイトを開設し、本館と文楽劇場が連携した広報活動を行ったほか、マスコミでも多く取り上げられて大入りとなった。

○ 見直し又は改善を要する点

- ・ 人間国宝クラスの芸芸員の高齢化や引退もあり、世代交代を見据え、配役や演目の選定を工夫し、次代を担う芸芸員の活躍に繋がる舞台を積極的に作っていく必要がある。

<3> 舞踊・邦楽・雅楽・声明・民俗芸能ほか

《主要な業務実績》

1. 公演実績

- ・ 舞踊公演5公演、邦楽公演5公演、雅楽公演2公演、声明公演1公演、民俗芸能公演4公演、特別企画公演5公演を実施
- ・ 難曲といわれる能狂言の演目を題材とした作品を集めた舞踊公演、谷崎潤一郎の作品に描かれた曲を特集した邦楽公演、京都から発信し発展した美意識“風流”の芸能を紹介した特別企画公演等、芸能の特性を活かした企画性の高い公演を実施
- ・ 東日本大震災復興支援として本館小劇場にて民俗芸能公演「東北の芸能VI ～みちのくのオニ～」を上演

2. 営業・広報

- ・ マスコミ各社への記者会見や取材依頼のほか、各種媒体により公演情報を周知

3. 外部専門家等の意見

- ・ 外部専門家等の意見を聴取するため、公演専門委員会を2回開催

4. アンケート調査

- ・ 舞踊公演2回、邦楽公演1回、雅楽公演1回、声明公演1回、民俗芸能公演4回、特別企画公演5回（計14回）実施、満足回答率83.3%

《実績》

1. 公演実績

公演名	公演数 劇場	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数
【舞踊】	5 公演 本館大小劇場、文楽劇場	実績	8 回	6 日	4,785 人	(83.1%)	5,756 人
		計画	8 回	6 日	3,900 人	(67.8%)	5,756 人
【邦楽】	5 公演 本館小劇場、文楽劇場	実績	6 回	6 日	3,098 人	(83.7%)	3,703 人
		計画	6 回	6 日	2,800 人	(75.6%)	3,703 人
【雅楽】	2 公演 本館大小劇場	実績	3 回	2 日	2,167 人	(77.7%)	2,790 人
		計画	3 回	2 日	2,440 人	(87.5%)	2,790 人
【声明】	1 公演 本館大劇場	実績	1 回	1 日	1,577 人	(98.0%)	1,610 人
		計画	1 回	1 日	1,300 人	(80.7%)	1,610 人
【民俗芸能】	4 公演 本館小劇場、文楽劇場	実績	6 回	4 日	2,601 人	(71.7%)	3,627 人
		計画	6 回	5 日	2,900 人	(80.0%)	3,627 人
【特別企画】	5 公演 本館大小劇場、文楽劇場	実績	8 回	6 日	3,614 人	(62.0%)	5,827 人
		計画	8 回	6 日	4,260 人	(73.1%)	5,827 人
【合計】	22 公演 本館大小劇場・文楽劇場	実績	32 回	25 日	17,842 人	(76.5%)	23,313 人
		計画	32 回	26 日	17,600 人	(75.5%)	23,313 人

2. 営業・広報

- ・ マスコミ各社への記者会見及び取材依頼、テレビ出演、ポスター、チラシ、ホームページ、あぜくら会報、国立文楽劇場友の会会報、振興会ニュース等により、公演情報の周知拡大を図り、一般の集客に努めた。
- ・ 文楽劇場7月邦楽公演「文楽素浄瑠璃の会」では、ラジオ局に働きかけ、技芸員がラジオ番組に出演して公演宣伝を行った。

3. 外部専門家等の意見

- ・ 外部専門家等の意見を聴取するため、公演専門委員会を2回開催した。

4. アンケート調査

舞踊公演2回、邦楽公演1回、雅楽公演1回、声明公演1回、民俗芸能公演4回、特別企画公演5回（計

14回) 実施した。

回答者数 5,117 人 (配布数 7,894 人、回収率 64.8%)、回答者の 83.3%が概ね満足と答えた (4,260 人)。

【特記事項】

- ・ 平成 27 年度(第 70 回)文化庁芸術祭主催公演(文楽劇場 10 月舞踊公演)
- ・ 平成 27 年度(第 70 回)文化庁芸術祭協賛公演(10 月邦楽 2 公演、11 月雅楽公演、11 月舞踊公演)
- ・ 関西元気文化圏共催事業(文楽劇場の全公演)
- ・ 上演内容に応じて、字幕表示装置により、演奏にあわせて詞章等を表示し鑑賞の助けとした。

《数値目標の達成状況》

【目標入場者数の達成状況】

実績 17,842 人 / 目標 17,600 人 (達成度 101.4%)

《自己点検評価》

○ 自己評定

B

(根拠)

- ・ 東日本大震災復興支援として鬼をテーマに取り上げた「東北の芸能VI」、難曲といわれる能狂言の演目を題材とした作品を集めた「能・狂言の舞踊」、中堅を揃え江戸の賑わいをテーマにした「花形・名作舞踊鑑賞会」、様々な道行の姿を描いた邦楽を紹介した「道行四景」、谷崎潤一郎の作品に描かれた邦楽を特集した「文豪の聴いた音曲」など、企画性を打ち出した 5 公演はいずれも目標入場者数を大幅に上回った。「声明公演」「2 月雅楽公演『舞楽』」も、ともに 97%以上の高い入場率となった。
 - ・ 文楽劇場では、10 月「東西名流舞踊鑑賞会」や 7 月「文楽素浄瑠璃の会」での質の高い技芸、5 月「新進と花形による舞踊・邦楽鑑賞会」での若い実演家の育成を行った。また、9 月特別企画「風流の芸能」では、京都から発信し発展した美意識“風流”の芸能を紹介し、高い企画性と上演機会の少ない内容により、いずれの公演も制作方針通り実施した。
- 良かった点・特色ある点
- ・ 本館の舞踊、邦楽公演は企画性を打ち出し高い入場率をあげた。舞踊公演では「能・狂言の舞踊」、邦楽公演では「道行四景」「谷崎潤一郎」等テーマを設け制作を行った。雅楽公演では国立劇場で復曲した 4 時間に及ぶ大曲「盤渉参軍」を再演した。宮内庁式部職楽部の出演により国立劇場では 50 年ぶりに舞楽「春鶯囀 一具(全曲)」を上演した。声明公演では「日蓮宗の声明」を取り上げ、初めて尼僧が出演し、僧との共演を披露した。東北六県の芸能に共通する鬼をテーマにした芸能を集めて、「東北の芸能VI」を上演し、目標入場者数を上回った。
 - ・ 文楽劇場の「東西名流舞踊鑑賞会」では、上方四流に伝承される舞や踊りの幅広い魅力を発信するとともに、歌舞伎舞踊の名曲、東京の舞踊家による江戸前の素踊りといったバラエティーに富んだ番組で目標入場者数を上回った。「文楽素浄瑠璃の会」の字幕表示については、詞章をより見やすく表示して分かりやすくするため、今年から可動式の字幕表示装置を舞台上の上手・下手に配置した。「風流の芸能」では、風流の芸能の代表格が集う稀な機会であっただけでなく、セリ、廻り舞台、花道、字幕装置等の劇場機構を最大限に活かし変化に富んだ舞台運びや、幕間ごとの丁寧な解説が好評であった。
- 見直し又は改善を要する点
- ・ 目標入場者数に達しない公演が 22 公演中 9 公演あった。企画立案時より内容や時期等の検討を綿密に行うとともに、観客のニーズに応えられる効果的な広報宣伝ができるよう、担当部署で連携し、一層工夫を図りたい。

舞 踊

【制作方針】

本館では、現在鑑賞することのできる最高水準の舞台を紹介することを根幹とし、日本舞踊界の第一線で活躍する東西の舞踊家により、流派にとらわれず国立劇場独自の企画を盛り込みながら、広範な観客層への普及を図り、東京を中心に発展・継承されてきた歌舞伎舞踊と、京阪を中心に発展・継承されてきた上方舞を両輪として、公演ごとにテーマを設けて企画する。また、公演の狙いや曲の性格に適した中堅や若手舞踊家の起用を積極的に行う。

文楽劇場では、京阪四流（井上、榎茂都、山村、吉村）の代表者及び東西の第一線で活躍する舞踊家による競演を柱に、格調の高い舞台を提供し、広範な観客層への普及を図り、演奏には文楽技芸員からも太夫・三味線陣を迎えて上方ゆかりの義太夫節による演目を上演し、芸能の特性を踏まえた企画性のある番組構成とする。

【実績】

1. 公演実績

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数
5月舞踊公演 「能狂言の舞踊」	本館 大劇場	5/23(土)	実績	1回	1日	1,445人	(95.1%)	1,520人
			計画	1回	1日	980人	(64.5%)	1,520人
8月舞踊公演 「花形・名作舞踊鑑賞会 ～ 江戸の賑わい～」	本館 小劇場	8/29(土)	実績	1回	1日	493人	(94.4%)	522人
			計画	1回	1日	340人	(65.1%)	522人
11月舞踊公演 「舞の会 ー京阪の座敷舞 ー」	本館 小劇場	11/21(土)	実績	2回	1日	1,044人	(88.5%)	1,180人
			計画	2回	1日	1,020人	(86.4%)	1,180人
3月舞踊公演 「素踊りの会」	本館 小劇場	3/19(土) ～20(日・祝)	実績	2回	2日	768人	(65.1%)	1,180人
			計画	2回	2日	760人	(64.4%)	1,180人
【舞踊(本館) 小計】 4公演 (計画:4公演)			実績	6回	5日	3,750人	(85.2%)	4,402人
			計画	6回	5日	3,100人	(70.4%)	4,402人
10月舞踊公演 「東西名流舞踊鑑賞会」	文楽 劇場	10/17(土)	実績	2回	1日	1,035人	(76.4%)	1,354人
			計画	2回	1日	800人	(59.1%)	1,354人
【舞踊(文楽劇場) 小計】 1公演 (計画:1公演)			実績	2回	1日	1,035人	(76.4%)	1,354人
			計画	2回	1日	800人	(59.1%)	1,354人
【舞踊 合計】 5公演 (計画:5公演)			実績	8回	6日	4,785人	(83.1%)	5,756人
			計画	8回	6日	3,900人	(67.8%)	5,756人

【特記事項】

- ・平成27年度(第70回)文化庁芸術祭主催公演(文楽劇場10月)
- ・平成27年度(第70回)文化庁芸術祭協賛公演(本館11月)
- ・関西元気文化圏共催事業(文楽劇場10月)
- ・字幕表示装置により、演奏に合わせて歌詞を表示して鑑賞の助けとした(本館4公演)

《自己点検評価》

○ 良かった点・特色ある点

- ・ 能楽においても難曲といわれる演目に挑んだ本館5月「能狂言の舞踊」、本館8月「花形・名作舞踊鑑賞会」では企画性を持たせたことで広く観客にアピールできた。また「花形・名作舞踊鑑賞会」は、中堅の舞踊家を登用する企画と位置付けている。これらの公演により、将来の活躍が囑望される若手・中堅実演家の経験の場を増やすとともに、同世代の演者間の交流及び異ジャンルとの競演の場を提供することで、一層の技芸向上に役立てた。

- ・ 文楽劇場 10 月「東西名流舞踊鑑賞会」は、上方四流に伝承される舞や踊りの幅広い魅力を発信し、歌舞伎舞踊の名曲、東京の舞踊家による江戸前の素踊りと、バラエティーに富んだ番組で目標入場者数を大きく上回った。

邦 楽

【制作方針】

邦楽の各ジャンルの特徴や魅力、レパートリーの豊富さをふまえ、その多彩な音楽性をさまざまな視点から楽しんでもらう。出演者については、ベテランに限らず、公演の狙いや曲の性格に適した演奏家の起用を第一に考え、中堅や若手の積極的な出演を図る。

本館では、「道行四景」「谷崎潤一郎」等テーマを設けた公演、「文楽素浄瑠璃の会」「長唄の会・三曲の会」等邦楽ファンに向けた聴き応えのある公演を制作する。

文楽劇場の 7 月公演「文楽素浄瑠璃の会」は、文楽の第一線で活躍する太夫・三味線陣が、それぞれの芸風に相応しい演目で臨む本格的な素浄瑠璃の公演とする。今年は三組ともに三味線のツレ弾きを伴う曲を選曲し、義太夫節の華やかな面に光を当てるとともに、若手を起用して芸の伝承を図る。

【実績】

1. 公演実績

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数
10 月邦楽公演 「邦楽名曲鑑賞会 道行四景」	本館 小劇場	10/10(土)	実績	1 回	1 日	561 人	(95.1%)	590 人
			計画	1 回	1 日	380 人	(64.4%)	590 人
10 月邦楽公演 「文楽素浄瑠璃の会」		10/24(土)	実績	1 回	1 日	577 人	(97.8%)	590 人
			計画	1 回	1 日	560 人	(94.9%)	590 人
12 月邦楽公演 「谷崎潤一郎没後五十年 文豪 の聴いた音曲」		12/19(土)	実績	1 回	1 日	556 人	(94.2%)	590 人
			計画	1 回	1 日	400 人	(67.8%)	590 人
1 月邦楽公演 「邦楽鑑賞会 ー長唄の会ー ー三曲の会ー」		1/16(土) ～17(日)	実績	2 回	2 日	990 人	(83.9%)	1,180 人
			計画	2 回	2 日	1,010 人	(85.6%)	1,180 人
【邦楽(本館) 小計】 4 公演 (計画:4 公演)			実績	5 回	5 日	2,684 人	(91.0%)	2,950 人
			計画	5 回	5 日	2,350 人	(79.7%)	2,950 人
7 月邦楽公演 「文楽素浄瑠璃の会」	文楽 劇場	7/4(土)	実績	1 回	1 日	414 人	(55.0%)	753 人
			計画	1 回	1 日	450 人	(59.8%)	753 人
【邦楽(文楽劇場) 小計】 1 公演 (計画:1 公演)			実績	1 回	1 日	414 人	(55.0%)	753 人
			計画	1 回	1 日	450 人	(59.8%)	753 人
【邦楽 合計】 5 公演 (計画:5 公演)			実績	6 回	6 日	3,098 人	(83.7%)	3,703 人
			計画	6 回	6 日	2,800 人	(75.6%)	3,703 人

【特記事項】

- ・ 平成 27 年度(第 70 回)文化庁芸術祭協賛公演(本館 10 月公演 2 公演)
- ・ 関西元氣文化圏共催事業(文楽劇場 7 月公演)
- ・ 本館 12 月公演について、あぜくら会員向けに「あぜくらの夕べ『谷崎潤一郎と古典芸能』」と題した催しを実施した(11 月 16 日、伝統芸能情報館レクチャー室、参加者数 130 名)。
- ・ 字幕表示装置により、演奏に合わせて歌詞を表示して鑑賞の助けとした(全公演)。

《自己点検評価》

- 良かった点・特色ある点

- ・ 本館の10月公演「邦楽名曲鑑賞会・道行四景」では、人間国宝が様々な道行物を語り、12月公演「文豪の聴いた音曲」では、谷崎潤一郎作品に描かれた音曲を映像や作品の朗読とともに紹介し、いずれも大幅に目標入場者数を上回った。制作意図を明確にし、企画性を持たせたことで、邦楽の楽しさや魅力を多角的に紹介し、幅広い観客層にアピールすることができた。
- ・ 文楽劇場7月「文楽素浄瑠璃の会」の字幕表示を今年から舞台上部へ横書きで投影する文楽上演時の方法を改め、可動式の字幕表示装置を舞台上の上手・下手に配置し、詞章がより見やすく表示されるようわかりやすくした。

○ 見直し又は改善を要する点

- ・ 今後も企画性を重視し、目標入場者数が達成できなかった「邦楽鑑賞会」については、企画立案時において構成等の検討を綿密に行い、内容、時期、効果的な広報宣伝媒体等について担当部署が連携の上、工夫を図る。

雅 楽

【制作方針】

千年以上伝えられながら一般には知られることが少なかった雅楽を、宮内庁式部職楽部他により上演する。11月公演は国立劇場で復曲した大曲「盤渉参軍」を再演し、2月公演は宮内庁式部職楽部の出演で舞楽「春鶯囀 一具（全曲）」を上演する。

【実績】

1. 公演実績

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数
11月雅楽公演 「大曲 盤渉参軍を聴くー国立劇場の復曲をふりかえるー」	本館 小劇場	11/7(土)	実績	2回	1日	605人	(51.3%)	1,180人
			計画	2回	1日	1,000人	(84.7%)	1,180人
2月雅楽公演 「舞楽」	本館 大劇場	2/27(土)	実績	1回	1日	1,562人	(97.0%)	1,610人
			計画	1回	1日	1,440人	(89.4%)	1,610人
【雅楽(本館) 合計】 2公演 (計画:2公演)			実績	3回	2日	2,167人	(77.7%)	2,790人
			計画	3回	2日	2,440人	(87.5%)	2,790人

【特記事項】

- ・ 平成27年度(第70回)文化庁芸術祭協賛公演(11月公演)

《自己点検評価》

○ 良かった点・特色ある点

- ・ 11月公演「大曲 盤渉参軍を聴く」では国立劇場で復曲した大曲を36年ぶりに一挙上演した。また2月公演は宮内庁式部職楽部の出演により、国立劇場では48年ぶりとなる舞楽「春鶯囀 一具」を上演した。

○ 見直し又は改善を要する点

- ・ 11月公演は目標を下回った。今後は幅広い客層のニーズに応えられるよう、企画内容や広報宣伝の手段について一層工夫を図りたい。

声 明

【制作方針】

2月公演は、単独では昭和52年以来2度目となる「日蓮宗の声明」を取り上げる。日蓮宗の声明は、宗祖日蓮が十二年間比叡山にて修学していたことから天台声明の影響を受けている。昭和6年(1931)に行われた宗祖六百五十遠忌法要をきっかけに、それまで宗内流派それぞれが独自に伝承していた法儀声明の

統一を行い、さらに全国の日蓮宗僧侶が同じように声明を唱えられるように、旋律を単純なものにした。以降、全国各地で声明の研修会が開かれ、現在では宗派として熱心に声明の伝承に取り組んでいる。また、日蓮宗には「声明師」の資格を持つ尼僧が多いことでも知られている。

今回の公演では、単純な節だからこそ荘厳に唱えるのが難しい日蓮宗の声明を取り上げ、さらに国立劇場声明公演では初となる尼僧を交えた構成で高音と低音が混交することで生まれる声の響きを体感していただく。

【実績】

1. 公演実績

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数
2月声明公演 「日蓮宗の声明一僧と尼僧の声 が響き合う空間ー」	本館 大劇場	2/11(木・祝)	実績	1回	1日	1,577人	(98.0%)	1,610人
			計画	1回	1日	1,300人	(80.7%)	1,610人
【声明(本館)合計】 1公演 (計画:1公演)			実績	1回	1日	1,577人	(98.0%)	1,610人
			計画	1回	1日	1,300人	(80.7%)	1,610人

【特記事項】

- ・ 字幕表示装置により、舞台の進行に合わせて式次第と経文を表示して鑑賞の助けとした。

《自己点検評価》

○ 良かった点・特色ある点

- ・ 「日蓮宗の声明」は、目標入場者数を大きく上回り、入場率98%となった。尼僧が初めて出演し、僧と尼僧の共演が実現したことにより、声明の新たな魅力を示した公演となった。

民俗芸能

【制作方針】

全国各地で行われている民俗芸能の中から、伝承が確かで、しかも舞台での上演が可能な芸能を広く一般に紹介し、その理解を深める。

本館4月公演は、東北六県の芸能に共通する鬼をテーマにした芸能を集め、東日本復興支援「東北の芸能VI」として取り上げる。本館1月公演は、沖縄の村に伝わった組踊を紹介する。

文楽劇場の9月「風流の芸能」では、中世の京都及びそこから伝播した風流の芸能の代表格を舞台公開し、民俗芸能研究の第一人者による詳細な解説と併せて“風流”の精神に迫る内容とする。

【実績】

1. 公演実績

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数
4月民俗芸能公演 「東日本大震災復興支援 東北の芸能 VI ～みちのくのオニ～」	本館 小劇場	4/11(土)	実績	1回	1日	510人	(86.4%)	590人
			計画	1回	1日	450人	(76.3%)	590人
6月民俗芸能公演 「石見 大元神楽」		6/20(土)	実績	2回	1日	987人	(83.6%)	1,180人
			計画	2回	1日	950人	(80.5%)	1,180人
1月民俗芸能公演 「村の組踊 沖縄 久手堅と宜野座の 祭礼より」		1/23(土)	実績	2回	1日	573人	(48.6%)	1,180人
			計画	2回	2日	910人	(77.1%)	1,180人
【民俗芸能(本館)小計】 3公演 (計画:3公演)			実績	5回	3日	2,070人	(70.2%)	2,950人
			計画	5回	4日	2,310人	(78.3%)	2,950人

9月特別企画公演 「風流の芸能」	文楽 劇場	9/12(土)	実績	1回	1日	531人	(78.4%)	677人
			計画	1回	1日	590人	(87.1%)	677人
【民俗芸能(文楽劇場)小計】 1公演 (計画:1公演)			実績	1回	1日	531人	(78.4%)	677人
			計画	1回	1日	590人	(87.1%)	677人
【民俗芸能合計】 4公演 (計画:4公演)			実績	6回	4日	2,601人	(71.7%)	3,627人
			計画	6回	5日	2,900人	(80.0%)	3,627人

【特記事項】

- ・ 字幕表示装置により解説等を表示し、鑑賞の助けとした。
 - ・ 本館4月公演では東日本大震災復興支援を継続して掲げ、劇場内になまはげの面、衣裳の体験コーナーを設けた。また、芸術文化復興支援基金「絆」の募金を行った。
協賛：三井住友カード株式会社
 - ・ 本館6月公演において、あぜくら会員向けに「石見大元神楽の魅力ー受け継がれる舞と神事ー」と題した催しを実施した(5月28日、伝統芸能情報館レクチャー室、参加者数105名)。
 - ・ 本館1月公演において、劇場内にてゆかりの地の物産展を行った。また公演前に沖縄の組踊についてのレクチャーを実施した(伝統芸能情報館レクチャー室、参加人数57名)。
- (文楽劇場9月公演)
- ・ 関西元気文化圏共催事業
 - ・ 公演関連プレ講座「絵画史料にみる戦国時代の京都」を開催した(8月29日、小ホール、参加人数85名)。
 - ・ 終演後ロビーでの花笠(風流の細工)の見送りは担い手と観客との距離をより近づけた。

《自己点検評価》

- 良かった点・特色ある点
 - ・ 4月「東北の芸能VI」は「鬼」をテーマにしたことで、改めて東北の芸能の多様性を示すことができた。1月公演「村の組踊」では、沖縄の村でのみ伝承され、一般の人には観る機会の少ない組踊が紹介できた貴重な催しとなった。
 - ・ 9月「風流の芸能」は、風流の芸能の代表格が集う稀な機会であっただけでなく、セリ、廻り舞台、花道、字幕装置等の劇場機構を最大限に活かした変化に富んだ舞台運びや、幕間ごとの丁寧な解説が付加価値となった。
- 見直し又は改善を要する点
 - ・ 企画性を持った4月公演、6月公演は目標を上回ったものの、9月公演、1月公演は目標入場者数に達しなかった。宣伝・広報の工夫や方法の再検討を行い、公演の周知を工夫していく。

特別企画

【制作方針】

本館4月舞踊・邦楽公演「明日をになう新進の舞踊・邦楽鑑賞会」は、将来の日本舞踊界・邦楽界を担う新進気鋭の演者が主役や大曲に挑む舞踊と邦楽の合同公演とする。また、これまでの「新進の会」に出演し、いまや斯界を牽引している舞踊家、演奏家による特別公演を実施する。6月公演は、伝統芸能に親しみを感じてもらえるよう新たに企画した〈伝統芸能の魅力〉シリーズの2回目として、声明・邦楽、雅楽・日本舞踊の組合せによる公演を2週にわたり上演する。9月公演「日本の太鼓」は各地で受け継がれる太鼓、創作の太鼓を「打ち囃す」をテーマに紹介する。

文楽劇場5月舞踊・邦楽公演「新進と花形による舞踊・邦楽鑑賞会」は、将来を荷う関西在住の若手舞踊家・演奏家と、現在各地で活躍する中堅の舞踊家、演奏家を揃え実施する。

【実績】

1. 公演実績

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数
-----	----	----	----	----	----	------	-----	-----

4月舞踊・邦楽公演 「明日をになう新進の舞踊・邦楽鑑賞会」、特別公演「舞踊・邦楽鑑賞会」	本館 小劇場	4/17(金) ～18(土)	実績	2回	2日	632人	(53.6%)	1,180人
			計画	2回	2日	820人	(69.5%)	1,180人
6月 第3回伝統芸能の魅力 「声明を楽しむ」/「邦楽を楽しむ」	本館 小劇場	6/6(土)	実績	2回	1日	964人	(81.7%)	1,180人
			計画	2回	1日	900人	(76.3%)	1,180人
6月 第4回伝統芸能の魅力 「雅楽を楽しむ」/「日本舞踊を楽しむ」	本館 小劇場	6/13(土)	実績	2回	1日	801人	(67.9%)	1,180人
			計画	2回	1日	940人	(79.7%)	1,180人
9月特別企画公演 「日本の太鼓」	本館 大劇場	9/26(土)	実績	1回	1日	848人	(52.7%)	1,610人
			計画	1回	1日	1,150人	(71.4%)	1,610人
【特別企画(本館) 合計】 4公演 (計画:4公演)			実績	7回	5日	3,245人	(63.0%)	5,150人
			計画	7回	5日	3,810人	(74.0%)	5,150人
5月舞踊・邦楽公演 「新進と花形による舞踊・邦楽鑑賞会」	文楽 劇場	5/9(土)	実績	1回	1日	369人	(54.5%)	677人
			計画	1回	1日	450人	(66.5%)	677人
【特別企画(文楽劇場) 小計】 1公演 (計画:1公演)			実績	1回	1日	369人	(54.5%)	677人
			計画	1回	1日	450人	(66.5%)	677人
【特別企画 合計】 5公演 (計画:5公演)			実績	8回	6日	3,614人	(62.0%)	5,827人
			計画	8回	6日	4,260人	(73.1%)	5,827人

【特記事項】

- ・ 関西元気文化圏共催事業（文楽劇場5月公演）
- ・ 字幕表示装置により、詞章等を表示し鑑賞の助けとした（本館4月舞踊・邦楽公演、6月〈伝統芸能の魅力〉「雅楽を楽しむ」「声明を楽しむ」）。
- ・ 文楽劇場5月公演関連プレ講座「地歌舞のたのしみ」を開催した（4月30日、小ホール、参加人数120名）。
- ・ 本館6月公演のうち、「邦楽を楽しむ」「雅楽を楽しむ」「日本舞踊を楽しむ」では、休憩中の劇場ロビーに「体験コーナー」を設置した。

《自己点検評価》

○ 良かった点・特色ある点

- ・ 本館4月「明日をになう新進の舞踊・邦楽鑑賞会」では、併せて「特別公演」を実施し、現在第一線で活躍しているかつての出演者により、研鑽の到達点を披露するとともに、本公演の36年間に及ぶ取組の成果を示す公演となった。
- ・ 文楽劇場5月公演は、初出演の実演家を多く揃え、チラシ等のデザインも一新して新鮮さをアピールした。邦楽では、箏曲から若手による古典の大曲と中堅実力派による現代曲を採り上げ、比較鑑賞も楽しめる構成とし、また舞踊は若手による長唄舞踊と地歌舞を続けて上演し、色合いの違いを打ち出した。全体として、若々しく熱気にあふれた舞台が展開され、舞踊邦楽界の将来を展望する内容となった。昨年同様、各演目の上演前に演者の自己紹介や舞台への思いなどのコメントを場内アナウンスで流し、実演家と客席との距離感を近づけた。
- ・ 本館6月公演では、実演を交えた解説と代表的な演目の鑑賞により、伝統芸能の楽しさや興味を広げ、普及振興に寄与した。このうち「声明を楽しむ」では、三宗派の技法の比較という、声明の音楽的価値に注目した国立劇場ならではの企画が実現し、好評を得た。「邦楽を楽しむ」「雅楽を楽しむ」「日本舞踊を楽しむ」では、休憩中の劇場ロビーに「体験コーナー」を設置し、それぞれの芸能の魅力を体感してもらえる内容とした。

○ 見直し又は改善を要する点

- ・ 本館4月公演で集客に苦戦し、目標入場者数を下回った。前回の結果を踏まえて、日程の変更や公演内容の充実を図ったが成果は上がらず、一層の工夫が必要である。特別公演についてはテーマを設けて企画性を高め、また、新たな観客層の獲得を意識した広範で効果的な広報周知を図っていく。
- ・ 文楽劇場5月公演では、健闘したものの目標入場者数には届かなかった。出演者の魅力や企画意図をより広く効果的に訴えられるよう、公演周知を更に工夫し、目標入場者数達成のための改善に努める。

<4> 大衆芸能

《制作方針》

寄席で演じられる大衆芸能には、落語・浪曲・講談のほか、太神楽曲芸・漫才・漫談・コント・奇術・ものまね・俗曲といった多種多様な分野の芸能が含まれている。また、落語に代表されるように、江戸と上方といった地域ごとに独自の発展を遂げてきた分野の芸能もある。国立演芸場及び国立文楽劇場では、大衆芸能の多様な内容を幅広く取り入れ、地域性を加味した公演を企画・立案し、その普及・振興を図るとともに、演芸家の技芸の伝承にも配慮した公演の制作を行うこととする。

国立演芸場では、「定席公演」を中心に大衆芸能公演を実施する。寄席の根幹ともいえるべき「定席公演」では、様々な分野の大衆芸能を幅広く取り入れて公演を企画・立案し、その多彩な魅力を伝えながら、普及・振興を図る。また、「若手新人公演」では、若手演芸家の育成を目的に、年間で花形演芸大賞を競うことで技芸向上をめざす。出演する若手演芸家は、落語に限らず、多種多様な大衆芸能の分野から選定する。「新春国立名人会」では、落語をはじめ、各演芸の重鎮や人気者が日替りで出演する等、初春に相応しく豪華で華やかな公演を実施する。「国立名人会」は、落語を中心に選りすぐりの出演者の十八番やふだんの寄席ではなかなか演じられない珍しい演目を選定するとともに、高座時間を長めに設定する等、大衆芸能の醍醐味をじっくりと味わえる公演を実施する。「特別企画公演」では、圓朝作品に挑む会や新・旧芝居噺の会等、公演ごとに独自のテーマや分野を設定するなど、他の寄席ではみられない企画性の高い公演を実施する。

文楽劇場では、大阪における伝統的な演芸場のかつての賑わいを取り戻すべく、上方の大衆芸能の普及・振興を目指す。浪曲公演においては、斯界を代表する実力者を揃えた「浪曲名人会」、若手中心で技芸の向上も狙いとする「浪曲錬声会」と定期的に公演を実施し、関西浪曲界の発展に尽力していく。また、「上方演芸特選会」においては、浪曲も含めた多彩な演芸種目を上演する昔ながらの寄席として、上方演芸4団体（上方落語協会・浪曲親友協会・関西演芸協会・関西芸能親和会）と協力して大衆芸能各分野の技芸の継承保存に努め、関西演芸界の振興に寄与していく。

《主要な業務実績》

1. 公演実績

- ・（演芸場）定席公演 22 公演、若手新人公演 12 公演、新春国立名人会 1 公演、国立名人会 11 公演、特別企画公演 10 公演を実施
- ・（文楽劇場）浪曲 2 公演、上方演芸特選会 6 公演を実施
- ・ 全公演の合計で目標入場者数を達成（達成度 101.0%）
- ・ 演芸場で、照明効果や舞台背景を用いた「新・旧芝居噺の会」を実施
- ・ 若手新人公演の出演者を対象に、平成 27 年度花形演芸大賞の審査を実施、受賞者を公表

2. 営業・広報

- ・ チラシ、ポスター、ホームページ等による広報、新聞や「東京かわら版」等への広告掲載により公演情報を周知
- ・ 出演者の出身地の都道府県事務所、出身学校や演目所縁の地域と連携した情報発信
- ・ 報道各社へ定期的に公演情報を配信
- ・ 地元ラジオ局に働きかけ、番組内で公演を紹介

3. 外部専門家等の意見

- ・ 各館において公演専門委員会を開催し、外部専門家等の意見を聴取して、後の事業運営に活用

4. アンケート調査

- ・（演芸場）12 公演で実施（12 回）、満足回答率 87.2%

《業務実績詳細》

1. 公演実績

公演名	公演数 劇場	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数
【定席】	22 公演 演芸場	実績	241 回	219 日	34,927 人	(48.3%)	72,300 人
		計画	241 回	219 日	35,200 人	(48.7%)	72,300 人

【花形演芸会】	12 公演 演芸場	実績	12 回	12 日	3,382 人	(93.9%)	3,600 人
		計画	12 回	12 日	3,300 人	(91.7%)	3,600 人
【新春国立名人会】	1 公演 演芸場	実績	8 回	6 日	2,343 人	(97.6%)	2,400 人
		計画	8 回	6 日	2,300 人	(95.8%)	2,400 人
【国立名人会】	11 公演 演芸場	実績	11 回	11 日	3,215 人	(97.4%)	3,300 人
		計画	11 回	11 日	3,080 人	(93.3%)	3,300 人
【特別企画】	10 公演 演芸場	実績	14 回	14 日	3,868 人	(92.1%)	4,200 人
		計画	14 回	14 日	3,850 人	(91.7%)	4,200 人
【大衆芸能(演芸場)合計】	56 公演	実績	286 回	262 日	47,735 人	(55.6%)	85,800 人
		計画	286 回	262 日	47,730 人	(55.6%)	85,800 人
【浪曲名人会】	1 公演 文楽劇場	実績	1 回	1 日	640 人	(85.0%)	753 人
		計画	1 回	1 日	680 人	(90.3%)	753 人
【浪曲錬声会】	1 公演 文楽劇場小ホール	実績	2 回	1 日	308 人	(96.9%)	318 人
		計画	2 回	1 日	290 人	(91.2%)	318 人
【上方演芸特選会】	6 公演 文楽劇場小ホール	実績	24 回	24 日	3,854 人	(101.0%)	3,816 人
		計画	24 回	24 日	3,300 人	(86.5%)	3,816 人
【大衆芸能(文楽劇場)合計】	8 公演	実績	27 回	26 日	4,802 人	(98.3%)	4,887 人
		計画	27 回	26 日	4,270 人	(87.4%)	4,887 人
【大衆芸能公演 総合計】	64 公演	実績	313 回	288 日	52,537 人	(57.9%)	90,687 人
		計画	313 回	288 日	52,000 人	(57.3%)	90,687 人

2. 営業・広報

- 演芸場では、国立演芸場ガイド（月刊）・チラシ・ポスター・新聞等マスコミへの取材依頼・「東京かわら版」や新聞等への広告掲載・振興会ホームページ・NTJ メンバー等へのメール発信を通じて公演の周知に努めた。また、出演者の出身地の都道府県事務所、出身学校や演目所縁の地域からの情報発信も行った。
- 振興会ホームページに公演のトピックスを掲載した。（4月中席、10月中席、11月上席、2月上席、3月上席、3月中席で実施）
- 報道各社に対して、定期的な公演情報の配信を開始した。（10月上席、10月中席、11月上席、11月中席、11月若手新人公演、11月国立名人会、11月特別企画公演、2月上席、2月中席、2月若手新人公演、2月国立名人会、2月特別企画公演、3月特別企画公演で実施）
- 公演日程に合わせ、学校や各種団体へ企画書を提出し、6月には前年に引き続き「寄席の日」（6月の第1月曜日）に落語協会、落語芸術協会及び都内の4演芸場と提携し、当日券の割引を実施した。
- スタンプラリーを引き続き実施し、リピーターによる観客増につなげるよう努めた（1回の観劇でスタンプを1回押し、スタンプ5個で粗品進呈）。また夜の公演の鑑賞者にはスタンプを2回押しして販売促進に努めた。
- 2月上席の節分の日に入場者全員に豆を配布し、舞台からも豆撒きをして大いに喜ばれた。また、3月上席の雛祭には入場者全員に雛あられを配布し、サービスの向上に努めた。
- 文楽劇場では、広報としてチラシ・ポスター・インターネット・国立文楽劇場友の会会報・振興会ニュースの配布等で公演の周知に努めた。また、地元ラジオ局に働きかけ、番組内で公演紹介を行った。

3. 外部専門家等の意見

- 各館において公演専門委員会を開催し、外部専門家等の意見を聴取して、後の事業運営に役立てた。

4. アンケート調査

(演芸場)

12公演で実施(12回)した。

回答数 1,981 人(配布数 3,176 人、回収率 62.4%)。回答者の 87.2%が概ね満足と答えた(1,728 人)。

【特記事項】

- ・ 関西元氣文化圏共催事業（文楽劇場全公演）
- ・ 平成 27 年度（第 70 回）文化庁芸術祭主催公演（10 月特別企画公演）
- ・ 平成 27 年度（第 70 回）文化庁芸術祭協賛公演（演芸場 10 月・11 月実施の 7 公演、文楽劇場 11 月上方演芸特選会）
- ・ 演芸場 11 月上席公演で、東日本大震災被災者特別招待を実施した（招待者数 252 名）。
- ・ 若手新人公演の出演者を対象に平成27年度花形演芸大賞の審査を実施し、受賞者を公表した。
花形演芸大賞：蜷気楼龍玉（落語）
特別賞：神田阿久鯉（講談）
金賞：三遊亭萬橘（落語）笑福亭たま（上方落語）、ロケット団（漫才）
銀賞：ホンキートンク（漫才）、桂吉坊（上方落語）、瀧川鯉橋（落語）、古今亭文菊（落語）

《数値目標の達成状況》

【目標入場者数の達成状況】

実績 52,537 人／目標 52,000 人（達成度 101.0%）

《自己点検評価》

○ 自己評定

B

（根拠）

- ・ 目標入場者数を達成できた。伝統的な寄席の形式を踏襲して、様々な分野の演芸家が出演し、大衆芸能の多様な魅力を伝えるとともに、世代、性別を問わず幅広い観客層が楽しめる公演を制作するという方針を反映した効果が具体的に現れてきた。
- ・ 民間の寄席にくらべて一人（組）当たりの高座時間を長く確保し、内容を割愛することなく落語を一席務めることができるようにする等、技芸の保存・伝承にも配慮した公演制作を実施することができた。「若手新人公演」、「浪曲錬声会」を実施し、若手演芸家の技芸向上の方策を積極的に進めることができた。
- ・ 演芸場では、落語協会・落語芸術協会をはじめ、関係各団体と緊密な連携をとり、公演制作に多大なる協力を得ることができた。結果、それぞれの幹部の出演や、圓朝作品に挑む会や新・旧芝居噺の会等、国立演芸場ならではの企画性の高い公演を制作することができた。
- ・ 文楽劇場の「上方演芸特選会」では、上方演芸4団体と協力し、それぞれの団体から多彩なジャンルの若手・ベテラン出演者が競う、今や上方では貴重となった昔懐かしい本格的な寄席形式の定席公演としてバラエティーに富んだ番組構成を実現し、全公演で目標入場者数を達成することができた。

○ 良かった点・特色ある点

（演芸場）

- ・ 定席公演では、落語芸術協会会長桂歌丸がトリで『塩原多助』のうち「青の別れ」を口演した 4 月中席、三笑亭夢太郎がトリを務めた 6 月中席公演、7 月上席の落語芸術協会真打昇進襲名披露公演、大御所三笑亭可楽をトリに迎えた 10 月上席公演、芸歴 75 周年を迎えた三遊亭金馬、人間国宝の一龍斎貞水はじめ、東家浦太郎/国本武春等錚々たる顔付けの 11 月上席公演、春雨や雷蔵がトリの 1 月中席公演、三遊亭小遊三、ナイツと人気者が揃った 2 月上席公演、大喜利「鹿芝居」人気定着した 2 月中席公演、ベテラン五街道雲助がトリの 3 月上席公演の計 9 公演で目標を達成できた。
- ・ 特別企画公演では、七回忌追善の「五代目圓楽一門会」を、総踊りや中喜利等趣向を凝らして実施した。また、道具、照明、音響等を駆使した「新・旧芝居噺の会」を初めて実施した。

（文楽劇場）

- ・ 上方演芸特選会は落語、漫才、浪曲、諸芸と特色ある顔ぶれによる文楽劇場ならではの充実した番組を構成できた。特に団体・会員以外の一般個人に集客の伸びが見られるため、各公演の入場者数も安定しており、6 公演とも目標を上回る結果となった。

○ 見直し又は改善を要する点

（演芸場）

- ・ 定席で目標に達しなかった 13 公演のうち、落語協会真打昇進襲名披露公演の 5 月中席、落語協会会長柳亭市馬がトリを務めた 6 月上席、柳家さん喬がトリを務めた 8 月上席、桂歌丸が「怪談乳房榎」を口演した 8 月中席公演があと一息で目標に達する成績を残した。より魅力ある番組作りとともに新

たな集客法の導入を検討していきたい。

(文楽劇場)

- 大衆芸能公演全体に観客の高齢化が目立ってきた。営業や宣伝活動にも工夫を凝らし、新しい観客層の開拓も進めていきたい。

定席公演（上席・中席）

【制作方針】

一般社団法人落語協会及び公益社団法人落語芸術協会所属の演芸家を中心に出演者を選定する。落語、講談、漫才、コント、奇術、太神楽曲芸、俗曲等、様々な分野の演芸家が出演することによって大衆芸能の多彩な魅力を伝えるとともに、世代、性別を問わず幅広い観客層が楽しめるような公演を企画する。また、民間の寄席にくらべ、一人（組）当たりの高座時間を長く確保することによって、内容を割愛することなく落語を一席務めることができるようにする等、技芸の伝承にも配慮した公演制作をめざす。

【実績】

1. 公演実績

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数
4 月上席	演芸場	4/1(水) ～10 日(金)	実績	11 回	10 日	816 人	(24.7%)	3,300 人
			計画	11 回	10 日	1,300 人	(39.4%)	3,300 人
4 月中席		4/11(土) ～20 日(月)	実績	11 回	10 日	2,903 人	(88.0%)	3,300 人
			計画	11 回	10 日	2,400 人	(72.7%)	3,300 人
5 月中席		5/11(月) ～20 日(水)	実績	11 回	10 日	1,971 人	(59.7%)	3,300 人
			計画	11 回	10 日	2,000 人	(60.6%)	3,300 人
6 月上席		6/1(月) ～10 日(水)	実績	11 回	10 日	1,527 人	(46.3%)	3,300 人
			計画	11 回	10 日	1,700 人	(51.5%)	3,300 人
6 月中席		6/11(木) ～20 日(土)	実績	11 回	10 日	1,204 人	(36.5%)	3,300 人
			計画	11 回	10 日	1,200 人	(36.4%)	3,300 人
7 月上席		7/2(木) ～10 日(金)	実績	10 回	9 日	1,633 人	(54.4%)	3,000 人
			計画	10 回	9 日	1,400 人	(46.7%)	3,000 人
7 月中席		7/11(土) ～20 日(月・祝)	実績	11 回	10 日	858 人	(26.0%)	3,300 人
			計画	11 回	10 日	1,200 人	(36.4%)	3,300 人
8 月上席		8/1(土) ～10 日(月)	実績	11 回	10 日	1,546 人	(46.8%)	3,300 人
			計画	11 回	10 日	1,600 人	(48.5%)	3,300 人
8 月中席		8/11(火) ～20 日(木)	実績	11 回	10 日	3,180 人	(96.4%)	3,300 人
			計画	11 回	10 日	3,200 人	(97.0%)	3,300 人
9 月上席		9/1(火) ～10 日(木)	実績	11 回	10 日	872 人	(26.4%)	3,300 人
			計画	11 回	10 日	1,200 人	(36.4%)	3,300 人
9 月中席		9/11(金) ～20 日(日)	実績	11 回	10 日	961 人	(29.1%)	3,300 人
			計画	11 回	10 日	1,200 人	(36.4%)	3,300 人
10 月上席		10/1(木) ～10 日(土)	実績	11 回	10 日	1,349 人	(40.9%)	3,300 人
			計画	11 回	10 日	1,200 人	(36.4%)	3,300 人
10 月中席	10/11(日) ～20 日(火)	実績	11 回	10 日	1,278 人	(38.7%)	3,300 人	
		計画	11 回	10 日	1,600 人	(48.5%)	3,300 人	
11 月上席	11/1(日) ～10 日(火)	実績	11 回	10 日	1,533 人	(46.5%)	3,300 人	
		計画	11 回	10 日	1,200 人	(36.4%)	3,300 人	
11 月中席	11/11(水) ～20 日(金)	実績	11 回	10 日	810 人	(24.5%)	3,300 人	
		計画	11 回	10 日	1,200 人	(36.4%)	3,300 人	
12 月上席	12/1(火) ～10 日(木)	実績	11 回	10 日	984 人	(29.8%)	3,300 人	
		計画	11 回	10 日	1,200 人	(36.4%)	3,300 人	
12 月中席	12/11(金) ～20 日(日)	実績	11 回	10 日	927 人	(28.1%)	3,300 人	
		計画	11 回	10 日	1,200 人	(36.4%)	3,300 人	
1 月中席	1/11(月・祝) ～20 日(水)	実績	11 回	10 日	2,497 人	(75.7%)	3,300 人	
		計画	11 回	10 日	2,200 人	(66.7%)	3,300 人	
2 月上席	2/1(月)	実績	11 回	10 日	2,559 人	(77.5%)	3,300 人	

		～10日(水)	計画	11回	10日	1,600人	(48.5%)	3,300人
2月中席		2月11日(木・祝)	実績	11回	10日	3,080人	(93.3%)	3,300人
		～20日(土)	計画	11回	10日	3,000人	(90.9%)	3,300人
3月上席		3/1(火)	実績	11回	10日	1,351人	(40.9%)	3,300人
		～10日(木)	計画	11回	10日	1,200人	(36.4%)	3,300人
3月中席		3/11(金)	実績	11回	10日	1,088人	(33.0%)	3,300人
		～20日(日・祝)	計画	11回	10日	1,200人	(36.4%)	3,300人
【定席】	22公演	(計画:22公演)	実績	241回	219日	34,927人	(48.3%)	72,300人
			計画	241回	219日	35,200人	(48.7%)	72,300人

【特記事項】

- ・ 平成27年度(第70回)文化庁芸術祭協賛公演(10月・11月)
- ・ 11月上席公演で、東日本大震災被災者特別招待を実施した(招待者数252名)。

《自己点検評価》

○ 良かった点・特色ある点

- ・ 落語芸術協会会長桂歌丸がトリで『塩原多助』のうち「青の別れ」を口演した4月中席、三笑亭夢太朗がトリを務めた6月中席公演、7月上席の落語芸術協会真打昇進襲名披露公演、大御所三笑亭可楽をトリに迎えた10月上席公演、芸歴75周年を迎えた三遊亭金馬、人間国宝の一龍斎貞水はじめ、東家浦太郎/国本武春等錚々たる顔付けの11月上席公演、春雨や雷蔵がトリの1月中席公演、三遊亭小遊三、ナイツと人気者が揃った2月上席公演、大喜利「鹿芝居」人気定着した2月中席公演、ベテラン五街道雲助がトリの3月上席公演の計9公演で目標を達成できた。落語協会真打昇進襲名披露公演の5月中席、落語協会会長柳亭市馬がトリを務めた6月上席、柳家さん喬がトリを務めた8月上席、桂歌丸が「怪談乳房榎」を口演した8月中席公演があと一息で目標に達する成績であった。殊に8月中席の長編怪談噺「怪談乳房榎」の高座は、優れた舞台成果を収めた。

○ 見直し又は改善を要する点

- ・ 入場者数の目標に達しなかった公演について、より魅力ある番組作りとともに新たな集客法の導入を検討していきたい。

若手新人公演(花形演芸会)

【制作方針】

各分野の若手演芸家が、年間で花形演芸大賞を競う競争性の高い公演で、優秀者に賞を授与することで、その育成と技芸向上を目指す。落語に限らず、多種多様な大衆芸能の分野からの出演者を選定する。

【実績】

1. 公演実績

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数
4月花形演芸会(第431回)	演芸場	4/25(土)	実績	1回	1日	280人	(93.3%)	300人
			計画	1回	1日	280人	(93.3%)	300人
5月花形演芸会(第432回)		5/30(土)	実績	1回	1日	281人	(93.7%)	300人
			計画	1回	1日	280人	(93.3%)	300人
6月花形演芸会(第433回)		6/21(日)	実績	1回	1日	294人	(98.0%)	300人
			計画	1回	1日	280人	(93.3%)	300人
7月花形演芸会(第434回)		7/18(土)	実績	1回	1日	256人	(85.3%)	300人
			計画	1回	1日	270人	(90.0%)	300人
8月花形演芸会(第435回)		8/8(土)	実績	1回	1日	260人	(86.7%)	300人
			計画	1回	1日	270人	(90.0%)	300人
9月花形演芸会(第436回)	9/26(土)	実績	1回	1日	262人	(87.3%)	300人	
		計画	1回	1日	280人	(93.3%)	300人	

10 月花形演芸会(第 437 回)		10/24(土)	実績	1 回	1 日	297 人	(99.0%)	300 人
			計画	1 回	1 日	270 人	(90.0%)	300 人
11 月花形演芸会(第 438 回)		11/28(土)	実績	1 回	1 日	282 人	(94.0%)	300 人
			計画	1 回	1 日	280 人	(93.3%)	300 人
12 月花形演芸会(第 439 回)		12/19(土)	実績	1 回	1 日	293 人	(97.7%)	300 人
			計画	1 回	1 日	270 人	(90.0%)	300 人
1 月花形演芸会(第 440 回)		1/16(土)	実績	1 回	1 日	292 人	(97.3%)	300 人
			計画	1 回	1 日	270 人	(90.0%)	300 人
2 月花形演芸会(第 441 回)		2/21(日)	実績	1 回	1 日	294 人	(98.0%)	300 人
			計画	1 回	1 日	280 人	(93.3%)	300 人
3 月花形演芸会(第 442 回)		3/5(土)	実績	1 回	1 日	291 人	(97.0%)	300 人
			計画	1 回	1 日	270 人	(90.0%)	300 人
【花形演芸会】		12 公演 (計画:12 公演)	実績	12 回	12 日	3,382 人	(93.9%)	3,600 人
			計画	12 回	12 日	3,300 人	(91.7%)	3,600 人

【特記事項】

- 平成 27 年度レギュラー出演者
エネルギー（コント）、翁家和助（曲芸）、桂宮治（落語）、カンカラ（時代劇コント）、
神田阿久鯉（講談）、菊地まどか（浪曲）、古今亭志ん陽（落語）、三遊亭王楽（落語）、
三遊亭天どん（落語）、三遊亭萬橘（落語）、笑福亭たま（上方落語）、蜷気楼龍玉（落語）、
ストレート松浦（ジャグリング）、立川志ら乃（落語）、母心（漫才）、柳家小せん（落語）、
ロケット団（漫才）（50 音順）
- 平成 27 年度花形演芸大賞の審査を実施し、審査結果を公表した。
平成 27 年度花形演芸大賞受賞者
大賞：蜷気楼龍玉（落語）
特別賞：神田阿久鯉
金賞：三遊亭萬橘（落語）、笑福亭たま（上方落語）、ロケット団（漫才）
銀賞：ホンキートンク（漫才）、桂吉坊（上方落語）、瀧川鯉橋（落語）、古今亭文菊（落語）

《自己点検評価》

- 良かった点・特色ある点
 - 若手新人公演では、花形演芸大賞及び金賞の受賞資格を有する 17 組のレギュラーを中心に公演を企画した。花形演芸大賞の受賞歴のある OB をゲストに招き、若手の熱演とともにベテランの至芸を堪能できる公演として大いに人気を博した。

新春国立名人会／国立名人会

【制作方針】

新春国立名人会では、落語をはじめ、各演芸の重鎮や人気者が日替りで出演する等、初春に相応しく豪華で華やかな公演を実施する。

国立名人会は、落語を中心に選りすぐりの出演者の十八番や普段の寄席ではなかなか演じられない珍しい演目を選定するとともに、高座時間を長めに設定する等、大衆芸能の醍醐味をじっくり味わえる公演を実施する。

【実績】

1. 公演実績 (新春国立名人会)

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数
新春国立名人会	演芸場	1/2(土) ～7(木)	実績	8 回	6 日	2,343 人	(97.6%)	2,400 人
			計画	8 回	6 日	2,300 人	(95.8%)	2,400 人

(国立名人会) ※目標入場者数：1公演当り 280人 (93.3%)

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数
4月国立名人会(第384回)	演芸場	4/26(日)	実績	1回	1日	295人	(98.3%)	300人
5月国立名人会(第385回)		5/31(日)	実績	1回	1日	293人	(97.7%)	300人
6月国立名人会(第386回)		6/28(日)	実績	1回	1日	292人	(97.3%)	300人
7月国立名人会(第387回)		7/26(日)	実績	1回	1日	288人	(96.0%)	300人
8月国立名人会(第388回)		8/30(日)	実績	1回	1日	289人	(96.3%)	300人
9月国立名人会(第389回)		9/23(水・祝)	実績	1回	1日	294人	(98.0%)	300人
10月国立名人会(第390回)		10/25(日)	実績	1回	1日	296人	(98.7%)	300人
11月国立名人会(第391回)		11/29(日)	実績	1回	1日	293人	(97.7%)	300人
12月国立名人会(第392回)		12/26(土)	実績	1回	1日	290人	(96.7%)	300人
2月国立名人会(第393回)		2/28(日)	実績	1回	1日	295人	(98.3%)	300人
3月国立名人会(第394回)		3/21(月・休)	実績	1回	1日	290人	(96.7%)	300人
【国立名人会】		11公演 (計画:11公演)	実績	11回	11日	3,215人	(97.4%)	3,300人
	計画		11回	11日	3,080人	(93.3%)	3,300人	

【特記事項】

- ・平成27年度(第70回)文化庁芸術祭協賛公演(10月・11月)
- ・新春国立名人会の初日(1月2日)には、吉例となった鏡開きを行い、観客に樽酒を振る舞った。

《自己点検評価》

○良かった点・特色ある点

- ・新春国立名人会は、各分野の重鎮が一同に会し、日替りで公演するという豪華な内容で、新年を寿ぐ寿獅子も含めて正月らしい華やかな公演を実施することができた。
- ・国立名人会は、落語を中心に、講談、浪曲、漫才等、各分野を代表する演芸家によって番組を構成した。また、一人(組)当たりの出演時間も定席より長めに設定し、得意のネタをたっぷり演じてもらうことによって、大いに客席を楽しませる公演が実施できた。

特別企画公演

【制作方針】

圓朝作品に挑む会や新・旧芝居噺の会等、公演ごとに独自のテーマや分野を設定し、他の寄席では見られない企画性の高い公演を実施する。夏休み期間中には、寄席及び寄席で上演される大衆芸能(落語、太神楽、マジック、コント等)を子供たちに知ってもらうため、解説付きの公演「親子で楽しむ演芸会」を実施する。

【実績】

1. 公演実績

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数
5月特別企画 立川流落語会	演芸場	5/22(金) ~24(日)	実績	3回	3日	678人	(75.3%)	900人
			計画	3回	3日	840人	(93.3%)	900人
6月特別企画 花形演芸会スペシャル~受賞者の会~		6/15(月)	実績	1回	1日	286人	(95.3%)	300人
			計画	1回	1日	280人	(93.3%)	300人
7月特別企画 親子で楽しむ演芸会		7/25(土)	実績	1回	1日	296人	(98.7%)	300人
			計画	1回	1日	280人	(93.3%)	300人

8月特別企画 上方落語会		8/29(土)	実績	1回	1日	288人	(96.0%)	300人
			計画	1回	1日	280人	(93.3%)	300人
9月特別企画 正蔵、正蔵を語る		9/27(日)	実績	1回	1日	289人	(96.3%)	300人
			計画	1回	1日	280人	(93.3%)	300人
10月特別企画 芸術祭寄席		10/11(日)	実績	1回	1日	274人	(91.3%)	300人
			計画	1回	1日	250人	(83.3%)	300人
11月特別企画 五代目圓楽一門会		11/21(土) ～23(月・祝)	実績	3回	3日	885人	(98.3%)	900人
			計画	3回	3日	800人	(88.9%)	900人
12月特別企画 円丈相撲噺「阿武松・花筏」を聴く会 ～「本格派圓生相撲噺」に初挑戦～		12/23(水・祝)	実績	1回	1日	287人	(95.7%)	300人
			計画	1回	1日	280人	(93.3%)	300人
2月特別企画 圓朝に挑む！		2/27(土)	実績	1回	1日	295人	(98.3%)	300人
			計画	1回	1回	280人	(93.3%)	300人
3月特別企画 新・旧芝居噺の会		3/26(土)	実績	1回	1日	290人	(96.7%)	300人
			計画	1回	1日	280人	(93.3%)	300人
【特別企画公演】 10公演(計画:10公演)			実績	14回	14日	3,868人	(92.1%)	4,200人
			計画	14回	14日	3,850人	(91.7%)	4,200人

【特記事項】

- ・ 平成27年度(第70回)文化庁芸術祭主催公演(10月)
- ・ 平成27年度(第70回)文化庁芸術祭協賛公演(11月)

《自己点検評価》

○ 良かった点・特色ある点

- ・ 国立演芸場ならではの、舞台背景、舞台照明、音響効果を駆使した「新・旧芝居噺の会」を初めて実施した。また、本年が五代目圓楽の七回忌にあたることから、五代目三遊亭圓楽七回忌追善と銘打って、かつぼれの総踊りや中喜利等、趣向を凝らした「五代目圓楽一門会」を開催した。この他「立川流落語会」、「花形演芸会スペシャル～受賞者の会～」、「親子で楽しむ演芸会」、「上方落語会」、「正蔵、正蔵を語る」、「円丈相撲噺『阿武松・花筏』を聴く会～本格相撲噺に初挑戦～」及び「圓朝に挑む！」といった恒例の公演を実施した。いずれの公演も国立演芸場らしい企画性の高い公演として実施することができた。

浪曲名人会／浪曲錬声会／上方演芸特選会

【制作方針】

浪曲名人会は、関西を代表する浪曲師全員が顔を揃える恒例の浪曲公演として、それぞれが得意とする演目を披露する番組構成で、浪曲の魅力を引き出す公演を目指す。

浪曲錬声会は、次代を担う若手浪曲師の「語りを向上させる」ことを目的に、若手を中心とした番組構成で今後の飛躍につながる公演とし、浪曲の魅力若く若い世代にも普及・振興する。

上方演芸特選会は、上方演芸4団体の総力を結集し、落語・漫才・浪曲・太神楽・講談など多彩で昔懐かしい寄席の雰囲気を実現した温かみのある寄席づくりを目指す。

【実績】

1. 公演実績

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数
浪曲名人会	文楽劇場	11/28(土)	実績	1回	1日	640人	(85.0%)	753人
			計画	1回	1日	680人	(90.3%)	753人
【浪曲名人会 小計】 1公演 (計画:1公演)			実績	1回	1日	640人	(85.0%)	753人
			計画	1回	1日	680人	(90.3%)	753人

浪曲錬声会	文楽劇場 小ホール	5/30(土)	実績	2回	1日	308人	(96.9%)	318人
			計画	2回	1日	290人	(91.2%)	318人
【浪曲錬声会 小計】			1公演 (計画:1公演)		実績	2回	1日	308人 (96.9%)
					計画	2回	1日	290人 (91.2%)
5月上方演芸特選会	文楽劇場 小ホール	5/20(水) ～23(土)	実績	4回	4日	595人	(93.6%)	636人
			計画	4回	4日	550人	(86.5%)	636人
7月上方演芸特選会		7/22(水) ～25(土)	実績	4回	4日	651人	(102.4%)	636人
			計画	4回	4日	550人	(86.5%)	636人
9月上方演芸特選会		9/16(水) ～19(土)	実績	4回	4日	646人	(101.6%)	636人
			計画	4回	4日	550人	(86.5%)	636人
11月上方演芸特選会		11/18(水) ～21(土)	実績	4回	4日	645人	(101.4%)	636人
	計画		4回	4日	550人	(86.5%)	636人	
1月上方演芸特選会	1/20(水) ～23(土)	実績	4回	4日	649人	(102.0%)	636人	
		計画	4回	4日	550人	(86.5%)	636人	
3月上方演芸特選会	3/9(水) ～12(土)	実績	4回	4日	668人	(105.0%)	636人	
		計画	4回	4日	550人	(86.5%)	636人	
【上方演芸特選会 小計】			6公演 (計画:6公演)		実績	24回	24日	3,854人 (101.0%)
					計画	24回	24日	3,300人 (86.5%)
【大衆芸能(文楽劇場) 合計】			8公演 (計画:8公演)		実績	27回	26日	4,802人 (98.3%)
					計画	27回	26日	4,270人 (87.4%)

【特記事項】

- ・ 関西元氣文化圏共催事業（全公演）
- ・ 平成27年度(第70回)文化庁芸術祭協賛公演(11月上方演芸特選会)

《自己点検評価》

○ 良かった点・特色ある点

- ・ 「浪曲名人会」のご案内として若手浪曲師2名を起用したことは、浪曲の振興に寄与したいという劇場の姿勢として、観客や外部専門家に好意的に受け止められた。また、観客に次回の浪曲錬声会への期待を持たせることに繋がった。
- ・ 「浪曲錬声会」は、前年度27年2月に実施した「浪曲名人会」の若手座談会コーナーの出演者を登場させることで、効率的な集客に繋がった。
- ・ 「上方演芸特選会」は全ての回で目標を達成することができた。出演者の選定や企画等に工夫を重ね、この好調を引き続き維持したい。

○ 見直し又は改善を要する点

- ・ 「浪曲名人会」は、周年明けとしては健闘したものの、目標入場者数に未達であった。新規団体の開拓や、より効果的な広報活動によって集客に努めたい。

<5> 能 楽

《制作方針》

定例公演は、能・狂言の伝統的な演目を曲柄や季節、能と狂言のバランスを配慮しつつ、能一番・狂言一番により番組を構成し、初心者にも鑑賞しやすい公演とする。月2回のペースで上演し、年間を通して能・狂言の持つ多様な魅力を余すところなく明らかにする。

普及公演では、能一番・狂言一番に事前の解説をつけ、より分かりやすく、深く鑑賞するための公演とする。能・狂言の伝統的な演目を曲柄や季節、能と狂言のバランスを配慮しつつ上演する。

企画公演は、上演頻度の少ない演目を含めて狂言のみを3演目上演する「狂言の会」、能・狂言をたっぷり楽しんでもらう「特別公演」、テーマを持たせて能・狂言の魅力を紹介する「企画公演」、復曲や新作の能・狂言を制作初演する「特別企画公演」を行う。

8月には親子向けの公演「親子で楽しむ能の会」「親子で楽しむ狂言の会」と仕事帰りの社会人向けの公演「働く貴方に贈る」を実施し、初心者へのアプローチ、普及のための公演とする。また、廃絶曲の復曲初演を行うとともに、新作能や復曲能、復曲狂言の再演を行う。さらに、能・狂言とそれに関連する異種芸能との比較上演を行う。

鑑賞教室は、鑑賞者育成のために、中・高校生を中心とした初心者向けに名作を選んで分かりやすい形で能・狂言を上演する。27年度は、筋が分かりやすい狂言「寝音曲」、出演各役が活躍する人気曲の能「船弁慶」を上演する。また、学生が親しみを持てるよう、能・狂言上演の前に体験参加する解説を付ける。

《主要な業務実績》

1. 公演実績

- ・ 能楽 51 公演（定例公演 20・普及公演 10・企画公演 20・鑑賞教室 1）を計画どおり実施
- ・ 各公演で目標入場者数を達成、能楽公演全体で 97.9%という、平成 15 年の独立行政法人化以降最も高い入場率を達成
- ・ 能楽鑑賞教室で、これまで子方の出演や上演時間の問題で上演が難しかった能「船弁慶」を初上演し、全席完売して鑑賞者の育成に貢献
- ・ 定例公演において初めて、同曲が流儀や家によって異なる演出、異なる結末となることを比較できる 3 か月連続上演の「演出の様々な形」を企画
- ・ 国立能楽堂が委嘱初演した新作能「紅天女」の再演により、改めて能楽界及び能楽界以外にまで話題を提供するとともにレパートリーの充実を推進
- ・ 3 月特別企画公演の復曲能「名取ノ老女」は、レパートリーの充実を図ると同時に、震災の翌年から継続してきた「復興と文化」の企画の特別編として、震災からの「文化による復興」の可能性を提示
- ・ 月間特集を組んで公演に連続性や関連性を持たせたり、異種芸能との比較上演により能楽鑑賞の新たな視点を提示したりする等、国立能楽堂独自の切り口で特色ある公演を実施
- ・ アンケートの満足回答率が 88.6%となり、前年度（87.0%）よりさらに向上
- ・ 座席字幕装置を活用して、日本語（詞章）・英語の 2 チャンネル方式で字幕表示を実施（50 公演）

2. 営業・広報

- ・ マスコミ各社への取材依頼、ポスター、チラシ等による公演周知
- ・ 公演内容等に応じて、ホームページに特設サイトを作成

3. 外部専門家等の意見

- ・ 公演専門委員会を開催し、外部専門家等の意見を聴取して、後の事業運営に活用

4. アンケート調査

- ・ 9 公演にて実施（9 回）、満足回答率 88.6%

《業務実績詳細》

1. 公演実績

公演名	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数
【定例公演】	20 公演	実績	20 回	20 日	11,985 人	(95.6%)	12,540 人
		計画	20 回	20 日	11,600 人	(92.5%)	12,540 人

【普及公演】	10 公演	実績	10 回	10 日	6,230 人	(99.4%)	6,270 人
		計画	10 回	10 日	6,100 人	(97.3%)	6,270 人
【企画公演】	20 公演	実績	21 回	21 日	12,963 人	(98.5%)	13,167 人
		計画	21 回	21 日	12,390 人	(94.1%)	13,167 人
【鑑賞教室】	1 公演	実績	10 回	5 日	6,270 人	(100.0%)	6,270 人
		計画	10 回	5 日	6,050 人	(96.5%)	6,270 人
【能楽 合計】	51 公演	実績	61 回	56 日	37,448 人	(97.9%)	38,247 人
		計画	61 回	56 日	36,140 人	(94.5%)	38,247 人

2. 営業・広報

- ・ マスコミ各社への取材依頼、ポスター、チラシ、インターネット、あぜくら会会報、振興会ニュース等により、公演の周知を図り、一般の集客に努めた。
- ・ 月毎のポスター・チラシのほか、公演内容等に応じて適宜特別ポスター・特別チラシを作成・配布し、また公演内容等に応じてホームページに適宜トピックスを掲載して広報・宣伝に努めた。
- ・ 3 月特別企画公演「名取ノ老女」の特設サイト「現代能楽考 祈り」を開設し、公演情報のほか、知識人へのインタビューや出演者の現地訪問の様子を掲載した。
- ・ 団体観劇への対応として、希望に応じてレクチャーを実施した。

3. 外部専門家等の意見

- ・ 公演専門委員会を開催し、外部専門家等の意見を聴取して、後の事業運営に役立てた。

4. アンケート調査

9 公演にて実施（9 回）した。

回答数 2,659 人（配布数 4,656 人、回収率 57.1%）。回答者の 88.6%が概ね満足と答えた（2,357 人）。

【特記事項】

- ・ 平成 27 年度（第 70 回）文化庁芸術祭主催公演（10 月企画公演）
- ・ 平成 27 年度（第 70 回）文化庁芸術祭協賛公演（10 月・11 月実施の 8 公演）
- ・ 座席字幕装置を活用して、2 月企画公演（蠟燭能）を除く 50 公演で、日本語（詞章）・英語の 2 チャンネル方式で字幕表示を実施した。

《数値目標の達成状況》

【目標入場者数の達成状況】

実績 37,448 人／目標 36,140 人（達成度 103.6%）

《自己点検評価》

○ 自己評定

A

（根拠）

- ・ 国立能楽堂の果たすべき役割に基づいた上演方針に従い、伝統的な能狂言の形式による公演のほか、上演の途絶えた優れた演目の復曲等に着実に取り組み、外部専門家からもその企画内容が高く評価された。
- ・ 能楽公演全体で、入場率 94.5%の高い目標を超える 97.9%という平成 15 年の独立行政法人化以降最も高い入場率を達成した。また、定例公演、普及公演、企画公演、鑑賞教室の各種公演ごとの合計でもそれぞれ目標を達成した。
- ・ 月間特集を組んで公演に連続性や関連性を持たせる、異種芸能との比較上演により能楽鑑賞の新たな視点を提示する等、国立能楽堂独自の切り口で特色ある公演を実施した。
- ・ 3 月特別企画公演の復曲能「名取ノ老女」は、国立能楽堂で 4 年ぶりの復曲によるレパートリーの充実、震災からの「文化による復興」の可能性の提示、通常は他流と同じ作品に出演しない能楽界の中で観世・宝生・金剛のシテ方三流が参加して一つの作品を創り上げたことなど、国立能楽堂ならではの特別な舞台成果を挙げた。

- ・ 国立能楽堂が委嘱初演した新作能「紅天女」の再演により、改めて能楽界及び能楽界以外にまで話題を提供するとともにレパートリーの充実を推し進めた。
- ・ 定例公演において初めて、同曲が流儀や家によって異なる演出、異なる結末となることを比較できる3か月連続上演の「演出の様々な形」を企画し、能楽の多様さを楽しめる公演を実施した。
- ・ アンケートの満足回答率が88.6%となり、前年度の87.0%を上回った。
- ・ 定例公演・普及公演・企画公演・狂言の会・特別公演・特別企画公演の各種公演で、名曲を上演するのみならず、稀曲や大曲といった作品も含めて多様な能・狂言を紹介できた。

○ 良かった点・特色ある点

- ・ 能楽鑑賞教室でこれまで上演が困難だった能「船弁慶」を初上演し、全席完売して鑑賞者の育成に大きく貢献した。
- ・ 定例公演内の企画「演出の様々な形」により、夜公演の入場者数の底上げにつなげた。
- ・ 3月特別企画公演の復曲能「名取ノ老女」は、レパートリーの充実を図ると同時に、震災の翌年から継続してきた「復興と文化」の企画の特別編として、震災からの「文化による復興」の可能性を示す復曲上演を実現した。約130年ぶりの上演となったが、被災地である宮城県名取の地名を作品に盛り込む等の工夫により、震災前の美しい風景とそこに根付いた信仰を観る者に想起させる作品として絶賛された。また、観世・宝生・金剛のシテ方三流が参加して一つの作品を創り上げたことは、国立能楽堂ならではのことであり、未来を見据えた公演であったと自負している。

定例公演

【制作方針】

定例公演は、能・狂言の伝統的な演目を曲柄や季節、能と狂言のバランスに配慮しつつ、能一番・狂言一番により番組を構成し、初心者にも鑑賞しやすい公演とする。原則として月2回のペースで上演し、年間を通して能・狂言のもつ多様な魅力を余すところなく明らかにする。

【実績】

1. 公演実績 ※目標入場者数：1回当たり 580 人(92.5%)、劇場：能楽堂

公演名	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数
狂言「二千石」、能「三山」	4/17(金)	実績	1回	1日	444人	(70.8%)	627人
狂言「見物左衛門 花見」、能「嵐山」、間狂言「猿聲」	4/22(水)	実績	1回	1日	621人	(99.0%)	627人
狂言「仁王」、能「杜若」	5/15(金)	実績	1回	1日	604人	(96.3%)	627人
狂言「名取川」、能「隅田川」	5/27(水)	実績	1回	1日	619人	(98.7%)	627人
狂言「若和布」、能「融 酌之舞」	6/3(水)	実績	1回	1日	623人	(99.4%)	627人
狂言「入間川」、能「富士太鼓」	6/19(金)	実績	1回	1日	611人	(97.4%)	627人
狂言「月見座頭」、能「古本による 水無月祓」	7/3(金)	実績	1回	1日	621人	(99.0%)	627人
狂言「佐渡狐」、能「自然居士」	7/29(水)	実績	1回	1日	621人	(99.0%)	627人
狂言「舎弟」、能「江口」	9/2(水)	実績	1回	1日	624人	(99.5%)	627人
狂言「蚊相撲」、能「鶴」	9/16(水)	実績	1回	1日	602人	(96.0%)	627人
狂言「素袍落」、能「清経 替之型」	10/7(水)	実績	1回	1日	518人	(82.6%)	627人
演出の様々な形 狂言「鎌腹」、能「松風 身留」	10/16(金)	実績	1回	1日	624人	(99.5%)	627人
演出の様々な形 狂言「鎌腹」、能「松風 戯之舞」	11/6(金)	実績	1回	1日	621人	(99.0%)	627人
狂言「鏡男」、能「紅葉狩」	11/18(水)	実績	1回	1日	623人	(99.4%)	627人
狂言「とちはくれ」、能「絃上窈」	12/2(水)	実績	1回	1日	537人	(85.6%)	627人
演出の様々な形 狂言「鎌腹」、能「松風 灘返・見留」	12/18(金)	実績	1回	1日	624人	(99.5%)	627人
能「金札」、狂言「鴈雁金」	1/6(水)	実績	1回	1日	625人	(99.7%)	627人
狂言「岡太夫」、能「蟻通」	1/15(金)	実績	1回	1日	623人	(99.4%)	627人
狂言「柿山伏」、能「誓願寺」	3/9(水)	実績	1回	1日	617人	(98.4%)	627人
狂言「附子」、能「小塩」	3/18(金)	実績	1回	1日	583人	(93.0%)	627人
【定例公演 小 計】 20 公演 (計画:20 公演)	実績	20回	20日	11,985人	(95.6%)	12,540人	
	計画	20回	20日	11,600人	(92.5%)	12,540人	

【特記事項】

- ・ 平成27年度(第70回)文化庁芸術祭協賛公演(10月公演)
- ・ 座席字幕装置を活用して、全公演で、日本語(詞章)・英語の2チャンネル方式で字幕表示を実施した。

《自己点検評価》

○ 良かった点・特色ある点

- ・ 全体として95%を超える高い入場率を維持することができた。5月「隅田川」・3月「誓願寺」等観客にとって魅力ある演目を上演できたことが成果に繋がった。今後も引き続き、高水準の入場率を保持していきたい。
- ・ 10～12月「演出の様々な形」では、能・狂言の同一曲目を異なる流儀や家により上演し、多様な演

出を比較して楽しむという国立能楽堂ならではの企画を、初めて定例公演の3か月連続企画として実施し、数年来低迷していた秋の夜公演の目標入場者数を達成した。

- ・ 7月の能「水無月祓 古本による」は、江戸初期の謡本に拠って、失われていた前半の場面を復活して上演した。

○ 見直し又は改善を要する点

- ・ 目標入場者数を達成できなかった公演については、内容の充実をさらに図り、集客に努めたい。

普及公演

【制作方針】

普及公演は、能一番・狂言一番に事前の解説をつけ、よりわかりやすく深く鑑賞するための公演として、能・狂言の伝統的な演目を曲柄や季節、能と狂言のバランスを配慮しつつ上演する。

【実績】

1. 公演実績 ※目標入場者数：1回当たり610人(97.3%)、劇場：能楽堂

公演名	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数
解説、狂言「長光」、能「忠度」	4/11(土)	実績	1回	1日	620人	(98.9%)	627人
解説、狂言「真奪」、能「千手」	5/9(土)	実績	1回	1日	622人	(99.2%)	627人
解説、狂言「饅頭」、能「実盛」	6/13(土)	実績	1回	1日	621人	(99.0%)	627人
解説、狂言「簸屑」、能「大瓶狸々」	7/11(土)	実績	1回	1日	624人	(99.5%)	627人
解説、狂言「賞聳」、能「女郎花」	9/12(土)	実績	1回	1日	623人	(99.4%)	627人
解説、狂言「咲嘩」、能「夕顔 山端之出・合掌留」	10/10(土)	実績	1回	1日	624人	(99.5%)	627人
解説、狂言「栗焼」、能「小鍛冶 白頭」	11/14(土)	実績	1回	1日	624人	(99.5%)	627人
解説、狂言「鶏聲古式」、能「殺生石 白頭」	12/12(土)	実績	1回	1日	624人	(99.5%)	627人
解説、狂言「麻生」、能「仲光 愁傷之舞」	1/9(土)	実績	1回	1日	624人	(99.5%)	627人
解説、狂言「空腕」、能「田村」	3/12(土)	実績	1回	1日	624人	(99.5%)	627人
【普及公演 小 計】 10 公演 (計画:10公演)	実績	10回	10日	6,230人	(99.4%)	6,270人	
	計画	10回	10日	6,100人	(97.3%)	6,270人	

【特記事項】

- ・ 平成27年度(第70回)文化庁芸術祭協賛公演(10月公演)
- ・ 座席字幕装置を活用して、全公演で、日本語(詞章)・英語の2チャンネル方式で字幕表示を実施した。

《自己点検評価》

○ 良かった点・特色ある点

- ・ 全公演で目標入場者数を達成し、99.4%という高い入場率を達成した。解説では、鑑賞の際に必要な知識を事前に伝えることができた。今後も、馴染みのある演目でも従来とは異なる観点から解説したり、初心者から常連まで満足できる内容の解説を提供したりする等、普及公演にふさわしい工夫を図りたい。

企画公演

【制作方針】

上演頻度の少ない演目を含めて狂言のみを3演目上演する「狂言の会」、重厚な番組構成で能・狂言をたっぷり楽しんでもらう「特別公演」、テーマを持たせて能・狂言の魅力を紹介する「企画公演」、復曲や新作の能・狂言を制作初演する等の「特別企画公演」を行う。

8月には親子向けの公演「親子で楽しむ能の会」「親子で楽しむ狂言の会」と仕事帰りの社会人向けの

公演「働く貴方に贈る」を実施し、初心者へのアプローチ、普及の公演とする。また、廃絶曲の復曲初演を行うとともに、新作能や復曲能、復曲狂言の再演を行う。さらに、能・狂言とそれに関連する異種芸能との比較上演を行う。

【実績】

1. 公演実績 ※目標入場者数：1回当たり 590 人(94.1%)、劇場：能楽堂

公演名	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数
狂言の会 狂言「墨塗」、狂言「野老」、狂言「髭櫓」	4/29(水・祝)	実績	1回	1日	622人	(99.2%)	627人
寺社と能 多武峰・談山能 おはなし、多武峰式「翁」、狂言「棒縛」、能「恋重荷」	5/21(木)	実績	1回	1日	616人	(98.2%)	627人
寺社と能 高野山－高野山開創1200年記念－ おはなし、高野山の声明、能「高野物狂」	5/30(土)	実績	1回	1日	616人	(98.2%)	627人
明和改正本発刊250年記念 仕舞「藤クセ」、仕舞「藤クセ」、狂言「鬼ヶ宿」、能「梅 彩色之伝」	7/23(木)	実績	1回	1日	621人	(99.0%)	627人
夏休み親子で楽しむ能の会 おはなし、能「土蜘蛛 黒頭」	8/1(土)	実績	1回	1日	625人	(99.7%)	627人
働く貴方に贈る 対談、狂言「呼声」、能「善知鳥」	8/7(金)	実績	1回	1日	624人	(99.5%)	627人
夏休み親子で楽しむ狂言の会 おはなし、狂言「蝸牛」、狂言「六地藏」	8/22(土)	実績	1回	1日	625人	(99.7%)	627人
狂言と落語・講談 講談、落語、狂言「骨皮」	8/27(木)	実績	1回	1日	618人	(98.6%)	627人
新作再演の会 おはなし、新作能「紅天女」	9/25(金)	実績	1回	1日	618人	(98.6%)	627人
古典の日記念 鏡に映るものは 一調「野守」、舞囃子「井筒」、狂言「抜殻」、能「松山鏡」	10/31(土)	実績	1回	1日	615人	(98.1%)	627人
平家と能 狂言「柑子」、平家琵琶「卒塔婆流」、能「俊寛」	11/27(金)	実績	1回	1日	623人	(99.4%)	627人
平家と能 狂言「清水座頭」、平家琵琶「竹生島詣」、能「経正古式」	11/28(土)	実績	1回	1日	623人	(99.4%)	627人
仕舞「雲林院」、狂言「朝比奈」、能「木賊」	12/23(水・祝)	実績	1回	1日	621人	(99.0%)	627人
松囃子－祝祷芸の様々－ 菊池の松囃子「勢利婦」、舞囃子「高砂」、狂言「松囃子」、狂言「靱猿」	1/23(土)	実績	1回	1日	623人	(99.4%)	627人
能「鱗形」、狂言「舟船」、能「唐船」	1/31(日)	実績	1回	1日	622人	(99.2%)	627人
復曲再演の会 復曲狂言「若菜」、復曲能「菊慈童 酈縣山」	2/3(水)	実績	1回	1日	565人	(90.1%)	627人
素の魅力 おはなし、舞囃子「東方朔」、狂言語「継信語」、袴能「弱法師」	2/13(土)	実績	1回	1日	625人	(99.7%)	627人
蠟燭の灯りによる 狂言「梟山伏」、能「砧」	2/19(金)	実績	1回	1日	620人	(98.9%)	627人
おはなし、復曲狂言「吟三郎聲」、能「楊貴妃 臺留」	2/24(水)	実績	1回	1日	612人	(97.6%)	627人

＜復興と文化特別編－老女の祈り－＞ 毛越寺の延年「老女」、復曲能「名取ノ老女」	3/25(金) ～26(土)	実績	2回	2日	1,229人	(98.0%)	1,254人
【企画公演 小 計】	20公演 (計画:20公演)	実績	21回	21日	12,963人	(98.5%)	13,167人
		計画	21回	21日	12,390人	(94.1%)	13,167人

(能楽鑑賞教室)

公演名	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数
6月能楽鑑賞教室 解説、狂言「寝音曲」、能「船弁慶」	6/22(月) ～26(金)	実績	10回	5日	6,270人	(100.0%)	6,270人
		計画	10回	5日	6,050人	(96.5%)	6,270人

【特記事項】

- ・ 平成27年度(第70回)文化庁芸術祭主催公演(10月公演)
- ・ 平成27年度(第70回)文化庁芸術祭協賛公演(11月公演)
- ・ 座席字幕装置を活用して、2月公演(蠟燭能)を除く19公演で、日本語(詞章)・英語の2チャンネル方式で字幕表示を実施した。

《自己点検評価》

- 良かった点・特色ある点
 - ・ 9月企画公演「新作再演の会」において、漫画「ガラスの仮面」作中劇を元にした新作能「紅天女」を初演から10年を機に再演し、従来とは異なる観客層へ訴求した。
 - ・ 3月特別企画公演で東北地方ゆかりの廃絶曲「名取ノ老女」を、新たな創作部分を加え、現代に繋がる形で作品を再創造、約130年ぶりに復活上演した。
 - ・ 「寺社と能」(5月企画公演)、「狂言と落語・講談」(8月企画公演)、「平家と能」(11月企画公演)、「松雛子－祝禱芸の様々－」(1月企画公演)、「老女の祈り」(3月特別企画公演)において、異種芸能との比較上演により能楽鑑賞の新たな視点を提示した。
 - ・ 7月の「月間特集・江戸時代と能」、8月の「夏スペシャル」、2月の「冬スペシャル 月間特集・近代絵画と能」により公演に連続性や関連性を持たせる企画を行った。
- 見直し又は改善を要する点
 - ・ 2月「復曲再演の会」は、前年度同様、目標入場者数を達成できなかった。一般に馴染みのない演目ではあるが、復曲とそれを再演することの意義を伝える工夫が足りなかったのかも知れない。

<6> 組踊等沖縄伝統芸能

《制作方針》

27年度は、定期公演、企画公演、研究公演及び普及公演を年間30公演公開する。

定期公演は、組踊、琉球舞踊、三線音楽、沖縄芝居及び民俗芸能の構成により上演する。伝承された古典の原点を尊重することを基本に、現代においても理解されやすい、観客のニーズに合った多様な演目の上演及び演出や、観客の満足度を高める公演内容の制作に努めている。

組踊公演では、「二童敵討」、「孝行の巻」、「手水の縁」、「探義伝敵討」等朝薫五番をはじめ長年レパートリーとして親しまれてきた作品を中心に、上演機会の少ない作品や伝統組踊保存会にて復曲した作品を取り上げる。琉球舞踊公演では、定番となっている「男性舞踊家の会」「琉球舞踊特選会」や雑踊の名作を集めた「雑踊名作選」、一般公募した入選作品を中心に上演する「創作舞踊の会」等幅広く琉球舞踊の魅力を発信する。沖縄芝居公演では、怪談劇「十貫瀬の七つ墓」、歌劇「渡地物語」、歌劇「貞女と孝子」を上演する。また民俗芸能公演では、「沖縄本島民俗芸能祭」を上演する。

企画公演では、戦後70年の節目に、大城立裕作沖縄芝居「いのちの簪」、アジア・太平洋地域の芸能としてインドネシア中部ジャワの「ジャワの宮廷ガムランと舞踊」、本土の芸能として野村万作・萬斎出演の「狂言」を取り上げる。そのほか「太鼓の競演」、「ゆらていく遊ば」、嘉数道彦芸術監督作の新作組踊「初桜」や毎年秋に実施し定着している「国立劇場寄席」等を上演する。

研究公演では、「与論十五夜踊りと沖縄芸能」と題し、類似点のある与論の芸能と沖縄芸能の比較上演を行う。

普及公演では、社会人のための組踊鑑賞教室「執心鐘入」のほか、親子のための組踊鑑賞教室「女物狂」を、解説を交えながら上演する。また、小学生から高校生及び学生等を対象とした、生徒のための組踊鑑賞教室「花売の縁」を開催し、解説を交えながら新作組踊を併せて上演することで、組踊の理解を深める工夫を行う。さらに、沖縄芝居、琉球舞踊の入門公演・鑑賞教室を新たに行う。

《主要な業務実績》

1. 公演実績

- ・ 組踊等沖縄伝統芸能30公演（定期公演17・企画公演7・研究公演1・普及公演5）を計画どおり実施
- ・ 組踊等沖縄伝統芸能公演全体で目標入場者数を達成、入場者数が過去最高を記録
- ・ 新作組踊「初桜」の初演
- ・ 上演機会が少ない優れた演目の上演（12月「忠臣義勇」、3月「探義伝敵討」）
- ・ 解説付き公演の上演（4月はじめての琉球舞踊【新規】、6月・8月・11月組踊鑑賞教室、9月沖縄芝居鑑賞教室【新規】）
- ・ アジア・太平洋地域の芸能「ジャワの宮廷ガムランと舞踊」、本土の芸能「狂言」でも解説を付して上演

2. 営業・広報

- ・ マスコミ各社への取材依頼、ポスター、チラシ、インターネット、友の会会報等により公演を周知
- ・ 県内約700カ所の教育機関、主要企業等、県内約440カ所の全公民館、県内9カ所の観光施設に設置した当劇場専用ラックにて公演情報等を周知
- ・ 公演演目にゆかりのある地域の公民館や関係団体への訪問等による誘客
- ・ 県の補助事業を活用した貸切バス費用助成事業を実施し、団体客を誘致
- ・ 国立劇場おきなわ公式Facebookやメールマガジンで公演情報を発信
- ・ 地元ラジオ局の番組内において公演情報を周知

3. 外部専門家等の意見

- ・ 公演事業委員会を開催し、外部専門家等の意見を聴取して、公演制作・公演計画に活用

4. アンケート調査

- ・ 30公演にて実施（36回）、満足回答率89.4%

1. 公演実績

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数
組踊「二童敵討」	国立劇場 おきなわ 大劇場	4/25(土)	実績	1回	1日	265人	(47.1%)	563人
			計画	1回	1日	339人	(60.0%)	565人
琉球舞踊「雑踊名作選」		5/16(土)	実績	1回	1日	548人	(88.0%)	623人
			計画	1回	1日	371人	(59.9%)	619人
組踊「手水の縁」		5/23(土)	実績	1回	1日	328人	(57.8%)	567人
			計画	1回	1日	339人	(60.0%)	565人
琉球舞踊「男性舞踊家の会」		7/11(土)	実績	1回	1日	553人	(88.8%)	623人
			計画	1回	1日	464人	(75.0%)	619人
組踊「孝行の巻」		7/18(土)	実績	1回	1日	485人	(85.5%)	567人
			計画	1回	1日	339人	(60.0%)	565人
沖縄芝居 怪談劇「十貫瀬の七つ墓」		8/15(土) ～16(日)	実績	2回	2日	684人	(59.6%)	1,147人
			計画	2回	2日	736人	(65.0%)	1,132人
琉球舞踊「琉球舞踊特選会」		9/12(土)	実績	1回	1日	538人	(86.4%)	623人
			計画	1回	1日	464人	(75.0%)	619人
三線音楽「三線音楽～至高の響～」		10/3(土)	実績	1回	1日	553人	(89.3%)	619人
			計画	1回	1日	374人	(60.0%)	623人
組踊「久志の若按司」		10/24(土)	実績	1回	1日	360人	(63.7%)	565人
			計画	1回	1日	339人	(60.0%)	565人
琉球舞踊「創作舞踊の会」		12/5(土)	実績	1回	1日	357人	(57.3%)	623人
			計画	1回	1日	402人	(64.9%)	619人
民俗芸能「沖縄本島民俗芸能祭～沖縄本島村遊び～」	12/13(日)	実績	1回	1日	284人	(45.7%)	621人	
		計画	1回	1日	453人	(80.0%)	566人	
組踊「忠臣義勇」	12/19(土)	実績	1回	1日	333人	(58.7%)	567人	
		計画	1回	1日	339人	(60.0%)	565人	
琉球舞踊「新春琉舞名人選 ～嘉例吉の舞～/～初春を寿ぐ～」	1/9(土) ～10(日)	実績	2回	2日	819人	(65.7%)	1,246人	
		計画	2回	2日	804人	(64.9%)	1,238人	
琉球舞踊「琉球舞踊鑑賞会～初春の舞～」	2/13(土)	実績	1回	1日	478人	(76.7%)	623人	
		計画	1回	1日	371人	(59.9%)	619人	
組踊「花売の縁」	2/27(土)	実績	1回	1日	372人	(65.8%)	565人	
		計画	1回	1日	339人	(60.0%)	565人	
沖縄芝居 歌劇「渡地物語」・歌劇「貞女と孝子」	3/11(金) ～13(日)	実績	3回	3日	850人	(49.2%)	1,726人	
		計画	3回	3日	1,112人	(65.0%)	1,711人	
組踊「探義伝敵討」	3/19(土)	実績	1回	1日	239人	(42.2%)	567人	
		計画	1回	1日	339人	(60.0%)	565人	
【定期公演 小 計】	17 公演 (計画:17公演)	実績	21回	21日	8,046人	(64.7%)	12,435人	
		計画	21回	21日	7,924人	(64.3%)	12,320人	
「太鼓の競演～打の融合～」	5/31(日)	実績	1回	1日	338人	(60.0%)	563人	
		計画	1回	1日	339人	(60.0%)	565人	
沖縄芝居「いのちの簪」	6/20(土) ～21(日)	実績	2回	2日	527人	(42.1%)	1,253人	
		計画	2回	2日	804人	(64.9%)	1,238人	
ゆらていく遊ば	10/17(土)	実績	1回	1日	502人	(88.7%)	566人	
		計画	1回	1日	396人	(70.0%)	566人	
アジア・太平洋地域の芸能 「ジャワの宮廷ガムランと舞踊」	11/1(日)	実績	1回	1日	373人	(60.1%)	621人	
		計画	1回	1日	402人	(64.9%)	619人	
国立劇場寄席	11/21(土)	実績	1回	1日	552人	(88.6%)	623人	
		計画	1回	1日	433人	(70.0%)	619人	

新作組踊「初桜」		1/23(土)	実績	1回	1日	492人	(79.2%)	621人
			計画	1回	1日	371人	(59.9%)	619人
「狂言」～野村万作・野村萬斎～		2/6(土) ～7(日)	実績	2回	2日	1,155人	(93.0%)	1,242人
			計画	2回	2日	990人	(80.0%)	1,238人
【企画公演 小 計】 7 公演 (計画:7 公演)			実績	9回	9日	3,939人	(71.8%)	5,489人
			計画	9回	9日	3,735人	(68.4%)	5,464人
与論十五夜踊りと沖縄芸能	国立劇場 おきなわ 大劇場	6/28(日)	実績	1回	1日	268人	(47.2%)	568人
			計画	1回	1日	307人	(60.0%)	512人
【研究公演 小 計】 1 公演 (計画:1 公演)			実績	1回	1日	268人	(47.2%)	568人
			計画	1回	1日	307人	(60.0%)	512人
はじめての琉球舞踊 ～やぎ・うし・とりと琉球舞踊～	国立劇場 おきなわ 小劇場	4/11(土)	実績	1回	1日	225人	(90.4%)	249人
			計画	1回	1日	187人	(75.1%)	249人
社会人のための組踊鑑賞教室「執心鐘 入」	国立劇場 おきなわ 大劇場	6/13(土)	実績	1回	1日	430人	(74.4%)	578人
			計画	1回	1日	424人	(75.0%)	565人
親子のための組踊鑑賞教室「女物狂」	国立劇場 おきなわ 大劇場	8/2(日)	実績	1回	1日	373人	(64.5%)	578人
			計画	1回	1日	424人	(75.0%)	565人
沖縄芝居鑑賞教室 時代舞踊劇「割符」	国立劇場 おきなわ 大劇場	9/17(木) ～19(土)	実績	3回	3日	1,347人	(78.2%)	1,722人
			計画	3回	3日	1,293人	(75.0%)	1,724人
組踊鑑賞教室「花売の縁」(抜粋)	国立劇場 おきなわ 大劇場	11/9(月) ～13(金)	実績	8回	5日	3,745人	(81.1%)	4,615人
			計画	8回	5日	3,459人	(75.0%)	4,611人
【普及公演 小 計】 5 公演 (計画:5 公演)			実績	14回	11日	6,120人	(79.0%)	7,742人
			計画	14回	11日	5,787人	(75.0%)	7,714人
【組踊等沖縄伝統芸能 合 計】 30 公演 (計画:30 公演)			実績	45回	42日	18,373人	(70.0%)	26,234人
			計画	45回	42日	17,753人	(68.3%)	26,010人

2. 営業・広報

- 国立劇場おきなわ友の会会報誌やメールマガジン等により公演の周知を図った。
- 県内約 700 カ所(県、市町村、教育機関、主要企業等)に各公演のチラシを配布するとともに、県内約 440 カ所の全公民館に公演情報や劇場取組を周知し、団体客の誘致に努めた。
- 各公演演目にゆかりのある地域の公民館や関係団体へ訪問や資料送付等を行い、勧誘に努めた。
- 県内 9 カ所の観光施設に当劇場の専用ラックを設置し、劇場及び公演の周知を図った。
- 5 月公演から、県の補助事業を活用して貸切バス費用助成事業を行い、団体客の誘致に努めた。
- 国立劇場おきなわ公式 Facebook において、劇場、琉球芸能、公演等に関する情報を発信したほか、ファンとの交流を図った。
- 地元ラジオ局番組に嘉数道彦芸術監督や事業課長がゲスト出演し、自主公演の紹介を行った。
- 1 月定期公演琉球舞踊「新春琉舞名人選」では、公演 2 日間計 200 名に呈茶を実施し、幕間に抽選による観客へのお年玉プレゼント(カレンダー、劇場グッズ等の詰め合わせ)を行い、初春公演の雰囲気盛り上げた。
- 多言語表示(英語、中国語(簡体字・繁体字)、韓国語)の自主公演の年間計画リーフレットを作成し、劇場内のほか空港及び観光案内所等に配布した。

3. 外部専門家等の意見

- 公演事業委員会を開催し、外部専門家等の意見を聴取して、公演制作及び公演計画に活用した。(8 月 12 日、3 月 15 日)

4. アンケート調査

30 公演にて実施(36 回)した。

回答数 5,365 人(配布数 8,364 人、回収率 64.1%)。回答者の 89.4%が概ね満足と答えた(4,798 人)。

【特記事項】

- ・ 平成 27 年度（第 70 回）文化庁芸術祭主催公演（11 月企画公演「アジア・太平洋地域の芸能」）
- ・ 平成 27 年度（第 70 回）文化庁芸術祭協賛公演（10・11 月実施の 5 公演）
- ・ 「国立劇場寄席」公演を除く全公演に字幕で歌詞等を表示し、鑑賞の助けとした。

《数値目標の達成状況》

【目標入場者数の達成状況】

実績 18,373 人／目標 17,753 人（達成度 103.5%）

《自己点検評価》

○ 自己評定

B

（根拠）

- ・ 目標入場者数を上回り、過去最高の入場者数（18,373 人）を記録した。
- ・ 琉球舞踊、沖縄芝居の入門公演・鑑賞教室を今年度から実施し普及公演の充実を図った。
- ・ 定番及び復曲に加え古典の様式を踏まえた新作組踊「初桜」の初演や、企画公演「ゆらていく遊ば」等、企画に工夫を凝らし、より充実した内容の公演を実施して好評を得た。

○ 良かった点・特色ある点

- ・ 琉球舞踊や沖縄芝居でも組踊鑑賞教室のような入門企画が欲しいという声に応え、普及公演として「はじめての琉球舞踊」「沖縄芝居鑑賞教室」を新たに企画して実施し、好評を博した。
- ・ 1 月企画公演で嘉数芸術監督作・演出の新作組踊「初桜」を上演し、世話物や敵討物に描かれた組踊独自の古典様式を基に、現代にも通じるテーマを扱って組踊の新たな可能性に挑戦し、高い評価を得た。
- ・ 6 月企画公演 大城立裕作の沖縄芝居「いのちの簪」は、戦後 70 年の節目に当たることから企画し、伝統芸能フォーラムも併せて開催した。同フォーラムでは戦後の沖縄芝居作品や、沖縄芝居の現状と課題等が取り上げられ、意義深い企画公演となった。
- ・ 10 月企画公演「ゆらていく遊ば」は、「琉球芸能の俳優祭」として今年も実施し、幕間を含めて出演者と観客が身近に交流する活気あふれる公演となった。
- ・ 上演機会の少ないすぐれた演目についても、12 月には、昭和 62 年に伝統組踊保存会が復活した「忠臣義勇」を平成 19 年以来 8 年ぶりに、3 月には、平成 11 年に同保存会が復活した「探義伝敵討」を国立劇場おきなわで初めて上演、沖縄芝居でも、8 月には怪談劇「十貫瀬の七つ墓」を昭和 52 年以来 36 年ぶりに上演して、技芸の継承を図った。
- ・ 毎年開催しているアジア・太平洋地域の芸能公演として、今年は沖縄県立芸術大学との共催で「ジャワの宮廷ガムランと舞踊」を取り上げ、ワークショップやレクチャーを実施してジャワの芸能の理解促進を図ったほか、ガムラン楽器の借用や公演広報で同大学の協力を得ることができた。
- ・ 沖縄県の補助事業等を活用して貸切バス費用助成事業を実施したことで、多くの団体客を勧誘することができ、入場者数の増加に大きく寄与した。

○ 見直し又は改善を要する点

- ・ 全体としては目標入場者数を達成したが、民俗芸能公演や沖縄芝居公演等、厳しい集客状況となった公演もあるため、新たな観客層の掘り起こしや営業方法の工夫を行う必要がある。

<7> 演目の拡充

《主要な業務実績》

1. 復活上演候補演目の上演候補台本準備稿の作成作業
 - ・ 上演用準備台本「銘作切籠曙」の作成
 - ・ 復活上演用準備台本「月雪花鈍画掛額」の内容の検討
2. 歌舞伎の新作脚本募集
 - ・ 27年11月より28年3月末まで応募を受付
 - ・ ポスター・チラシの掲示・配布、雑誌やネットメディアへの広告掲載による募集事業の周知
3. 歌舞伎における復活狂言の再演
 - ・ 初春歌舞伎公演で「小春穂沖津白浪」を上演
4. 新派の上演
 - ・ 歌舞伎に次ぐ日本の伝統演劇である新派を、国立劇場では15年ぶりに企画
 - ・ 新派の財産演目である、花柳十種の内「遊女夕霧」、八重子十種の内「寺田屋お登勢」を上演
5. 文楽における新作の上演及び復曲等の上演準備作業
 - ・ 新作文楽「ふしぎな豆の木」（文楽劇場夏休み文楽特別公演）の上演
 - ・ 28年度夏休み文楽特別公演で上演予定の新作文楽「西遊記」上演準備稿の作成
 - ・ 29年度夏休み文楽特別公演で上演予定の新作文楽上演準備稿の準備
 - ・ 「花魁荅八総」の墓六住家の段・富山の段の復曲作業
6. 大衆芸能の新作脚本募集
 - ・ 平成27年度（第17回）大衆芸能脚本募集落語部門の新作脚本を募集し、優秀作1篇、佳作2篇を決定
 - ・ 平成26年度（第16回）大衆芸能脚本募集講談部門の優秀作「外相の右足」を27年10月に台東区で上演
7. 能楽における新作及び復曲の上演
 - ・ 新作及び復曲の上演・再演（5公演）
 - ・ 演出の見直しによる上演（1公演）
8. 組踊等沖縄伝統芸能における新作組踊等の上演と創作舞踊大賞の作品募集
 - ・ 上演機会が少ない優れた演目の上演（3公演）
 - ・ 新作の上演・再演（5公演）

《業務実績詳細》

1. 復活上演候補演目の上演候補台本準備稿の作成作業
 - ・ 国立劇場文芸研究会が作成する上演用準備台本につき、外部委嘱者に補綴を依頼した「銘作切籠曙」の補綴作業が終わり、上演用準備台本を作成した。また「升鯉滝白旗」、「當糞八幡祭」については、現在提出されている補綴案の内容を検討し、28年度中の完成を目指す。
 - ・ 3月18日開催の復活上演候補作品調査検討会において、舞踊の候補演目「月雪花鈍画掛額」の台本準備稿の提出を受け、内容を検討した。28年度以降に復活上演準備台本を作成する。なお、台本を作成する予定だった「命懸色の二番目」は、内容を再検討した上で、28年度中の作成を目指す。
 - ・ 17年度作成の「復活上演候補演目一覧」を、次代を担う俳優が演じることを想定して見直し、委員から候補演目の提出を受けた。
2. 歌舞伎の新作脚本募集
 - ・ 27年11月から28年3月末まで応募を受け付けた。ポスター・チラシの掲示・配布に伴う協力団体の選定やネットメディアの利用、興行会社との協力方法を検討し、募集の周知に努めた。応募総数は143篇。28年度に選考及び贈賞式を実施する。
3. 歌舞伎における復活狂言の再演
 - ・ 国立劇場で平成14年に復活した「小春穂沖津白浪」を、14年ぶりに台本、演出、配役を見直して再演した。

4. 新派の上演

- ・ 歌舞伎に次ぐ日本の伝統演劇である新派を、国立劇場では15年ぶりに実施した。
- ・ 新派の財産演目でありながら他劇場を含めても上演機会の少ない、花柳十種の内「遊女夕霧」、八重子十種の内「寺田屋お登勢」を上演した。

5. 文楽における新作の上演及び復曲等の上演準備作業

- ・ 文楽劇場夏休み文楽特別公演第1部「親子劇場」で、竹田真砂子氏作の新作文楽「ふしぎな豆の木」を上演した。
- ・ 28年度夏休み文楽特別公演第1部「親子劇場」での上演に向けて、壤晴彦氏に新作文楽「西遊記」の台本作成を、29年度同企画での上演に向けて、いとうせいこう氏に台本作成を、それぞれ依頼した。
- ・ 文楽演目復曲事業の一環として、大正11年を最後に上演が途絶えている「花魁蒼八総」の行女塚の段・伴作住家の段を、浄瑠璃演奏の録音作業を兼ねて文楽友の会会員を対象とした復曲試演会として実施した（3月16日、文楽劇場小ホール、参加者数155名（出演者関係者招待を含む。応募者291名、当選者187名））。

6. 大衆芸能の新作脚本募集

- ・ 平成27年度（第17回）大衆芸能脚本募集・落語部門を実施、落語の新作脚本の応募を平成27年8月1日から同年8月31日まで募集（応募総数90篇）。平成28年1月25日に選考会を開催し、優秀作1篇、佳作2篇を決定した。併せて公益財団法人清栄会奨励賞2篇を決定した。選考結果は平成28年2月16日に公表し、平成28年2月26日に贈賞式を実施した。
平成27年度（第17回）大衆芸能脚本募集・落語部門
優秀作「甘酒の味」山地常司
佳作「玄妙茶碗」安東茂光、「義士長屋」吉田正人
公益財団法人清栄会奨励賞「行徳船」佐竹喜信、「エレベーターの中で」阿部大樹
- ・ 平成26年度（第16回）大衆芸能脚本募集・講談部門の優秀作「外相の右足」（小櫃知克）を平成27年10月18日、浅草ことぶ季亭「第1回 克紫と仲間たちの会」で上演（入場無料、アマチュアの会、作者自演）した。

7. 能楽における新作及び復曲の上演

- ・ 復曲の上演
3月特別企画公演 復曲能「名取ノ老女」（国立能楽堂制作・初演）
- ・ 演出の見直しによる上演
7月定例公演 能「水無月祓 古本による」
- ・ 新作の再演
9月企画公演 新作能「紅天女」（平成18年国立能楽堂制作）
- ・ 復曲の再演
2月企画公演 復曲狂言「若菜」（昭和62年国立能楽堂復曲）
- ・ 他の能楽堂等で上演された優れた新作及び復曲の再演
2月企画公演 復曲能「菊慈童 躰縣山」
2月企画公演 復曲狂言「吟三郎聳」

8. 組踊等沖縄伝統芸能における新作組踊等の上演と創作舞踊大賞の作品募集

- ・ 上演機会が少ない優れた演目の上演
8月定期公演 怪談劇「十貫瀬の七つ墓」
12月定期公演「忠臣義勇」
3月定期公演「探義伝敵討」
- ・ 新作の上演・再演
9月普及公演 喜劇「Wife ～トービラーの妻たち～」
10月企画公演 喜劇「無念大蛇其ノ後ノ嘶～続・孝行の巻～」
11月普及公演「組踊版シンデレラ～ようこそ組踊城へ～」
12月定期公演「創作舞踊の会」創作舞踊大賞27年度入選作等を上演
1月企画公演 新作組踊「初桜」

【特記事項】

- ・ 大衆芸能新作脚本募集の入選作を主催公演で上演するには相応の日時を要するため、伝統芸能の演目の拡充の見地から、作品発表後 1 年以内に限り、振興会へ事前連絡の上で国立演芸場以外の場所で上演することを許可している。

《自己点検評価》

○ 自己評定

B

(根拠)

- ・ 本館では、歌舞伎の復活上演候補演目の上演候補台本「銘作切籠曙」を作成した。また、過去に復活した演目の再演により、演目の拡充に取り組むことができた。
- ・ 歌舞伎に次ぐ日本の伝統演劇である新派を 15 年ぶりに企画し、新派の財産とも言うべき演目で上演した。
- ・ 能楽堂では、3 月特別企画公演において、明治期に廃絶された能「名取ノ老女」を約 130 年ぶりに復曲初演し、優れた成果を上げた。また、7 月定例公演の能で演出の見直しを試みたほか、過去に国立能楽堂で新作及び復曲した作品さらに他の能楽堂等で復曲された優れた作品を取り上げて上演するなど、レパトリーの拡充に積極的に取り組むことができた。
- ・ 文楽劇場では、新作の上演及び復曲作業を順調に実施し、レパトリーの拡充につながる取組を実施できた。
- ・ 国立劇場おきなわでは、組踊の様式を基に現代にも通じるテーマを扱った新作組踊、組踊のパロディーとして遊び心満載に制作した喜劇、沖縄芝居の普及を目的に解説等を織り交ぜながら構成した喜劇等、特色豊かな新作作品を制作した。どれも観客のニーズに応え、沖縄伝統芸能の発展に寄与する作品として発信することができた。

○ 良かった点・特色ある点

- ・ 文楽劇場では、夏休み文楽特別公演第 1 部「親子劇場」において、竹田真砂子氏の書き下ろし新作文楽「ふしぎな豆の木」を上演し、低年齢層への文楽普及に資する演目を拡充した。
- ・ 国立劇場おきなわでは、組踊の様式を基に伝統を踏まえつつ、現代にも通じるテーマを扱った新作組踊「初桜」を初演し、組踊の新たな魅力を発信することができた。
- ・ 企画公演「ゆらていく遊ば」で初演した喜劇「無念大蛇其ノ後ノ嘶〜続・孝行の巻〜」は、昨年度に同公演で上演した喜劇「鶴亀二児其ノ後ノ嘶」に続く、様々な舞台の名場面を連想されるパロディー作品で、初心者観客はもとより、組踊の常連客をより多く楽しませた。
- ・ 今年から実施した初心者向けの沖縄芝居鑑賞教室では、舞台の鑑賞を通して沖縄芝居についての理解を深めてもらう工夫を凝らした新作喜劇「Wife〜トービラーの妻たち〜」を上演し、好評だった。
- ・ 今年から実施した琉球舞踊の入門公演「はじめての琉球舞踊」では、やぎ・うし・とりを登場させた脚本により、ストーリー仕立てで琉球舞踊の歴史や鑑賞のポイントを紹介して好評だった。
- ・ 上演機会の少ない組踊「忠臣義勇」「探義伝敵討」、沖縄芝居 怪談劇「十貫瀬の七つ墓」を取り上げ、演目の拡充を図るとともに、ベテランの指導による次世代への技芸の伝承を促すことができた。

2-(1)-② 伝統芸能の公開に際しての留意事項等

《主要な業務実績》

1. 外部専門家等の意見聴取、アンケート調査の実施
 - ・ 各分野において専門委員による公演ごとのレポート提出及び年2回の公演専門委員会等の開催
 - ・ アンケート調査の実施（77公演86回、満足回答率86.0%）
2. 共催、受託などによる公演
 - ・ 文化庁芸術祭主催公演6公演、協賛公演27公演を実施
 - ・ 諸団体と良好な協力関係を築き、共催、受託等による公演を積極的に実施
3. 全国各地の文化施設等における公演
 - ・ 歌舞伎鑑賞教室静岡公演、歌舞伎鑑賞教室神奈川公演を実施
 - ・ 歌舞伎鑑賞教室地方公演等における職員の派遣、現地の技術者への協力のほか、各団体との連携により、劇場関係者を対象とした研修会を実施
 - ・ 国立劇場おきなわ県外公演を実施（2公演）
 - ・ 受託公演及び制作協力により、国立能楽堂制作作品再演等の公演を実施（3公演）
4. 国際文化交流公演等
 - ・ 国立劇場おきなわにおいて、アジア・太平洋地域の芸能を紹介する企画を継続（「ジャワの宮廷ガムランと舞踊」

《業務実績詳細》

1. 外部専門家等の意見聴取、アンケート調査の実施
 - ① 外部専門家等の意見聴取は、専門委員による公演ごとのレポート提出及び年2回の公演専門委員会等の開催により行った。
 - ② アンケート調査の実施

分野	実施回数	回答数	回収率(配布数)	概ね満足との回答 (回答数)
歌舞伎・新派	7公演8回	4,307人	61.1%(7,046人)	80.8%(3,478人)
文楽(本館小劇場)	2公演2回	582人	80.2%(726人)	81.8%(476人)
文楽(文楽劇場)	5公演5回	1,329人	62.3%(2,132人)	94.2%(1,252人)
舞踊・邦楽等	12公演14回	5,117人	64.8%(7,894人)	83.3%(4,260人)
大衆芸能(演芸場)	12公演12回	1,981人	62.4%(3,176人)	87.2%(1,728人)
能楽	9公演9回	2,659人	57.1%(4,656人)	88.6%(2,357人)
小計	47公演50回	15,975人	62.3%(25,630人)	84.8%(13,551人)
組踊等沖縄伝統芸能	30公演36回	5,365人	64.1%(8,364人)	89.4%(4,798人)
合計	77公演86回	21,340人	62.8%(33,994人)	86.0%(18,349人)

2. 共催、受託などによる公演

(1) 平成27年度(第70回)文化庁芸術祭

区分	公演名
主催公演	本館大劇場：10月歌舞伎公演 演芸場：10月特別企画公演 能楽堂：10月企画公演 文楽劇場：錦秋文楽公演、10月舞踊公演（2公演） 国立劇場おきなわ：11月企画公演
協賛公演	本館大小劇場：11月歌舞伎公演、10月邦楽公演（2公演）、11月雅楽公演 11月舞踊公演（5公演） 演芸場：10月・11月定席公演（4公演）、10月・11月国立名人会（2公演） 11月特別企画公演（7公演） 能楽堂：10月定例公演（2公演）、10月普及公演、11月定例公演（2公演）、

	<p>11月普及公演、11月企画公演（2公演）（8公演）</p> <p>文楽劇場：11月大衆芸能公演（2公演）</p> <p>国立劇場おきなわ：10月定期公演、10月・11月企画公演、11月普及公演（5公演）</p>
--	--

- ・日生劇場ファミリーフェスティバル2015「ニッセイ親子文楽」

日時：8月8日～9日4回

会場：日生劇場（千代田区有楽町）

主催：公益財団法人ニッセイ文化振興財団

制作：日本芸術文化振興会国立文楽劇場

入場者数：2,228人（入場率54.9%）

(2) 国・地方公共団体等との後援・協力

ア 鑑賞教室等における地方自治体、教育委員会、専修学校各種学校協会、旅行社等の後援・協力

- ・ 歌舞伎・能楽・文楽(本館)鑑賞教室における後援・協力等

後援：文化庁、東京都、埼玉県、千葉県、埼玉県教育委員会、千葉県教育委員会、神奈川県教育委員会、全国都道府県教育委員会連合会、公益財団法人日本修学旅行協会

協力：公益社団法人東京都専修学校各種学校協会、一般社団法人神奈川県専修学校各種学校協会、関東高等学校演劇協議会、東京都高等学校演劇研究会、株式会社ジェイティービー、株式会社日本旅行、近畿日本ツーリスト株式会社、公益財団法人文楽協会(文楽のみ)

- ・ 7月歌舞伎鑑賞教室期間中に実施する「親子で楽しむ歌舞伎教室」における共催・後援等

共催：東京都教育委員会

後援：文化庁、埼玉県、千葉県、埼玉県教育委員会、神奈川県教育委員会、一般社団法人東京都小学校PTA協議会、東京都公立中学校PTA協議会、東京私立初等学校協会、一般財団法人東京私立中学高等学校協会

- ・ 文楽劇場6月文楽鑑賞教室における後援・協力等

後援：文化庁、大阪府教育委員会、大阪市教育委員会、京都府教育委員会、兵庫県教育委員会、奈良県教育委員会、滋賀県教育委員会、和歌山県教育委員会、NHK大阪放送局

協力：公益財団法人文楽協会

- ・ 組踊鑑賞教室における後援

後援：沖縄県、沖縄県教育委員会

イ 鑑賞教室地方公演における共催・後援等

- ・ 歌舞伎鑑賞教室静岡公演

共催：公益財団法人静岡県文化財団、静岡県

後援：文化庁、静岡県教育委員会、静岡市教育委員会

- ・ 歌舞伎鑑賞教室神奈川公演

共催：かながわ伝統芸能祭実行委員会(神奈川県立青少年センター内)

後援：文化庁、神奈川県教育委員会、神奈川県PTA協議会、神奈川県立高等学校PTA連合会

ウ 社会人のための鑑賞教室公演における後援・協力等

後援：一般社団法人日本経済団体連合会、公益社団法人経済同友会、東京商工会議所、公益社団法人東京青年会議所

エ 関西元気文化圏共催事業（文楽劇場の全公演）

オ 関西学院大学との連携協力協定に基づく、大学内での文楽公演のPRに協力

カ その他の自主公演等における後援・協力等

(本館)

- ・ 本館4月民俗芸能公演「東日本大震災復興支援 東北の芸能VI～みちのくのオニ～」における三井住友カード株式会社の協賛

- ・ 本館6月伝統芸能の魅力公演「日本舞踊を親しむ」における公益社団法人日本舞踊協会の協力

- ・ 本館12月邦楽公演「谷崎潤一郎没後五十年 文豪の聴いた音曲」における株式会社中央公論新社及び芦屋市谷崎潤一郎記念館の協力

(能楽堂)

- ・ 10月企画公演における「古典の日推進委員会」の後援

(国立劇場おきなわ)

- ・ 11月企画公演 アジア・太平洋地域の芸能「ジャワの宮廷ガムランと舞踊」

共催：沖縄県立芸術大学

特別協力：ジャワ・スロカルト王家

キ 外部の公演等への後援・協力等

(本館)

- ・ 一般社団法人伝統歌舞伎保存会主催の「小学生のための歌舞伎体験教室」(7月5日、8月14日～20日、本館大劇場、本館小劇場、本館稽古場、伝統芸能情報館)への協賛
- ・ 一般社団法人江戸文化歴史検定協会主催の「第10回江戸文化歴史検定」(8月23日、11月3日)への協力
- ・ 文化庁・公益社団法人全国高等学校文化連盟・東京都教育委員会・東京都高等学校文化連盟主催の「第26回全国高等学校総合文化祭優秀校東京公演」(8月29日～30日、本館大劇場)への協賛
- ・ 一般社団法人伝統歌舞伎保存会主催の「第16回伝統歌舞伎保存会研修発表会」(10月24日、本館大劇場)への協賛
- ・ 一般社団法人伝統歌舞伎保存会主催の「第17回伝統歌舞伎保存会研修発表会」(11月21日、本館大劇場)への協賛
- ・ よこすか市民会議(YCC)主催の「2015 よこすか市民会議まちづくり文化フェア」のうち、「よこすか芸術文化フェア2015」の一環として開催された「伝統文化学習鑑賞会(人形浄瑠璃文楽学習鑑賞会)」(12月3日、伝統芸能情報館レクチャー室)への協力
- ・ 公益社団法人日本俳優協会、一般社団法人伝統歌舞伎保存会、松竹株式会社が刊行する「ポケット版『かぶき手帖』2016年版」への協賛(1月2日刊行)

(能楽堂)

- ・ 公益社団法人能楽協会主催のシンポジウム「江戸式楽、そして現代～「式能」を軸に能楽を取り巻く現状を考える～」(2月4日、国立能楽堂)への協力
- ・ 公益社団法人能楽協会主催の「第56回式能」(2月21日、国立能楽堂)への協力

(文楽劇場)

- ・ 大丸百貨店主催の心齋橋店ショーウィンドウでの人形展示(7月1日～28日)への協力
- ・ 堺市主催の第11回無形文化遺産理解セミナー「こどもも大人も一緒に「文楽」」(8月29日)への協力
- ・ 公益財団法人日本財団主催の「にっぽん文楽 in 難波宮」(10月17日～20日)及びその関連シンポジウム(10月1日)への協力
- ・ 豊中市主催の豊中市立伝統芸能館開館20周年記念事業における文楽人形の特別展示(11月21日～22日)への協力
- ・ 毎日放送・朝日放送・関西テレビ放送・読売テレビ放送・テレビ大阪・ナレッジキャピタル主催の「うめだ文楽2016」(3月25日～27日)への協力

(国立劇場おきなわ)

- ・ 平成27年度沖縄県文化観光戦略推進事業助成事業
国立劇場おきなわ県外公演
 - ① 「琉球フェスタ in 川越」(共催：指定管理者 NeCST、8月7～9日、7回、ウエスタ川越)
 - ② 「組踊『執心鐘入』と琉球舞踊」(共催：公益財団法人茅ヶ崎文化・スポーツ振興財団、2月20日、1回、茅ヶ崎市民文化会館)
- ・ 平成27年度沖縄県国立劇場おきなわ連携活用事業
 - ① 男性舞踊家の会(主催：沖縄県、国立劇場おきなわ、本部町音楽のまちづくり事業実行委員会、11月15日、本部町立中央公民館)
 - ② 組踊版「スイミー」(主催：沖縄県、国立劇場おきなわ、今帰仁村教育委員会、11月23日、今帰仁村コミュニティセンター)

3. 全国各地の文化施設等における公演

- ・ 「劇場、音楽堂等の活性化に関する法律」を踏まえ、全国の文化施設等において公演を実施した。
 - ・ 歌舞伎鑑賞教室静岡公演(共催：公益財団法人静岡県文化財団、静岡県、6月26日、2回公演、グランシップ、入場者数：756人)
 - ・ 歌舞伎鑑賞教室神奈川公演(共催：かながわ伝統芸能祭実行委員会、7月26日～27日、4回公演、神奈川県立青少年センター、入場者数：2,789人)
 - ・ スーパー能「世阿弥」受託公演(主催：第29回日本医学会総会2015関西組織委員会、4月10日、京都劇場)

- ・ 観阿弥時代の能「百万」制作協力（主催：公益財団法人梅若会、12月20日、梅若能楽学院会館）
- ・ スーパー能「世阿弥」受託公演（主催：半田市ほか、2月21日、半田市福祉文化会館雁宿ホール）
- ・ 国立劇場おきなわ県外公演として以下の公演を上演（沖縄県文化観光戦略推進事業補助金活用）「琉球フェスタ in 川越」（共催：指定管理者 NeCST、8月7日～9日、7回、ウエスタ川越、入場者数1,590人）、組踊「執心鐘入」と琉球舞踊（共催：公益財団法人茅ヶ崎市文化・スポーツ振興財団、2月20日、1回、茅ヶ崎市民文化会館、入場者数831人）
- ・ 歌舞伎鑑賞教室の地方公演や他団体の文楽公演において、職員の派遣を行い、現地の技術者へ協力等を行った。
- ・ 公益社団法人全国公立文化施設協会との共催により、劇場・音楽堂等に勤務する職員を主な対象とした関東甲信越静岡ブロック別アートマネジメント研修会を本館小劇場で開催（1月12日～13日、受講者56名）し、講義と体験授業を通して伝統芸能についての理解を深め、公演の企画立案から実施までを一体的に学べるカリキュラムを実施した。

4. 国際文化交流公演等

(1) 国際文化交流公演

(国立劇場おきなわ)

アジア・太平洋地域の芸能「ジャワの宮廷ガムランと舞踊」

日時：11月1日 大劇場

平成27年度文化庁芸術祭主催公演

共催：沖縄県立芸術大学

入場者数：373人

(2) 海外の芸能関係者等の来場、見学等

- ・ 本館 3件10人
主な来場者：台湾屏東県文化処長、国際交流基金招聘者、中華人民共和国山東省臨沂市人民政府視察団
- ・ 能楽堂 1件1人
来場者：国際交流基金招聘者
- ・ 文楽劇場 1件1人
来場者：中国人留学生 北海道大学大学院 観光創造学研究
- ・ 国立劇場おきなわ 1件47人
来場者：ハワイ沖縄連合会

《自己点検評価》

○ 自己評価

B

(根拠)

- ・ 平成27年度（第70回）文化庁芸術祭主催公演6公演及び芸術祭協賛公演27公演を実施した。
- ・ 「劇場、音楽堂等の活性化に関する法律」を踏まえ、公益社団法人全国公立文化施設協会との共催により実施した全国の文化施設等における公演、舞台技術に関するアートマネジメント研修会において、国立劇場独自の研修プログラムを企画・実施した。
- ・ 能楽堂では、スーパー能「世阿弥」が各地で再演され、国立能楽堂制作作品をより多くの人に紹介することができた。
- ・ 文楽劇場としては初めて、外部劇場（日生劇場）での受託公演が実現し、文楽の本拠地である大阪の劇場から文化発信する新たな展開を示した。
- ・ 国立劇場おきなわでは、沖縄県内外の自治体に働きかけ、県内では11月に本部町で「男性舞踊家の会」、今帰仁村で組踊版「スイミー」を、県外では8月に川越市での「琉球フェスタ in 川越」（3日間公演）で組踊「二童敵討」と琉球舞踊、三線音楽を、2月には茅ヶ崎市で組踊「執心鐘入」と琉球舞踊を上演し、組踊をはじめとした沖縄伝統芸能の普及に貢献することができた。
- ・ 毎年開催しているアジア・太平洋地域の芸能を紹介する公演では、初めて沖縄県立芸術大学と共催することにより、「ジャワの宮廷舞踊とガムラン」を上演した。レクチャー・ワークショップの実施や公

演広報及び楽器借用等で、同大学の協力を得ることができた。

○ 良かった点・特色ある点

- ・ 歌舞伎鑑賞教室は、都道府県や諸団体との協力により、学生を中心に、親子や社会人向けの公演も含めて好調な集客を重ねた。
- ・ 公益社団法人全国公立文化施設協会との共催による、劇場関係者を対象とした関東甲信越静ブロック別アートマネジメント研修会において、国立劇場独自の研修プログラムを企画・実施した。
- ・ 演芸場では、引き続きアンケートの回収率の向上に努めた。結果回収数で対前年比 145 枚増（4.6% 増）となり、お客様の生の声をより多く聴取することができた。
- ・ 能楽堂では、各地の文化団体等と連携・協力して、受託公演及び制作協力により国立能楽堂制作作品再演等の公演を実施した。スーパー能「世阿弥」が各地で再演され、国立能楽堂制作作品をより多くの人に紹介することができ、作品も洗練された。
- ・ 文楽劇場では、夏休み文楽特別公演終了後、8月8日、9日に東京の日生劇場における《ニッセイ親子文楽》として「ふしぎな豆の木」を上演し、文楽劇場が一丸となって初の受託公演を成功させた。この公演の成功により、劇場から地方へ文化を発信する新たな展開を示した。
- ・ 国立劇場おきなわでは、県内2か所（本部町、今帰仁村）のほか、川越市ウェスタ川越（3日、7回）及び茅ヶ崎市民文化会館（1日、1回）において県外公演を実施し、沖縄の伝統芸能を県内外に広く普及することができた。
- ・ アジア・太平洋地域の芸能公演では、初めて沖縄県立芸術大学と共催することにより、レクチャー・ワークショップの実施や公演広報等で、同大学の協力を得、公演内容の理解促進を図ることができた。今後も大学等との連携を図っていきたい。

I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するため
とるべき措置

伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

現代舞台芸術の公演

現代舞台芸術の公演 p.60

— オペラ p.62

— バレエ p.65

— 現代舞踊 p.68

— 演劇 p.70

現代舞台芸術の公演の実施に際しての留意事項等 p.73

2- (2) 現代舞台芸術の公演

《中期計画の概要》

2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

(2) 現代舞台芸術の公演

国際的に比肩し得る高い水準の現代舞台芸術を自主制作により公演

ア オペラ公演 名作と呼ばれる代表的な作品を上演するとともに、新たに制作する作品や上演機会の少ない優れた作品、日本の作曲家の作品の上演にも努め、それらをレパートリーとして蓄積し、繰り返し上演することにより、オペラの振興と普及を図る。年間 12 公演程度実施

イ バレエ公演 スタンダードな演目を多彩なキャストで上演するとともに、国内外の振付家による質の高い新国立劇場のオリジナル作品の企画・上演にも努め、それらをレパートリーとして蓄積し、繰り返し上演することにより、バレエの振興と普及を図る。年間 6 公演程度実施

ウ 現代舞踊公演 特徴あるスタイルを持つ振付家による斬新な企画作品や、国内外で高い評価を得ている作品等を上演し、現代舞踊の振興と普及を図る。年間 4 公演程度実施

エ 演劇公演 新作上演の企画・発信するとともに、我が国で創作された作品の再評価や海外の優れた作品の紹介、芸術団体等との交流に努め、現代演劇の振興と普及を図る。年間 8 公演程度実施

(4) 現代舞台芸術の公演の実施に際しての留意事項等

ア 適切な鑑賞者数の目標設定

イ 外部専門家等の意見聴取、アンケート調査の実施

ウ 現代舞台芸術の振興普及の中核的拠点としての公演等の実施

① 国、地方公共団体、芸術団体、企業等との連携協力公演等

② 全国各地の文化施設等における公演等

③ 国際文化交流の進展に寄与するための国等との連携協力公演等

《年度計画の概要》

2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

(2) 現代舞台芸術の公演

現代舞台芸術の振興と普及を図るため、中期計画の方針に従い、別表 2 のとおり主催公演を実施

(4) 現代舞台芸術の公演の実施に際しての留意事項等

ア 外部専門家等の意見の聴取、観客へのアンケート調査の適宜実施

イ 我が国における現代舞台芸術の振興普及の中核的拠点として、次のとおり公演等を実施

① 共催、受託などによる公演等を別表 5 のとおり実施

② 各地の文化施設等における公演等を別表 6 のとおり実施

③ 国際文化交流の進展に寄与する公演等を別表 7 のとおり実施

2-(2)-① 現代舞台芸術の公演

《業務実績詳細》

1. 公演実績

分野名	公演数 劇場	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数
オペラ	11 公演 オペラ劇場	実績	54 回	54 日	79,658 人	(82.8%)	96,232 人
		計画	54 回	54 日	75,400 人	(78.4%)	96,234 人
バレエ	7 公演 オペラ劇場	実績	37 回	27 日	50,576 人	(81.3%)	62,222 人
		計画	37 回	29 日	47,400 人	(76.9%)	61,632 人
現代舞踊	4 公演 中劇場、小劇場	実績	21 回	19 日	7,297 人	(77.1%)	9,460 人
		計画	19 回	17 日	5,950 人	(70.1%)	8,488 人
演劇	8 公演 中劇場、小劇場	実績	159 回	144 日	68,001 人	(88.7%)	76,653 人
		計画	157 回	144 日	56,900 人	(75.9%)	74,922 人
総合計	30 公演	実績	271 回	244 日	205,532 人	(84.0%)	244,567 人
		計画	267 回	244 日	185,650 人	(76.9%)	241,276 人

<1> オペラ

《制作方針》

- ① スタンダードな作品の上演
名作と呼ばれるような代表的な作品を上演し、それをレパートリーとして蓄積し、繰り返し上演していくことで、オペラを市民生活に普及・定着させる。
- ② 上演機会の少ない優れた作品の上演
優れた作品ながら、さまざまな理由で日本では上演される機会の少なかった作品にも積極的に取り組む。
- ③ 日本の作曲家の作品の上演
欧米の名作ばかりではなく、日本の作曲家のオリジナル作品の上演にも積極的に取り組み、レパートリーとして蓄積していく。

《主要な業務実績》

1. 公演実績

- ・ 本公演 10 公演と鑑賞教室 1 公演を計画どおり実施
- ・ オペラ公演全体で目標入場者数を達成（達成度 105.6%）
- ・ 「椿姫」「ラインの黄金」「イエヌーフア」を新制作で上演
- ・ 繰り返し再演可能なスタンダードなレパートリー作品として「椿姫」を新制作
- ・ 「ラインの黄金」は高水準の上演で楽劇「ニーベルングの指環」4 部作の今後への期待を高めた
- ・ 新国立劇場で初のヤナーチェク作品「イエヌーフア」を取り上げ、日本での上演機会が少ない作曲家に光を当てた
- ・ 日本の作曲家による「沈黙」を中劇場からオペラ劇場に移して上演、また「魔笛」を全役日本人歌手で上演

2. 営業・広報

- ・ 画像・動画を多用したホームページ及び SNS（Facebook、Twitter）の活用により、興味を喚起
- ・ 若年層向け特別優待制度アカデミック・プラン等の実施により、学生及び若年層を勧誘

3. 外部専門家等の意見

- ・ 専門委員に各公演についてのレポートを依頼し意見を聴取、後の事業運営に活用

4. アンケート調査

- ・ 全 11 公演で実施（16 回）、満足回答率 86.6%

《業務実績詳細》

1. 公演実績

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数
「運命の力」	オペラ 劇場	4/2(木) ～14(火)	実績	5 回	5 日	6,352 人	(70.9%)	8,960 人
			計画	5 回	5 日	6,300 人	(70.3%)	8,960 人
「椿姫」(新制作)		5/10(日) ～26(火)	実績	6 回	6 日	9,283 人	(86.3%)	10,752 人
			計画	6 回	6 日	9,100 人	(84.6%)	10,752 人
「ばらの騎士」		5/24(日) ～6/4(木)	実績	5 回	5 日	7,288 人	(81.3%)	8,960 人
			計画	5 回	5 日	6,800 人	(75.9%)	8,960 人
「沈黙」		6/27(土) ～30(火)	実績	4 回	4 日	5,842 人	(81.5%)	7,168 人
			計画	4 回	4 日	5,200 人	(72.5%)	7,168 人
楽劇「ニーベルングの指環」序夜 「ラインの黄金」(新制作)		10/1(木) ～17(土)	実績	6 回	6 日	8,772 人	(83.1%)	10,552 人
			計画	6 回	6 日	8,000 人	(75.4%)	10,611 人

「トスカ」		11/17(火) ～29(日)	実績	5回	5日	7,930人	(88.5%)	8,960人
			計画	5回	5日	7,500人	(83.7%)	8,960人
「ファルスタッフ」		12/3(木) ～12(土)	実績	4回	4日	5,729人	(79.9%)	7,168人
			計画	4回	4日	5,800人	(80.9%)	7,168人
「魔笛」		1/24(日) ～30(土)	実績	4回	4日	6,233人	(89.9%)	6,935人
			計画	4回	4日	5,800人	(84.0%)	6,907人
「イエヌーファ」(新制作)		2/28(日) ～3/11(金)	実績	5回	5日	6,176人	(68.9%)	8,960人
			計画	5回	5日	6,600人	(73.7%)	8,960人
「サロメ」		3/6(日) ～15(火)	実績	4回	4日	5,909人	(82.4%)	7,168人
			計画	4回	4日	5,000人	(69.8%)	7,168人
【オペラ公演 小 計】 10 公演 (計画:10 公演)			実績	48回	48日	69,514人	(81.2%)	85,583人
			計画	48回	48日	66,100人	(77.2%)	85,614人
高校生のためのオペラ鑑賞教室 「蝶々夫人」	オペラ 劇場	7/10(金) ～16(木)	実績	6回	6日	10,144人	(95.3%)	10,649人
			計画	6回	6日	9,300人	(87.6%)	10,620人
【オペラ鑑賞教室 小 計】 1 公演 (計画:1 公演)			実績	6回	6日	10,144人	(95.3%)	10,649人
			計画	6回	6日	9,300人	(87.6%)	10,620人
【オペラ 合 計】 11 公演 (計画:11 公演)			実績	54回	54日	79,658人	(82.8%)	96,232人
			計画	54回	54日	75,400人	(78.4%)	96,234人

2. 営業・広報

- ・ 個別演目について、マスコミ各社への情報提供、取材依頼、ポスター、チラシ、DM、ジ・アトレ会報誌、インターネット等により公演周知を行った。
- ・ ホームページ及び SNS (Facebook、Twitter) にて画像、動画、文章を用いて、公演前には過去の公演、リハーサル風景、出演者のインタビューを、公演開始後には舞台写真を掲載し、興味を喚起した。
- ・ 「ラインの黄金」「イエヌーファ」については特設サイトを開設し、より強い印象を与えるデザインと内容での公演紹介を行った。
- ・ 「ラインの黄金」では指揮を務める飯守泰次郎芸術監督による音楽講座が動画で制作され、ホームページ特設サイトだけでなく YouTube でも広く発信して作品理解に寄与した。
- ・ 「イエヌーファ」ではオペラトークを開催し、トークの様子はホームページと YouTube で動画配信して幅広い紹介に努めた。またチェコ大使館の協力により作曲家にまつわる国内ロードショー未公開映画の上映会を開催し、新たな角度から公演への関心を喚起した。
- ・ 「沈黙」では物語の舞台である長崎県と協力し、公演関連展示や特別レクチャーを実施し作品の歴史的背景や意義について周知した。
- ・ e メール Club (メールマガジン) 登録者に対し、発売直前に発売情報と聴きどころ見どころ等を、公演直前に舞台稽古の状況等を、公演開始後にお客様の感想等を、ホームページや SNS (Facebook、Twitter) と連動させつつ連続して発信し、興味喚起と勧誘に努めた。
- ・ 音楽スタッフやオペラ研修修了生を講師に起用したオペラ初級者向けのレクチャー付きの観劇プランや食事付きの観劇プランを実施し、団体誘致を行った。
- ・ 「椿姫」では、文化学園大学と連携し、演出家・衣裳スタッフによる衣裳に関する特別講義を実施し、団体誘致を行った。
- ・ 作曲家関連の協会(ワーグナー協会、ヴェルディ協会、モーツァルト協会)の協力を仰ぎ、それぞれ関連する公演のチケット先行発売を実施した。
- ・ カード会社、生活協同組合などに対して団体販売を行った。また、出演者や旅行代理店、企業、高等学校、大学等に対し、積極的に営業活動を行った。
- ・ 空席がある場合の若年層向け特別優待制度「アカデミック・プラン」、「アカデミック 39」を実施し、学生及び若年層の誘致を行った。

3. 外部専門家等の意見

- ・ 専門委員に各公演についてのレポートを依頼し、意見の聴取を行った。また、総括レポートの提出を半期ごとに依頼し、自己点検評価の総括に生かした。

4. アンケート調査

全 11 公演で実施（16 回）した。

回答数 6,802 人（配布数 22,612 人、回収率 30.1%）。回答者の 86.6%が概ね満足と答えた（5,890 人）。

【特記事項】

- ・ 平成 27 年度（第 70 回）文化庁芸術祭主催公演・オープニング（「ラインの黄金」）
- ・ 平成 27 年度（第 70 回）文化庁芸術祭協賛公演（「トスカ」）
- ・ 全公演において、字幕による歌詞の日本語訳を表示した。

《数値目標の達成状況》

【目標入場者数の達成状況】

実績 79,658 人／目標 75,400 人（達成度 105.6%）

《自己点検評価》

○ 自己評価

B

（根拠）

- ・ 11公演（本公演10公演、鑑賞教室1公演）を計画どおり実施した。入場者数は目標値を上回った。
 - ・ いずれの公演も高い水準で上演され、外部専門家、評論家及び観客の高い評価を得た（アンケート満足率86.6%）。「ラインの黄金」は公演アンケートで86.6%の回答者から「ニーベルングの指環」4部作の次回公演も観たいとの回答を得た。日本で取り上げられることの少ないヤナーチェク作品を取り上げ、関係大使館の協力を得て映画上映会を催すなど、作品紹介として新しい試みを実施した。日本オペラ「沈黙」では、公演関連展示やレクチャーを実施して、作品の歴史的背景や意義にも触れ、幅広い普及に努めた。
- 良かった点・特色ある点
- ・ いずれの公演も高い水準で上演することができた。「ラインの黄金」はフィンランド国立歌劇場、「イエヌーフア」はベルリン・ドイツ・オペラとの連携協力により制作した。「イエヌーフア」は作曲家の伝記映画上映など、公演周知に際しチェコセンター東京の協力も得た。
 - ・ 「椿姫」という劇場が持つべきスタンダードなレパートリー作品の新制作は、今後繰り返し再演していくに相応しい舞台の出来栄であった。
 - ・ 「魔笛」では全ての役に日本人歌手を起用し、日本オペラ「沈黙」の上演と併せ日本人歌手の活躍の場を広げた。
 - ・ 「沈黙」作品の舞台となった長崎市等と協力し公演関連展示やレクチャーを行ったほか、4回中1回を学校団体の芸術鑑賞の貸切公演とし、青少年向けに上演した。
- 見直し又は改善を要する点
- ・ 高い公演水準にも関わらず、知名度の低い作品については集客・訴求が難しいため、引き続き、新国立劇場オペラの周知に努め認知度向上を図りたい。

<2> バレエ

《制作方針》

① バレエ・レパートリーの充実

多様化する観客のニーズに対応するレパートリーの充実に努めながら、海外有数の劇場と比肩する芸術的水準での舞台制作を目指す。同時に、再演の要望の高いスタンダードな演目を多彩なキャストで上演し、バレエファン層の拡大を図る。

② 国内外の振付家による創作バレエの上演

質の高い創作バレエを企画、上演して、新国立劇場オリジナル作品のレパートリー化を図る。

《主要な業務実績》

1. 公演実績

- ・ 本公演 6 公演とこどものためのバレエ劇場 1 公演を計画どおり実施
- ・ バレエ公演全体で目標入場者数を達成（達成度 106.7%）
- ・ 「ホフマン物語」、「Men Y Men」を新制作で上演
- ・ SNS やメール等、インターネットを積極的に活用した積極的な営業、広報活動により、「くるみ割り人形」ではバレエ公演として過去最高の入場者数（13,627 人）を達成

2. 営業・広報

- ・ 画像、動画を多用したホームページ及び SNS（Facebook、Twitter）の活用により、興味を喚起
- ・ 若年層向け特別優待制度アカデミック・プラン等の実施により、学生及び若年層を勧誘
- ・ こどものためのバレエ劇場「シンデレラ」、現代舞踊「サーカス」及び演劇「かがみのかなたはたなかのなかに」のチケットを組み合わせ、親子で楽しむ「夏のこども劇場セット」を販売

3. 外部専門家等の意見

- ・ 専門委員に各公演についてのレポートを依頼し意見を聴取、後の事業運営に活用

4. アンケート調査

- ・ 全 7 公演で実施（12 回）、満足回答率 96.0%

《業務実績詳細》

1. 公演実績

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数
「こうもり」	オペラ劇場	4/21(火) ～26(日)	実績	5 回	4 日	5,112 人	(57.1%)	8,960 人
			計画	5 回	4 日	5,800 人	(64.7%)	8,960 人
「白鳥の湖」		6/10(水) ～14(日)	実績	5 回	4 日	8,376 人	(93.5%)	8,960 人
			計画	5 回	4 日	7,600 人	(84.8%)	8,960 人
「ホフマン物語」(新制作)		10/30(金) ～11/3(火・祝)	実績	5 回	4 日	5,861 人	(65.4%)	8,960 人
			計画	5 回	5 日	6,700 人	(74.8%)	8,960 人
「くるみ割り人形」		12/19(土) ～27(日)	実績	8 回	6 日	13,627 人	(95.1%)	14,336 人
			計画	8 回	6 日	12,100 人	(84.4%)	14,336 人
ニューイヤー・バレエ		1/9(土) ～10(日)	実績	2 回	2 日	3,279 人	(91.5%)	3,584 人
			計画	2 回	2 日	3,000 人	(83.7%)	3,584 人
「ラ・シルフィード」/「Men Y Men」(新制作)	2/6(土) ～11(木・祝)	実績	4 回	3 日	4,504 人	(62.8%)	7,168 人	
		計画	4 回	4 日	5,000 人	(69.8%)	7,168 人	
【バレエ公演 小 計】	6 公演 (計画:6 公演)	実績	29 回	23 日	40,759 人	(78.4%)	51,968 人	
		計画	29 回	25 日	40,200 人	(77.4%)	51,968 人	

こどものためのバレエ劇場「シンデレラ」	オペラ劇場	7/22(水) ～25(土)	実績	8回	4日	9,817人	(95.7%)	10,254人
			計画	8回	4日	7,200人	(74.5%)	9,664人
【バレエ鑑賞教室 小 計】			1公演 (計画:1公演)		実績	8回	4日	9,817人 (95.7%)
					計画	8回	4日	7,200人 (74.5%)
【バレエ 合 計】			7公演 (計画:7公演)		実績	37回	27日	50,576人 (81.3%)
					計画	37回	29日	47,400人 (76.9%)

2. 営業・広報

- 個別演目について、マスコミ各社への情報提供、取材依頼、ポスター、チラシ、DM、ジ・アトレ会報誌、インターネット等により公演周知を行った。
- ホームページ及びSNS (Facebook、Twitter) にて画像、動画、文章を用いて、公演前には過去の公演、リハーサル風景、出演者のインタビューを、公演開始後には舞台写真等を掲載し、興味を喚起した。また、新国立劇場バレエ団ブログにより、継続的に情報を発信した。
- 新たに新国立劇場バレエ団WEBサイトをリニューアルし、アクセス数の増加を図るとともにブランド力の向上に努めた。
- 「白鳥の湖」「ホフマン物語」「くるみ割り人形」「こどものためのバレエ劇場『シンデレラ』」については特設サイトを開設し、より見やすいデザインにするとともに詳しく内容を紹介した。
- eメールClub (メールマガジン) 登録者に対しては、発売直前に発売情報と見どころ等を、バレエ/ダンスDMメンバー登録者に対しては、一般発売に先駆けた先行発売の実施を、また両登録者に対して、公演直前に舞台稽古の状況等を、それぞれホームページやSNS (Facebook、Twitter) と連動させつつ連続して発信し、興味喚起と勧誘に努めた。
- 空席がある場合の若年層向け特別優待制度「アカデミック・プラン」「ジュニア・アカデミックプラン」を実施した。
- 「ホフマン物語」「ラ・シルフィード/Men Y Men」において舞台上でのバレエ団クラスレッスン見学会を行い、観客サービス向上に努めた。また首都圏のバレエ教室にクラスレッスン見学付きチケットの販売を行い売上に寄与した。
- こどものためのバレエ劇場「シンデレラ」において、首都圏のバレエ・ダンス教室や東京都私立初等学校協会加盟校や劇場近隣の幼稚園、小学校、さらに同地区内の児童館にチラシを配布した。
- こどものためのバレエ劇場「シンデレラ」は、現代舞踊 森山開次「サーカス」及び演劇「かがみのかなたはたなかのなかに」とのチケットを組み合わせた親子で楽しむ「夏のこども劇場セット」を企画し、特設サイトや動画でのプロモーション、3公演合同の制作発表を行い、こどものためのバレエ公演としては過去最高の入場者数 (9,817人) を記録した。3公演フルセットを248セット、2公演セットを724セット、合計972セットを販売した。
- カード会社、生活協同組合などに対して団体販売を行った。また、出演者や旅行代理店、企業、高等学校、大学等に対し、積極的に営業活動を行った。
- 「ホフマン物語」において制作発表を行った (21社34名)。
- 「くるみ割り人形」ではSNSやメール等、インターネットを積極的に活用した営業、広報により、バレエ公演としては過去最高の入場者数 (13,627人) を達成した。

3. 外部専門家等の意見

- 専門委員に各公演についてのレポートを依頼し、意見の聴取を行った。また、総括レポートの提出を半期ごとに依頼し、自己点検評価の総括に活かした。

4. アンケート調査

全7公演で実施 (12回) した。

回答数4,165人 (配布数13,693人、回収率30.4%)。回答者の96.0%が概ね満足と答えた (3,997人)。

【特記事項】

- 平成27年度 (第70回) 文化庁芸術祭主催公演 (「ホフマン物語」)
- 「くるみ割り人形」で各公演の終演後に主演ダンサーによる握手会を開催した。
- 新国立劇場バレエ団プリンシパル小野絢子が、第38回橘秋子賞優秀賞を受賞した。

- ・ 新国立劇場バレエ団ファースト・ソリスト奥村康祐が、第22回中川鋭之助賞を受賞した。

《数値目標の達成状況》

【目標入場者数の達成状況】

実績 50,576 人 / 目標 47,400 人 (達成度 106.7%)

《自己点検評価》

○ 自己評定

B

(根拠)

- ・ 7公演を計画どおり実施した。入場者数については目標値を上回った。
 - ・ 古典作品から現代作品まで幅広いレパートリーを、いずれも極めて高い水準で上演し、評論家、外部専門家、観客から高い評価を得た。(アンケート満足回答率96.0%)
 - ・ 「くるみ割り人形」では、SNS等を活用した宣伝広報により、バレエ公演として過去最高の入場者数を達成した。
 - ・ 現代舞踊・演劇の公演とあわせて「夏のこども劇場セット」を企画し、3公演合同の制作発表や特設サイト開設など積極的な広報・営業活動により、こどものためのバレエ劇場「シンデレラ」では、こどもバレエ公演としては過去最高の入場者数を達成した。
 - ・ 4月「こうもり」6月「白鳥の湖」10月「ホフマン物語」12月「くるみ割り人形」などに主演した新国立劇場バレエ団プリンシパル小野絢子の優れた踊りが高く評価され、第38回橘秋子賞優秀賞を受賞した。(授賞理由：プティ振付の「こうもり」、ダレル振付の「ホフマン物語」をはじめ、「白鳥の湖」「ライモンダ」「くるみ割り人形」などで、それぞれの見どころを際立たせる優れた踊りを見せ、トップに立つ者の存在感を示した。その年間の成果に対して。)
 - ・ 6月「白鳥の湖」12月「くるみ割り人形」、2月「ラ・シルフィード」に主演した新国立劇場バレエ団ファースト・ソリスト奥村康祐の優れた踊りが高く評価され、第22回中川鋭之助賞を受賞した。
- 良かった点・特色ある点
- ・ 入場者数について、目標入場者数を超える実績を達成した。
 - ・ 古典作品から現代作品まで幅広い演目を上演し、そのいずれも極めて高い水準であり、評論家、外部専門家、観客から極めて高い評価を得た(アンケート満足回答率96.0%)。
 - ・ 学校等への積極的な営業活動により、こどものためのバレエ公演として過去最高の入場者数を達成した。
 - ・ 積極的な若手の抜擢やスタッフの徹底指導により、新国立劇場バレエ団のソリストやコール・ド・バレエの技術や表現力が飛躍的に向上し、外部専門家等からも高い評価を得た。
- 見直し又は改善を要する点
- ・ 有名古典作品以外については引き続き有効な広報宣伝活動が必要であり、今後は動画配信やインターネット広告の活用等により、公演内容の周知・興味喚起を図っていきたい。

<3> 現代舞踊

《制作方針》

特徴あるスタイルを持つ振付家による新国立劇場ならではの斬新な企画で、ダンスが持つ自由な発想や身体表現の可能性を追求するとともに、新国立劇場バレエ団内から振付者を輩出する企画を通じて、現代舞踊の裾野を広げる。

《主要な業務実績》

1. 公演実績

- ・ 4公演を計画どおり実施
- ・ 新国立劇場の現代舞踊公演で初めて家族で楽しめる公演を企画（森山開次「サーカス」）
- ・ 現代舞踊公演全体で目標入場者数を達成（達成度 122.6%）
- ・ 森山開次「サーカス」では現代舞踊公演で過去最高の入場者数（3,132人）を達成

2. 営業・広報

- ・ 画像、動画等を多用したホームページ及び SNS（Facebook、Twitter）の活用により、興味を喚起
- ・ こどものためのバレエ劇場「シンデレラ」、現代舞踊「サーカス」、演劇「かがみのかなたはたなかのなかに」のチケットを組み合わせた家族で楽しむ「夏のこども劇場セット」を販売

3. 外部専門家等の意見

- ・ 専門委員に各公演についてのレポートを依頼し意見を聴取、後の事業運営に活用

4. アンケート調査

- ・ 全4公演で実施（5回）、満足回答率 94.5%

《業務実績詳細》

1. 公演実績

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数
森山開次「サーカス」	小劇場	6/20(土) ～28(日)	実績	10回	8日	3,132人	(90.0%)	3,480人
			計画	8回	6日	2,000人	(77.2%)	2,592人
近松 DANCE 弐題		10/9(金) ～18(日)	実績	6回	6日	1,673人	(82.0%)	2,040人
			計画	6回	6日	1,400人	(71.6%)	1,956人
DANCE to the Future 2016	中劇場	3/12(土) ～13(日)	実績	2回	2日	1,091人	(69.2%)	1,576人
			計画	2回	2日	850人	(53.9%)	1,576人
平山素子「Hybrid -Rhythm & Dance」		3/25(金) ～27(日)	実績	3回	3日	1,401人	(59.3%)	2,364人
			計画	3回	3日	1,700人	(71.9%)	2,364人
【現代舞踊 合計】	4公演（計画:4公演）	実績	21回	19日	7,297人	(77.1%)	9,460人	
		計画	19回	17日	5,950人	(70.1%)	8,488人	

2. 営業・広報

- ・ 個別演目について、マスコミ各社への情報提供、取材依頼、ポスター、チラシ、DM、ジ・アトレ会報誌、インターネット等により公演周知を行った。
- ・ ホームページ及び SNS（Facebook、Twitter）にて画像、動画、文章を用いて、公演前には過去の公演、リハーサル風景、出演者のインタビューを、公演開始後には舞台写真を掲載し、興味を喚起した。
- ・ eメール Club（メールマガジン）登録者に対し、発売直前に発売情報と見どころ等を、公演直前に舞台稽古の状況等を、公演開始後にお客様の感想等を、それぞれホームページや SNS（Facebook、Twitter）と連動させつつ連続して発信し、興味喚起と勧誘に努めた。

- ・ 「夏のこども劇場セット」(こどものためのバレエ劇場「シンデレラ」、森山開次「サーカス」、「かがみのかなたはたなかのなかに」) 販売を行い、3公演フルセットを248セット、2公演セットを724セット、合計972セットを販売した。
- ・ 「夏のこども劇場セット」のほか、特設サイトの開設や動画でのプロモーション、3公演合同の制作発表を行うとともに、早期の販売促進に努めたことにより、一般販売後に短期間で完売したため追加公演を実施した。結果、森山開次「サーカス」では、現代舞踊公演で過去最高の入場者数(3,132人)を達成した。
- ・ アカデミック・プランを実施し、学生及び若年層の集客に努めた。

3. 外部専門家等の意見

- ・ 専門委員に各公演についてのレポートを依頼し、意見の聴取を行った。また、総括レポートの提出を半期ごとに依頼し、自己点検評価の総括に生かした。

4. アンケート調査

全4公演で実施(5回)した。

回答数530人(配布数1,909人、回収率27.8%)。回答者の94.5%が概ね満足と答えた(501人)。

《数値目標の達成状況》

【目標入場者数の達成状況】

実績7,297人/目標5,950人(達成度122.6%)

《自己点検評価》

○ 自己評定

A

(根拠)

- ・ 4公演を計画どおり実施した。入場者数については目標値を大きく上回った。
- ・ いずれの公演も、画期的で多彩な企画内容と高い水準に外部専門家や観客から極めて高い評価を得た(アンケート満足回答率94.5%)。
- ・ バレエ・演劇の公演とあわせて「夏のこども劇場セット」を企画し、3公演合同の制作発表や特設サイト開設など積極的な広報・営業活動により、森山開次「サーカス」は、現代舞踊公演で過去最高の入場者数を達成した。
- ・ 新国立劇場の現代舞踊公演で初めて企画した家族で楽しめる作品として、森山開次「サーカス」では、現代作品に馴染みの少ない多くの観客を勧誘することができ、芸術文化の普及に大いに貢献できた。
- ・ 近松門左衛門をキーワードに他ジャンルのアーティストとコラボレーションした「近松DANCE式題」では、フラメンコや日本舞踊の観客を勧誘できた。
- ・ 新国立劇場バレエ団を活用した「DANCE to the Future 2016」では未来の振付家育成が確実に進んでいる。また、アンケート結果の比較から、多くのバレエの観客層を現代舞踊公演に勧誘できたのも新国立劇場ならではの成果と言える。「現代舞踊は理解しにくい」という先入観をなくす多彩なラインナップを高い水準で実施できた。

○ 良かった点・特色ある点

- ・ 森山開次「サーカス」では、早期の販売促進に努めた結果、一般発売後に短期間で完売したため、追加公演を実施した。追加公演を含めた入場者数は目標を大きく上回る成果があり(達成率156.6%)、現代舞踊では公演過去最高の入場者数を達成した。
- ・ 家族で楽しめる「サーカス」では現代作品に馴染みの少ない多くの観客を取り込むことができ、芸術文化の普及に多いに貢献できた。近松門左衛門をキーワードにした他ジャンルのアーティストとのコラボレーション作品では、フラメンコや日本舞踊の観客を勧誘できた。さらに、新国立劇場バレエ団を活用した「DANCE to the Future 2016」では、未来の振付家育成が確実に進んでいる。バレエの観客を現代舞踊公演に勧誘できたのも新国立劇場ならではの成果と言える。「現代舞踊は理解しにくい」という先入観をなくす、多彩なラインナップを高い水準で実施できた。

<4> 演劇

《制作方針》

① 新作の上演

現代舞台芸術とは常に時代と向き合うものであるという視点から、独自の新作上演を積極的に企画し、発信する。

② 海外の才能との積極的な交流

広く才能のある海外の演劇人や集団との共同作業により、現代演劇として意義のある優れた作品を企画し、上演する。

《主要な業務実績》

1. 公演実績

- ・ 8公演を計画どおり実施
- ・ 演劇公演全体で、目標入場者数を達成（達成度 119.5%）し、8公演中5公演で90%を超える入場率を達成、「パッション」では新国立劇場での公演、全国公演ともに追加公演を実施
- ・ 親子で楽しめる公演を企画（「かがみのかなたはたなかのなかに」）

2. 営業・広報

- ・ 画像・動画を多用したホームページ及びSNS（Facebook、Twitter）の活用により、興味を喚起
- ・ 若年層向け特別優待制度等の実施により、学生及び若年層を勧誘
- ・ 出演者のファンクラブや旅行代理店、企業、大学等に対し、公演ごとに多彩な営業活動を展開し勧誘
- ・ テーマや期間毎に3種類の通し券を販売
- ・ こどものためのバレエ劇場「シンデレラ」、現代舞踊「サーカス」及び演劇「かがみのかなたはたなかのなかに」のチケットを組み合わせた家族で楽しむ「夏のこども劇場セット」を販売

3. 外部専門家等の意見

- ・ 専門委員に各公演についてのレポートを依頼し意見を聴取、後の事業運営に活用

4. アンケート調査

- ・ 全8公演で実施（16回）、満足回答率90.2%

《実績》

1. 公演実績

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数
「ウインズロウ・ボーイ」	小劇場	4/9(木) ～26(日)	実績	16回	16日	4,114人	(78.6%)	5,236人
			計画	16回	16日	3,700人	(70.9%)	5,216人
JAPAN MEETS...—現代劇の系譜を ひもとく—X 「海の夫人」		5/13(水) ～31(日)	実績	18回	17日	5,097人	(87.9%)	5,801人
			計画	18回	17日	4,200人	(71.6%)	5,868人
「東海道四谷怪談」	中劇場	6/10(水) ～28(日)	実績	18回	17日	12,723人	(78.0%)	16,308人
			計画	18回	17日	13,000人	(79.7%)	16,308人
「かがみのかなたはたなかのなかに」	小劇場	7/6(月) ～26(日)	実績	26回	19日	7,677人	(90.2%)	8,508人
			計画	26回	19日	7,000人	(82.6%)	8,476人
「パッション」(日本初演)	中劇場	10/16(金) ～11/8(日)	実績	25回	21日	21,656人	(95.6%)	22,650人
			計画	23回	21日	15,200人	(72.9%)	20,838人
「桜の園」	小劇場	11/11(水) ～29(日)	実績	18回	17日	5,303人	(92.1%)	5,760人
			計画	18回	17日	4,400人	(75.0%)	5,868人
「バグダッド動物園のベンガルタイガー」(日本初演)		12/8(火) ～27(日)	実績	18回	18日	5,305人	(90.4%)	5,868人
			計画	18回	18日	4,400人	(75.0%)	5,868人

鄭義信 三部作 Vol. 1 「焼肉ドラゴン」	3/7(月) ~27(日)	実績	20回	19日	6,126人	(93.9%)	6,522人
		計画	20回	19日	5,000人	(77.2%)	6,480人
【演劇合計】	8公演(計画:8公演)	実績	159回	144日	68,001人	(88.7%)	76,653人
		計画	157回	144日	56,900人	(75.9%)	74,922人

2. 営業・広報

- ・ 個別演目について、マスコミ各社への情報提供、取材依頼、ポスター、チラシ、DM、ジ・アトレ会報誌、インターネット等により公演周知を行った。
- ・ ホームページ及び SNS (Facebook、Twitter) にて画像、動画、文章を用いて、公演前にはリハーサル風景、出演者等のインタビューを、公演開始後には舞台写真等を掲載し、興味を喚起した。
- ・ 「東海道四谷怪談」、「パッション」については、特設サイトを開設し、より強い印象を与えるデザインとともに詳しく内容を紹介し、ブログにおいてきめ細かい公演情報を提供した。
- ・ 「パッション」については、特別支援企業グループである TBS テレビの共催、TBS ラジオの後援を仰ぎ、テレビ・ラジオスポット、TBS ホームページ等で告知・取材協力を行った。TBS オンラインチケット会員等へのチケット販売の実施をはじめ各種プロモーションを実施した。
- ・ 演劇「かがみのかなたはたなかのなかに」は、こどものためのバレエ劇場「シンデレラ」及び現代舞踊 森山開次「サーカス」とのチケットを組み合わせた親子で楽しむ「夏のこども劇場セット」を企画し、特設サイトや動画でのプロモーション、3公演合同の制作発表を行い、販売促進に努めた。
- ・ 「夏のこども劇場セット」(こどものためのバレエ劇場「シンデレラ」、森山開次「サーカス」、「かがみのかなたはたなかのなかに」) 販売を行い、3公演フルセットを 248 セット、2公演セットを 724 セット、合計 972 セットを販売した。
- ・ eメール Club (メールマガジン) 登録者及び演劇 DM 登録者に対し、先行発売情報、発売直前に発売情報と見どころ等、公演直前に舞台稽古の状況等、公演開始後にお客様の感想等、またトークなどのイベント情報を、ホームページや Facebook と連動させつつ発信し、興味喚起と勧誘に努めた。
- ・ テーマや期間毎に 3 公演をまとめた通し券「ドラマチックな春」「濃密な時間を楽しむ」及び「時代を記録する三つの名舞台ー鄭義信三部作ー」(28 年度の公演を含む) を発売した。
- ・ 演劇鑑賞団体やカード会社、生活協同組合などに対して団体販売を行った。また、出演者のファンクラブや旅行代理店、企業、大学等に対し、公演ごとに多彩な切り口で積極的に営業活動を行った。
- ・ 空席がある場合の若年層向け特別優待制度「アカデミック・プラン」、外部の演劇俳優養成所等に所属する研究生を対象とした「ユース・アクターズ・プラン」を実施し、学生及び若年層の勧誘を行った。
- ・ 公演直前に空席がある場合、割引や良席などのインセンティブを付与することで販売促進に資する販売チャンネルを開拓した。
- ・ 「かがみのかなたはたなかのなかに」、「バグダッド動物園のベンガルタイガー」、「時代を記録する三つの名舞台ー鄭義信三部作ー」では、稽古場映像やインタビューを交えた高品質のプロモーションムービーを作成し、視覚的な効果を以って公演の意図を観客に訴求した。
- ・ 中劇場公演を中心に積極的な貸切営業を行い、中劇場計 6 回、小劇場 1 回を貸切公演とした。
- ・ 各プレイガイドやキュレーションサイトに大規模な販売を委託することで、インタビューなどを含めた広報の拡大を実現し、公演の売上および認知度の向上を図った。
- ・ 特定の公演で演劇 DM メンバーの積極的募集を行い、登録者数を拡大するとともに、DM メンバー募集案内の最適化を図って当劇場の演劇ファンの増加に努めた。

3. 外部専門家等の意見

- ・ 専門委員に各公演についてのレポートを依頼し、意見の聴取を行った。また、総括レポートの提出を半期ごとに依頼し、自己点検評価の総括に生かした。

4. アンケート調査

8 公演で実施 (16 回) した。

回答数 1,164 人 (配布数 5,682 人、回収率 20.5%)。回答者の 90.2%が概ね満足と答えた (1,050 人)。

【特記事項】

- ・ 平成 27 年度 (第 70 回) 文化庁芸術祭主催公演 (「桜の園」)

- ・ 平成 27 年度（第 70 回）文化庁芸術祭協賛公演（「パッション」）

《数値目標の達成状況》

【目標入場者数の達成状況】

実績 68,001 人／目標 56,900 人（達成度 119.5%）

《自己点検評価》

○ 自己評定

A

（根拠）

- ・ 8 公演を計画どおり実施した。入場者数については目標値を大きく上回った。
 - ・ 主要キャストも含め新国立劇場演劇研修所の修了生を多く起用した「ウィンズロウ・ボーイ」、独創的で知的な魅力が溢れ、これまで日本で上演されていなかった「パッション」の日本初演、現代世界の紛争に題材をおいて描くシリーズ「バグダッド動物園のベンガルタイガー」、新国立劇場のために書き下ろされた作品の連続再演第 1 作目の「焼肉ドラゴン」など、新国立劇場ならではの多彩かつ意欲的な企画による公演が高い水準で上演された。外部専門家や評論家、観客から高い評価を得た（アンケート満足回答率 90.2%）。
 - ・ バレエ、現代舞踊の公演とあわせて「夏のこども劇場セット」を企画した「かがみのかなたはたなかのなかに」は、「こども優先エリア」の設置などにより、公演の企画意図通り子どもの入場者を得ることができた。
 - ・ 「パッション」は入場率が 95%を超え、全国公演ともに追加公演を実施した。
- 良かった点・特色ある点
- ・ 「ウィンズロウ・ボーイ」では主要キャストを含め研修所修了生を多数起用して上演した。
 - ・ 「かがみのかなたはたなかのなかに」は、一般発売日に先駆けて、こども優先発売日（同伴の大人も購入可）を設けるとともに、客席前方（舞台から 3 列目まで）を「こども優先エリア」とし、こどもチケットを優先的に販売した結果、公演の企画意図の通り、こどもの来場者を得ることができた。
 - ・ 「パッション」は入場率が95%を超え入場者数（達成率142.5%）、公演収入（収支達成率160.4%）ともに目標を大きく上回る成果があり、全国公演ともに追加公演を実施した。

2-(2)-② 現代舞台芸術の公演に際しての留意事項等

《主要な業務実績》

1. 外部専門家等の意見聴取、アンケート調査の実施
 - ・ 各分野において専門委員に公演ごとのレポートを依頼し意見を聴取、後の事業運営に活用
 - ・ 全 30 公演 49 回でアンケート調査を実施、満足回答率 90.3%
2. 共催、受託などによる公演
 - ・ 文化庁芸術祭主催公演 3 公演、協賛公演 3 公演を実施
 - ・ 地域招聘公演（オペラ 1 公演）を実施
 - ・ 大学との積極的な連携、協力を実施
3. 全国各地の文化施設等における公演
 - ・ オペラ 2 公演、バレエ 2 公演、現代舞踊 1 公演、演劇 4 公演、合計 9 公演を実施
 - ・ 演劇研修所公演 1 公演を実施
 - ・ 合唱団は 14 の外部公演に出演（1 公演中止）
 - ・ 「劇場、音楽堂等の活性化に関する法律」をふまえ、地域の公立文化施設に技術者を講師として派遣する等、連携を強化
 - ・ 公益社団法人劇場演出空間技術協会、劇場・音楽堂等連絡協議会、公共劇場舞台技術者連絡会、公益社団法人日本照明家協会等と連携しフォーラムを開催
4. 国際文化交流公演等
 - ・ 海外劇場等との情報交換や訪問受入れによる文化交流の実施
 - ・ 在日各国大使のオペラ・バレエ鑑賞プログラムの実施

《業務実績詳細》

1. 外部専門家等の意見聴取、アンケート調査の実施
 - ① 外部専門家等の意見聴取

各部門の専門委員に各公演についてのレポート提出を依頼し、意見の聴取を行った。
また、総括レポートの提出を半期ごとに依頼し、自己点検評価の総括に活かした。
 - ② アンケート調査の実施

分野	実施回数	回答数	回収率(配布数)	概ね満足との回答 (回答数)
オペラ	11 公演 16 回	6,802 人	30.1%(22,612 人)	86.6%(5,890 人)
バレエ	7 公演 12 回	4,165 人	30.4%(13,693 人)	96.0%(3,997 人)
現代舞踊	4 公演 5 回	530 人	27.8%(1,909 人)	94.5%(501 人)
演劇	8 公演 16 回	1,164 人	20.5%(5,682 人)	90.2%(1,050 人)
合 計	30 公演 49 回	12,661 人	28.8%(43,896 人)	90.3%(11,438 人)

2. 共催、受託などによる公演
 - (1) 平成 27 年度（第 70 回）文化庁芸術祭

区分	公演名
主催 公演	オペラ劇場：オペラ「ラインの黄金」、バレエ「ホフマン物語」 小劇場：演劇「桜の園」
協賛 公演	オペラ劇場：オペラ「トスカ」 中劇場：演劇「パッション」 小劇場：現代舞踊「近松 DANCE 弐題」

(2) 国・地方公共団体等との後援・協力

(オペラ)

・地域招聘公演

長崎県オペラ協会 オペラ「いのち」

7月25日・26日、2回、新国立劇場中劇場

主催：長崎県／オペラ「いのち」公演実行委員会／新国立劇場

入場者数：1,635名（入場率90.2%）

(3) 大学との連携・協力

- ・東京藝術大学、学校法人武蔵野音楽学園（武蔵野音楽大学）、国立音楽大学、東京音楽大学、大阪音楽大学、桐朋音楽大学、北海道教育大学、昭和音楽大学、学校法人洗足学園（洗足学園音楽大学）と、連携・協力に関する協定を締結しており、新たに東京学芸大学、東邦音楽大学とも協定を締結した。
- ・オペラ劇場の舞台において、大学声楽科学生の実習が行われた（東京藝術大学、昭和音楽大学）。
- ・大学からのインターンシップ生の受入れを行ったほか、大学のアートマネジメントに関する講義等に、講師として新国立劇場職員を派遣した（東京藝術大学、昭和音楽大学、国立音楽大学ほか）。

3. 全国各地の文化施設等における公演

(1) オペラ

① 高校生のためのオペラ鑑賞教室・関西公演「蝶々夫人」

10月27日・28日、2回、尼崎市総合文化センター あましんアルカイックホール

主催：尼崎市、公益財団法人尼崎市総合文化センター、公益財団法人新国立劇場運営財団

入場者数：3,507人

② 高校生のためのオペラ音楽セレクション

ロームシアター京都 オープニング・プレ事業 京都コンサートホール開館20周年記念

10月22日、1回、京都コンサートホール 大ホール

主催：京都市／公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団

共催：公益財団法人新国立劇場運営財団

入場者数：801人

(2) バレエ

① 「白鳥の湖」

7月4日、1回、茅ヶ崎市民文化会館大ホール

主催：公益財団法人茅ヶ崎市文化・スポーツ振興財団

入場者数：818人

② こどものためのバレエ劇場「シンデレラ」

- ・9月13日、1回、出雲市民会館

主催：公益財団法人出雲市芸術文化振興財団／出雲市／出雲市教育委員会

入場者数：935人

- ・9月21日、1回、岡谷市文化会館 カノラホール 大ホール

主催：岡谷市、カノラホール（公益財団法人おかや文化振興事業団）、岡谷市教育委員会

共催：信濃毎日新聞社

入場者数：891人

- ・9月23日、1回、フェスティバルホール

主催：大阪府文化芸術創造発信事業実行委員会

（朝日新聞文化財団、朝日新聞社、大阪国際フェスティバル協会、フェスティバルホール、大阪府）

入場者数：2,532人

- ・9月26日、1回、滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール 大ホール

主催：滋賀県、公益財団法人びわ湖ホール

入場者数：1,475人

(3) 現代舞踊

① 森山開次「サーカス」

7月4日、1回、兵庫県立芸術文化センター 阪急 中ホール

主催：兵庫県、兵庫県立芸術文化センター

入場者数：751人

(4) 演劇

- ① 「海の夫人」
6月6日、1回、兵庫県立芸術文化センター 阪急 中ホール
主催：兵庫県、兵庫県立芸術文化センター
入場者数：737人
- ② 「東海道四谷怪談」
7月1日・2日、3回、兵庫県立芸術文化センター 阪急 中ホール
主催：兵庫県、兵庫県立芸術文化センター
入場者数：1,550人
- ③ こころで聴く三島由紀夫IVリーディング「道成寺」
7月12日、1回、山中湖村公民館
主催：山中湖文学の森三島由紀夫文学館、山中湖村教育委員会
入場者数：88人
- ④ 「パッション」
11月13日～15日、5回、兵庫県立芸術文化センター 阪急 中ホール
主催：兵庫県、兵庫県立芸術文化センター
入場者数：3,161人

(5) 演劇研修所公演

- ① 朗読劇「少年口伝隊一九四五」
8月2日、1回、沖縄県立博物館・美術館 博物館講堂
主催：戦後70年企画

(6) 新国立劇場合唱団外部出演公演

- ① 東京フィルハーモニー交響楽団定期演奏会 <中止、延期>
4月19日Bunkamura オーチャードホール、20日サントリーホール、22日東京オペラシティコンサートホール、3回
主催：公益財団法人東京フィルハーモニー交響楽団
- ② 東京フィルハーモニー交響楽団 プッチーニ「トゥーランドット」
5月17日Bunkamura オーチャードホール、18日サントリーホール、2回
主催：公益財団法人東京フィルハーモニー交響楽団
- ③ 全国共同制作プロジェクト モーツァルト歌劇「フィガロの結婚」～庭師は見た！～
5月26日金沢歌劇座、30・31日フェスティバルホール、6月6・7日兵庫芸術文化センターKOBELCO大ホール、10日サンポートホール高松大ホール、17日ミュウザ川崎シンフォニーホール、10月22日～24日東京芸術劇場コンサートホール、29日山形テルサ テルサホール、11月1日名取市文化会館大ホール、8日メディキット県民文化センター、14日熊本県立劇場演劇ホール、14回
主催：全国共同制作プロジェクト
- ④ 読売日本交響楽団定期演奏会 マラー「交響曲第3番」
6月5日サントリーホール、7日文京シビックホール、2回
主催：読売新聞社、日本テレビ放送網、読売テレビ、読売日本交響楽団
- ⑤ 小山市内高等学校音楽鑑賞会
7月10日、2回、小山市立文化センター
主催：小山市内高等学校（2校合同開催）
- ⑥ サントリーサマーフェスティバル B.A. ツインマーマン「ある若き詩人のためのレクイエム」
8月23日、1回、サントリーホール
主催：サントリー芸術財団
- ⑦ 読売日本交響楽団定期演奏会 ワグナー「トリスタンとイゾルテ」
9月6日・13日サントリーホール、2回
主催：読売新聞社、日本テレビ放送網、読売テレビ、読売日本交響楽団
- ⑧ 平成27年度文化芸術による子供の育成事業
9月7日～12月4日、19回、神奈川県及び中部各県の小・中学校内体育館
主催：文化庁
- ⑨ 東京フィルハーモニー交響楽団定期演奏会 リムスキー＝コルサコフ／歌劇「不死身のカッシェイ」
10月9日、1回、東京オペラシティコンサートホール
主催：公益財団法人東京フィルハーモニー交響楽団
- ⑩ アニソンアカデミー×ブラボー！オーケストラ「アニ・オケ！クラシック～”ネ申曲”降臨～」

10月16日、1回、NHKホール

主催：NHK

⑪ 明星学園音楽鑑賞会

11月6日、明星学園体育館

主催：明星学園

⑫ 読売交響楽団 ベートーヴェン「交響曲第9番『合唱付き』」

12月18日サントリーホール、19日東京芸術劇場、20日横浜みなとみらいホール、22日サントリーホール、24日東京オペラシティコンサートホール、25日東京芸術劇場、26日ザ・シンフォニーホール、7回

主催：読売新聞社、日本テレビ放送網、読売テレビ、公益財団法人読売日本交響楽団

⑬ 日韓国交正常化50周年記念 日韓友情「歓喜の第九」合同演奏会

12月26日、1回、Bunkamura オーチャードホール

主催：公益財団法人東京フィルハーモニー交響楽団、ソウル・フィルハーモニー管弦楽団

⑭ 第59回ニューイヤーパーオペラコンサート

1月3日、1回、NHKホール

主催：日本放送協会、NHKプロモーション

⑮ 平成27年度文化庁劇場・音楽堂等活性化事業（共同制作支援事業）

ワグナー歌劇「さまよえるオランダ人」

3月5日・6日びわ湖ホール大ホール、19日・20日神奈川県民ホール、26日 iichiko 総合文化センター iichiko グランシアタ、5回

主催：公益財団法人びわ湖ホール、神奈川県民ホール（公益財団法人神奈川県芸術文化財団）、公益財団法人大分県芸術文化スポーツ振興財団、公益財団法人東京二期会、公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団、公益財団法人神奈川県フィルハーモニー管弦楽団、公益財団法人九州交響楽団

(7) 地方との連携強化

- ・ 全国公演の際、制作及び技術職員間で情報交換を行った。
- ・ 新しい会館や地方自治体の職員を対象に、バックステージツアーや研修を行った。
- ・ 「劇場、音楽堂等の活性化に関する法律」をふまえ、地域の公立文化施設に技術者を講師として派遣する等、連携を強化した。
- ・ 公益社団法人劇場演出空間技術協会、劇場・音楽堂等連絡協議会、公共劇場舞台技術者連絡会、公益社団法人日本照明家協会等と連携しフォーラムを開催した。
- ・ 地方の公立文化施設で開催された技術職員研修会等へ講師を派遣した。

4. 国際文化交流公演等

(1) 海外劇場等との交流

- ・ 海外の劇場との情報交換に努め、また海外より当劇場訪問の際には劇場見学、質疑応答など交流の進展を図った。
- ・ 武蔵野美術大学デザインラウンジ共同企画「劇場から学ぶ、クリエイティブ・リーダーシップ」においてフィンランド国立歌劇場総裁・フィンランドセンター所長を講師に招き、武蔵野美術大学学長とのトークイベントを開催した（参加者数92名）。
- ・ 「椿姫」上演に際し、文化学園大学と連携し、演出家・衣裳スタッフによる衣裳に関する特別講義を実施した（参加者数200名）。

(2) 海外からの訪問受入れ

- ・ 海外から劇場関係者など9カ国12団体60名の訪問受入れを行った。
主な来場者：英国ナショナル・シアター・ウェールズ関係者、上海文化広場関係者、アスタナ国立バレエ団ディレクター、中国対外演出公司院線研修団、上海交響楽団音楽ホール関係者、台湾国家両劇院関係者、ポリショイ・ドラマ劇場芸術監督、韓国国立劇団関係者、フィンランド・サヴォンリナ・フェスティバル総裁、オーストラリア・シドニーオペラハウス関係者ほか

(3) 在日各国大使のオペラ・バレエ鑑賞プログラム

- ・ 「在日各国大使のオペラ・バレエ鑑賞プログラム」を実施し、新国立劇場が内外で高い評価を受けるオペラ専門劇場を有しており、質の高いオペラ・バレエを制作し、上演していることを国際的に発信した。また、芸術・文化面における新たな観点からの日本に対する理解の増進を図り、国際交流の振興に寄与した。実施公演と参加国（大使／大使館文化担当官・文化機関）は以下のとおり。

- ① オペラ「椿姫」5月10日（10ヶ国／4ヶ国）

② バレエ「ホフマン物語」10月31日（10ヶ国／2ヶ国）

【特記事項】

- ・ 文化庁芸術祭主催公演「ラインの黄金」に皇太子同妃両殿下の行啓があった。
- ・ 新国立劇場合唱団外部出演公演として、4月19～22日に予定されていた東京フィルハーモニー交響楽団定期演奏会 グリーグ／劇付随音楽「パール・ギュント」全曲＜字幕付＞は中止、延期となった。

《自己点検評価》

○自己評定

B

(根拠)

- ・ 国内外の劇場等と良好な協力関係を築き、共催、受託などによる公演を積極的に実施した。全国公演については計画を上回る公演数となった。
 - ・ 「劇場、音楽堂等の活性化に関する法律」を踏まえた全国の公立文化施設等との交流に積極的に取り組んだ。
- 良かった点・特色ある点
- ・ 主催公演全30公演でアンケート調査を実施し、多くの観客の声を収集することができた。
 - ・ 全国公演の展開に精力的に取り組んでおり、27年度については、年度計画を上回る公演数となった。
 - ・ 「劇場、音楽堂等の活性化に関する法律」を踏まえた全国の公立文化施設等との交流に積極的に取り組んだ。
 - ・ 全国公演と合わせて、バレエ団員によるワークショップ等、公演に関連したイベントの拡充を行い、現代舞台芸術の普及に努めた。
- 見直し又は改善を要する点
- ・ 全国公演は新国立劇場の重要な使命であり、積極的に拡大に取り組んでいるところであるが、職員の負担も大きいと、限られた人員でより大きな効果を出せるよう引き続き検討していきたい。

I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するため とるべき措置

伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

青少年等を対象とした公演

青少年等を対象とした公演 p.78

- └─ 伝統芸能分野 p.79
- └─ 現代舞台芸術分野 p.85

快適な観劇環境の形成

快適な観劇環境の形成 p.88

- └─ 快適で安全な観劇環境の提供、外国人利用者への対応 p.91
- └─ 多様な購入方法の提供によるチケット販売の促進 p.94
- └─ 公演内容等の理解促進のための取組 p.95
- └─ 意見・要望等の把握と対応 p.97

広報・営業活動の充実

広報・営業活動の充実 p.99

- └─ 効果的な広報・営業活動の展開 p.103
- └─ 会員組織の運営、会員向けサービスの充実 p.108

劇場施設の使用効率の向上等

劇場施設の使用効率の向上等 p.112

2-(3) 青少年等を対象とした公演

《中期計画の概要》

2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

(3) 青少年等を対象とした公演

- ア 青少年を対象とした伝統芸能公演を年間 6 公演程度実施
社会人や親子を対象とする入門企画の実施
各公演等の連携協力の強化
- イ 青少年を対象とした現代舞台芸術公演を年間 3 公演程度実施
各公演の連携協力の強化

《年度計画の概要》

2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

(3) 青少年等を対象とした公演

- ア 伝統芸能を次世代に伝え、新たな観客層の育成を図るため、主に青少年を対象とした公演を別表 3 のとおり実施
社会人や親子等を対象とした入門企画を別表 4 のとおり実施
各公演等の連携協力を強化
- イ 青少年等が現代舞台芸術に触れる機会を確保し、新たな観客層の育成と現代舞台芸術の普及を図るため、主に青少年を対象とした公演を別表 3 のとおり実施し、親子でも楽しめるよう工夫
各公演の連携協力を強化

<1> 伝統芸能分野

《制作方針》

伝統芸能を次世代に伝え、新たな観客層の育成を図るため、中高生をはじめ青少年を対象とした入門公演を実施する。また、日頃伝統芸能に触れる機会の少ない社会人等を対象とした公演や、親子を対象とした公演を実施する。

本館では、歌舞伎鑑賞教室を実施し、6月には鑑賞教室としては32年ぶりとなる義太夫狂言の人気作「壺坂霊験記」を、7月は義太夫狂言の名作として人気の高い「義経千本桜」を取り上げ、解説を付して歌舞伎の継承、普及を図る。また、文楽鑑賞教室では、文楽の保存と振興のため、名作の上演に留まらず、上演頻度が少ない演目や場面等を積極的に取り上げているが、今回は「三十三間堂棟由来」に初段をつけて筋立てを理解しやすくするとともに、実演を交えた解説を付け鑑賞の一助とする。なお、各教室において開演時間を遅くした社会人のための公演を上演するほか、夏休み期間には、割安な親子セット料金を設定した「親子で楽しむ歌舞伎教室」を上演する。さらに、伝統芸能に親しみを感じてもらえるよう新たに企画した〈伝統芸能の魅力〉シリーズを継続し、舞踊・邦楽・雅楽・声明の4ジャンルを上演する。

演芸場では、寄席及び寄席で上演される大衆芸能（落語、太神楽曲芸、マジック、コント等）を子供たちに知ってもらうため、夏休み期間中に解説付きの公演「親子で楽しむ演芸会」を実施する。

能楽堂では、6月には能楽鑑賞教室を実施し、筋が分かりやすい狂言「寝音曲」、出演各役が活躍する人気曲の能「船弁慶」に、学生が体験出演する解説を付け、学生が親しみを持てるよう配慮する。8月には親子向けの公演「親子で楽しむ能の会」「親子で楽しむ狂言の会」と仕事帰りの社会人向けの公演「働く貴方に贈る」を実施し、初心者への啓発、普及の公演とする。

文楽劇場では、6月に文楽鑑賞教室を実施し、分かりやすい演目に学生・生徒が体験出演する解説を付け、親しみを持てるように配慮する。また公演中の2回を「社会人のための文楽入門」として夜公演とし、勤め帰りに気軽に文楽鑑賞を体験できるよう工夫する。7、8月の夏休み文楽特別公演の第一部「親子劇場」では、親子で楽しめるよう、新作も含めた作品の上演を試みる。

国立劇場おきなわでは、新たな普及公演として4月に「はじめての琉球舞踊」、9月に「沖縄芝居鑑賞教室」を実施する。また、6月には社会人、8月には親子を対象とした「組踊鑑賞教室」を引き続き上演する。11月には、主に中高生を対象とした「組踊鑑賞教室」を実施し、昨年度から引き続き解説を交えて構成した新作組踊を上演し、組踊の理解を深める工夫を行う。

《主要な業務実績》

1. 主に青少年を対象とした公演

- ・ 歌舞伎鑑賞教室 2 公演、文楽鑑賞教室 2 公演（本館、文楽劇場）、能楽鑑賞教室 1 公演、組踊鑑賞教室 1 公演、沖縄芝居鑑賞教室【新規】1 公演、合計 7 公演を計画どおり実施

2. 社会人や親子等を対象とした入門企画・公演

（本館）

- ・ 6月と7月の歌舞伎鑑賞教室で「社会人のための歌舞伎鑑賞教室」を、7月歌舞伎鑑賞教室で「親子で楽しむ歌舞伎教室」を実施
- ・ 国立劇場で初めての外国人のための歌舞伎鑑賞教室「Discover KABUKI」を実施【新規】
- ・ 12月文楽鑑賞教室で「社会人のための文楽鑑賞教室」を実施
- ・ 6月特別企画公演〈伝統芸能の魅力〉で「雅楽を楽しむ」「声明を楽しむ」「日本舞踊を楽しむ」「邦楽を楽しむ」を実施

（演芸場）

- ・ 7月特別企画公演「親子で楽しむ演芸会」を実施

（能楽堂）

- ・ 8月企画公演で「夏休み親子で楽しむ能の会」「働く貴方に贈る」「夏休み親子で楽しむ狂言の会」を実施

（文楽劇場）

- ・ 6月文楽鑑賞教室で「社会人のための文楽入門」を実施
- ・ 夏休み文楽特別公演の第1部を親子劇場として実施し、新作文楽を上演

（国立劇場おきなわ）

- ・ 普及公演で、4月「はじめての琉球舞踊」【新規】、6月「社会人のための組踊鑑賞教室」、8月「親子のための組踊鑑賞教室」を実施

1. 公演実績

(1) 主に青少年を対象とした公演(再掲)

公演名		劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数
歌舞伎	6月歌舞伎鑑賞教室 解説「歌舞伎のみかた」 「壺坂靈験記」	本館 大劇場	6/2(火) ~24(水)	実績	46回	23日	56,647人	(81.0%)	69,920人
				計画	46回	23日	53,100人	(75.9%)	69,920人
	7月歌舞伎鑑賞教室 解説「歌舞伎のみかた」 「義経千本桜」		7/3(金) ~24(金)	実績	44回	22日	66,295人	(99.1%)	66,880人
				計画	44回	22日	61,400人	(91.8%)	66,880人
文楽	12月文楽鑑賞教室 「二人禿」、解説「文楽の魅力」 「三十三間堂棟由来」	本館 小劇場	12/2(水) ~14(月)	実績	24回	13日	13,132人	(98.9%)	13,272人
				計画	24回	13日	12,600人	(94.9%)	13,272人
	6月文楽鑑賞教室 「五条橋」、解説「文楽へようこそ」 、「曾根崎心中」	文楽劇場	6/5(金) ~18(木)	実績	28回	14日	20,588人	(100.6%)	20,468人
				計画	28回	14日	18,300人	(89.4%)	20,468人
能楽	6月能楽鑑賞教室 解説、狂言「寝音曲」、能「船弁慶」	能楽堂	6/22(月) ~26(金)	実績	10回	5日	6,270人	(100.0%)	6,270人
				計画	10回	5日	6,050人	(96.5%)	6,270人
組踊	沖縄芝居鑑賞教室 時代舞踊 劇「割符」	国立劇場 おきなわ 大劇場	9/17(木) ~19(土)	実績	3回	3日	1,347人	(78.2%)	1,722人
				計画	3回	3日	1,293人	(75.0%)	1,724人
	組踊鑑賞教室「花売の縁」(抜粋)		11/9(月) ~13(金)	実績	8回	5日	3,745人	(81.1%)	4,615人
				計画	8回	5日	3,459人	(75.0%)	4,611人
【伝統芸能分野 合計】 7公演 (計画:7公演)				実績	163回	85日	168,024人	(91.7%)	183,147人
				計画	163回	85日	156,202人	(85.3%)	183,145人

(2) 社会人や親子等を対象とした入門企画・公演(一部再掲)

公演名		劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数
歌舞伎	6月歌舞伎鑑賞教室 「社会人のための歌舞伎鑑賞教室」	本館 大劇場	6/12(金)	実績	1回	1日	1,062人	(69.9%)	1,520人
	6月歌舞伎鑑賞教室 「Discover KABUKIー外国人のための歌舞伎鑑賞教室ー」		6/19(金)	実績	1回	1日	1,433人	(94.3%)	1,520人
	7月歌舞伎鑑賞教室 「社会人のための歌舞伎鑑賞教室」		7/10(金)・17(金)	実績	2回	2日	2,946人	(96.9%)	3,040人
	7月歌舞伎鑑賞教室 「親子で楽しむ歌舞伎教室」		7/18(土)~ 24(金)	実績	14回	7日	21,164人	(99.5%)	21,270人
文楽	12月文楽鑑賞教室 「社会人のための文楽鑑賞教室」	本館 小劇場	12/4(金)・7(月)・ 9(水)・11(金)	実績	4回	4日	2,198人	(99.4%)	2,212人
	6月文楽鑑賞教室 「社会人のための文楽入門」	文楽劇場	6/8(月)・17(水)	実績	2回	2日	1,459人	(99.8%)	1,462人

	夏休み文楽特別公演(第1部 親子劇場) 「ふしぎな豆の木」、解説「ぶんらくつてなめに」「東海道中膝栗毛」		7/18(土)～ 8/3(月)	実績	17回	17日	10,006人	(80.5%)	12,427人
舞踊・邦楽等	6月 第3回伝統芸能の魅力「声明を楽しむ」/「邦楽を楽しむ」	本館 小劇場	6/6(土)	実績	2回	1日	964人	(81.7%)	1,180人
	6月 第4回伝統芸能の魅力「雅楽を楽しむ」/「日本舞踊を楽しむ」		6/13(土)	実績	2回	1日	801人	(67.9%)	1,180人
大衆芸能	【特別企画公演】親子で楽しむ演芸会	演芸場	7/25(土)	実績	1回	1日	296人	(98.7%)	300人
能楽	【企画公演】親子で楽しむ能の会	能楽堂	8/1(土)	実績	1回	1日	625人	(99.7%)	627人
	【企画公演】親子で楽しむ狂言の会		8/22(土)	実績	1回	1日	625人	(99.7%)	627人
	【企画公演】働く貴方に贈る		8/7(金)	実績	1回	1日	624人	(99.5%)	627人
組踊等	はじめての琉球舞踊 ～やぎ・うし・とりと琉球舞踊～	国立劇場 おきなわ 小劇場	4/11(土)	実績	1回	1日	225人	(90.4%)	249人
	社会人のための組踊鑑賞教室「執心鐘入」	国立劇場 おきなわ	6/13(土)	実績	1回	1日	430人	(74.4%)	578人
	親子のための組踊鑑賞教室「女物狂」	大劇場	8/2(日)	実績	1回	1日	373人	(64.5%)	578人

(3) 全国各地の文化施設等における公演（再掲）

- ① 6月歌舞伎鑑賞教室静岡公演
6月26日、2回、グランシップ
共催：（公財）静岡県文化財団、静岡県
入場者数：756人
- ② 7月歌舞伎鑑賞教室神奈川公演
7月26日～27日、4回、神奈川県立青少年センター
共催：かながわ伝統芸能祭実行委員会
入場者数：2,789人

2. 営業・広報

- ・ 各館が行う親子を対象とした公演について、振興会ホームページにそれぞれの親子企画を紹介するサイトを設置し、あわせてトップページのバナーから誘導することにより対象者に狙いを絞った広報を行った。また、親子特別料金を設定して販売促進を図った。
- ・ マスコミへの宣伝材料の提供、ポスター・チラシ・インターネット・あぜくら会会報・振興会ニュースの配信・配布、新聞広告等により公演の周知を図り、集客に努めた。

(本館)

- ・ 社会人のための歌舞伎鑑賞教室において、若年層を対象とした周知のため、視覚的な訴求力をねらい、イラストを取り入れた専用チラシを作成し、場内設置のほか、都内主要駅・小劇場を中心に配付した。また、公演当日、チラシ持参者に対し国立劇場グッズをプレゼントした。
- ・ 6月・7月歌舞伎鑑賞教室において、振興会ホームページに、国立劇場のマスコットくろごちゃんが案内する形式のトピックスを作成し、出演俳優からのメッセージや見所等を掲載し、若年層への周知を図った。
- ・ 鑑賞教室公演の企画内容の周知と学校団体客の集客のため、関東甲信越地方中学・高等学校、首都圏専門学校を中心にDMを送付した（年3回、のべ20,049通）。
- ・ 修学旅行の内容検討の際に広く全国の学校に活用されている月刊誌「教育旅行」9月号に（発行：公益財団法人日本修学旅行協会）、国立劇場歌舞伎・文楽鑑賞教室のカラー広告（裏表紙）を出稿し、

修学旅行での利用をアピールした。

- ・ 6月歌舞伎鑑賞教室内の企画「Discover KABUKIー外国人のための歌舞伎鑑賞教室ー」の集客のため、大学留学生センター・留学生支援団体・日本語学校等の外国人関係団体及びホテル・在日大使館を個別訪問するとともに、より広く周知するため3ヶ国語（英中韓）の特別チラシを作成して、外国人関係団体・ホテル等へDMを送付（2,457件）した。
- ・ 「Discover KABUKIー外国人のための歌舞伎鑑賞教室ー」の上演を2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた文化プログラムへの参画に向けた取組と位置付け、3ヶ国語（英中韓）の特別チラシを海外からの旅行者の目に留まりやすい空港・観光案内所・主要ホテル等に配布したほか、公演当日に在日大使館日本文化担当者の特別招待を実施した。
- ・ 7月歌舞伎鑑賞教室内の企画「親子で楽しむ歌舞伎教室」において、専用チラシを東京都・神奈川県・埼玉県・千葉県の小中学校及び教育委員会に送付したほか、上演期間中は劇場ロビー及び伝統芸能情報館で子供向けの各種イベントを開催した。
- ・ 28年度の鑑賞教室利用促進のため、過去3年間観劇履歴のない首都圏の高等学校・専門学校等の担当者及び教育委員会担当者を対象に鑑賞教室の企画説明及び鑑賞教室公演の観劇による「劇場見学会」を実施した。（6月歌舞伎鑑賞教室期間中に2回実施。参加者数：29校46名）

（演芸場）

- ・ マスコミへの宣伝材料の提供、ポスター・チラシ・インターネット・あぜくら会会報・振興会ニュースの配信・配布、新聞広告等により公演の周知を図り、集客に努めた。

（能楽堂）

- ・ 6月能楽鑑賞教室では、特別チラシ（7,000枚）を作成し、都内・近県の学校及び過去の利用団体に配布して集客を図った。
- ・ 8月企画公演「夏休み親子で楽しむ能の会」「夏休み親子で楽しむ狂言の会」では、特別チラシ（15,000枚）を作成し、渋谷区内の全小学校ほかに配布・設置して集客を図った。
- ・ 8月企画公演「働け貴方に贈る」では、特別チラシ（10,000枚）を作成・配布して集客を図った。

（文楽劇場）

- ・ 学校へ団体観劇案内のダイレクトメールを送付する他、「社会人のための文楽入門」への集客のために、大阪府教育委員会の協力を得て、同会の府立高校教職員向けホームページ（ポータルサイト）に案内を掲載した。
- ・ 大阪市主催の親子劇場優待事業による販売促進のために専用チラシを作成し、市内小学校・中学校他へ配布した。また、近隣市の小・中学校の生徒へ子ども向けチラシを配布した。

（国立劇場おきなわ）

- ・ 社会人のための組踊鑑賞教室「執心鐘入」では、チラシ2種（仮チラシ3,500枚、本チラシ13,000枚）を作成・配布した。
- ・ 親子のための組踊鑑賞教室「女物狂」では、チラシ2種（仮チラシ3,500枚、本チラシ13,000枚）を作成・配布した。
- ・ 組踊鑑賞教室「花売の縁（抜粋）」では、チラシ1種（4,000枚）を作成し、県内全小中学校・高校・専門学校・大学へ配布した。
- ・ 「はじめての琉球舞踊」では、チラシ2種（仮チラシ3,500枚、本チラシ13,000枚）を作成・配布した。
- ・ 「沖縄芝居鑑賞教室」では、チラシ2種（仮チラシ3,500枚、本チラシ13,000枚）を作成・配布した。

3. アンケート調査

（本館）

- ・ 6月歌舞伎鑑賞教室で実施（6月8日、19日）。
回答数1,157人（配布数2,385人、回収率48.5%）。回答者の83.2%が概ね満足と答えた（963人）。
- ・ 7月歌舞伎鑑賞教室で実施（7月17日）。
回答数792人（配布数1,287人、回収率61.5%）。回答者の72.1%が概ね満足と答えた（571人）。
- ・ 6月伝統芸能の魅力「声明を楽しむ」「邦楽を楽しむ」で実施（6月6日）。
回答数715人（配布数958人、回収率74.6%）。回答者の83.1%が概ね満足と答えた（594人）。
- ・ 6月伝統芸能の魅力「雅楽を楽しむ」「日本舞踊を楽しむ」で実施（6月13日）。
回答数525人（配布数746人、回収率70.4%）。回答者の88.0%が概ね満足と答えた（462人）。

（演芸場）

- ・ 7月特別企画公演「親子で楽しむ演芸会」で実施（7月25日）。
回答数89人（配布数137人、回収率65.0%）。回答者の94.4%が概ね満足と答えた（84人）。
（能楽堂）
- ・ 8月企画公演「夏休み親子で楽しむ能の会」で実施（8月1日）。
回答数120人（配布数222人、回収率54.1%）。回答者の90.0%が概ね満足と答えた（108人）。
- ・ 8月企画公演「働く貴方に贈る」で実施（8月7日）。
回答数318人（配布数576人、回収率55.2%）。回答者の87.1%が概ね満足と答えた（277人）。
- ・ 8月企画公演「夏休み親子で楽しむ狂言の会」で実施（8月22日）。
回答数184人（配布数331人、回収率55.6%）。回答者の96.7%が概ね満足と答えた（178人）。
（文楽劇場）
- ・ 6月文楽鑑賞教室で実施（6月17日）。
回答数332人（配布数518人、回収率64.1%）。回答者の94.6%が概ね満足と答えた（314人）。
（国立劇場おきなわ）
- ・ 「はじめての琉球舞踊」で実施（4月11日）。
回答数117人（配布数174人、回収率67.2%）。回答者の93.2%が概ね満足と答えた（109人）。
- ・ 社会人のための組踊鑑賞教室「執心鐘入」で実施（6月13日）。
回答数190人（配布数250人、回収率76.0%）。回答者の95.3%が概ね満足と答えた（181人）。
- ・ 親子のための組踊鑑賞教室「女物狂」で実施（8月2日）。
回答数159人（配布数250人、回収率63.6%）。回答者の96.2%が概ね満足と答えた（153人）。
- ・ 「沖縄芝居鑑賞教室」で実施（9月17日、19日）。
回答数183人（配布数300人、回収率61.0%）。回答者の78.7%が概ね満足と答えた（144人）。
- ・ 組踊鑑賞教室「花売の縁」で実施（11月11日）。
回答数282人（配布数340人、回収率82.9%）。回答者の96.5%が概ね満足と答えた（272人）。

【特記事項】

- ・ 公演内容等の理解を促進するため、「親子で楽しむ歌舞伎教室」「能楽鑑賞教室」「夏休み親子で楽しむ能の会」「夏休み親子で楽しむ狂言の会」「社会人のための組踊鑑賞教室」「親子のための組踊鑑賞教室」「組踊鑑賞教室」「沖縄芝居鑑賞教室」では、イラスト入りの分かりやすいパンフレットを作成し、無料配布した。
- ・ 6月歌舞伎鑑賞教室内の企画「Discover KABUKIー外国人のための歌舞伎鑑賞教室ー」では、日本語のほか、3ヶ国語（英中韓）の特別パンフレットを作成して、無料配布した。

《数値目標の達成状況》

【目標入場者数の達成状況】

実績 168,024人 / 目標 156,202人（達成度 107.6%）

《自己点検評価》

○ 自己評定

A

（根拠）

- ・ 各分野とも年度計画どおり公演を実施し、伝統芸能分野全体で目標入場者数を達成した。
- ・ 2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた文化プログラムへの参画にいち早く取り組み、「Discover KABUKIー外国人のための歌舞伎鑑賞教室ー」を試行した。解説部分の構成のほか、大使館への働き掛け、当日の受け入れ態勢等について、観客や外部専門家等から高く評価された上、文化プログラムの取組への有用な情報を得て、次年度以降の外国人向け伝統芸能公演につなげることができた。
- ・ 〈伝統芸能の魅力〉シリーズを継続し、舞踊・邦楽・雅楽・声明の入門公演を実施した。
- ・ 文楽劇場では、夏休み文楽特別公演の第一部「親子劇場」で書き下ろしの子供向け新作「ふしぎな豆の木」を上演し、文楽の普及を促進した。
- ・ 国立劇場おきなわでは、観客の要望に応え、これまで実施してきた「組踊鑑賞教室」に加えて「はじめての琉球舞踊」「沖縄芝居鑑賞教室」を新たに開始し、組踊、琉球舞踊、沖縄芝居の入門公演を実施して、観客や外部専門家等から高く評価された。

○ 良かった点・特色ある点

(本館)

- ・ 歌舞伎鑑賞教室は学生を中心に、親子や社会人も含めて好調な動員を重ねた。
- ・ 「社会人のための文楽鑑賞教室」の4回がほぼ完売となった。また、解説及び演目の「三十三間堂棟由来」に初段を付けたことにより、一般客の文楽への理解を促進させた。一般客の関心の高さが窺え、集客に関して満足のいく結果を得られた。

(演芸場)

- ・ 「親子で楽しむ演芸会」では、寄席囃子の演奏を高座で実演してみせた。普段は客席から見ることのできない演奏風景は冒頭から子供達の関心を大いに引きつけた。橘家圓太郎は「親子酒」でお酒に酔う様を見せて話芸だけではない落語の魅力を伝え、三遊亭歌奴は子供の登場する「初天神」で落語への興味を誘った。時代劇コントのカンカラはお伽斬ネタで、マジックのプチ☆レディーと曲独楽の三増紋之助は子供の喜ぶネタで、演芸への関心を引き寄せた。
- ・ ロビーに風船や造花を飾り付けて、雰囲気盛り上げ、子供たちに喜ばれた。

(能楽堂)

- ・ 能楽鑑賞教室では、これまで子方や上演時間の問題で上演が難しかった能「船弁慶」を初めて上演、10回公演を完売して鑑賞者の育成に大きく貢献した。
- ・ 公演内容等の理解を促進するため、「能楽鑑賞教室」「夏休み親子で楽しむ能の会」「夏休み親子で楽しむ狂言の会」ではイラスト入りの分かりやすいパンフレットを作成し、無料配布した。また、座席字幕装置を活用して、「能楽鑑賞教室」では中・高生向けチャンネルを、「夏休み親子で楽しむ能の会」「夏休み親子で楽しむ狂言の会」では子ども向けチャンネルを追加して3チャンネル方式とし、分かりやすい解説を表示して、観客層に合わせたきめ細かい字幕表示が好評であった。

(文楽劇場)

- ・ 6月文楽鑑賞教室の演目に一般的な知名度も高い「曽根崎心中」を選定し、チラシ等もこれまでの教室の構成から一新することにより、一般客や会員の動員が大幅に向上し、目標入場者数を大きく上回る結果となった。
- ・ 夏休み文楽特別公演の第一部「親子劇場」では、昨年度の新作「かみなり太鼓」に引き続き新作「ふしぎな豆の木」を上演した。好評を博し、低年齢層への文楽普及に資する演目を拡充した。

(国立劇場おきなわ)

- ・ 昨年度の「生徒のための組踊鑑賞教室」では、解説の代わりに組踊版「シンデレラ」を上演し、ストーリーの流れに合わせ組踊の見方や約束事を楽しく学ぶ、という普及公演のひとつのスタイルを創り出したが、今年度も引き続き実施した。また、今年度新たに企画した「はじめての琉球舞踊」「沖縄芝居鑑賞教室」にもこのスタイルを取り入れ、やぎ・うし・とりを登場させたストーリー仕立ての解説や、喜劇「Wife～トビーラーの妻たち」の創作上演により、それぞれ琉球舞踊、沖縄芝居の歴史や鑑賞のポイントなどをわかりやすく解説して、観客の興味をひきつけ、スムーズに鑑賞してもらうことができた。
- ・ 「組踊鑑賞教室」「沖縄芝居鑑賞教室」では、学校行事として参加してもらえるように、公演の前年度から営業活動に取り組んだ結果、多くの学校団体に鑑賞していただくことができた。

<2> 現代舞台芸術分野

《制作方針》

新国立劇場では、青少年を対象とした鑑賞教室等を実施し、新たな観客層の育成を図るとともに、現代舞台芸術の普及と理解促進を図る。

《主要な業務実績》

1. 主に青少年を対象とした公演

- ・ オペラ鑑賞教室 1 公演、こどものためのバレエ 1 公演、現代舞踊 1 公演、演劇 1 公演、合計 4 公演を計画どおり実施
- ・ 大人も子どもも楽しめる公演を拡充し、新国立劇場で初めて現代舞踊で企画（森山開次「サーカス」）
【新規】
- ・ 主に青少年を対象とした公演全てで目標入場者数を達成（達成度 120.7%）
- ・ こどものためのバレエ劇場「シンデレラ」公演では、こどもバレエとして過去最高の入場者数（9,817人）を記録
- ・ 現代舞踊 森山開次「サーカス」については、現代舞踊として過去最高の入場者数（3,132人）を記録

《業務実績詳細》

1. 公演実績

(1) 主に青少年を対象とした公演（再掲）

公演名		劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	
オペラ	高校生のためのオペラ鑑賞教室 「蝶々夫人」	オペラ劇場	7/10(金)	実績	6回	6日	10,144人	(95.3%)	10,649人	
			～16(木)	計画	6回	6日	9,300人	(87.6%)	10,620人	
バレエ	こどものためのバレエ劇場 「シンデレラ」		7/22(水)	実績	8回	4日	9,817人	(95.7%)	10,254人	
			～25(土)	計画	8回	4日	7,200人	(74.5%)	9,664人	
現代舞踊	森山開次「サーカス」	小劇場	6/20(土) ～28(日)	実績	10回	8日	3,132人	(90.0%)	3,480人	
				計画	8回	6日	2,000人	(77.2%)	2,592人	
演劇	「かがみのかなたはたなかのなかに」		7/6(月) ～26(日)	実績	26回	19日	7,677人	(90.2%)	8,508人	
				計画	26回	19日	7,000人	(82.6%)	8,476人	
【現代芸術分野 合計】				4 公演	実績	50回	37日	30,770人	(93.6%)	32,891人
					計画	48回	35日	25,500人	(81.3%)	31,352人

(2) 全国各地の文化施設等における公演（再掲）

- ① 高校生のためのオペラ鑑賞教室・関西公演「蝶々夫人」
10月27日・28日、2回、尼崎市総合文化センターあましんアルカイックホール
主催：尼崎市、公益財団法人尼崎市総合文化センター、公益財団法人新国立劇場運営財団
入場者数：3,507人
- ② 高校生のためのオペラ音楽セレクション
ロームシアター京都 オープニング・プレ事業 京都コンサートホール開館20周年記念
10月22日、1回、京都コンサートホール 大ホール
主催：京都市／公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団
共催：公益財団法人新国立劇場運営財団
入場者数：801人
- ③ こどものためのバレエ劇場「シンデレラ」

- ・9月13日、1回、出雲市民会館
主催：公益財団法人出雲市芸術文化振興財団／出雲市／出雲市教育委員会
入場者数：935人
- ・9月21日、1回、岡谷市文化会館 カノラホール 大ホール
主催：岡谷市、カノラホール(公益財団法人おかや文化振興事業団)、岡谷市教育委員会
共催：信濃毎日新聞社
入場者数：891人
- ・9月23日、1回、フェスティバルホール
主催：大阪府文化芸術創造発信事業実行委員会
(朝日新聞文化財団、朝日新聞社、大阪国際フェスティバル協会、フェスティバルホール、大阪府)
入場者数：2,532人
- ・9月26日、1回、滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール 大ホール
主催：滋賀県、公益財団法人びわ湖ホール
入場者数：1,475人
- ④ 森山開次「サーカス」
7月4日、1回、兵庫県立芸術文化センター 阪急 中ホール
主催：兵庫県、兵庫県立芸術文化センター
入場者数：751人
- ⑤ 新国立劇場合唱団外部出演公演
 - ・小山市内高等学校音楽鑑賞会
7月10日、2回、小山市立文化センター
主催：小山市内高等学校(2校合同開催)
 - ・平成27年度文化芸術による子供の育成事業
9月7日～12月4日、19回、神奈川県及び中部各県の小・中学校内体育館
主催：文化庁
 - ・明星学園音楽鑑賞会
11月6日、明星学園体育館
主催：明星学園

2. 営業・広報

- ・ 高校生のためのオペラ鑑賞教室「蝶々夫人」では、前年度9月に首都圏1,300校に募集要項を送付したほか、電話営業、東京都私立中学・高等学校協会経由での募集要項配布も行った。
- ・ こどものためのバレエ劇場「シンデレラ」では、マスコミ各社への情報提供、ポスター、チラシ、DM、インターネット、会員会報誌等により、公演の周知を図り、集客に努めた。さらにSNS(Twitter、Facebook)やメール(ジュニア公演先行DMメンバー、ジュニア・アカデミック・プランメンバー、バレエ/ダンスDMメンバー)を活用し、公演の興味喚起を図った。
- ・ こどものためのバレエ劇場「シンデレラ」、現代舞踊 森山開次「サーカス」及び演劇「かがみのかなたはたなかのなかに」の3演目のチケットを組み合わせた親子で楽しむ「夏のこども劇場セット」を企画し、特設サイトや動画でのプロモーション、3公演合同の制作発表を行い、販売促進に努めた。3公演フルセットを248セット、2公演セットを724セット、合計972セットを販売した。
- ・ こどものためのバレエ劇場「シンデレラ」は、特設サイトや動画でのプロモーションを展開し、こどものためのバレエ劇場の中で過去最高の入場者数を記録した。

3. アンケート調査

- ・ 高校生のためのオペラ鑑賞教室「蝶々夫人」実施(全日程)。
回答数3,400人(配布数10,144人、回収率33.5%)。回答者の82.3%が概ね満足と答えた(2,798人)。
- ・ こどものためのバレエ劇場「シンデレラ」で実施(7月24日)。
回答数206人(配布数720人、回収率28.6%)。回答者の96.1%が概ね満足と答えた(198人)。

【特記事項】

- ・ こどものためのバレエ劇場「シンデレラ」公演期間中、子ども向け公演のDMメンバーに登録した来場者に新国立劇場オリジナルグッズ(学習ノート)を登録特典としてプレゼントし、約1,100件の登

録を得た。

- ・ 「夏のこども劇場セット」において、3公演（フルセット）購入特典として、「自由研究に使える！ 新国立劇場大解剖ブックレット」を子ども（小中学生）を対象にプレゼントした。
- ・ 現代舞踊 森山開次「サーカス」では、一般発売日に先駆けて、こども優先発売日（同伴の大人の購入も可）を設けた。
- ・ 演劇「かがみのかなたはたなかのなかに」では、一般発売日に先駆けて、こども優先発売日（同伴の大人の購入も可）及びこども優先エリア（客席前方の席で、子どもと同伴の大人が対象）を設けた。
- ・ 「夏のこども劇場セット」において、演劇 DM メンバー、バレエ/ダンス DM メンバー、ジュニア公演 先行 DM メンバー、e メール club など、舞踊部門・演劇部門が持つそれぞれの販路を活用して、こども優先発売日に先がけたこどもチケット先行販売（同伴の大人も可）を実施した。

《数値目標の達成状況》

【目標入場者数の達成状況】

実績 30,770 人／目標 25,500 人（達成度 120.7%）

《自己点検評価》

○ 自己評定

A

（根拠）

- ・ 新企画の現代舞踊を含め、4公演を年度計画どおり実施し、入場者数については4公演全てで目標を大幅に上回った。
 - ・ 営業活動に際しては「夏のこども劇場セット」を企画・立案し、こどもから大人まで幅広い世代に周知できた。
 - ・ いずれの公演も青少年向け公演として観客や外部専門家から極めて高い評価を得た（アンケート満足回答率 93.0%）
 - ・ こどものためのバレエ劇場「シンデレラ」については、こどもバレエとして過去最高の入場者数を記録した。
 - ・ 現代舞踊 森山開次「サーカス」については、現代舞踊として過去最高の入場者数を記録した。
- 良かった点・特色ある点
- ・ 「夏のこども劇場セット」を企画・立案し、劇場内の各セクションの協力・連携を得て、こどもから大人まで幅広い世代の勧誘に成功した。
 - ・ 「夏のこども劇場セット」の対象のこどものためのバレエ劇場「シンデレラ」、現代舞踊 森山開次「サーカス」、演劇「かがみのかなたはたなかのなかに」3演目において、渋谷区教育委員会、東京私立初等学校協会、東京都公立小学校長会の後援名義を取得し、小学校と児童館を中心に 155 施設に対し、約 7 万枚のチラシを配布して公演周知に努めた。
 - ・ 現代舞踊 森山開次「サーカス」の早期の完売を見越し、追加公演の販売準備を進め、2 ステージの追加公演の販売を行い、当初目標を大幅に超える入場者数を得ることができた。これにより、現代舞踊公演における最高の入場者数を達成することができた。

2-(4) 快適な観劇環境の形成

《中期計画の概要》

2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

(5) 快適な観劇環境の形成

観客本位の快適な環境の形成のため、次のとおりサービスの向上に努め、観客の満足度の向上を図る。

- ア 高齢者、身体障害者、外国人等の利用にも配慮した快適で安全な劇場施設の整備、各種サービスの充実
- イ 入場券販売において、利用者にとって利便性の高い多様な購入方法を提供
- ウ 解説書等の作成、音声同時解説や字幕表示、公演内容の説明会等などのサービスの提供
- エ アンケート調査や劇場モニターの活用等

《年度計画の概要》

2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

(5) 快適な観劇環境の形成

- ア 売店・レストラン等におけるサービスの充実、観劇時のマナーの呼びかけ、ロビー等観客用設備の適切な維持管理
 - 外国人利用者に対する劇場内外の案内表示の整備等サービスの充実
- イ 入場券販売における観客の利用形態に応じた多様な購入方法の提供
- ウ 公演内容に応じて、解説書等の作成並びに音声同時解説及び字幕表示の実施
 - 鑑賞団体等に対し、公演内容の事前説明会や施設見学会の開催
- エ アンケート調査等の活用により、観客等の要望、利用実態等を把握、サービスの向上に活用
 - 意見・要望を一元的に管理、対応の迅速化と職員間の情報共有の強化、内容の集計・分析

《主要な業務実績》

1. 快適な観劇環境の提供、外国人利用者への対応

- ・ 観客用設備の適切な維持管理・改善を実施
- ・ 各館の売店・レストランのサービス改善のため、アンケート調査及び委託業者との定期的な会議を実施
- ・ その他、観客サービスの向上につながる取組を適宜実施
- ・ 職員や委託業者などによる消防訓練、避難訓練等を実施するとともに、利用者の安全を確保するための設備改修等を実施
- ・ 外国人利用者への対応として、劇場内外の案内表示の整備、外国語によるチラシ・リーフレット等を提供

(伝統芸能分野)

- ・ 国立劇場の食堂が提供する料理の品質及び接客サービスの向上等を図ることを目的として、観客食堂サービス向上推進チームを設置
- ・ 本館大劇場にて、四季を感じられるロビー飾り等の実施
- ・ 文楽劇場では、快適な観劇環境を促進するためのマナーチラシ（日本語・英語）を作成

(現代舞台芸術分野)

- ・ メインエントランス近辺にデジタルサイネージを設置、外国人利用者の利便性を考慮して日英併記
- ・ オペラ公演休憩時、プロムナードに約 70 脚の椅子を設置

2. 多様なチケット購入方法の提供

(伝統芸能分野)

- ・ 親子企画公演の親子先行発売を実施
- ・ チケットセンターホームページに各館の親子企画を紹介するサイトを設置
- ・ 文楽劇場では、文楽本公演において幕見席を販売
- ・ 国立劇場おきなわにおいて、新たなインターネットチケット販売サービスを開始し、利便性を向上

(現代舞台芸術分野)

- ・ 大人も子どもも楽しめる公演（バレエ・現代舞踊・演劇）に際して「夏のこども劇場セット」を販売

- ・ 新国立劇場の Web ボックスオフィスにおいて、全ての公演で画面上での座席選択サービスを開始
3. 公演内容等の理解促進のための取組
- ・ 公演内容に適した解説書等を作成

(伝統芸能分野)

- ・ 歌舞伎・本館文楽公演にて音声同時解説を実施、計 107 公演において字幕表示を実施
- ・ 公演内容の事前説明会を 252 件 7,613 名、施設見学会を 59 件 960 名、バックステージツアーを 129 件 3,789 名に対し開催
- ・ 国立劇場おきなわで、旅行者と提携した組踊鑑賞ツアーにおいて、公演鑑賞前に組踊ワークショップを実施し、計 8 回で 91 人が参加
- ・ 3 月沖縄芝居の開演前に、名優を日替わりでゲストに招いて話を聴く「沖縄芸能よもやま話」を開催し、3 日間で 209 名が参加

(現代舞台芸術分野)

- ・ 計 11 公演において字幕表示を実施
- ・ 公演内容の事前説明会を 12 件 2,669 名、施設見学会を 43 件 515 名、バックステージツアーを 14 件 394 名に対し開催

4. 意見・要望等の把握と対応

- ・ 意見・要望等を一元的に把握し、より迅速に対応
- ・ 対応状況に関し全役職員及び委託業者で情報を共有
- ・ 意見・要望等を踏まえサービス等を改善
- ・ 意見・要望等を集計・分析

《自己点検評価》

○ 自己評定

伝統芸能分野
B

(根拠)

- ・ 快適で安全な観劇環境の提供のため、設備等の整備やサービスの改善を適切に実施した。
- ・ 観客の利用傾向や要望に応じて、親子を対象とする公演の先行販売等、チケット購入における利便を図った。
- ・ 公演内容に応じて、解説書や音声同時解説、字幕表示、公演説明会等のサービスを実施し、公演内容の理解のための一助とした。
- ・ 意見・要望等により迅速に対応し、サービスの向上等業務改善を図った。
- ・ 意見・要望等を集計し、昨年度データとの比較・分析を行った。
- ・ 観客食堂サービス向上推進チームの活動を通じ、食堂サービスの改善に努めた。
- ・ 大劇場ロビーにおいて来場者が日本の四季を感じられるよう、季節毎に造花等を飾り、ライティングを行った。

現代舞台芸術分野
B

(根拠)

- ・ 快適で安全な観劇環境の提供のため、公演内容にあわせたサービスの提供を行った。英語併記の掲示を整備、英語版Webサイトのリニューアルなど、特に外国人利用者の利便性の向上を図った。
- ・ 観客の利用傾向や要望に応じて、チケット購入における利便性を向上させた。
- ・ 公演内容に応じて、解説書や字幕表示、公演説明会等のサービスを実施し、公演内容の理解のための一助とした。
- ・ 観客からのご意見・要望について、各部署での情報共有を行った。

○ 良かった点・特色ある点

- ・ 公演内容に応じた解説書等の作成や字幕表示サービス、観劇団体等の要望に応じた公演説明会等を

実施し、公演内容の理解促進を図った。

- ・ 観客からのご意見・要望を関係部署で共有し、迅速な回答を行った。また、設備の適切な整備やサービスの改善につなげた。

(伝統芸能分野)

- ・ 親子を対象とする公演について、本館・演芸場・能楽堂・文楽劇場の4館が合同で販売キャンペーンを実施し、「親子を対象とする伝統芸能の公開」という振興会の事業を推進することができた。
- ・ 2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた文化プログラムへの参画にいち早く取り組み、「Discover KABUKIー外国人のための歌舞伎鑑賞教室ー」を実施して、多言語の解説書や音声同時解説、字幕表示の方法、接客サービス等について検討・試行した。
- ・ 公演内容に応じた解説書等の作成や字幕表示サービス、観劇団体等の要望に応じた公演説明会等を実施し、公演内容の理解促進を図った。
- ・ 観客からのご意見・要望を関係部署で共有し、迅速な回答を行った。また、設備の適切な整備やサービスの改善につなげた。
- ・ 例年、ロビー飾りは初春公演のみであったが、季節毎に飾り付けを行い、照明による効果もあり、ロビーに明るさや華やかさが創出され、次回の公演案内も見やすくなった。

(現代舞台芸術分野)

- ・ メインエントランス近辺にデジタルサイネージを設置し、英語も併記した案内で観客のスムーズな入場に寄与した。
- ・ スマートフォン対応をはじめとする和英ホームページの継続的な改修により、外国人を含めたより多くのお客様にアクセスいただく機会を創出した。
- ・ Webボックスオフィスでは、全ての公演で画面上での座席選択ができるなど、チケット購入の利便性を高めた。

○ 見直し又は改善を要する点

- ・ バリアフリー化等、引き続き劇場施設の改善を検討する。
- ・ サービスの質の維持・向上について、引き続き検証・改善に努める。

2-(4)-① 快適で安全な観劇環境の提供、外国人利用者への対応

《業務実績詳細》

1. 設備等の環境整備

(本館)

- ・ ロビー受付の照度向上のため、照明器具を配置した。
- ・ 大劇場のロビー絨毯を部分入替した。
- ・ 大劇場壁面に季節ごとに季節感を表す造花等の装飾を行った。

(演芸場)

- ・ スピーカーを2基増設し、より聴き取りやすい快適な観劇環境の確保に努めた。
- ・ 屋外のポスターボードの改修を行い、公演の周知を図った。

(能楽堂)

- ・ 能楽堂の建物は能楽の幽玄な世界にふさわしい建築であり、観能の興趣をさらに醸成するよう、引き続き夜間のガーデンライトアップや庭園管理に努めて景観を保持した。
- ・ 中庭の景観を保つため苔の補修を行った。

(文楽劇場)

- ・ 2階文楽劇場・3階小ホールの客席椅子を更新した。前後間隔を広げて出入りをしやすくするとともに、幅・背もたれの高さを改善した長時間の観劇でも疲れにくい、より快適なものに改修した。また、同時に1階・3階ロビーカーペットも更新し、観劇客にリニューアルを印象づけた。
- ・ 主に身体障害者対応の利用に供している観客用エレベーターを改修した。
- ・ 観客用トイレ個室内の荷物掛けフック・荷物置き棚を順次増設、同時に位置の見直しを実施した。

(国立劇場おきなわ)

- ・ 開館時間の表記を来場者へ見やすく掲示した。

(新国立劇場)

- ・ オペラ劇場及び中劇場の客席椅子について、観劇環境の向上及び予防保全の観点から補修を行った。
- ・ 1階メインエントランスホールの階段に予防保全の観点から手摺りを設置した。
- ・ メインエントランス・テラスガーデン等の一部照明器具を高効率LED照明に交換し、省エネルギー及び照度の向上に努めた。
- ・ レストランの空調機器を更新し、快適な環境維持に努めた。
- ・ 小劇場ホワイエにコンセントを増設し、ディスプレイ等の活性化をはかった。

2. 観客サービスの充実

- ・ 一年の幕開けを寿ぎ、鏡開きや手拭いまきなど、各館で正月のイベントを実施した。

(本館)

- ・ 開演前の客席において、場内案内係による口頭での観劇マナーに関する注意喚起を行った。
- ・ 保護者・子供向けのマナーチラシ・ポスターを設置した。
- ・ 難聴者用ポータブル字幕の試用、熱中症対策ミストの設置等を行った。
- ・ 観客食堂の利用者が快適な環境を享受できるよう、食堂が提供する料理の品質向上及び接客サービスの向上等を図ることを目的として、観客食堂サービス向上推進チームを設置した。
- ・ レストラン「十八番」においてアンケートを実施し、観客からの意見を踏まえ、食堂業者及び担当部署との定期的な会議を開始した。
- ・ 公演内容にちなんで、各地の観光協会等の協力により、劇場ロビー内に特設会場を設けて物産品等を販売した。
- ・ 歌舞伎・文楽公演において託児サービスを行い、観客の利便を図った。また利用希望に応じ、その他の公演でも公演内容によって非開設日にサービスを提供した。
- ・ 大劇場ロビーにおいて来場者が日本の四季を感じられるよう、季節毎に造花等を飾り、ライティングを行った。

(演芸場)

- ・ 「国立劇場さくらまつり」会場で、「国立演芸場ご来場者プレゼント引換券」と4月定席チラシを配布し、公演の周知を図った。

(能楽堂)

- ・ 能面・能装束等をデザイン化したオリジナルグッズを、能楽堂内売店及び国立劇場売店で引き続き

販売した。

- ・ レストランは公演状況に応じ開場前及び終演後も営業を行い、また売店は、公演中は一般の来場者でも買物ができるようにして、利用者の利便を図った。
- ・ 中庭の樹木・草花に名札を設置し、樹木の名称が一目で分かるようにした。
- ・ 8月7日企画公演「働く貴方に贈る」特別チラシのイラスト原画展をロビーで行った。また、このイラストを用いてトートバッグ（2種）を作成し、限定グッズとして販売した。
- ・ 1月23日まで能舞台に注連をはり、来場者に正月の雰囲気をお楽しみいただいた。
- ・ 食堂、売店に関するアンケート調査を3月に実施して利用者の要望等を収集し、調査結果について関係部署、食堂・売店業者間で意見交換を行い、一層のサービス向上に努めるよう指導した。

(文楽劇場)

- ・ 開演前の客席において、場内案内係による口頭及びプラカードでの観劇マナーに関する注意喚起を行った。

(国立劇場おきなわ)

- ・ 5月より、沖縄県の補助事業を活用して貸切バス費用助成事業を行った。
- ・ 3月24日に新たなチケットシステムの稼働を開始し、インターネットの画面上で座席選択や、国立劇場おきなわ友の会の入会更新手続きが可能になるなど利便性が向上した。

(新国立劇場)

- ・ オペラ劇場の夜公演時に、劇場内で人数限定のブッフェ「パレスサロン」を行い、飲食サービスを提供した。
- ・ 2014/2015 シーズンシート、またはオペラ・シーズンセット券購入者を対象に、出演者との懇親を図るイベントとして、6月14日に「オペラ・シーズンエンディングパーティー」を行った。その際、オペラ芸術監督による今シーズン回顧と来シーズン演目のトークが行われた。オペラ「沈黙」の指揮者、演出家、出演者も参加してトーク、参加者との歓談の後、記念写真を撮影し、後日参加者に送付した。
- ・ 2014/2015 シーズンシートまたはバレエ・シーズンセット券購入者を対象に、出演者との懇談を図るイベントとして、6月28日に「バレエ・シーズンエンディングパーティー」を行った。舞踊芸術監督と新国立劇場バレエ団ダンサーが参加し、トーク、参加者との歓談の後、記念写真を撮影し、後日参加者に送付した。
- ・ 演劇「東海道四谷怪談」で作品の時代設定に合わせ茶屋風の飲食コーナーを設置して、ホワイエの雰囲気作りに努めた。
- ・ バレエ「くるみ割り人形」で各公演の終演後に主演ダンサーによる握手会を開催した。
- ・ バレエ「くるみ割り人形」の公演期間中、オペラ劇場ホワイエ内にクリスマスツリーを設置し、クリスマス関連の飾りで装飾するとともに、ネイルアートやボディペインティングコーナーを設置した。
- ・ メインエントランスにある売店で、オペラ劇場公演日に劇場関連グッズ、公演プログラムのバックナンバー等を販売した。
- ・ メインエントランス近辺にデジタルサイネージを複数設置し、各劇場への案内を行うことで、劇場までのスムーズな入場を促した。
- ・ メインボックスオフィスの照明を明るくし、環境を改善させた。また、座席表やチケット表記を確認しやすいようにルーペも設置した。
- ・ オペラ劇場公演での休憩時にオペラ劇場のプロムナードに約70脚の椅子を並べ、お客様にご利用いただけるようしつらえ、好評を得た。
- ・ サブエントランスの化粧室表示の照明を改善し、よりわかりやすくした。
- ・ クロークのA、Bといった表示をよりわかりやすくし、お客様がスムーズに預けた荷物等を引き取れるようにした。

3. 安全な観劇環境の確保

(本館)

- ・ 客席内階段の安全対策を実施した。
- ・ 職員、委託業者など全職域が参加する自衛消防訓練を2月に実施した。

(能楽堂)

- ・ 職員、委託業者など全職域が参加する自衛消防訓練を年2回実施した。避難誘導等の実地訓練(10月・2月)及び模擬消火器による消火訓練(10月)を実施して職員等の防災意識を高めることができた。
- ・ 職員、委託業者など全職域が参加して、火災・地震等の緊急時の対応について確認・検討する能楽

堂舞台運営安全会議を2月に実施した。

(文楽劇場)

- ・ 6月に団体観劇の高校生と教職員(計336名)の協力を得て、避難誘導訓練を実施した。2月には、職員及び委託業者社員が消防署制作のビデオを鑑賞し消防活動について学んだあと、避難誘導訓練を実施した。

(国立劇場おきなわ)

- ・ 職員、委託業者など全職域が参加する自衛消防訓練を年2回実施して、避難訓練、消火器の取扱い等について実地訓練を行った。
- ・ 職員、委託業者など全職域が参加し、津波避難訓練を11月に実施した。

(新国立劇場)

- ・ 職員・委託業者など全職域が参加する自衛消防訓練を11月に実施した。
- ・ 非常時の電源確保と受電設備、発電設備の維持保全のため、一部機器の更新及びオーバーホールを実施した。
- ・ 日頃の消防訓練の成果を発表する場として、渋谷消防署の主催する自衛消防訓練審査会に防災センター要員が参加した。
- ・ すべての主催公演で、緊急時の対応、避難経路を解説した印刷物を来場者に配布した。

4. 外国人利用者への対応

(本館)

- ・ 歌舞伎・文楽公演では解説書(有料)に英文あらすじを掲載し、舞踊や邦楽等の短期公演では英文リーフレット(無料)を配布した。
- ・ 今年度より始まった「外国人のための歌舞伎鑑賞教室」公演において、あらすじ等を記載した四ヶ国語のパンフレット(無料)を配布した。
- ・ 6月歌舞伎鑑賞教室内の企画「Discover KABUKIー外国人のための歌舞伎鑑賞教室ー」の上演を2020年オリンピック・パラリンピックの文化プログラム参画に向けた取組と位置付け、3ヶ国語(英中韓)の特別チラシを海外からの旅行者の目に留まりやすい空港・観光案内所・主要ホテル等に配布した。
- ・ 旅行代理店・ホテル等との連携強化を一層進め、引き続き外国人から好評なデザインの英文スケジュールチラシを劇場内のほか、空港・観光案内所・主要ホテル等に配布した。
- ・ 歌舞伎及び文楽の各国語版リーフレット(英語・フランス語・中国語繁体字・中国語簡体字・韓国語)を増刷し、国立劇場チケット売場に専用ラックを設置したほか、観光案内所等に配布した。
- ・ 主に外国人旅行者を対象としている東京駅前KITTE内観光案内所において、英文の歌舞伎イメージポスターを通年掲示した。

(能楽堂)

- ・ 英文による演目解説リーフレット、年間公演予定表、施設紹介パンフレットの作成・配布、英語による案内表示、場内アナウンスなどのサービスを提供し、引き続き外国人の利用環境の充実を図った。
- ・ これまで日本人による英語の場内アナウンスであったが、ネイティブ・スピーカーによる新たなアナウンスを実施した。(3月)
- ・ 座席字幕装置を活用して、2月企画公演(蠟燭能)を除く50公演で英語の字幕表示を実施した。

(文楽劇場)

- ・ 文楽公演では、英語に加え、中国語(簡体字)、韓国語の解説リーフレットを引き続き作成・配布した。

(国立劇場おきなわ)

- ・ 組踊公演、沖縄芝居公演(6月「いのちの簪」)、9月「沖縄芝居鑑賞教室」、3月「渡地物語/貞女と孝子」について、外国人利用者向けにあらすじ等を英文で記したチラシを作成・配布した。
- ・ 多言語表記(英語、中国語(簡体字・繁体字)、韓国語)の自主公演の年間計画リーフレットを作成し、劇場内のほか空港及び観光案内所等に配布した。
- ・ 沖縄県の協力を得て、多言語表記の沖縄伝統芸能紹介パンフレットを作成し、各所に配布した。

(新国立劇場)

- ・ 英語版Webボックスオフィスでは、2015/2016シーズンの研修公演を除く全ての主催公演で海外からのチケット購入等を可能にした。
- ・ ホームページの英文サイトをリニューアルし、スマートフォンにも対応させたほか、公演理解促進のため全ての主催公演詳細ページに動画を掲載した。
- ・ 公演プログラムに英文によるあらすじ解説を掲載した。

- ・ 英語での対応ができる劇場案内スタッフを配置した。
- ・ シーズンガイドの英語版及びシーズン4ヶ月毎の英文公演ガイドを作成して、ホテル、観光案内所等に配布し、公演概要を広く外国人に周知した。
- ・ 外国人向けフリーペーパーに劇場及び公演の情報を掲載し、周知に努めた。
- ・ メインエントランス近辺の案内用デジタルサイネージについて、日英併記を原則とし、外国人利用者の利便性を高めた。

《自己点検評価》

○ 良かった点・特色ある点

- ・ 文楽劇場では経年劣化が著しかった2階文楽劇場・3階小ホール客席椅子や観客用エスカレーター及びエレベーターを改修し、観劇環境を向上できた。
- ・ 例年、ロビー飾りは初春公演のみであったが、季節毎に飾り付けを行い、照明による効果もあり、ロビーに明るさや華やかさが創出され、次の公演案内も見やすくなった。
- ・ 国立劇場おきなわでは、多言語表記の自主公演年間リーフレットや沖縄伝統芸能の紹介パンフレットを作成し、空港や観光案内所に配布した。
- ・ 新国立劇場では、国内外の外国人利用者のために英語版 Web サイトをリニューアルしたほか、研修所公演を除く全ての主催公演で英語版 Web ボックスオフィスからのチケット購入が可能になった。またスマートフォンでの表示に対応したことにより、外国からのウェブサイトアクセスが増え、外国人来場者が増加した。
- ・ オペラ、バレエ公演の際には、メインボックスオフィスに英語表記を併記した掲示を整備し、チケット引き取りがよりスムーズに行えるようになった。

○ 見直し又は改善を要する点

- ・ 高齢者等の観客に留意し、バリアフリー化等、引き続き劇場施設の改善を検討する。
- ・ 英語圏以外の方を含めた外国人の観客に対し、周知、勧誘、利便の向上を図るべく、引き続き検討する。
- ・ サービスの質の維持・向上について、引き続き検証・改善に努める。

2-(4)-② 多様な購入方法の提供によるチケット販売の促進

《業務実績詳細》

- ・ 親子を対象とする公演のインターネット販売では、本館・演芸場・能楽堂の各公演は、会員及び一般発売に先行して発売した。文楽劇場の公演は一般発売に先行して会員発売日と同日に発売した。
- ・ チケットセンターホームページに各館の親子企画を紹介するサイトを設置し、さらに、振興会トップページのバナーから誘導した。
 - 1) 「親子で楽しむ歌舞伎教室」(7月18日～24日)
インターネット販売は5月26日に開始、電話予約は翌27日に開始
予約結果：インターネット予約4,952件(15,055枚)、電話予約1,495件(4,654枚)
 - 2) 「親子で楽しむ演芸会」(7月25日)
インターネット販売は5月28日に開始、電話予約は翌29日に開始
予約結果：インターネット予約51件(153枚)、電話予約39件(113枚)
 - 3) 「夏休み親子のための能の会」(8月1日)及び「夏休み親子のための狂言の会」(8月22日)
インターネット販売は5月28日に開始、電話予約は翌29日に開始
予約結果：「夏休み親子のための能の会」インターネット予約151件(430枚)、電話予約40件(111枚)、「夏休み親子のための狂言の会」インターネット予約119件(351枚)、電話予約67件(206枚)
 - 4) 「文楽親子劇場」(7月18日～8月3日)
インターネット販売は6月2日に開始、電話予約は翌3日に開始
予約結果：インターネット予約157件(492枚)、電話予約28件(85枚)
- ・ 文楽劇場では文楽本公演において幕見席を販売した。
- ・ 国立劇場おきなわでは、3月24日から新たなチケットシステムの稼働を開始した。インターネットでの座席選択のほか、多様な支払方法や受取方法に対応し、利便性が向上した。
- ・ 新国立劇場では、チケット購入サイトを大幅に改修して、購入方法や割引情報がよりわかりやすく

なるようにした。また、Web ボックスオフィスでは全ての公演で、画面上での座席選択サービスを開始した。

《自己点検評価》

- 良かった点・特色ある点
 - ・ 振興会の「親子企画」として、販売に先立ちインターネット販売システムに専用ページを設け、本館・演芸場・能楽堂・文楽劇場の4館が合同でインターネットを活用した販売キャンペーンを行ったことにより、多くの親子がこの企画を利用し、「親子を対象とした伝統芸能の公開」という振興会の事業を推進することができた。
 - ・ 国立劇場おきなわでは、3月24日から新たなチケットシステムの稼働を開始した。インターネットで画面上での座席選択のほか、多様な支払方法や受取方法に対応し、利便性が向上した。
 - ・ 新国立劇場では、チケット購入サイトを大幅に改修して、購入方法や割引情報がよりわかりやすくなるようにした。また、Web ボックスオフィスでは全ての公演で、画面上での座席選択サービスを開始した。
- 見直し又は改善を要する点
 - ・ 情報技術の発展に鑑み、今後も利便性の向上に努める。

2-(4)-③ 公演内容等の理解促進のための取組

《業務実績詳細》

1. 解説書等の作成

- ・ 本館の各公演において解説書を作成し、公演内容等に応じて以下の工夫を行った。
 - ・ 歌舞伎鑑賞教室、文楽鑑賞教室において、来場者全員に解説書および読本を無料配布
 - ・ 今年度より始まった「外国人のための歌舞伎鑑賞教室」公演において、あらすじ等を記載した四ヶ国語のパンフレットを無料配布
- ・ 演芸場では、出演者の顔写真や略歴を掲載した公演ガイドを毎月作成して、無料配布を行い、公演内容の理解を図った。
- ・ 文楽劇場では、「上方演芸特選会」を除く各公演において解説書を作成した。文楽鑑賞教室において、来場者全員に配布する読本について、写真を多く用いたカラー版の「文楽入門」を新たに作成し、無料配布を行った。
- ・ 国立劇場おきなわでは、公演解説書ステージガイド「華風」(月刊)を作成した。また、「社会人のための組踊鑑賞教室」「親子のための組踊鑑賞教室」「組踊鑑賞教室」「沖縄芝居鑑賞教室」で初心者向けのパンフレットを作成し、無料配布を行った。
- ・ 新国立劇場では、全ての主催公演について公演解説書(プログラム)を作成した。

2. 音声同時解説・字幕表示の活用

(1) イヤホンガイドサービスの実施

- ・ 歌舞伎・文楽の全公演で、日本語と英語によるイヤホンガイドサービスを実施した(文楽鑑賞教室は日本語版のみ)。

(2) 字幕表示の実施

ジャンル	実施公演数	内 訳
歌舞伎公演(鑑賞教室含む)	2公演	6月鑑賞教室、7月鑑賞教室
文楽公演(鑑賞教室含む)	10公演	全公演
舞踊・邦楽・声明・民俗芸能・特別企画公演	17公演	5月舞踊公演、8月舞踊公演、11月舞踊公演、3月舞踊公演
		10月邦楽公演(2公演)、12月邦楽公演、1月邦楽公演、7月邦楽公演(文楽劇場)
		2月声明公演
		4月民俗芸能公演、6月民俗芸能公演、1月民俗芸能公演、9月民俗芸能公演(文楽劇場)

		4月舞踊・邦楽公演、6月〈伝統芸能の魅力〉公演（2公演）
能楽公演（鑑賞教室含む）	50公演	2月企画公演（蠟燭能）を除く全公演
組踊等沖縄伝統芸能公演（鑑賞教室含む）	28公演	11月企画公演「国立劇場寄席」、2月企画公演「狂言」～野村万作・野村萬斎～」を除く全公演
オペラ公演（鑑賞教室含む）	11公演	全公演
演劇公演	1公演	3月「焼肉ドラゴン」

3. 公演説明会・施設見学等の実施

(1) 公演説明会の実施

区分	件数	参加人数
本館・演芸場	137件	4,636人
能楽堂	10件	457人
文楽劇場	105件	2,520人
国立劇場おきなわ	11件	300人
新国立劇場	12件	2,669人
合計	275件	10,582人

(2) 施設見学の実施

区分	件数	参加人数
本館・演芸場	6件	20人
能楽堂	12件	66人
文楽劇場	3件	58人
国立劇場おきなわ	38件	816人
新国立劇場	43件	515人
合計	102件	1,475人

(3) バックステージツアーの実施

区分	件数	参加人数
本館・演芸場	114件	3,382人
能楽堂	13件	331人
文楽劇場	0件	0人
国立劇場おきなわ	2件	76人
新国立劇場	14件	394人
合計	143件	4,183人

【特記事項】

- ・ 上記施設見学のほか、新国立劇場では9カ国12団体60名の外国からの見学者受入れを行った。

(4) 劇場外での伝統芸能講座の実施

- ・ 社会人向け講座シリーズ「国立劇場 in 丸の内」を実施した（会場：新丸の内ビルディング エコツェリア、丸の内ビルディング 丸ビルホール&コンファレンススクエア）。伝統芸能を観る機会の少ないビジネスパーソンを対象に、伝統芸能の知識を得る機会を提供した（4回、参加者数計137名）。
- ・ 国立劇場おきなわ 11月企画公演「アジア・太平洋地域の芸能」で、ジャワの宮廷音楽ガムランを取り上げるにあたり、沖縄県立芸術大学と共催で、筑紫女学園大学文学部准教授田村史子氏とインドネシア国立芸術大学ヨグヤカルタ校教授のサプトノ氏による、レクチャー&ワークショップ「ガムラン入門」を、同大学首里当蔵キャンパス大合奏室において実施した（1回、参加者数計74名）。

(5) 劇場外での現代舞台芸術講座の実施

- ・ オペラ「椿姫」スタッフによる特別講義を実施した（会場：文化学園大学）。文化学園大学服装学部服装造形学科・現代文化学部国際ファッション文化学科の学生を対象に「椿姫」演出・衣裳のヴァンサン・ブサール、衣裳スーパーヴァイザーのエリザベット・ド・ソヴェルザック両氏が、衣裳製作過程について特別講義を行った（1回、参加者240名）。
- ・ 武蔵野美術大学デザイン・ラウンジと共同企画で「美大学長グローバル・トーク：フィンランド『劇

場から学ぶ、クリエイティブ・リーダーシップ』セミナーを実施した（会場：東京ミッドタウン・デザインハブ）。「ラインの黄金」の公演制作に協力いただき公演初日に合わせ来日したフィンランド国立歌劇場総裁 パイヴィ・カルツカイネン氏、武蔵野美術大学学長 長澤忠徳氏、フィンランドセンター所長 メリヤ・カルツピネン氏によるトークセミナーを実施し、学生やビジネスパーソンを対象に、劇場という観点から現代舞台芸術についての知識を得る機会を提供した（1回、参加者92名）。

《自己点検評価》

○ 良かった点・特色ある点

- ・ 「国立劇場 in 丸の内」の開催に当たっては、平成26年度に引き続き、丸の内地区の関係団体からの協力を得て会場を新丸の内ビルディング「エコツェリア」及び丸の内ビルディング「丸ビルホール&コンファレンススクエア」で実施した。今年度は歌舞伎、文楽、能楽に加えて舞踊をテーマに取り入れ、伝統芸能について広く周知する機会を提供した。
- ・ 能楽堂では、座席字幕表示装置を活用して、2月企画公演（蠟燭能）を除く50公演で日本語（詞章）・英語の2チャンネル方式で字幕表示を実施した。また、「夏休み親子で楽しむ能の会」「夏休み親子で楽しむ狂言の会」では子ども向けチャンネルを追加して3チャンネル方式とし、分かりやすい解説を表示して、観客層に合わせたきめ細かい字幕表示を実施し、好評を得た。
- ・ 国立劇場おきなわでは、公演内容等に応じて、上演に先立ちレクチャーやワークショップなどを開催し、鑑賞の一助とした。
- ・ 新国立劇場のバックステージツアーは、普段は観る機会のない舞台機構を解説付きで見学できるため、参加者に非常に好評であった。今後も積極的に実施していきたい。
- ・ 新国立劇場では、学校団体での芸術鑑賞や関西オペラ鑑賞教室において、事前に学校訪問をして、作品解説等の事前レクチャーを実施した。
- ・ 新国立劇場では、劇場内外を問わず、公演に関連した講義やセミナーを実施し、現代舞台芸術に触れる機会を広く提供した。

○ 見直し又は改善を要する点

- ・ 外国人来場者のため、外国語の字幕の対応について、外国人来場者の意向を調査しつつ、引き続き検討を行う必要がある。

2-(4)-④ 意見・要望等の把握と対応

《業務実績詳細》

1. 意見・要望等への対応体制

- ・ 各館に寄せられた観客の意見・感想・要望については、より迅速な対応を図るとともに、対応状況の把握と、職員や案内業務委託業者への周知のほか、各館で情報共有し、サービスの向上・改善に活用するよう努めている。

（新国立劇場）

- ・ 全公演でアンケート調査日を設定し、入場時にアンケート用紙を配布、終演後に粗品と引換に回収する形で実施した。アンケート記入コーナーを目立つ場所に移動するなど回収率向上の工夫を行った。アンケート調査日以外においても、劇場各所にアンケート用紙を設置した。
- ・ アンケート結果については、関係部署間で共有した。また、来場者アンケートに記載されたお客様の声のうち、掲載を許可されたコメントについて、ホームページにアップした。
- ・ 意見・要望については、委託業者も交えて必要な対応を行い、提供するサービスの質の向上に努めた。
- ・ 主催公演において、公演会場に職員が劇場支配人として立ち会い、委託業者とともに観客と直接コミュニケーションを図るとともに、不測の事態に常に備えた。

2. 意見・要望等への対応状況

区分		受付件数	回答件数
ご意見箱	本館	99件	78件
	演芸場	20件	13件
	能楽堂	23件	7件

	文楽劇場	75 件	59 件
	国立劇場おきなわ	23 件	0 件
	合計	240 件	157 件
メールによるご意見	振興会	144 件	119 件
	国立劇場おきなわ	3 件	1 件
	新国立劇場	286 件	128 件
	合計	433 件	248 件

主な対応・改善例

- ・ 従来の電話予約と窓口販売での障害者割引に加え、平成28年4月1日より、インターネットで一般料金（定価）で購入したチケットと障害者割引との差額分を、本館・演芸場・能楽堂・文楽劇場の売場窓口で払い戻すことで、インターネットでも障害者割引に対応することを決定
- ・ 本館小劇場無料休憩所内に、休憩時間を大きな字で表記した、わかりやすい掲示物を掲出
- ・ 本館大劇場トイレの使用状況が明確になるよう、28年度夏に、個室扉をアークスライド方式に改修する予定
- ・ 従来演芸場では主催公演の開場時間をホームページに掲出していたが、本館・能楽堂・文楽劇場においても同様に掲出を開始
- ・ 新国立劇場ではオペラ公演のキャスト表に上演時間を記載。また綺麗に保存しておきたいという要望に応え、二つ折りを中止
- ・ 「演奏の余韻の妨げになる」とのご意見を受け、オペラ・バレエ公演の終演後アナウンスを原則廃止
- ・ オペラ劇場公演時の休憩時間にプロムナードにイスを並べ、休憩場所として提供
- ・ プログラム売場の「見本」設置を、より見やすいラック置きに変更

《自己点検評価》

- 良かった点・特色ある点
 - ・ 意見・要望等により迅速に対応し、サービスの向上等業務改善を図った。
 - ・ 意見・要望等の集計結果をグラフ化し、昨年度データとの比較・分析を行った。
 - ・ 新国立劇場では、劇場支配人が主催公演会場に常に立ち会い率先して観客対応を行うことにより、担当職員、委託業者ともに高いおもてなしの精神をもって観客対応を行うことができた。
- 見直し又は改善を要する点
 - ・ 意見・要望等の集計・分析方法をさらに検討し、業務の改善に努める。
 - ・ 様々な価値観を持つ多数の観客に一度に対応するため、業務全般に一定の緊張感を持ちつつ常に検証・改善し、劇場体験の満足度向上に資するよう努める。

2-(5) 広報・営業活動の充実

《中期計画の概要》

2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

(6) 広報・営業活動の充実

より多くの人が幅広い分野の公演を鑑賞することを目標として、次の取組により一層効果的な広報・営業活動を展開

- ア 公演内容に応じた効果的な宣伝活動、各種事業に関する広報の充実
- イ 観客の需要を的確に捉えた営業活動
- ウ 会員に向けた各種サービスの提供による会員の観劇機会の増加

《年度計画の概要》

2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

(6) 広報・営業活動の充実

ア 効果的な広報・営業活動の展開

- ① 公演内容に応じて、記者会見・取材等によるマスメディアを通じた広報や、インターネット広告等の多様な媒体を活用して、広報活動を効果的に実施
 - ② 各種事業に関する広報の充実に努め、ホームページ等を活用して随時最新の情報を提供
ホームページについて、各種情報の早期掲載及び内容の充実、アクセス動向等を分析
英語版ホームページの内容を見直し、外国人に対する情報発信を強化
メールマガジンにより公演等の情報を随時配信
国立劇場開場 50 周年に向け、特別ポスター・チラシ、ホームページ上の特設サイト等の広報活動について検討
 - ・ 日本芸術文化振興会ホームページ目標アクセス件数：2,400,000 件
 - ・ 国立劇場おきなわホームページ目標アクセス件数：288,000 件
 - ・ 新国立劇場ホームページ目標アクセス件数：3,650,000 件
 - ③ 各種事業に関する広報誌を次のとおり発行
 - ・ 日本芸術文化振興会ニュース（毎月発行）
 - ・ 国立劇場おきなわ情報誌「華風」（毎月発行）
 - ・ 新国立劇場情報誌「ジ・アトレ」（毎月発行）
 - ④ シーズンシートやセット券等の企画・販売、各種キャンペーンを企画・実施
 - ⑤ 団体観劇を促進するため、公演内容に応じた営業活動を展開
旅行代理店・ホテル等との連携を強化
法人を対象とする事前登録制の団体チケット販売システムの運用、サービスの提供を開始
 - ⑥ 「国立劇場キャンパスメンバーズ」の運営、サービスの提供
会員校の増加に努め、サービスを拡充
 - ⑦ 全職員が積極的に団体観劇を勧誘する「おすすめキャンペーン」を引き続き実施
- イ 個人を対象とする会員組織の会員に対し、会報による情報提供を定期的を実施
入場券の会員先行販売や会員向けイベント等の各種サービスを提供
アンケート調査の結果について検討し、会員向けサービスの充実に活用
会員向けサービスの周知による、新規会員の増加
- ① あぜくら会（本館・演芸場・能楽堂）
 - ・ 会報「あぜくら」（毎月発行）
 - ・ 会員向けイベント：年 8 回程度
 - ・ 目標会員数：18,000 人
 - ② 国立文楽劇場友の会
 - ・ 「国立文楽劇場友の会会報」（年 6 回発行）
 - ・ 会員向けイベント：年 6 回程度
 - ・ 目標会員数：7,900 人
 - ③ 国立劇場おきなわ友の会
 - ・ 「国立劇場おきなわ友の会会報」（年 4 回発行）

- ・ 会員向けイベント：年3回程度
 - ・ 目標会員数：2,200人
- ④ クラブ・ジ・アトレ（新国立劇場）
- ・ 会報「ジ・アトレ」（毎月発行）
 - ・ 会員向けイベント：年11回程度
 - ・ 目標会員数：9,500人

《主要な業務実績》

1. 効果的な広報・営業活動の展開

- ・ 団体観劇を促進するため、公演内容に応じた営業活動を展開
- ・ マスコミ各社への記者会見や取材依頼のほか、各種媒体により公演情報を周知
- ・ 公演内容に応じて各種セット券等を販売
- ・ 英語版ホームページの改善、公演情報の早期掲載、特設ウェブサイトの開設、SNS（Facebook、Twitter）の活用等によりホームページの内容を充実化、メールマガジンを随時配信
- ・ 振興会、国立劇場おきなわ、新国立劇場の各ホームページにおいて目標アクセス件数を大幅に超えて達成
- ・ 旅行代理店・ホテル等との連携を強化
- ・ 「日本芸術文化振興会ニュース」、国立劇場おきなわ会報誌「華風」、新国立劇場情報誌「ジ・アトレ」等の広報誌を発行

（伝統芸能分野）

- ・ 法人を対象とする事前登録制の団体チケット販売システム「法人利用サービス」の提供を開始
- ・ 大学等を対象とする会員制度「国立劇場キャンパスメンバーズ」のサービスを提供
- ・ 全職員が積極的に観劇を勧誘する「ご観劇おすすめキャンペーン」を引き続き実施
- ・ 振興会ホームページにおいて「国立劇場歌舞伎情報サイト」を開設
- ・ 能楽堂の英語版ホームページに年間スケジュールを掲載し、外国人利用者の利便性を向上
- ・ 文楽劇場のホームページにおいて、技芸員のインタビュー動画の公開を開始したほか、公演記録映像を活用したダイジェスト版動画の作成を全ての文楽公演に拡大
- ・ 文楽劇場独自のコンテンツである「文楽かんげき日誌」を継続して実施
- ・ 放送局、映画、他劇場のミュージカル公演、百貨店等外部とのコラボレーションによる公演PRを実施
- ・ 会見用のバックパネルを新調

（現代舞台芸術分野）

- ・ ホームページの英文サイトを含めたスマートフォン対応、会員サイトやチケット購入サイト、バレエ団ページ等の改修を実施
- ・ バレエ、現代舞踊、演劇公演を組み合わせた「夏のこども劇場セット」を企画・販売
- ・ 京王電鉄の協力により、最寄駅である京王新線初台駅の列車接近メロディにオペラとバレエの音楽を採用

2. 会員組織の運営、会員向けサービスの充実

- ・ 会員組織の会員に対し、会報による情報提供及び先行販売、会員向けイベント等のサービスを実施
- ・ 国立劇場あぜくら会、国立文楽劇場友の会、クラブ・ジ・アトレにおいて目標会員数を達成
- ・ 会員サービスの充実及び新規入会キャンペーン等による入会促進

《数値目標の達成状況》

【ホームページへのアクセス状況】

日本芸術文化振興会ホームページの年間アクセス件数：実績 3,135,970 件／目標 2,400,000 件（達成度 130.7%）
 国立劇場おきなわホームページの年間アクセス件数：実績 305,370 件／目標 288,000 件（達成度 106.0%）
 新国立劇場ホームページの年間アクセス件数：実績 4,342,296 件／目標 3,650,000 件（達成度 119.0%）

【会員数】

あぜくら会：実績18,111人／目標18,000人（達成度100.6%）
 国立文楽劇場友の会：実績8,279人／目標7,900人（達成度104.8%）
 国立劇場おきなわ友の会：実績1,992人／目標2,200人（達成度90.5%）
 クラブ・ジ・アトレ：実績9,872人／目標9,500人（達成度103.9%）

《自己点検評価》

○ 自己評定

伝統芸能分野
B

(根拠)

- ・ 公演内容に応じた広報活動を実施し、公演情報の周知拡大を図り、一般の集客に努めた。
- ・ 各種キャンペーン等、公演内容に応じた広報・営業活動を実施した。
- ・ 「国立劇場キャンパスメンバーズ」のサービス内容を拡充し、利用者を大幅に増加させることができた。
- ・ 会員組織については、イベントの開催等、サービスの充実に努め、概ね会員数の目標を達成することができた。
- ・ 文楽劇場では、各種キャンペーンやホームページを利用した広報などにより、公演内容に応じた広報・営業活動を実施した。外部とのコラボレーションなどにより広報活動を一層強化し、30周年であった前年度に迫る集客が見られ、好結果を得た。
- ・ 国立劇場おきなわホームページについて、目標値を超えるアクセスがあった。
- ・ 国立劇場おきなわでは、沖縄県や旅行業者と連携して、都内高校修学旅行生を対象とした組踊鑑賞会（1回、参加者約220名）及び一般を対象とした組踊鑑賞ツアー（8回、参加者計91名）を実施した。
- ・ 会見用のバックパネルのデザインを更新し、「国立劇場」のロゴがどのようなアングルからでも映り込むよう工夫した。

現代舞台芸術分野
B

(根拠)

- ・ 公演内容に応じて、様々な媒体による広報・営業活動を実施した。
- ・ 英文サイトを含めたホームページのデザイン改修、全ジャンルでのFacebook、Twitterの活用や、様々な媒体による動画配信により、これまで以上に多くの情報を随時発信することができ、年間アクセス件数も年度計画目標を大きく上回った。
- ・ 会員向けのイベントをより多く実施する等、会員向けサービスの充実に図った結果、クラブ・ジ・アトレは会員数の目標を達成することができた。

○ 良かった点・特色ある点

(伝統芸能分野)

- ・ 振興会ホームページにおいて「国立劇場歌舞伎情報サイト」を開設し、公演案内、関連資料等、歌舞伎に関する情報を横断的に提供した。
- ・ 「国立劇場キャンパスメンバーズ」のサービス内容を拡充し、利用者を大幅に増加させることができた。
- ・ あぜくら会においては、歌舞伎公演演目に因んだバスツアーや能楽師による座談会を実施するなど、バラエティに富んだイベントを実施し、会員増を図った。
- ・ 文楽劇場では、特にホームページにおいて、技芸員インタビュー動画、舞台のダイジェスト版動画、「文楽かんげき日誌」等で公演PRの内容充実に図り、トピックスアクセス数を向上させ、宣伝効果を高めることができた。その他、放送局・映画・ミュージカル・百貨店等外部とのコラボレーションによる公演PRを実施し、これまでになかった切り口の宣伝活動を行った。

(現代舞台芸術分野)

- ・ ホームページのデザイン改修、全ジャンルでのFacebook、Twitterの活用や、様々な媒体による動画配信等により、これまで以上に多くの情報を随時発信でき、結果としてホームページへの年間アクセス件数は目標を大きく上回ることが出来た。
- ・ 英文サイトの改修を行い、利便性を更に高めた。
- ・ 京王電鉄との協力で、最寄駅である京王新線初台駅の列車接近メロディにオペラとバレエの音楽が採用されたことにより、京王新線利用者に対する新国立劇場のイメージアップにつながった。

- ・ クラブ・ジ・アトレ入会促進キャンペーンにおいては、従来のゲネプロ見学への招待等に加えて、特別バックステージツアー、バレエリハーサル見学会及びバレエレッスン見学会を実施したほか、ランチタイムコンサートの優待なども行い内容の充実を図った。
- 見直し又は改善を要する点
 - ・ 今後もジャンルや演目の特性を見据え、きめ細かな広報宣伝営業活動が続ける必要がある。
 - ・ 引き続き、各会員組織において入会キャンペーン等の実施により新規会員の増加を図るとともに、会員向けサービスの一層の充実に努めたい。

2-(5)-① 効果的な広報・営業活動の展開

《業務実績詳細》

1. 公演内容に応じた効果的な広報活動

(本館)

- ・ 振興会ホームページにおいて「国立劇場歌舞伎情報サイト」を開設し、公演案内、関連資料等、歌舞伎に関する情報を横断的に提供した。
- ・ マスコミ各社を招いて、出演者・関係者の記者会見、舞台稽古の取材、ゆかりの地での取材会などを実施した。出演者のテレビ出演、ポスター、チラシ、ホームページ、あぜくら会報、振興会ニュース等での広報、公演情報の周知拡大を図り、一般の集客に努めた。
- ・ 9月文楽公演と10月歌舞伎公演での同一演目上演による観客増加策として、演目の重要アイテムの刀剣に因み刀剣博物館での歌舞伎俳優と文楽技芸員の出席による取材会を開催し周知を図った。
- ・ 公演チラシ、振興会ホームページ、国立劇場メールマガジン、あぜくら会報、振興会ニュースでダブル観劇キャンペーンを周知し、9月文楽公演・10月歌舞伎公演、両公演のチケットを持参された方にオリジナルトートバックをプレゼントするサービスを実施した（配布数1,566枚）。
- ・ 会見用のバックパネルのデザインを更新し、「国立劇場」のロゴがどのようなアングルからでも映り込むよう工夫した。

(演芸場)

- ・ マスコミ各社へ定期的に公演内容を詳しく解説したメールを配信し、情報提供に努め、新聞記事等の掲載により集客を図った。また各種団体にも積極的に働きかけを行った。
- ・ 新聞や「東京かわら版」等への広告掲載、NTJメンバー等へのメール発信、ダイレクトメール送付に加え、公演内容に応じて、出演者の出身地の都道府県事務所、出身学校などからの情報発信を行った。

(能楽堂)

- ・ チラシ、ポスター、ホームページ、広報誌等による通常の広報とともに、公演によっては企画性を周知するため、特別チラシを配布したほか、ホームページにトピックス等を掲載した。
- ・ 英語版ホームページに年間スケジュールを掲載し、外国人利用者の利便性向上を図った。

(文楽劇場)

- ・ 二代目吉田玉男襲名に際し、外部団体の協力を得て、交通広告、商店等において宣伝活動の充実を図り、公演内容を効果的にPRすることができた。また、放送局、映画、ミュージカル、百貨店、空港、図書館等と連携し、様々なコラボレーションによる公演PRを実施した。
- ・ マスコミへの積極的な働きかけを実施したほか、文楽協会や大阪市営地下鉄、JR西日本との協力により、壁面広告や車内ステッカー広告等による公演PRを行った。
- ・ ラジオCMを実施するとともに、在阪ラジオ局への働きかけにより、番組内で定期的に公演紹介を行うコーナーを設けることができた。

(国立劇場おきなわ)

- ・ 各公演演目のゆかりの地の公民館や関係団体等への訪問を強化して集客に努めた。
- ・ 近畿日本ツーリスト沖縄と提携して「沖縄の伝統芸能『組踊』鑑賞と琉球史に触れる1日」と題した組踊鑑賞ツアーを企画し、集客に努めた。
- ・ 那覇まちなみ〜いと提携して「沖縄芸能実演家が案内する国立劇場おきなわ舞台裏」と題したツアーを企画し、集客に努めた。

(新国立劇場)

- ・ 演目の制作発表やフォトコール（報道写真撮影会）を行い、積極的な情報提供に努めた。
- ・ 演目別の広報については、プレスリリース、個別インタビュー、稽古場取材の実施など、きめ細かいマスコミ対応により、記事掲載の促進を行った。
- ・ 演目発表後、早い段階から特設ウェブサイト等に舞台写真や動画等を掲載し、公演開始後はすみやかに初日の舞台映像をアップするなどして観劇意欲の促進を図った。
- ・ 公演会場ホワイエ内で、ジ・アトレ会報誌の記事やポスターなどを利用して、今後の主催公演に関する情報のパネル掲示を行ったほか、レポートリー公演のダイジェスト映像やスタッフ・キャストのインタビュー映像を上映し、観客の興味を喚起した。
- ・ 10月のオペラ「ラインの黄金」では飯守芸術監督のピアノ演奏、解説による「音楽講座」の動画などをホームページに掲載し、作品への理解を深めるとともに期待感の醸成につなげた。

- ・ オペラ「イエヌーフア」において、2月19日にインターネットラジオ「OTTAVA」にて特集番組を放送した。制作スタッフのピアノ演奏による解説やトークを行い、多くの視聴者を得た。
- ・ チェコ大使館の協力により「イエヌーフア」の作曲家の生涯を描いた映画の無料上映会を2月2日に2回開催し、公演への関心を高めた。
- ・ 1月15日にオペラ、舞踊、演劇の各芸術監督による2016/2017シーズンラインアップ記者発表を行った。
- ・ 1月のオペラ「魔笛」と2月のバレエ「ラ・シルフィード/Men Y Men」のそれぞれの終演後において各1回、オペラ芸術監督、舞踊芸術監督による次シーズンのラインアップ説明会を実施した。

2. ホームページにおける情報の内容の充実、メールマガジンの配信

(1) ホームページアクセス件数

日本芸術文化振興会ホームページの年間アクセス件数：3,135,970件（目標2,400,000件）

（内、27,944件が携帯電話からのアクセス）

国立劇場おきなわホームページの年間アクセス件数：305,370件（目標288,000件）

新国立劇場ホームページの年間アクセス件数：4,342,296件（目標3,650,000件）

(2) ホームページの内容の充実

- ・ 振興会ホームページにおいて「国立劇場歌舞伎情報サイト」を開設し、公演案内、関連資料等、歌舞伎に関する情報を横断的に提供した。
- ・ 振興会ホームページにおいて、事業や公演の内容に応じ特設サイトを開設した。
- ・ 能楽堂の英語版ホームページに年間スケジュールを掲載し、外国人利用者の利便性向上を図った。
- ・ 能楽堂の公演情報として、28年1月に28年度の全主催公演の番組を掲載し、団体観劇の受付を開始して、集客を図った。
- ・ 二代目吉田玉男襲名披露に際して特設ウェブサイトを開設し、興味喚起を図った。
- ・ 文楽劇場では、ホームページにおいて、限られた環境の中、手作りで技芸員のインタビュー動画の公開を開始したほか、公演記録映像を活用したダイジェスト版動画の作成を全ての文楽公演に拡大した。また、文楽劇場独自のコンテンツである「文楽かんげき日誌」を継続して実施した。これらの内容の充実によりトピックスアクセス数を向上させ、文楽公演の宣伝効果を高めることができた。
- ・ 国立劇場おきなわでは、各種事業に関する広報の充実に努め、各種情報の早期掲載及び内容の充実に努め、随時最新の情報を提供した。
- ・ 国立劇場おきなわ公式 Facebook ページを活用して、公演案内をはじめとする沖縄伝統芸能等に関する情報を提供し、ファンとのコミュニケーションを図った。

(新国立劇場)

- ・ ホームページの画面をスマートフォン対応にした。トップ画面、公演、英語サイトなど重要度の高いところから順次改修を行い、ほぼ全ページを一新した。
- ・ トップ画面から最新ニュースが読めるように改修し、ニュース発信数を増やすと同時に、各ページに常に最新の情報が載っているよう日々更新に努めた。
- ・ Facebook や Twitter などの SNS での情報発信も大幅に増やした。
- ・ 別サーバーで管理していたクラブ・ジ・アトレ会員サイトを本サイトに移管・統合した。内容も重複、不要部分を整理してデザインを一新し、利便性の向上を図った。
- ・ チケット購入サイトを大幅改修して購入方法や割引情報がよりわかりやすくなるようにした。また Web ボックスオフィスでは全公演で購入画面から座席の選択ができるようにした。
- ・ 演目によって特設ウェブサイトを開設し、画像や動画の掲載を更に充実させるとともに、コラムの連載等、より多くの情報発信を行い、一層の興味喚起を図った。
- ・ 新国立劇場バレエ団ページを改修し、ダンサープロフィール等の内容の充実を図った。
- ・ ホームページや SNS (Facebook, Twitter) を活用し、公演ごとに画像、動画、文章を用いて、過去の公演、リハーサル風景、出演者のインタビューを随時発信し、興味喚起に努めた。
- ・ スマートフォン用アプリ「劇場コンシェルジュ」を立ち上げた。公演チラシ画像を中心とした公演基本情報に加え公演直前の最新情報もすぐに配信するなど活用幅を広げている。
- ・ トークイベントなどの一般観客向け企画を YouTube によりインターネット上で生中継した。

(3) メールマガジンの配信

- ・ 国立劇場メールマガジン：毎月2回、主催公演や関連イベント、その他事業等の情報を配信
28年3月末登録者数：59,980人（対前年度+4,689人）
- ・ 国立劇場おきなわメールマガジン：毎月1回、主催公演や貸劇場公演に関する情報を配信

28年3月末登録者数：492人（対前年度△8人）

- ・ 新国立劇場 e メール Club（メールマガジン）：発売直前に発売情報と観どころ等を、公演直前に舞台稽古の状況等を、公演開始後にお客様の感想等を、ホームページや SNS（Facebook、Twitter）と連動させつつ発信

3. 広報誌の発行

以下の広報誌等を作成した。

- ・ 「日本芸術文化振興会ニュース」（毎月発行）
- ・ 「独立行政法人日本芸術文化振興会概要（日本語）」（27年6月発行）
- ・ 「独立行政法人日本芸術文化振興会要覧」（27年10月発行）
- ・ 「独立行政法人日本芸術文化振興会年報 平成26年度」（27年12月発行）
- ・ 国立劇場おきなわ情報誌「華風」（毎月発行）
- ・ 新国立劇場情報誌「ジ・アトレ」（毎月発行）
- ・ 「新国立劇場 2015/2016 シーズンガイド」（27年6月発行）
- ・ 「新国立劇場 2015/2016 シーズンガイド（英語版）」（27年8月発行）
- ・ 「新国立劇場 平成26年度年報」（27年10月発行、日英2ヶ国語表記）

4. シーズンシートやセット券等の販売

- ・ あぜくら会員に対して、各歌舞伎公演の初日から三日目の入場券をセットにした「三日目の会」の入場券の販売を行った。（10月～1月の4公演分1,984枚）
- ・ あぜくら会「三日目の会」会員に対して、3月新派公演入場券の特別優待販売を行った。（285枚）
- ・ 入場券のセット購入者に対する割引を公演形態に合わせて実施した。歌舞伎4公演特別セット券の販売を限定ステージで行った（10月～1月の4公演分296枚）。また、舞踊や邦楽、能楽等の短期の公演でも、内容の異なる2回公演の場合は同時に購入すると割引となる、セット割引を行った。（6月伝統芸能の魅力（声明・邦楽）70枚、6月伝統芸能の魅力（雅楽・舞踊）80枚、6月民俗芸能公演184枚、10月舞踊公演（文楽劇場）168枚、11月舞踊公演40枚、1月民俗芸能公演86枚、3月舞踊公演14枚）。

（新国立劇場）

- ・ 現代舞踊 森山開次「サーカス」、演劇「かがみのかなたはたなかのなかに」、こどものためのバレエ劇場「シンデレラ」の3演目を「夏のこども劇場セット」として販売し、大人と子どもセットの割引料金を設定して好評を得、3公演フルセット248セット、2公演セット724セットの合計972セットを販売した。特設サイトを掲出し、公演期間中は関連イベントを数多く企画して劇場全体で盛り上げた。
- ・ オペラ、バレエ、現代舞踊の2015/2016シーズンセット券の販売を27年1月20日より継続して行い、2016/2017シーズンセット券の販売を28年1月20日より行った。
- ・ 1月20日からのオペラ及び舞踊のシーズンセット券の発売に合わせ、約2か月間にわたりオペラパレスのロビー内にてセット券の案内カウンターを設け、担当者が申込方法等の問い合わせに対応するなど販売促進にあたった。
- ・ オペラでは「椿姫」「ばらの騎士」「ラインの黄金」「トスカ」にて、バレエでは「こうもり」「くるみ割り人形」「ニューイヤー・バレエ」にて、各作品につき1～3回、休憩時と終演時に劇場ロビー内にてモバイル端末や無線LANを用いて、次回の公演や同公演の他日上演等のチケットを販売した。
- ・ 演劇公演において、芸術監督が企画するテーマに沿った演目をセットにし「ドラマチックな春」（「ウィンズロウ・ボーイ」「海の夫人」「東海道四谷怪談」の3公演）、「濃密な時間を楽しむ」（「パッション」「桜の園」「バグダッド動物園のベンガルタイガー」の3公演）、「時代を記録する三つの名舞台—鄭義信三部作—」（「焼肉ドラゴン」「たとえば野に咲く花のように」「パーマ屋スマイル」の3公演）と題し、特別割引通し券として販売した。

5. 団体観劇の促進、団体チケット販売システムの運用

(1) 団体観劇の促進、旅行代理店・ホテル等との連携強化

（本館）

- ・ 団体の営業活動として、公演演目に因んだイベントを実施したほか、集客に困難が予想される公演について、観劇団体の幅広いニーズに応える特別価格の「公演プログラム付きプラン」や付加価値の

ある「舞台見学付きプラン」「セミナー付きプラン」などの観劇プランを各種提供して、団体客の増加に努めた。

- ・ 歌舞伎・新派・文楽公演の公演内容の周知と団体客の集客のため、過去10年間に観劇履歴のある団体及び新規見込み団体に向けて、定期的に最新の公演情報や団体観劇プランのご案内等の内容のDMを送付した。(年8回、のべ9,756通)
- ・ 鑑賞教室公演の企画内容の周知と学校団体客の集客のため、関東甲信越地方中学・高等学校、首都圏専門学校を中心にDMを送付した。(年3回、のべ20,049通)
- ・ 6月歌舞伎鑑賞教室内の企画「Discover KABUKI－外国人のための歌舞伎鑑賞教室－」の集客のため、大学留学生センター・留学生支援団体・日本語学校等の外国人関係団体及びホテル・在日大使館を個別訪問するとともに、より広く周知するため3ヶ国語(英中韓)の特別チラシを作成して、外国人関係団体・ホテル等へDMを送付(2,457件)した。
- ・ 「Discover KABUKI－外国人のための歌舞伎鑑賞教室－」の上演を2020年オリンピック・パラリンピックの文化プログラム参画に向けた取組と位置付け、3ヶ国語(英中韓)の特別チラシを海外からの旅行者の目に留まりやすい空港・観光案内所・主要ホテル等に配布したほか、公演当日に在日大使館日本文化担当者の特別招待を実施した。
- ・ 28年度の鑑賞教室利用促進のため、過去3年間観劇履歴のない首都圏の高等学校・専門学校等の担当者及び教育委員会担当者を対象に鑑賞教室の企画説明及び鑑賞教室公演の観劇による「劇場見学会」を実施した。(6月歌舞伎鑑賞教室期間中に2回実施。参加者数：29校46名)
- ・ 職員のコミュニティー等を活用した「ご観劇おすすめキャンペーン」を引き続き実施し、27年度は特に集客努力が重要となる10月歌舞伎公演と3月新派公演を「実施重点月」に指定して、理事長及び営業部担当理事のリーダーシップの発揮により、各職員に一層の働きかけを行った。
- ・ 海外からの旅行者の観劇を増やすため、旅行代理店・ホテル等との連携強化を一層進め、引き続き外国人から好評なデザインの英文スケジュールチラシを、国立劇場、羽田空港・成田空港・東京都庁各観光案内所(東京観光財団運営)、有楽町TIC(日本政府観光局運営)、東京駅前TIC TOKYO(森ビル運営)、東京駅前KITTE内観光案内所(日本郵便・JTB運営)、都内主要ホテルに配布した。
- ・ 歌舞伎及び文楽の各国語版リーフレット(英語・フランス語・中国語繁体字・中国語簡体字・韓国語)を増刷し、国立劇場チケット売場に専用ラックを設置したほか、観光案内所等に配布した。
- ・ 主に外国人旅行者を対象としている東京駅前KITTE内観光案内所において、英文の歌舞伎イメージポスターを毎年掲示した。

(能楽堂)

- ・ 新規団体を開拓することを営業活動の第一のテーマとして取り組み、大学やカルチャースクール等の社会人向け能楽講座と連携した観劇や、若い客層向けの企画とタイアップした団体の誘致に努めた。

(文楽劇場)

- ・ 団体の営業活動として、公演演目に因んだイベントなどを実施したほか、演劇フリーペーパーへの記事広告掲出、外部団体のメールマガジンへの公演情報掲出など、幅広い客層に対して興味を持ってもらえるよう工夫を行った。

(国立劇場おきなわ)

- ・ 県の助成事業を活用した貸切バス助成事業を旅行代理店等にPRすることで、団体観劇を促進した。
- ・ 近畿日本ツーリストと提携して、6月より8回の組踊鑑賞ツアー(参加者計91名)及び沖縄県の補助も得て3回の県外組踊ファンミーティング(7月新宿、11月秋葉原、2月横浜、参加者計44名)を実施した。
- ・ 沖縄県及び一般財団法人沖縄観光コンベンションビューローの主催する「沖縄修学旅行フェア2015」(県内及び東京都で開催)に参加し、県外学校関係者及び修学旅行を担当する旅行代理店等に対し、修学旅行における団体観劇のPRを行った。
- ・ 沖縄県、旅行業者と連携して、都立八潮高校の修学旅行生を対象とした組踊鑑賞会を小劇場で実施した(参加者数約220名)。

(新国立劇場)

- ・ 都内ホテル、百貨店、高級呉服店、自動車のオーナークラブ、社交クラブ、不動産オーナー及び外部Webサイトの会員組織等と連携した観劇プランを実施した。
- ・ 修学旅行誘致及びラインアップ発表のためのDMを全国の旅行代理店各支店宛に送付した。
- ・ 京王電鉄との協力で、最寄駅である京王新線初台駅の列車接近メロディにオペラとバレエの音楽が採用されたことにより、京王新線利用者に対する新国立劇場のイメージアップにつながった。

(2) 団体チケット販売システムの運用

- ・ 法人を対象とする事前登録制の団体チケット販売システム「法人利用サービス」の提供を開始した。
- ・ 福利厚生メニューの充実と福利厚生業務担当者の事務軽減を図ることができる「法人利用サービス企業様向け」と、ホテル宿泊客等へのコンシェルジュサービスをサポートする「法人利用サービスホテル・観光案内所様向け」の二種類のプランを設定し、既存団体及び新規見込み団体への営業活動を行った。

加入実績：3 団体

6. キャンパスメンバーズサービスの提供

(1) 会員数

14 校

(26 年度より継続加入：7 校)

東京海洋大学・東京学芸大学・東京藝術大学音楽学部・東京工業大学・獨協大学・日本大学芸術学部・一橋大学

(27 年度より新規加入：7 校)

お茶の水女子大学・国士舘大学文学部文学科日本文学文化専攻・女子美術大学芸術学部アート・デザイン表現学科アートプロデュース領域・清泉女子大学・東京工芸大学・法政大学文学部日本文学科・明治学院大学文学部芸術学科

(2) 利用枚数

1,078 枚（学生：899 枚、教職員：179 枚） ※前年度実績：197 枚（学生のみ）

(3) 会員限定イベントの実施

5 回実施（参加者数：32 名）

歌舞伎入門講座（10 月歌舞伎）、バックステージツアー（10 月歌舞伎）、文楽入門講座（2 月文楽）、新派入門講座（3 月新派）、バックステージツアー（3 月新派）

(4) サービスの拡充

教職員も学生と同条件で利用可能（4 月～）

7. おすすめキャンペーンの実施

- ・ 職員のコミュニティー等を活用した「ご観劇おすすめキャンペーン」については、27 年度は特に集客努力が重要となる 10 月歌舞伎公演と 3 月新派公演を「実施重点月」に指定して、理事長及び営業部担当理事のリーダーシップの発揮により、各職員に一層の働きかけを行った。（27 年度実績：2,373 枚）

《自己点検評価》

○ 良かった点・特色ある点

- ・ 「国立劇場キャンパスメンバーズ」のサービス内容を拡充し、利用者を大幅に増加させることができた。
- ・ 本館では、会見用のバックパネルのデザインを更新し、「国立劇場」のロゴがどのようなアングルからでも映り込むよう工夫した。
- ・ 文楽劇場では、特にホームページにおいて、芸員インタビュー動画、舞台のダイジェスト版動画、「文楽かんげき日誌」等で公演 PR の内容充実を図り、トピックスアクセス数を向上させ、宣伝効果を高めることができた。その他、放送局・映画・ミュージカル・百貨店等外部とのコラボレーションによる公演 PR を実施し、これまでにない切り口の宣伝活動を行った。

(新国立劇場)

- ・ 情報発信について、スマートフォン対応をはじめとするホームページの継続的なデザイン改修、全ジャンルでのニュース発信と Facebook、Twitter の活用等により、これまで以上に多くの情報を随時発信できた。また、SNS（Facebook、Twitter）上で情報が共有、拡散され、大きな宣伝効果を得た。
- ・ ホームページへの年間アクセス件数は目標を大きく上回る 4,342,296 件を達成することができた。
- ・ 英文サイトの改修を引き続き行い、全ての公演ページに動画を掲載するなど、よりわかりやすいページの作成に努めた。
- ・ 子どものうちに本物の舞台芸術に触れてもらいたいという意図のもと、家族を対象としたバレエ、現代舞踊、演劇の 3 公演について「夏のこども劇場セット」と題するセット券の販売を行い好評を得た。

○ 見直し又は改善を要する点

- ・ 今後もジャンルや演目の特性を見据え、きめ細かな広報宣伝営業活動を続ける必要がある。

2-(5)-② 会員組織の運営、会員向けサービスの充実

《業務実績詳細》

1. あぜくら会

(1) 会員向けサービスの充実

- ・ 毎年好評を得ているバックステージツアーや公演レクチャーに加え、イベントとして初めてのバスツアーや能楽師による対談等、バラエティに富んだイベントを実施し、好評を得た。
- ・ イベントに参加できなかった会員のために、振興会ホームページ上の会員向けページにイベントレポートを掲載し、また、インターネットを利用しない会員のために、会報にもレポートを掲載した。
- ・ イベント開催日時について、アンケートで希望のあった土・日や夜間にも実施するようにした。
- ・ 入会申込書とセットで配布している封筒を料金受取人払封筒にし、入会者の負担減を図った。
- ・ 会員からの各種変更届の送付に関しても、料金受取人払封筒を利用してもらうことで、サービスに努めた。
- ・ あぜくら会入会キャンペーンを28年1月～3月末日まで実施し、期間内に入会申込書が届いた新規入会者に特製間仕切り付チケットケースプレゼントを行った。

(2) 会報の発行（計画：毎月発行）

- ・ 「あぜくら」を毎月25日に発行した。（計12回）

(3) 会員向けイベント（計画：年8回程度）

① 「国立劇場5月文楽公演吉田玉女改め二代目吉田玉男襲名披露特別座談会」

5月8日（金）18：30～19：50

本館小劇場、有料、指定席、販売枚数537枚

出演＝二代目吉田玉男・吉田和生・桐竹勘十郎 司会：山川静夫

アンケートの実施：回答数351人（配布数537人、満足回答率99.4%）

② 「石見大元神楽の魅力ー受け継がれる舞と神事ー」

5月28日（木）14：00～15：35

伝統芸能情報館レクチャー室、参加者105人（応募者125人、当選者105人（同伴者含む））

鈴木正崇（慶應義塾大学文学部教授）

アンケートの実施：回答数77人（配布数103人、満足回答率92.6%）

③ 「あぜくら会会員特別バックステージツアー」

7月26日（日）14：00～15：45

本館大劇場舞台及び楽屋、有料（保険料等）参加者151人（応募者546人、当選者182人）

アンケートの実施：回答数136人（配布数151人、満足回答率100.0%）

④ 能「松風」特別座談会

8月24日（月）18：00～19：30

国立能楽堂大講義室、参加者146人（応募者407人、当選者180人（同伴者含む））

出演＝栗谷明生・観世鍊之丞・武田孝史 司会：石井倫子（日本女子大学教授）

アンケートの実施：回答数88人（配布数146人、満足回答率98.9%）

⑤ 「四谷怪談」「忠臣蔵」ゆかりの地バスツアー

10月13日（火）13：00～17：30

都内（於岩稲荷田宮神社・泉岳寺他）、有料、参加者47人（応募者195人、当選者47人（同伴者含む））

出演＝講談とご案内：一龍斎貞友

アンケートの実施：回答数33人（配布数47人、満足回答率90.9%）

⑥ 「谷崎潤一郎と古典芸能」

11月16日（月）18：00～19：30

伝統芸能情報館レクチャー室、参加者130人（応募者217人、当選者170人（同伴者含む））

出演＝千葉俊二（早稲田大学教授）

アンケートの実施：回答数97人（配布数130人、満足回答率92.1%）

⑦ 「新派と昭和という時代ー花柳章太郎と初代水谷八重子ー」

1月30日（土）14：00～15：35

伝統芸能情報館レクチャー室、参加者 120 人（応募者 212 人、当選者 176 人（同伴者含む））

出演＝神山彰（明治大学教授）

アンケートの実施：回答数 84 人（配布数 120 人、満足回答率 97.6%）

⑧「国立劇場 3 月新派公演スペシャルアフタートーク」

3 月 5 日（土）16：25～17：10

本館大劇場、新派公演チケット購入者のみ応募可、参加者 473 人（応募者 507 人、当選者 507 人（同伴者含む））

出演＝水谷八重子、波乃久里子、市川月乃助、中村獅童 司会：山川静夫

アンケートの実施：回答数 230 人（配布数 473 人、満足回答率 98.1%）

(4) アンケート調査

- ・ 「あぜくらの集い」について毎回アンケート調査を行った。（配布数 1,691 枚、回答数 1,096 枚）
- ・ アンケート結果として、「あぜくらの集い」は好評で満足度も高かった。開催日時について、土・日や夜間の開催、指定席を希望する等の意見があった。

(5) 会員数

在籍者数（対前年度）	目標会員数
18,111 人（177 人）	18,000 人

2. 国立文楽劇場友の会

(1) 会員向けサービスの充実

- ・ 国立文楽劇場友の会新規入会キャンペーンを実施した。
- ・ 国立文楽劇場友の会既存会員へ記念品贈呈の「文楽公演観劇ラリー」を実施した。

(2) 会報の発行（計画：年 6 回発行）

- ・ 文楽本公演に合わせて年 6 回発行した。

(3) 会員向けイベント（計画：年 6 回程度）

①5 月舞踊・邦楽公演関連講座「地歌舞のたのしみ」

4 月 30 日、文楽劇場小ホール、参加者 120 人（応募者 161 人、当選者 161 人）

出演＝山村友五郎、亀岡典子

②茶話会「生写朝顔話」の見どころ・聞きどころ、文楽技芸員よもやま話、お楽しみ抽選会

6 月 23 日、国立文楽劇場文楽茶寮（食堂）、参加者 75 人（応募者 221 人、当選者 85 人）

出演＝くまざわあかね、豊竹咲甫太夫、鶴澤寛太郎、吉田幸助

アンケートの実施：回答数 75 人（配布数 75 人、満足回答率 80%）

③ 9 月特別企画公演関連講座「絵画史料にみる戦国時代の京都」

8 月 29 日、文楽劇場小ホール、参加者 85 人（応募者 126 人、当選者 126 人）

出演＝河内将芳

④お話「三国伝来の九尾の狐」、お話と実演「玉藻前の人形」、お楽しみ抽選会

10 月 29 日、文楽劇場小ホール、参加者 162 人（応募者 395 人、当選者 179 人）

出演＝田中貴子、広瀬依子、桐竹勘十郎

⑤生國魂神社及び浄瑠璃神社参拝とお話、お話「文楽の時空を語る」、落語「寝床」

12 月 21 日、生國魂神社、参加者 67 人（応募者 179 人、当選者 75 人）

出演＝中村文隆、高島幸次、桂福丸

⑥お話「花魁蒼八総」について、実演「花魁蒼八総」行女塚の段・伴作住家の段、対談「花魁蒼八総」の復曲について

3 月 16 日、文楽劇場小ホール、参加者 155 人（応募者 291 人、当選者 182 人）

出演＝久堀裕朗、亀岡典子、竹本千歳太夫、野澤錦糸

(4) 会員数

在籍者数（対前年度）	目標会員数
8,279 人（+131 人）	7,900 人

3. 国立劇場おきなわ友の会

(1) 会員向けサービスの充実

- ・ 前年度に引き続き、チケット購入時に押されるスタンプをためて割引券などがもらえるポイントカード制度や、キャンセル待ちサービス、会員対象の講演会・バスツアーを実施した。

- ・ インターネットで友の会の入会・更新の手続きができるようになった。
- (2) 会報の発行（計画：年4回発行）
 - ・ 「国立劇場おきなわ友の会会報」を6、9、12、3月に発行した（計4回）。
- (3) 会員向けイベント（計画：年3回程度）
 - ①友の会半日バスツアー&公演鑑賞 組踊「忠臣義勇」
 - 12月19日、朝薫五番ゆかりの地、有料、参加者40人（先着順）
 - 講師＝嘉数道彦、仲盛康治
 - アンケートの実施：回答数32人（配布数40人、満足回答率100.0%）
 - ②友の会新春講演会
 - 2月27日、国立劇場おきなわ小劇場、参加者89人
 - 講師＝宮城能鳳、聞き手＝嘉数道彦
 - アンケートの実施：回答数53人（配布数89人、満足回答率85.0%）
- (4) アンケート調査
 - ・ バスツアー・新春講演会で実施した。満足回答率（バスツアー100.0%、新春講演会85.0%）。
- (5) 会員数

在籍者数（対前年度）	目標会員数
1,992人（+40人）	2,200人

4. 新国立劇場クラブ・ジ・アトレ

- (1) 会員向けサービスの充実
 - ・ 10%割引価格にて先行販売（郵送申込及びインターネット申込による「会員抽選受付」並びに電話、窓口及びインターネット申込による「先行受付」）を行った。一般発売後は5%割引を実施した。
 - ・ シーズンセット券を10%から最大25%の割引価格にて優先的に販売した。また2015/2016シーズンバレエセット券から、主役キャスト決定後に別キャストへの日程変更が可能な、会員限定の「キャストセレクトサービス」を新たに導入した。
 - ・ 購入金額に応じて加算されるポイント数に応じて、ポイントアップサービスを実施した。具体的には、チケット購入時の優待サービス、各種クーポン、グッズの提供や、ゲネプロ見学や公演への招待を実施した。
 - ・ 三井住友カード株式会社との提携による入会・カード利用促進キャンペーン（各イベントへの招待、新国立劇場バレエ団ダンサーサイン入りグッズ贈呈等）を11月から3月にかけて実施し、会員募集に努めた。
 - ・ バレエの舞台レッスン見学を、バレエ公演開催日の午前中に2演目3回実施し、当該公演チケットを購入した会員の中から希望者を招待し、好評を得た。
 - ・ 別サーバーで管理していたクラブ・ジ・アトレ会員サイトを本サイトに移管・統合した。内容も重複、不要部分を整理して見やすく使いやすいデザインに改修し、利便性の向上を図った。
- (2) 会報の発行（計画：毎月発行）
 - ・ 新国立劇場月刊会報誌「ジ・アトレ」を毎月発行した。（計12回）
- (3) 会員向けイベント（計画：年11回程度）
 - ・ 新制作オペラ、レパートリー作品のバレエにおいて、会員から希望を募り、抽選でゲネプロに招待する見学会を9回（オペラ4演目、バレエ5演目）実施した。
 - ・ 2014/2015シーズンのオペラ・バレエでシーズンエンディングパーティーをそれぞれ開催した。
 - ・ 入会・カード利用促進キャンペーンの一貫として、特別バックステージツアーを実施した。
- (4) サービスに対する意見収集
 - ・ 今後の運営に活用するため、公演会場でのアンケートやポイントアップサービス等を通じて、各種サービスに対する会員の興味・関心の把握に努めた。
- (5) 会員数

在籍者数（対前年度）	目標会員数
9,872人（+204人）	9,500人

《自己点検評価》

- 良かった点・特色ある点
 - ・ 国立文楽劇場友の会について、積極的な友の会入会キャンペーンやホームページの有効活用により、

入場者数の好調を会員数の増へ繋げることができた。また、会員イベントの開催、観劇ラリーの実施などにより、会員向けサービスの充実に努めた。

- ・ 国立劇場おきなわ友の会について、前年度に続き半日バスツアーの講師を劇場職員が務めたことで、劇場を身近に感じてもらう機会となった。
- ・ 国立劇場おきなわ友の会では、年会員の更新率の低さを改善するために、インターネットで入会・更新手続きができるシステムを導入した。
- ・ 1月の東京・国立劇場小劇場での民俗芸能公演「村の組踊」の際、劇場ロビーで国立劇場おきなわの公演広報と合わせて、友の会入会の勧誘を行い、新規会員を獲得することができた。
- ・ 新国立劇場クラブ・ジ・アトレの入会促進キャンペーンにおいては、従来のゲネプロ見学への招待等に加えて、特別バックステージツアー、バレエリハーサル見学、バレエレッスン見学等、イベントを多く盛り込んだほか、オペラ研修所修了生によるオペラユニット PIVOT! のランチタイムコンサートへの優待を行うなど、内容の充実に努めた。
- ・ あぜくら会、国立文楽劇場友の会、クラブ・ジ・アトレは目標会員数を達成した。

○ 見直し又は改善を要する点

- ・ あぜくら会会員向けイベントについて、今後はアンケートで希望が多かった土・日・夜間のイベントも実施する。
- ・ あぜくら会について、会員の動向を分析したところ、会員の平均年齢が年々高くなっており、全退会者のうち、高齢や死亡による退会が多い傾向にある。会員組織の将来を見据え、幅広い年齢層の会員の獲得を目指し、会員用ホームページの充実や会員用お知らせメールの活用等、インターネットによる発信を検討する。
- ・ 国立劇場おきなわ友の会では、会員数が目標に達しなかった。入会・継続手続きがインターネットで可能となったことを受けて、引き続き会員サービスの向上を図るとともに、勧誘広報に努めたい。
- ・ 新国立劇場では、引き続き、入会キャンペーン等の実施により新規会員の増加を図るとともに、既存会員の方に新国立劇場の大切な固定客として定着いただけるよう、会員向けサービスの一層の充実に努めたい。

2-(6) 劇場施設の使用効率の向上等

《中期計画の概要》

2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

(7) 劇場施設の使用効率の向上等

ア 劇場施設の使用効率の向上

伝統芸能の保存振興又は現代舞台芸術の振興普及等を目的とする事業に対し、劇場施設を貸与

イ 利用方法、空き日情報等をホームページ等により提供

利用者に対して提供するサービスの向上

《年度計画の概要》

2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

(7) 劇場施設の使用効率の向上等

ア 劇場施設の使用効率の向上

伝統芸能の保存振興又は現代舞台芸術の振興普及等を目的とする事業に対し、劇場施設を貸与

区分	貸与日数	使用効率
本館大劇場	72日	79%
本館小劇場	142日	74%
演芸場	103日	89%
能楽堂本舞台	180日	70%
文楽劇場	97日	68%
文楽劇場小ホール	111日	58%
国立劇場おきなわ大劇場	69日	44%
国立劇場おきなわ小劇場	119日	64%
(小計)	893日	69%
新国立劇場オペラ劇場	36日	46%
新国立劇場中劇場	209日	82%
新国立劇場小劇場	112日	75%
(小計)	357日	69%
(合計)	1,250日	69%

※ 使用効率は、使用可能日数のうち鑑賞機会の提供（主催公演、主催公演関連企画、貸し劇場公演）を行った日数の割合。

イ 各施設の利用促進を図るため、次の取組を実施

- ① 各施設の設備等の概要、利用方法及び空き日等の情報をホームページへ掲載
- ② パンフレットやダイレクトメールによる広報
- ③ 利用希望者への説明・見学等
- ④ 利用者に対しアンケート調査を実施、その調査結果を踏まえたサービスの充実
- ⑤ 他の劇場施設等の利用方法、利用料金等の調査、調査結果の検討・活用

《主要な業務実績》

1. 劇場施設の貸与、使用効率の向上

- ・ 伝統芸能の保存振興又は現代舞台芸術の振興普及等を目的とする事業に対し、劇場施設を貸与
- ・ 伝統芸能分野、現代舞台芸術分野ともに、使用効率の年度計画目標を達成

2. 劇場施設の利用促進を図るための取組

- ・ 施設利用に関する情報を、ホームページ・パンフレット・専門誌等で随時発信
- ・ サービス向上のため、利用者へのアンケートや他劇場調査を実施

《業務実績詳細》

1. 劇場施設の貸与、使用効率の向上

劇 場	貸与日数		使用効率		(参考) 劇場稼働率
	実 績	目 標	実 績	目 標	
本館大劇場	78日	72日	78.5%	79%	92.6%
本館小劇場	136日	142日	72.8%	74%	91.1%
演芸場	108日	103日	88.8%	89%	95.4%
能楽堂	213日	180日	77.0%	70%	95.3%
文楽劇場	102日	97日	71.6%	68%	87.3%
文楽劇場小ホール	117日	111日	62.8%	58%	79.8%
小 計	754日	705日	75.8%	74%	90.7%
国立劇場おきなわ大劇場	65日	69日	42.0%	44%	81.7%
国立劇場おきなわ小劇場	138日	119日	72.0%	64%	77.5%
小 計	203日	188日	55.1%	52%	79.5%
伝統芸能分野 合計	957日	893日	71.6%	69%	88.4%
新国立劇場オペラ劇場	22日	36日	44.3%	46%	100.0%
新国立劇場中劇場	206日	209日	84.3%	82%	99.4%
新国立劇場小劇場	116日	112日	78.0%	75%	98.8%
現代舞台芸術分野 合計	344日	357日	70.2%	69%	99.3%
総 合 計	1,301日	1,250日	71.2%	69%	91.6%

2. 劇場施設の利用促進を図るための取組

① ホームページ、パンフレット等による広報、説明会等の実施

- 施設、設備等の概要及び利用手続き方法、空き日情報、貸劇場公演情報等をホームページに掲載した。
- 劇場利用パンフレットを作成して過去の利用者・利用団体・関係団体等に配布・送付した。
- 施設申込受付期間の案内を、過去の劇場利用者へのダイレクトメールや専門誌に掲載して広報を行った。
- 施設申込受付期間や申込方法を、楽屋・稽古場等に掲示して周知を図った。
- 舞台の保守点検日や整備期間の設定について、関係部署と調整しながら貸与希望者の使用希望日に沿うように調整した。

(本館)

- 劇場利用パンフレット及び使用申込書を振興会ホームページに掲載し、利用者の利便を図った。
- 小劇場利用希望者に対し、申込受付開始前に、申込手続きについての説明及び施設・設備の見学会を開催し、劇場利用者の増加に努めた。
- 大劇場・小劇場とも、初めての利用者や利用を検討している方からの希望に応じて、随時劇場見学等の案内を行った。

(能楽堂)

- 劇場利用パンフレットを更新し、ホームページに使用可能日を掲出するなど、広報の充実を図った。また利用希望者には、随時舞台見学等の案内を行った。
- 第二種（素人会）の利用は、毎年ではなく隔年や数年おきというケースが多く、希望が集中する傾向が見られたが、きめ細かい調整を行い、劇場利用者の増加に努めた。

(文楽劇場)

- 劇場内にチラシ・ポスターを掲出した。
- 芸術団体が多く来訪する芸術文化振興基金の応募相談会で、受付を出して劇場利用案内を行った。
- 団体営業と連携して観劇団体等へも劇場利用をPRした。

(国立劇場おきなわ)

- ホームページやパンフレットによる広報に加えて、国立劇場おきなわ友の会会報誌に貸劇場利用に関する情報を掲載し、一般・会員等への広報宣伝を行った。

(新国立劇場)

- 関係団体への郵送やホームページでの公開により使用方法や貸与可能日の状況を広く周知し、利用の促進を図った。
- 劇場カレンダーへの反映、団体ホームページへのリンクの貼付、チラシ画像・座席表の掲載など、利用団体の公演情報について劇場ホームページに掲載する情報をより充実させた。

② アンケート調査の実施

(本館・演芸場) 配布数 209 件、回答数 72 件 (回収率 34.4%)、満足回答率 91.7%

- ・ 「舞台・受付スタッフが親切」「他の劇場では、舞台・照明・音響のスタッフを主催者自身で手配しなければならぬが、国立劇場は安心して任せられるので、非常に助かる」という意見があった。

(能楽堂) 配布数 71 件、回答数 20 件 (回収率 28.2%)、満足回答率 85.0%

(文楽劇場) 配布数 143 件、回答数 58 件 (回収率 40.6%)、満足回答率 96.5%

(国立劇場おきなわ) 配布数 96 件、回答数 28 件 (回収率 29.2%)、満足回答率 91.9%

(新国立劇場)

- ・ 施設利用者にアンケート用紙を渡し、ご意見を伺った。施設・スタッフの対応いずれも良好との回答であった。

③ 利用方法、利用料金等の検討

- ・ 他劇場の施設見学・貸館事務手続き、舞台設備使用料 (音響機材料金) 等について調査し、料金改定等について検討を行った。

《数値目標の達成状況》

【劇場施設の貸与状況】

伝統芸能分野	実績71.6% / 目標69% (達成度103.2%)
現代舞台芸術分野	実績70.2% / 目標69% (達成度101.7%)
合計	実績71.2% / 目標69% (達成度102.8%)

《自己点検評価》

○ 自己評定

伝統芸能分野
B

(根拠)

- ・ 伝統芸能の保存振興等を目的とする事業に対し、劇場施設を積極的に貸与した。
- ・ 各劇場の貸与日数・使用効率は、全体で年度計画の目標を達成できた。

現代舞台芸術分野
B

(根拠)

- ・ 舞台の安全と公演の質に留意しつつスケジュールを精査して貸与可能日を確保し、オペラ劇場、中劇場、小劇場とも劇場稼働率の限度まで有効活用して芸術団体等へ貸与することが出来た。
- ・ 公開舞台稽古、無料上映会等の公開行事の増により、使用効率が年度計画の目標を達成できた。

○ 良かった点・特色ある点

(本館)

- ・ 29年度の施設使用の申込みを27年12月に受付けた。26年度分より受付期間を従来の2ヶ月間より1ヶ月間に短縮しているが、利用者にも広く浸透してきている。
- ・ 演芸場の施設使用の申込みについては、26年度の使用分より申込み受付開始を早期化しているが、29年度の受付においても、館内に案内を置いたり、利用実績のある顧客にDMを送付したりすることで、この方法が利用者に定着し、申込み数も安定してきている。
- ・ 29年度小劇場使用日選定抽選会の会場に施設利用システム搭載のパソコン等を設置し、受付から抽選、施設使用申込書や内定通知書発行まで、短時間で処理することができた。
- ・ 本館・演芸場では、従来紙媒体のみで配布していた劇場利用パンフレット及び使用申込書を振興会ホームページに掲載し、利用者の利便を図った。

(能楽堂)

- ・ 目標を越え、前年を大きく上回る利用数があった。観世能楽堂が休館して利用者が流れたことも一因であるが、特に第二種 (素人会) が前年度比 100%増となったのは、きめ細かい調整によるものであ

る。

(文楽劇場)

- ・ 特に小ホールの利用促進に注力し、劇場内にチラシ・ポスターを掲出した。
- ・ 芸術団体が多く来訪する芸術文化振興基金の応募相談会で劇場利用案内の受付を設け、冊子の配布や相談に応じた。
- ・ 団体営業と連携して観劇団体等へも劇場利用をPRした。

(国立劇場おきなわ)

- ・ ホームページに施設利用案内パンフレットを掲載し、利用希望者の利便性を向上させた。

(新国立劇場)

- ・ オペラ劇場、中劇場、小劇場とも、舞台の安全と公演の質に留意しつつスケジュールを精査し可能な範囲で貸与可能日を確保した。

○ 見直し又は改善を要する点

- ・ 本館小劇場、国立劇場おきなわ大劇場等の使用効率が目標に届かなかった。劇場利用について一層周知に努め、利用の増加を図りたい。
- ・ 新国立劇場では、オペラ劇場の使用効率が目標に届かなかった。自主使用の効率化を図り、劇場利用について芸術団体への一層の周知に努めるとともに、ホワイエを使用するイベント等についても貸出を行うなど、更に劇場の有効活用を図っていきたい。

I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するため
とるべき措置

伝統芸能の伝承者の養成及び現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修

伝統芸能の伝承者の養成

- 伝統芸能の伝承者の養成 p.116
- 養成研修の実施 p.122
 - 既成者研修の実施 p.125
 - 実施に当たっての留意事項 p.127

伝統芸能の伝承者の養成及び現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修

現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修

- 現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修 p.130
- 研修の実施 p.134
 - 実施に当たっての留意事項 p.137

3- (1) 伝統芸能の伝承者の養成

《中期計画の概要》

3 伝統芸能の伝承者の養成及び現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修

(1) 伝統芸能の伝承者の養成

伝統芸能を長期的な視点に立って保存振興し、各分野の伝承者を安定的に確保するため、伝承者の養成を次のとおり実施

ア 国としての支援が必要となる分野に限定し、外部専門家等から、我が国の伝統芸能を保持するために引き続き伝承者を養成する必要があるとの意見が示された、歌舞伎、大衆芸能、能楽、文楽、組踊の各分野について実施

実施に当たっては、各分野の充足状況等を把握するとともに、関係団体等との協議、外部専門家等の意見等を踏まえ、養成すべき分野、人数、研修期間等を定めた上で計画的に実施

研修修了生の動向把握等により成果の検証を行い、対象とする分野、人数等について不断の見直し

イ 重要無形文化財保持者等を講師として、実践的・体系的なカリキュラムにより、中期目標の期間中に次の人数の研修修了を目途とした養成研修を実施

- ① 歌舞伎俳優、音楽伝承者養成：18人程度（研修期間2年間又は3年間）
- ② 大衆芸能伝承者養成：8人程度（研修期間2年間又は3年間）
- ③ 能楽伝承者養成：基礎課程5人程度（研修期間：基礎課程3年間、専門課程3年間）
- ④ 文楽伝承者養成：6人程度（研修期間2年間）
- ⑤ 組踊伝承者養成：18人程度（研修期間3年間）

ウ 研修修了生を中心に伝承者の技芸の向上を図るため、次のとおり既成者研修を実施

- ① 既成者研修発表会
 - ・ 歌舞伎俳優既成者研修発表会（年2回程度）
 - ・ 歌舞伎音楽既成者研修発表会（年1回程度）
 - ・ 能楽既成者研修発表会（年3回程度）
 - ・ 文楽既成者研修発表会（年3回程度）
 - ・ 組踊既成者研修発表会（年1回程度）

② 能楽研究課程（1年間）

(3) 実施に当たっての留意事項

ア 養成研修事業についての国民の関心を喚起するため、広報活動を充実

イ 研修生等が実演経験を積む機会の充実及び学校等との連携による波及効果の拡大を図るため、児童・生徒等の体験学習や劇場外における様々な文化普及活動へ参画

ウ 伝統芸能の担い手を確保するための効果的かつ効率的な取組について検討

エ 合同講義の実施等、伝統芸能分野と現代舞台芸術分野の相互交流を実施

オ 国立劇場、新国立劇場等の人材や施設を活用し、公演制作者や舞台技術者等の実地研修等の受入れ、協力

《年度計画の概要》

3 伝統芸能の伝承者の養成及び現代舞台芸術の実演家等その他の関係者の研修

(1) 伝統芸能の伝承者の養成

ア 中期計画の方針に従い、次のとおり養成研修を実施

① 歌舞伎俳優・音楽

（歌舞伎俳優）

(a) 歌舞伎俳優第22期生（研修期間2年、9名）の1年目の養成

（歌舞伎音楽）

(b) 竹本第22期生（研修期間2年、3名）の1年目の養成

(c) 鳴物第15期生（研修期間2年、1名）の1年目の養成

(d) 長唄第6期生（研修期間3年、1名）の3年目の養成（修了）

(e) 長唄第7期生の募集

② 大衆芸能

- (a) 寄席囃子第13期生（研修期間2年、6名）の2年目の養成（修了）
 - (b) 寄席囃子第14期生の募集
 - ③ 能楽（囃子・狂言：研修期間6年）
 - (a) 第9期生（3名）の2年目の養成
 - ④ 文楽（太夫、三味線、人形：研修期間2年）
 - (a) 第27期生（4名）の1年目の養成
 - ⑤ 組踊（立方・地方：研修期間3年）
 - (a) 第4期生（10名）の2年目の養成
- イ 研修修了生を中心に伝承者の技芸の向上を図るため、次の通り既成者研修を実施

① 既成者研修発表会

- (a) 歌舞伎俳優既成者研修発表会（2公演実施）
 - ・ 歌舞伎会・稚魚の会合同公演（本館小劇場）8月14日～17日、8回
 - ・ 上方歌舞伎会（文楽劇場）8月22日～23日、4回
- (b) 歌舞伎音楽既成者研修発表会（1公演実施）
 - ・ 音の会（本館小劇場）8月8日～9日、2回
- (c) 能楽既成者研修発表会（3公演実施）
 - ・ 若手能（京都：観世会館）6月27日、1回
 - ・ 若手能（大阪：大槻能楽堂）1月30日、1回
 - ・ 若手能（東京：能楽堂）2月6日、1回
- (d) 文楽既成者研修発表会（4公演実施）
 - ・ 文楽若手会（文楽劇場）6月20日～21日、2回
 - ・ 文楽若手会（本館小劇場）6月27日～28日、2回
 - ・ 若手素浄瑠璃の会（文楽劇場小ホール）8月28日、1回
 - ・ 若手素浄瑠璃の会（文楽劇場小ホール）3月4日、1回
- (e) 組踊既成者研修発表会（1公演実施）
 - ・ 若手伝承者発表会（国立劇場おきなわ大劇場）7月4日、1回

② 能楽研究課程を開講

ウ 各分野の充足状況等の把握、研修修了後の就業機会確保のための関係団体等との協議、外部専門家等からの伝統芸能の伝承状況等の意見等の聴取により、養成すべき分野、人数、研修期間等を定めた上で計画的に実施

研修修了生の動向把握等により成果の検証、対象とする分野、人数等について不断の見直し

(3) 実施に当たっての留意事項

- ア 養成研修事業についての国民の関心を喚起するため、ホームページ等を活用し、事業の周知を促進
研修生募集について、様々な広報活動により周知
- イ 研修生及び研修修了生によるワークショップ等を全国の文化施設、学校等と協力して実施
外部公演への出演等、文化普及活動への参画
- ウ 伝統芸能・現代舞台芸術双方の研修生を対象とした特別合同講義の実施
- エ 国立劇場、新国立劇場等の人材や施設を活用した、公演制作者や舞台技術者等に対する実地研修の受入れ、協力

《主要な業務実績》

1. 養成研修の実施

- ・ 歌舞伎俳優第22期生（研修期間2年、9名）の1年目の研修を実施
- ・ 竹本第22期生（研修期間2年、2名）の1年目の研修を実施
（1名が5月に研修を辞退）
- ・ 鳴物第15期生（研修期間2年、1名）の1年目の研修を実施
- ・ 長唄第6期生（研修期間3年、1名）の3年目の研修を実施、修了
- ・ 寄席囃子第13期生（研修期間2年、6名）の2年目の研修を実施、修了
- ・ 能楽第9期生（研修期間6年、2名）の2年目の研修を実施
（1名が8月に研修を辞退）
- ・ 文楽第27期生（研修期間2年、3名）の1年目の研修を実施
- ・ 組踊第4期生（研修期間3年、10名）の2年目の研修を実施
- ・ 歌舞伎音楽（長唄）・大衆芸能（寄席囃子）研修修了発表会及び歌舞伎俳優・歌舞伎音楽（竹本・鳴

物) 研修生発表会 (合同開催、1 回)、青翔会 (能楽、3 回)、東西合同研究発表会 (能楽、1 回)、
文楽研修生発表会 (1 回)、組踊研修生発表会 (2 回) を実施

2. 既成者研修の実施

- ・ 歌舞伎俳優既成者研修発表会「稚魚の会・歌舞伎会合同公演」「上方歌舞伎会」を実施
- ・ 歌舞伎音楽既成者研修発表会「音の会」を実施
- ・ 能楽既成者研修発表会「若手能 (京都公演・大阪公演・東京公演)」を実施
- ・ 文楽既成者研修発表会「文楽若手会 (大阪公演・東京公演)」「若手素浄瑠璃の会 (2 公演)」を実施
- ・ 組踊既成者研修発表会「若手伝承者公演」を実施
- ・ 能楽研究課程を引き続き開講 (受講者 36 名、実施回数 364 回)

3. 実施に当たっての留意事項

- ・ 第 39 回全国高等学校総合文化祭 2015 滋賀びわこ総文会場、歌舞伎鑑賞教室、既成者研修発表会、
研修修了発表会のロビーで養成研修事業を周知
- ・ 能楽研修修了生を中心とした若手能楽師が全国の学校・文化施設等に出向いて行うワークショップ
等を 25 件実施
- ・ 文楽研修イベントの開催や、その他各種広報活動を通じて、事業を周知
- ・ 五館合同特別講義において、新国立劇場オペラ研修所長を招いての講演「良き舞台人となるために」
とその後の研修生交流会を開催し、伝統芸能分野と現代舞台芸術分野の相互交流を実施
- ・ 各団体との連携により、劇場関係者を対象とした講座や職員派遣による研修を実施

4. 外部専門家等の意見

- ・ 養成事業委員会を開催し、外部専門家等の意見を聴取して、後の事業運営に活用

《業務実績詳細》

1. 養成研修の実施

(1) 養成研修の実施状況

- ・ 歌舞伎俳優 (研修期間 2 年) : 第 22 期生 9 名の 1 年目の研修を実施
- ・ 歌舞伎音楽・竹本 (研修期間 2 年) : 第 22 期生 2 名の 1 年目の研修を実施
(年度当初の 3 名のうち 1 名が 5 月に研修を辞退)
- ・ 歌舞伎音楽・鳴物 (研修期間 2 年) : 第 15 期生 1 名の 1 年目の研修を実施
- ・ 歌舞伎音楽・長唄 (研修期間 3 年) : 第 6 期生 1 名の 3 年目の研修を実施し、修了
- ・ 寄席囃子 (研修期間 2 年) : 第 13 期生 6 名の 2 年目の研修を実施し、修了
- ・ 能楽 (研修期間 6 年) : 第 9 期生 2 名の 2 年目の研修を実施
(年度当初の 3 名のうち 1 名が 8 月に研修を辞退)
- ・ 文楽 (研修期間 2 年) : 第 27 期生 3 名の 1 年目の研修を実施
(年度当初の 4 名のうち 3 名が 10 月の適性審査に合格)
- ・ 組踊 (研修期間 3 年) : 第 4 期生 10 名の 2 年目の研修を実施

(2) 研修発表会等の実施

- ・ 第 1 回あげざらい (10 月 14 日、本館大稽古場) (一般非公開)
歌舞伎俳優研修生 : 歌舞伎「寿曾我対面」工藤祐経館の場
(中村時蔵・市川團蔵=指導)
- ・ 第 1 回あげざらい (9 月 25 日、本館中稽古場) (一般非公開)
歌舞伎音楽 (長唄) 研修生、大衆芸能 (寄席囃子) 研修生 : 長唄「太鼓の曲」、自作曲「インザ
ムード」「雨にぬれても」「ドラえもんの曲」「グリーンスリーブス」「栄冠は君に輝く」(杵
屋巳織=指導)
- ・ 第 2 回あげざらい (2 月 16 日、第 1 演芸研修室) (一般非公開)
歌舞伎音楽 (長唄) 研修生、大衆芸能 (寄席囃子) 研修生 : 長唄「呼応」、自作曲「サザエさん」
「マシュケナダ」「マリオのテーマ」「島唄」「スターウォーズ」「ウェディングマーチ」(杵
屋巳織=指導)
- ・ 新人研修発表会 (3 月 16 日、本館小劇場)
歌舞伎音楽 (長唄) 第 6 期生・大衆芸能 (寄席囃子) 第 13 期生修了発表会、歌舞伎俳優第 22 期
生、歌舞伎音楽 (竹本) 第 22 期生、歌舞伎音楽 (鳴物) 第 15 期生・研修発表会を合同で実施。
- ・ 青翔会 3 回 (6 月 15 日・10 月 19 日・3 月 14 日、能楽堂)
- ・ 東西合同研究発表会 1 回 (8 月 25 日、大槻能楽堂)

- ・ 稽古会 3 回（4 月 20 日、7 月 27 日、2 月 15 日、研修能舞台）（一般非公開）
- ・ 第 27 期文楽研修生発表会（1 月 28 日、文楽劇場小ホール）
- ・ 第 4 期組踊研修生第 3 回発表会（10 月 8 日、国立劇場おきなわ大劇場）
- ・ 第 4 期組踊研修生第 4 回発表会（3 月 3 日、国立劇場おきなわ大劇場）

(3) 適性審査の実施

- ・ 歌舞伎俳優第 22 期生：受験者 9 名、合格者 9 名
- ・ 歌舞伎音楽（竹本）第 22 期生：受験者 2 名、合格者 2 名
- ・ 歌舞伎音楽（鳴物）第 15 期生：受験者 1 名、合格者 1 名
- ・ 文楽第 27 期生：受験者 4 名、合格者 3 名

(4) 募集・選考の状況

- ・ 歌舞伎音楽（長唄）第 7 期生：受験者 5 名、合格者 3 名
- ・ 大衆芸能（寄席囃子）第 14 期生：受験者 11 名、合格者 6 名

2. 既成者研修の実施

(1) 既成者研修発表会の実施

区分	実績	年度計画	公演名
歌舞伎俳優既成者研修発表会	2 公演	2 公演	「稚魚の会・歌舞伎会合同公演」「上方歌舞伎会」
歌舞伎音楽既成者研修発表会	1 公演	1 公演	「音の会」
能楽既成者研修発表会	3 公演	3 公演	「若手能」（京都公演・大阪公演・東京公演）
文楽既成者研修発表会	4 公演	4 公演	「文楽若手会」（大阪公演・東京公演）「若手素浄瑠璃の会(8 月、2 月)」
組踊既成者研修発表会	1 公演	1 公演	「若手伝承者公演」

(2) 能楽研究課程の開講

能楽の既成者研修として引き続き、研修修了生と能楽師子弟を対象に研究課程を開講した。（受講者 36 名、実施回数 364 回）

3. 伝承者の充実のための、対象とする分野・人数・研修内容等についての見直しに関する取組

- ・ 各研修コースにおいて、関係団体と協議の上、伝承者の人数、年齢構成、公演の実施状況等を調査し、将来にわたる中長期的予測・展望の下に、外部専門家等の意見を踏まえながら、実施内容の見直しを行った。
- ・ 鳴物の研修については、カリキュラムの見直しを行い、今期より 3 年から 2 年に短縮して実施することとした。
- ・ 大衆芸能（寄席囃子）研修については、引き続き従事者不足の状況を考慮し、次期研修生も今期同様に 6 名を合格者とした。
- ・ 大衆芸能（太神楽）研修については、斯界の状況を踏まえ新人研修の募集を引き続き休止することとした。

4. 実施に当たっての留意事項

(1) 広報活動の充実、応募者増加のための活動

- ・ 歌舞伎鑑賞教室、音の会、稚魚の会・歌舞伎会合同公演、研修修了発表会等に加え、8 月の全国高等学校総合文化祭優秀高東京公演など、中高生や、研修事業に関心を持つ観客が多数集まる会場において、研修生募集チラシを配布した上、養成研修を紹介する DVD を映写し、事業の周知に努めた。
- ・ 次期募集の歌舞伎音楽（長唄）の研修内容を説明する「研修見学会」を 2 回実施した（参加者延べ 20 名）。養成研修を紹介する DVD や資料も使用して、研修コースの内容や特徴を説明し、応募対象者だけでなく、伝統芸能に関心を持つ参加者にも養成研修の意義・必要性を伝え、事業の普及に努めた。
- ・ 歌舞伎俳優研修講師の中村時蔵を取材した「日経回廊 4」（日本経済新聞社刊）で研修風景の写真が紹介された。
- ・ 演劇界 9 月号（演劇出版社刊）の特集記事「未来を支える俳優の育成」に、振興会の歌舞伎俳優研修が取り上げられ、講師の中村時蔵、市川團蔵のインタビューと共に紹介された。
- ・ 読売新聞（1 月 27 日）に寄席囃子研修生募集記事「『お囃子さん』研修生求む」が掲載され、電話での問合せが数件あった。
- ・ 体験教室やワークショップの事前教材として、能を紹介するためのプロモーションビデオを作成し

た。本編は、今後研修生募集見学会時などでも上映する。

- ・ 6月文楽鑑賞教室、文楽若手会（大阪公演）、文楽研修生発表会のロビーで文楽研修を紹介するブースを設置し、文楽研修の周知に努めた。
 - ・ 大阪市内で配布されるフリーペーパーに文楽研修を紹介する広告を出稿し、文楽研修の周知に努めた。
 - ・ 文楽研修に関する取材の申し入れをマスコミ各社に対して行い、日本経済新聞夕刊にて文楽研修が紹介された。
 - ・ 国立劇場おきなわホームページに「組踊伝承者養成」のページを設け、研修概要、研修生や修了生の活動状況等を引き続き掲載し、組踊研修概要リーフレットの活用や研修見学の案内などと併せ、研修事業の広報に努めた。さらに、県内外のテレビ・ラジオ・新聞の取材を可能な限り受け入れ、研修制度について広く宣伝周知を行った。組踊伝承者養成の取組に関するインターネット番組制作に協力するなど、研修の周知及び将来の研修生応募に繋がるよう取り組んだ。
- (2) 研修生等の実演機会の充実及び伝統芸能の振興・普及のための活動
- ・ 歌舞伎俳優研修生9名が、日本体育大学体操部主催の第47回演技発表会（12月19日 国立代々木競技場第2体育館）に出演し、「歌舞伎立廻り」を演じ、日頃の研修の成果を披露した。
 - ・ 能楽研修において20年度から継続している振興・普及活動は、27年度実施分までを合わせて1道1都2府22県に及び、好評を得ている。主に研修修了生を中心とした若手能楽師を起用しており、27年度は25件実施した。
 - ・ 文楽劇場では、文楽研修イベントを開催して、文楽研修講師及び文楽研修修了者により文楽研修を紹介し、養成事業の実績と役割のPRに貢献した。
 - ・ 国立劇場おきなわでは、県外公演や組踊鑑賞教室の実演及び解説並びに自主公演本番前の組踊ワークショップにおいて、研修修了生を起用して文化普及活動への参画に努めた。また、劇場外では研修修了生で構成する「子の会」が、県内の離島を含む中学校・高校17か所での組踊の学校鑑賞会や、国立劇場おきなわ小劇場での都立八潮高校修学旅行生を対象とする組踊鑑賞会に出演し、文化普及活動への参画に努めた。
- (3) 伝統芸能分野と現代舞台芸術分野の相互交流
- ・ 五館合同特別講義、研修生交流会 12月4日
講師：永井和子（新国立劇場オペラ研修所長）
講義内容：「良き舞台人になるために」
参加者：研修生56名
- (4) 公演制作者・舞台技術者等に対する研修の受入れ、協力
- ・ 歌舞伎鑑賞教室の地方公演、他団体の文楽公演において、職員の派遣を行い、現地の技術者へ協力等を行った。
 - ・ 公益社団法人全国公立文化施設協会との共催により、劇場・音楽堂等に勤務する職員を主な対象とした関東甲信越静岡ブロック別アートマネジメント研修会を本館小劇場で開催（1月12日～13日、受講者56名）し、講義と体験授業を通して伝統芸能についての理解を深め、公演の企画立案から実施までを一体的に学べるカリキュラムを実施した。
5. 外部専門家等の意見
- ・ 養成事業委員会を開催（2回）し、外部専門家等の意見を聴取して、事業運営への活用に努めた。

【特記事項】

- ・ 五館合同特別講義では会場の新国立劇場の舞台機構などの見学を実施し、劇場による違いの理解に役立てることができた。
- ・ 国立劇場おきなわにおいて、養成事業委員会を開催し、外部有識者から組踊養成事業についての意見を聴取した（3月14日）。

《自己点検評価》

○ 自己評定

B

（根拠）

- ・ 伝統芸能を長期的な視点に立って保存振興し、各分野の伝承者を安定的に確保するため、伝承者の充

足状況等の調査、関係団体との協議、外部専門家の意見聴取を行いながら今年度の事業を進めた。中期目標の達成状況も概ね順調である。

- ・ 新人研修、研修発表会及び既成者研修等について、概ね計画どおり実施した。
- ・ 既成者研修発表会の上演成果や意義について、外部専門家から高い評価を得た。
- ・ 能楽既成者研修発表会の入場率が98.8%、文楽既成者研修発表会が93.9%など、各研修公演において会の周知に成功した。
- ・ 公演制作者・舞台技術者等の研修については、国立劇場が蓄積した伝統芸能を支える舞台技術の人材とノウハウを活かして、国立劇場独自のプログラムによる研修会を実施した。
- ・ 組踊研修修了生が、自らが構成する「子の会」の活動として県内20か所の学校鑑賞会に出演し、実演機会の充実と文化普及活動への参画に努めた。

○ 良かった点・特色ある点

(歌舞伎俳優・音楽、大衆芸能)

- ・ 歌舞伎俳優研修では、本館11月歌舞伎公演中の小道具部屋で、実際の小道具を扱いながら指導を受けた。実物を用いての解説で効果的な研修になった。
- ・ 歌舞伎俳優の発表会の歌舞伎「毛抜」は、研修発表会では初めての上演となる演目であったが、観客及び養成事業委員会の委員等から好評を得た。
- ・ 鳴物の発表会の長唄「鶴亀」は、通常2年次で上演する演目であるが、研修期間を2年間に見直したことから1年次に披露することとしたところ、一定の成果が得られた。
- ・ 竹本研修において、1年次の研修生の太夫・三味線ともに進歩が認められたため、発表会の義太夫「京鹿子娘道成寺」一道行一は、それぞれ「立て」の演奏（演奏の中心）を披露することができた。
- ・ 長唄の修了生は、三味線専攻だが、唄の研修においても上達が認められたため、修了発表会の長唄「都風流」では唄を披露、三味線演奏でも長唄の難曲「二人椀久」の立て三味線を披露して好評を得た。
- ・ 寄席囃子の修了生は、修了発表会で、はめもの入りの落語「七段目」を御簾内で演奏し、その後、舞台上で、噺家の踊る「松づくし」「奴さん」「かっぱれ」の3曲を演奏し、出囃子以外の研修成果も披露した。
- ・ 歌舞伎音楽（長唄）1名、大衆芸能（寄席囃子）6名が無事研修を修了するとともに、それぞれの所属先が決定し、就業機会を確保できた。

(能楽)

- ・ 計画どおりに能楽研修発表会・能楽既成者研修発表会を実施した。若手能楽師がさまざまな役に挑戦し、研鑽の成果を発表する機会を提供した。
- ・ 能楽研修発表会の有料入場率が94.7%、能楽既成者研修発表会は98.8%に達した。

(文楽)

- ・ 太夫の技芸員が不足している状況下にあって、適性審査により太夫専攻の研修生が誕生したことは大きな意味がある。
- ・ 適性審査までは文楽三業の基本についての研修を、適性審査後は、太夫専攻・人形専攻に分かれて、それぞれの専攻の研修を、概ね順調に実施できた。
- ・ 通常の実技研修や講義に加え、文楽関係史跡を巡る部外研修や、各種芸能の公演見学を積極的にを行い、芸能に関する理解を深めさせることができた。
- ・ 文楽既成者研修発表会の有料入場率は平均で93.9%に達した。
- ・ 文楽研修イベントの開催や、その他各種広報活動を通じて、養成事業及び文楽研修についてPRすることができた。

(組踊)

- ・ 高校生2名を含む第4期生10名全員について、概ね順調に2年目の研修を実施できた。
- ・ 修了生が、既成者研修発表会のほか、自主公演や県内離島を含む各学校等の組踊の芸術鑑賞会（17か所）へ出演し、実演機会及び普及活動を充実させた。また、研修中の第4期生や将来の研修候補生にとっても、具体的な将来像を提示することになり、良い刺激となった。

○ 見直し又は改善を要する点

- ・ 応募者の増加を図るため、募集時期の見直し、広報活動や研修見学会の充実等の方策を検討する。
- ・ 組踊研修では、研修修了生で構成する「子の会」の公演活動が盛んになるに伴って、上演に必要な組踊衣裳、道具等の貸出など、必要な協力体制をさらに充実させていく。

3-(1)-① 養成研修の実施

《研修方針》

歌舞伎俳優、歌舞伎音楽（竹本）、歌舞伎音楽（鳴物）、大衆芸能（寄席囃子）研修においては、1年目に基礎研修、2年目には、専門研修と並行して、実践の場においてすぐに役立つ実技研修を実施する。歌舞伎音楽（長唄）においては、1年目に基礎研修、2年目に専門研修を行い、3年目に実践の場においてすぐに役立つ実技研修を実施する。

能楽（三役）研修においては、能楽を長期的な視点に立って保存振興し、各役の伝承者を安定的に確保するため、基礎課程3年、専門課程3年の研修を実施する。

文楽（三業）研修においては、本館、文楽劇場等で開催する文楽公演における太夫・三味線・人形の後継者を育成するため、2年間の基礎的な研修を実施する。

組踊研修においては、国立劇場おきなわ等で組踊の保存振興に寄与することを目的とし、将来にわたって継続的に組踊を支える、質の高い優れた立方・地方を養成するため、2年目は、組踊実技を中心にして、琉球舞踊・胡弓等の副実技、発声訓練等の基礎実技、詞章研究等の講義等バランスのとれたカリキュラムで基礎的な実力を養う。

《業務実績詳細》

1. 養成研修の実施

区分	研修期間	研修実績	うち 修了者	年度計画	中期計画(25～29年度)		
					修了者累計	目標	
歌舞伎 俳優・音楽	俳優 22期 (1年次)	2年	9名	—	9名	9名	18名 程度
	竹本 22期 (1年次)	2年	2名	—	3名		
	鳴物 15期 (1年次)	2年	1名	—	1名		
	長唄 6期 (3年次)	3年	1名	1名	1名		
大衆芸能	太神楽 (休止)	—	—	—	—	8名	8名 程度
	寄席囃子 13期 (2年次)	2年	6名	6名	6名		
能楽	9期 (2年次)	基礎課程3年 専門課程3年	2名	—	3名	1名	基礎課程 5名程度
文楽	27期 (1年次)	2年	3名	—	4名	3名	6名 程度
組踊	4期 (2年次)	3年	10名	—	10名	9名	18名 程度

2. 主な授業及び回数

区分	授業内容	
歌舞伎俳優 計 701回	実技 計 571回	歌舞伎実技、立廻り・とんぼ、日本舞踊、義太夫、長唄、鳴物
	その他 計 130回	作法・講義、五館合同特別講義、体操、公演・稽古見学、衣裳・化粧、着付、発表会、あげざらい
竹本 計 617回	実技 計 427回	義太夫（竹本）、義太夫、狂言、箏曲・胡弓
	その他 計 190回	作法・講義、五館合同特別講義、体操、公演・稽古見学、映画・ビデオ鑑賞、着付、発表会
鳴物 計 351回	実技 計 241回	大太鼓、小鼓・太鼓、大鼓、長唄、能楽（大鼓）
	その他 計 110回	作法・講義、五館合同特別講義、体操、公演・稽古見学、着付、発表会
長唄 計 499回	実技 計 371回	長唄、五線譜、黒御簾音楽、鳴物、大太鼓奏法、謡曲
	その他 計 128回	講義、五館合同特別講義、体操、公演・稽古見学、発表会、あげざらい、楽屋実習

寄席囃子 計 464 回	実技 計 333 回	寄席囃子、長唄、清元、端唄、太鼓・小鼓、日本舞踊
	その他 計 131 回	講義、五館合同特別講義、体操、公演・稽古見学、発表会、あげざらい、楽屋実習
能楽 計 681 回	実技 計 554 回	シテ謡、笛、小鼓、大鼓、太鼓、狂言
	その他 計 127 回	講義、五館合同特別講義、公演・稽古見学、舞台・楽屋実習、部外研修、その他（発表会等）
文楽 計 633 回	実技 計 280 回	義太夫、義太夫三味線、人形実技
	その他 計 353 回	日本舞踊、狂言・謡、体操、講義、五館合同特別講義、作法、実習、公演・稽古見学、部外研修、発表会
組踊 計 490 回	実技 計 443 回	組踊実技、副実技、基礎実技
	その他 計 47 回	講義、五館合同特別講義、鑑賞・見学研修等、その他（発表会等）

3. 研修発表会等の実施

- ・ 第1回あげざらい（10月14日 本館大稽古場）（一般非公開）
歌舞伎俳優研修生：歌舞伎「寿曾我対面」工藤祐経館の場
（中村時蔵・市川團蔵＝指導）
- ・ 第1回あげざらい（9月25日、本館中稽古場）（一般非公開）
歌舞伎音楽（長唄）研修生、大衆芸能（寄席囃子）研修生：長唄「太鼓の曲」、自作曲「インザムード」「雨にぬれても」「ドラえものの曲」「グリーンスリーブス」「栄冠は君に輝く」（杵屋巳織＝指導）
- ・ 第2回あげざらい（2月16日、第1演芸研修室）（一般非公開）
歌舞伎音楽（長唄）研修生、大衆芸能（寄席囃子）研修生：長唄「呼応」、自作曲「サザエさん」「マッシュケナダ」「マリオのテーマ」「島唄」「スターウォーズ」「ウェディングマーチ」（杵屋巳織＝指導）
- ・ 歌舞伎音楽（長唄）第6期生・大衆芸能（寄席囃子）第13期生修了発表会、歌舞伎俳優第22期生・竹本第22期生・鳴物第15期生研修発表会（合同）
3/16、本館小劇場、入場料：無料、入場者数：420人
長唄研修生：長唄「都風流」、長唄「二人椀久」
寄席囃子研修生：長唄「外記猿」、清元「三社祭」、端唄「うそと誠」・ふきよせ「梅は咲いたか、つぼらん、木遣りくずし、東雲節、どんどん節、二上り角力甚句」、落語「七段目」
歌舞伎俳優研修生：日本舞踊「越後獅子」、長唄「小鍛冶」、歌舞伎「毛抜」一幕、立廻り「基本の型」
竹本研修生：義太夫「京鹿子娘道成寺」道行
鳴物研修生：長唄「鶴亀」
- ・ 能楽研修発表会
第7回青翔会
6/15、能楽堂、入場料：正面1,500円 脇正面1,000円 中正面700円（学生 脇正面700円 中正面500円）、入場者数：625人
狂言小舞「宇治の晒」「鶉の舞」、舞囃子「小袖曾我」「邯鄲」、狂言「柿山伏」、能「竹生島」
- 第8回青翔会
10/19、能楽堂、入場料：正面1,500円 脇正面1,000円 中正面700円（学生 脇正面700円 中正面500円）、入場者数：570人
狂言「痺」、舞囃子「松虫」「鞍馬天狗」、能「舍利」
- 第9回青翔会
3/14、能楽堂、入場料：正面1,500円 脇正面1,000円 中正面700円（学生 脇正面700円 中正面500円）、入場者数：587人

- 狂言「魚説法」、舞囃子「高砂」「熊坂」、能「東北」
- 第46回東西合同研究発表会
8/25、大槻能楽堂、入場料：無料、入場者数：238人
能「竹生島」、独鼓「賀茂」、狂言「口真似」、舞囃子「巻絹」「安宅」「東北」、狂言小舞「盃」、ワキ語り「藤戸」、仕舞「龍田」、舞囃子「桜川」「絃上」、能「胡蝶」
- 第27期文楽研修生発表会
1/28、文楽劇場小ホール、入場料：無料、入場者数：167人
太夫専攻：素浄瑠璃「菅原伝授手習鑑」寺入りの段
人形専攻：「二人三番叟」
 - 第4期組踊研修生第3回発表会
10/8、国立劇場おきなわ大劇場、入場料：無料、入場者数：417人
組踊「銘苺子」、琉球舞踊「作田」「前の浜」
 - 第4期組踊研修生第4回発表会
3/3、国立劇場おきなわ大劇場、入場料：無料、入場者数：487人
組踊「孝行の巻」、琉球舞踊「浜千鳥」「谷茶前」

4. 適性審査の実施

コース	試験日	受験者数	合格者数
歌舞伎俳優	9月14日	9名	9名
歌舞伎音楽（竹本）	9月26日	2名	2名
歌舞伎音楽（鳴物）	9月14日	1名	1名
文楽（三業）	10月27日	4名	3名

5. 募集・選考の状況、今後の募集に向けた取組・検討

コース	選考日	応募者数	受験者数	合格者数
歌舞伎音楽（長唄）	2月19日	5名	5名	3名
大衆芸能（寄席囃子）	2月29日	14名	11名	6名

【特記事項】

- 歌舞伎音楽（竹本）は、適性審査で太夫1名、三味線1名が合格し、第15期（平成11年3月修了）以来の2コースとなった。
- 歌舞伎音楽（長唄）研修生1名は、国立劇場（6、11、12月）と紀尾井ホール（4月）において楽屋実習を行った。
- 寄席囃子研修生6名は、8月の国立演芸場上席・中席、10月の上席・中席（新宿末廣亭、鈴木演芸場、浅草演芸ホール、池袋演芸場）において楽屋実習を行った。
- 大衆芸能（寄席囃子）は、第12期修了（17年3月）後、10年ぶりに修了生を送り出した。
- 大衆芸能（太神楽）は、引き続き休止する。
- 能楽第9期生が部外研修（奈良・春日大社「おん祭」他）を行った（12月16日～18日）。
- 文楽研修は、6月22日に道頓堀界限にて、また11月26日に奈良県吉野郡にて、文楽関係史跡を巡る部外研修を、研修講師の講義を受けながら行った。

《自己点検評価》

○ 良かった点・特色ある点

（歌舞伎俳優・音楽、大衆芸能）

- 外部専門家の意見として、研修発表会の歌舞伎俳優については、「基本的な所作や動きは、1年間でここまで出来るようになるものなのか、という実感がある。9人の精進ぶりが見て取れる。「毛抜」にしても、各人の役作りは、「風格」といった味は当然不足するが、堂々とやってのけている」、竹本研修生については、「粗削りだが、声量と勢いに期待感がある」、鳴物研修生については、「ベテランないし先輩たちとともに、研修生が作品の特色を活かした」、長唄研修生については、「『二人椀久』の三味線を聞いて、その突出した才能に驚愕した。こういう逸材が誕生すると、研修制度の存在価値が一段と上がる」、寄席囃子研修生については、「『七段目』は、御簾内の6人の演奏もよく揃い、賑やかで、花やかさが充分に出て大変よかった」との評価を得た。

- ・ 竹本研修は、第 15 期修了（平成 11 年 3 月）以来の太夫・三味線 2 コースを開催できたことから、自習時に一緒に練習できるとともに、お互いの仕事を理解しやすくなった。
- ・ 寄席囃子研修生は、楽屋実習を行うことで、各席亭の楽屋の雰囲気を知り、修了後所属先を決定する参考となった。
- ・ 寄席囃子研修生は、第 12 期修了（17 年 3 月）以来 10 年ぶりとなる研修生 6 名全員が修了し、それぞれ落語協会・落語芸術協会に所属することができた。

（能楽）

- ・ 能楽研修発表会は、入場率の好調を維持することができた。振興会ホームページに「青翔会」の見どころや解説、出演者のインタビューを掲載し、集客を図った成果と思われる。
- ・ 能楽第 9 期生の部外研修では、奈良・春日大社の「おん祭」で、遷幸の儀・暁祭・お旅所祭・還幸の儀の一連を見学するなど、有意義な部外研修を実施することができた。

（文楽）

- ・ 4 月から 10 月まで三業の基本の研修を実施し、適性審査後は太夫専攻と人形専攻の研修を順調に実施することができた。
- ・ 文楽関係史跡を巡る部外研修を、研修講師の講義を受けながら行い、文楽の歴史や演目の背景等を身近に感じながら学習させることができ、とても有意義であった。
- ・ 振興会主催の文楽公演や歌舞伎公演、能楽公演、各種講座等に加え、外部団体主催の文楽公演、歌舞伎公演、舞踊公演等の公演見学を多数行い、各種芸能に関する知識・理解を深めさせることができた。
- ・ 適性審査を行い、太夫専攻 1 名、人形専攻 2 名の研修生を合格させることができた。特に、太夫の文楽技芸員が不足している状況にあって、太夫専攻の研修生が誕生したことは、大きな意味がある。
- ・ 人形専攻の研修生 2 名は、2 月文楽公演（国立劇場）において舞台実習を行った。舞台袖にて、公演の進行を間近に見ながら、公演進行に直接かかわる各種作業を実習として体験させることができ、とても有意義なものとなった。

（組踊）

- ・ 組踊研修は、高校生 2 名を含む第 4 期生 10 名全員について、概ね順調に 2 年目の研修を実施できた。
- ・ 地方の三線において、流派毎の研修講師を設けたことにより、引き続き円滑な組踊実技研修の実施を図ることができた。

○ 見直し又は改善を要する点

- ・ 能楽研修では、応募者の増加を図るため、募集時期の見直し、広報活動や研修見学会の充実等の方策を検討する。
- ・ 組踊研修第 4 期生の中には 28 年度も高校生が 1 名いるので、引き続き保護者とも連携し、円滑な研修が進められるよう、対応を図っていきたい。

3-(1)-② 既成者研修の実施

《研修方針》

研修修了生の技芸の一層の向上を図るとともに、就業者としての意識の向上を促すため、既成者研修発表会等の公演を行う。さらに、既成者の技芸の向上のため、必要に応じて各種研修を適宜実施する。

1. 発表会

引き続き既成者研修発表会を実施する。

歌舞伎俳優 2 公演・歌舞伎音楽 1 公演・能楽 3 公演・文楽 4 公演・組踊 1 公演

2. 能楽の研究課程の開講

能楽の既成者研修として、引き続き、研修修了生と能楽師子弟を対象に研究課程を開講し、研修機会の拡大と伝承者間の交流を図る。

《業務実績詳細》

1. 既成者研修発表会の実施

(1) 歌舞伎俳優既成者研修発表会

- ・ 第 21 回稚魚の会・歌舞伎会合同公演

8/13～17、5 日 5 回、本館小劇場、入場料：4,100 円（学生 2,900 円）、障害者 2 割引、入場者数：

2,250人(入場率86.2%)

「本朝廿四孝」長尾謙信十種香の場(中村魁春=監修・指導)、新歌舞伎十八番の内「素襖落」(藤間勘祖=振付、藤間勘十郎=指導)、「伊勢音頭恋寝刃」古市油屋店先の場、同奥庭の場(中村梅玉=監修・指導、中村歌女之丞=指導)

・ 第25回上方歌舞伎会

8/22~23、2日4回、文楽劇場、入場料:4,100円(学生2,900円)、入場者数:2,258人(入場率83.4%)

「双蝶々曲輪日記」(片岡仁左衛門・片岡秀太郎・片岡我當=指導)堀江角力場前の場、難波裏の場、道行乱朝恋山崎(山村友五郎=振付)、八幡の里引窓の場

(2) 歌舞伎音楽既成者研修発表会

・ 第17回音の会

8/8~9、2日2回、本館小劇場、入場料:2,600円(学生1,800円)、障害者2割引、入場者数:552人(入場率52.9%)

長唄「鶴亀」、鳴物・長唄「若菜摘」、舞踊「道行旅路の嫁入」(藤間勘祖=振付)

(3) 能楽既成者研修発表会

・ 第25回能楽若手研究会:「若手能」京都公演

6/27、1日1回、京都観世会館、入場料:3,100円(当日)、2,600円(前売・一般)、1,500円(学生)、入場者数:465人(入場率98.1%)

能「三輪」、舞囃子「清経」「玉鬘」「唐船」、狂言「右近左近」、能「鶴」

・ 第25回能楽若手研究会:「若手能」大阪公演

1/30、1日1回、大槻能楽堂、入場料:3,100円(当日)、2,800円(前売・一般)、1,500円(学生)、入場者数:518人(入場率103.2%)

能「楊貴妃」、狂言「鐘の音」、能「小鍛冶」

・ 第25回能楽若手研究会:「若手能」東京公演

2/6、1日1回、国立能楽堂、入場料:正面3,100円 脇正面2,600円 中正面2,100円(学生 脇正面1,800円 中正面1,500円)

障害者2割引、入場者数:600人(入場率95.7%)

能「三輪」、狂言「節分」、能「鶺鴒」

(4) 文楽既成者研修発表会

・ 第15回文楽若手会

6/20~21、2日2回、文楽劇場、入場料:2,100円(学生1,400円)、入場者数:1,336人(入場率91.4%)

「五條橋」、「一谷嫩軍記」熊谷桜の段、熊谷陣屋の段、「新版歌祭文」野崎村の段

・ 第3回文楽若手会

6/27~28、2日2回、本館小劇場、入場料:2,600円(学生1,800円)、入場者数:1,085人(入場率98.1%)

「五條橋」、「一谷嫩軍記」熊谷桜の段、熊谷陣屋の段、「新版歌祭文」野崎村の段

・ 若手素浄瑠璃の会

8/28、1日1回、文楽劇場小ホール、入場料:1,000円(学生700円)、入場者数:143人(入場率89.9%)

「菅原伝授手習鑑」寺子屋の段、「絵本太功記」尼ヶ崎の段

・ 若手素浄瑠璃の会

2/25、1日1回、文楽劇場小ホール、入場料:1,000円(学生700円)、入場者数:145人(入場率91.2%)

「絵本太功記」夕顔棚の段、「一谷嫩軍記」熊谷陣屋の段

(5) 組踊既成者研修発表会

・ 第5回若手伝承者公演

7/4、1日1回、国立劇場おきなわ大劇場、入場料:2,100円(学生1,000円)、入場者数:277名(入場率47.9%)

組踊「花売の縁」、琉球舞踊「若衆こてい節」「天川」「ぜい」、斉唱「出砂節」「湊くり節」
独唱「赤田風節」「下出し仲風節」

2. 能楽研究課程の開講

能楽の既成者研修として、引き続き、研修修了生と能楽師子弟を対象に研究課程を開講し、研究生 36 名が受講した（実施回数：364 回）。

本課程では、若手能楽師が専門以外の副科（シテ謡・笛・小鼓・大鼓・太鼓）を受講し、他役・他流との交流を経験し研鑽を積んだ。

《自己点検評価》

○ 良かった点・特色ある点

- ・ 第21回稚魚の会・歌舞伎会合同公演では、時代物、世話物、歌舞伎舞踊と、バラエティに富んだ演目を並べ、特に「伊勢音頭恋寝刃」については、9月文楽、10月歌舞伎と続く自主公演の同演目上演の嚆矢となった。
- ・ 外部専門家の意見として、稚魚の会・歌舞伎会合同公演については、「時代、松羽目、世話とバランスのいい番組構成」「『伊勢音頭恋寝刃』は憎まれ役の万野、醜女役のお鹿が実に面白く、重要な脇を歌舞伎会のメンバーが盛り立てた」、「『素襖落』が、落ち着いた舞台で、総体の運びにメリハリがあり、最初間が早く、物語でたっぷり、その後もテンポよく運んでいるので、飽きさせない」との評価を得た。
- ・ 第17回「音の会」は、3年ぶりに竹本、鳴物、長唄の3演目が揃った会となった。特に「若菜摘」は振興会の自主公演でも上演のない演目であった。また、入場者数は552人（入場率52.9%）と、去年の482人（入場率46.2%）を上回った。
- ・ 外部専門家の意見として、音の会については、「吉原雀」は「ポピュラーな演目だが、相当以上の実力がある難しい曲を今回は、研修修了生らしい行儀のいい演奏だったのがよかった」、「若菜摘」は「鳴物の5人は乗りもよく、丁寧な演奏ぶりに好感が持てた」、「行儀のいい演奏で、時間の配分も考慮されていると思えた」との評価を得た。
- ・ 太神楽について、研修修了生からの要望を受け既成者研修を実施し、技芸の向上を図った。（計48回）
- ・ 若手能（京都・大阪・東京）では、若手能楽師が大曲に挑戦し、日頃の研鑽の成果を発揮した。また3公演とも95%以上の入場率を得た。
- ・ 第25回上方歌舞伎会は、普段は脇役に徹する役者が大きな役を勤めることで、演目に対する理解も深まり、若手俳優の技術向上に大きく貢献する有意義な会となった。
- ・ 文楽既成者研修発表会（文楽若手会2公演、若手素浄瑠璃の会2公演）はいずれも、若手の技芸員が普段は演じることのない大きな役を勤めることで、技芸の向上に大きく貢献する有意義な公演となった。4公演の平均有料入場率は93.9%であり、会の周知にも成功した。
- ・ 組踊既成者研修発表会では、「若手伝承者公演」と名称を変更して公演としての魅力を高めるとともに、第3期修了生も加わり、実演家全体の中での修了者の層の厚みを感じさせる公演が実施できた。

○ 見直し又は改善を要する点

- ・ 「音の会」等発表会の入場者数が伸びなかったものは、より多くの観客に対して技芸を披露できるよう、出演の既成者とも協力して周知方法などを検討し、集客に努める。
- ・ 組踊既成者研修発表会の入場率が低かったため、今後、修了生との連携を強化して効果的な集客活動を検討していく。

3-(1)-③ 実施に当たっての留意事項

《業務実績詳細》

1. 広報活動の充実、応募者増加のための活動

（歌舞伎俳優・音楽、大衆芸能）

- ・ 第39回全国高等学校総合文化祭2015 滋賀びわこ総文の開会式会場・日本音楽会場・郷土芸能会場において、募集チラシを配布した。
- ・ 歌舞伎鑑賞教室、音の会、稚魚の会・歌舞伎会合同公演、全国高等学校総合文化祭優秀高東京公演、研修発表会のロビーで養成研修を紹介するDVDを映写し、事業の周知に努めた。
- ・ 次期募集のコースを主とした、養成内容を説明する「研修見学会」を2回実施した。（12月12日 参加者：11人、1月17日：9人）

（能楽）

- ・ 振興会ホームページの活用とともに、「体験教室」等で小・中・高校を廻る地道な広報を継続した。
- ・ 研修応募者の増加を図るため、募集時期の見直し、広報活動や研修見学会の充実等の方策を検討した。

(文楽)

- ・ 6月文楽鑑賞教室、文楽若手会（大阪公演）、文楽研修生発表会のロビーで文楽研修を紹介するブースを設置し、文楽研修の周知に努めた。
- ・ 大阪市内で配布されるフリーペーパーに文楽研修を紹介する広告を出稿し、周知に努めた。
- ・ 文楽研修に関する取材の申し入れをマスコミ各社に対して行い、日本経済新聞夕刊にて文楽研修が紹介された。
- ・ 文楽研修のPRビデオを製作するための映像素材の収録を、前年度に引き続き実施した。

(組踊)

- ・ 国立劇場おきなわホームページに「組踊伝承者養成」のページを設け、研修概要、研修生や修了生の活動状況等を引き続き掲載し、組踊研修概要リーフレットの活用や研修見学の案内などと併せ、研修事業の広報に努めた。研修成果を広く周知する取組として、研修生の発表会を年2回、研修修了生の発表会を年1回それぞれ開催し、発表会前後にはホームページに關係情報を掲載して広く活動を周知した。
- ・ 県内外のテレビ・ラジオ・新聞の取材を可能な限り受け入れ、その中で研修制度について広く宣伝周知した。また、沖縄の将来像を示した沖縄県策定の長期構想「沖縄21世紀ビジョン」を広く周知広報するためのインターネット番組において、組踊伝承者養成の取組に関する特集の制作に協力するなど、研修の周知及び将来の研修生応募に繋がるよう取り組んだ。

2. 研修生等の実演機会の充実及び伝統芸能の振興・普及のための活動

- ・ 日本体育大学体操部主催の第47回演技発表会（12月19日、国立代々木競技場第2体育館）に歌舞伎俳優研修生9名が出演し、「歌舞伎立廻り」を披露した。
- ・ 能楽堂において20年度から継続している振興・普及活動は、27年度実施分までを合わせて1道1都2府22県に及び、好評を得た。27年度は以下の通り研修修了生を中心とした若手能楽師によるワークショップを25件実施した。
 - ① 「届けます。体験教室」12件
全国の小中学校・高校へ出向いて、学生・生徒を対象とするもの。
 - ② 「楽しもう！能と狂言」5件
全国の文化施設・ホール等と連携して、主に大人を対象とするもの。
 - ③ 「楽しもう！能の世界」8件
国立能楽堂の研修能舞台で、自主公演の鑑賞とセットで、または能楽器等の連続講座を有料で行うもの。
- ・ 文楽劇場では、文楽研修イベント「文楽研修ご案内」（参加者147名）を開催して、研修講師及び研修修了者により研修を紹介し、養成事業の実績と役割をPRした。文楽研修について、最初に研修講師が研修風景の映像を交えながら、概要を説明し、次に研修修了者の文楽技芸員とのトーク等を交えて研修の内容を紹介した。また、太夫・三味線・人形の研修実演を行い、第28期文楽研修生募集の周知を図った。
- ・ 国立劇場おきなわでは、自主公演の組踊鑑賞教室や県外公演（8月7日～9日ウエスタ川越、2月20日茅ヶ崎市民文化会館）において、研修修了生を起用して実演機会の充実と文化普及活動への参画に努めた。また、6月以降の鑑賞教室を含む組踊公演8公演の開演前に開催した組踊ワークショップにも研修修了生を起用した。
- ・ 研修修了生で構成する「子の会」が、名護市立屋部小学校（6月25日）、沖縄県立開邦高等学校（10月16日）や宜野湾高等学校（11月4日）などの県内12か所の高等学校及び修学旅行で来沖した東京都立八潮高等学校の組踊鑑賞会に出演したほか、伊平屋中学校（12月8日）など県内離島の8か所で「組踊等教育普及事業」として実施された学校鑑賞会に出演し、実演機会の充実と文化普及活動への参画に努めた。

3. 伝統芸能分野と現代舞台芸術分野の相互交流

幅広い分野で養成・研修事業を実施している振興会の特長を生かし、各分野の研修生が一堂に会して一流の舞台芸術家から舞台に対する心構えを学ぶとともに、伝統芸能分野と現代舞台芸術分野の相互交流を図った。

- ・ 五館合同特別講義、研修生交流会

12月4日 13:00～16:00

会場：新国立劇場オーケストラ・リハーサル室、交流会：新国立劇場3階 レストラン・マエストロ

講師：永井和子（新国立劇場オペラ研修所長）

講義内容：「良き舞台人になるために」

参加者：研修生 56 名（歌舞伎俳優 9 名、竹本 2 名、鳴物 1 名、長唄 1 名、寄席囃子 6 名、能楽 2 名、文楽 3 名、組踊 8 名、オペラ 5 名、バレエ 6 名、演劇 13 名）

4. 公演制作者・舞台技術者等に対する研修の受入れ、協力

- ・ 歌舞伎鑑賞教室の地方公演や他団体の文楽公演において、職員の派遣を行い、現地の技術者へ協力等を行った。
- ・ 公益社団法人全国公立文化施設協会との共催により、劇場・音楽堂等に勤務する職員を主な対象とした関東甲信越静ブロック別アートマネジメント研修会を本館小劇場で開催（1 月 12 日～13 日、受講者 56 名）し、講義と体験授業を通して伝統芸能についての理解を深め、公演の企画立案から実施までを一体的に学べるカリキュラムを実施した。

《自己点検評価》

○ 良かった点・特色ある点

- ・ 次期開講の歌舞伎音楽（長唄）と大衆芸能（寄席囃子）の地方出身の研修生それぞれ 1 名について振興会宿舎への入居希望を受け入れることで、研修生の経済的負担の軽減を図ることができた。
- ・ 文楽研修イベントの開催や、その他各種広報活動を通じて、養成事業及び文楽研修について、広く一般の方々への周知に努めた。
- ・ 基礎課程 2 年次の能楽第 9 期生が「稽古会」への初参加及び能楽研修発表会「青翔会」への初出演を果たした。
- ・ 公益社団法人全国公立文化施設協会との共催による、劇場関係者を対象とした関東甲信越静ブロック別アートマネジメント研修会において、国立劇場独自の研修プログラムを企画・実施した。
- ・ 組踊研修の広報活動について、沖縄県や教育機関等へ働きかけを行ったほか、第 4 期生や既成者研修発表会の新聞取材を可能な限り受け入れ、組踊研修事業を広く周知した。
- ・ 組踊研修が「沖縄 21 世紀ビジョン」を広く周知広報するためのインターネット番組に取り上げられ、研修事業の周知および将来の研修生応募に繋がる取組ができた。
- ・ 国立劇場おきなわホームページでは、組踊研修修了生による県内離島を含む各地域の学校公演における組踊鑑賞会や研修生の活動等の写真を掲載し、充実した広報ができた。

3- (2) 現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修

《中期計画の概要》

3 伝統芸能の伝承者の養成及び現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修

(2) 現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修

高い技術と豊かな芸術性を備えた実演家等を育成するため、実演家等の研修を次のとおり実施

ア 研修実施に当たっては、民間団体の役割を踏まえつつ、グローバルな視点に立った体系的なカリキュラム等により、安定的、継続的に実演家の育成を実施

外部専門家等の意見を聴取し、成果の検証を行い、長期的視点を踏まえて対象とする分野、人数などについて不断の見直し

イ オペラ研修及びバレエ研修については、国際的な活躍が期待できる水準の実演家を育成することを目標とし、演劇研修については、確かな演技力等を備えた次代の演劇を担う実演家を育成することを目標として、第一線で活躍する各分野の専門家等を講師として、実践的・体系的なカリキュラムにより、中期目標の期間中に次の人数の研修修了を目途とした研修を実施

① オペラ研修：25人程度（研修期間3年間）

② バレエ研修：30人程度（研修期間2年間）

③ 演劇研修：60人程度（研修期間3年間）

(3) 実施に当たっての留意事項

ア 養成研修事業についての国民の関心を喚起するため、広報活動を充実

イ 研修生等が実演経験を積む機会の充実及び学校等との連携による波及効果の拡大を図るため、児童・生徒等の体験学習や劇場外における様々な文化普及活動へ参画

エ 合同講義の実施等、伝統芸能分野と現代舞台芸術分野の相互交流を実施

オ 国立劇場、新国立劇場等の人材や施設を活用し、公演制作者や舞台技術者等の実地研修等の受入れ、協力

《年度計画の概要》

(2) 現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修

ア 中期計画の方針に従い、次のとおり研修を実施

① オペラ研修（研修期間3年）

(a) 第16期生（5名）の3年目の研修（修了）

(b) 第17期生（5名）の2年目の研修

(c) 第18期生（5名）の1年目の研修

(d) 第19期生（5名程度）の募集

(e) 研修発表会等（3公演実施）

・ 試演会（新国立劇場中劇場）7月18日～19日、2回

・ 研修所公演（新国立劇場中劇場）2月19日～21日、3回

・ 歌唱コンサート（新国立劇場中劇場）11月17日、1回

(f) 海外研修の実施（9月）

② バレエ研修（研修期間2年）

(a) 第11期生（5名）の2年目の研修（修了）

(b) 第12期生（6名）の1年目の研修

(c) 第13期生（6名程度）の募集

(d) バレエ予科生について、次のとおり研修及び募集

・ 第6期生（2名）の2年目の研修

・ 第7期生（5名）の1年目の研修

・ 第8期生（若干名）の募集

(e) 研修発表会等（3公演実施）

・ 発表公演（新国立劇場中劇場）11月21日～22日、2回

・ 修了公演（新国立劇場中劇場）2月27日～28日、2回

・ 「バレエ・アステラス★2015」（新国立劇場オペラ劇場）7月19日、1回

③ 演劇研修（研修期間3年）

- (a) 第9期生（9名）の3年目の研修（修了）
 - (b) 第10期生（8名）の2年目の研修
 - (c) 第11期生（14名）の1年目の研修
 - (d) 第12期生（12名程度）の募集
 - (e) 研修発表会等（3公演実施）
 - ・ 試演会（新国立劇場小劇場）10月23日～28日、6回（予定）
 - ・ 修了公演（新国立劇場小劇場）1月8日～13日、6回（予定）
 - ・ 朗読劇「少年口伝隊一九四五」（新国立劇場小劇場）8月15日～16日、3回（予定）
- イ グローバルな視点に立った体系的なカリキュラム等により、安定的、継続的に実演家の育成の実施
外部専門家等の意見の聴取、成果の検証により、長期的視点を踏まえて対象とする分野、人数などについて不断の見直し
- (3) 実施に当たっての留意事項
- ア 養成研修事業についての国民の関心を喚起するため、ホームページ等を活用し、事業の周知を促進
研修生募集について、様々な広報活動により周知
 - イ 研修生及び研修修了生によるワークショップ等を全国の文化施設、学校等と協力して実施
外部公演への出演等、文化普及活動への参画
 - ウ 伝統芸能・現代舞台芸術双方の研修生を対象とした特別合同講義の実施
 - エ 国立劇場、新国立劇場等の人材や施設を活用した、公演制作者や舞台技術者等に対する実地研修の
受入れ、協力

《主要な業務実績》

1. 研修の実施

- ・ オペラ研修生15名、バレエ研修生11名、バレエ予科生7名、演劇研修生30名の研修を実施
うち、オペラ研修生5名、バレエ研修生5名、バレエ予科生2名、演劇研修生9名が修了
（演劇研修第11期で1名が退所）
- ・ オペラ研修所3回、バレエ研修所3回、演劇研修所4回の研修発表会等を実施
- ・ 各研修所において次年度入所の研修生の募集・選考を実施
- ・ オペラ研修所において海外研修を引き続き実施
- ・ 演劇研修所において韓国国立劇団研修所との交流事業を実施
- ・ 研修事業委員会での成果検証に基づき、今後の方向性を検討

2. 実施に当たっての留意事項

- ・ ホームページや Facebook 等を活用し、研修の実施状況、修了生の活動状況等の詳細な情報を随時
発信
- ・ バレエ研修生が J. P. モルガン協賛による豊学校生徒を対象としたレッスン見学会、交流会等に出演
- ・ 演劇研修所第9期生が沖縄公演を実施
- ・ 五館合同特別講義、研修生交流会を開催し、伝統芸能分野と現代舞台芸術分野の相互交流を実施
- ・ 舞台技術者、インターン等の受入れを行うとともに、芸術団体や公立文化施設、提携大学と連携し
て新国立劇場の人材及び施設を活用

《業務実績詳細》

1. 研修の実施

(1) 研修の実施状況

- オペラ研修（研修期間2年）：第16期生5名の3年目の研修を実施し、修了。
第17期生5名の2年目の研修を実施。
第18期生5名の1年目の研修を実施。
- バレエ研修（研修期間2年）：第11期生5名の2年目の研修を実施し、修了。
第12期生6名の1年目の研修を実施。
予科第6期生2名の2年目の研修を実施し、修了。
予科第7期生5名の1年目の研修を実施。
- 演劇研修（研修期間3年）：第9期生9名の3年目の研修を実施し、修了。
第10期生8名の2年目の研修を実施。
第11期生13名の1年目の研修を実施。（1名が退所）

(2) 研修発表会等の実施

オペラ:3回(7月試演会、11月歌唱コンサート、2月研修所公演)

バレエ:3回(7月バレエ・アステラス2015、11月第11期生・第12期生発表公演、2月修了公演)

演劇:4回(8月第9期生朗読劇公演、8月朗読劇沖縄公演、10月試演会、1月修了公演)

(3) 募集・選考の状況

- ・ オペラ第19期生:応募者40名、合格者5名
- ・ バレエ第13期生:応募者42名、合格者7名
- ・ バレエ予科第8期生:応募者31名、合格者2名
- ・ 演劇第12期生:応募者70名、合格者16名

(4) 海外研修の実施

オペラ研修所において、第17期生5名がミラノスカラ座アカデミーで海外研修を行った(9/14~10/2)。

2. 長期的視点を踏まえた対象とする分野・人数・研修内容等についての見直しに関する取組

- ・ 研修事業委員会での成果検証に基づき今後の方向性の検討を行った。
- ・ 研修事業委員に授業、公演の視察を依頼し、レポートにて意見を聴取した。
- ・ 演劇研修所において、研修内容及び奨学金支給方法等の見直しの検討を行った。
- ・ 各研修所において定期的に講師会等を開催し、研修内容や今後の方向性について話し合いを行った。

3. 実施に当たっての留意事項

(1) 広報活動の充実

- ・ ホームページやFacebookを活用し、研修の実施状況、研修公演の稽古、公演の様子などを随時発信した。
- ・ 修了生の活動状況を定期的に把握し、その成果をホームページに掲載するとともに研修公演会場におけるパネル展示等で紹介した。
- ・ 研修所の存在及び研修内容を広く周知し、将来的に優秀な研修生の確保に資することを目的として、バレエ研修所では8月に夏季特別講習会、演劇研修所では11月にオープンスクール、12月に説明会を開催した。

(2) 研修生等の実演機会の充実及び現代舞台芸術の振興・普及のための活動

- ・ バレエ研修生がJ.P.モルガン協賛による豊学校生徒を対象としたレッスン見学会を行った(12/21)。
- ・ バレエ研修生がJ.P.モルガン協賛による特別養護老人ホーム等でのレッスンデモンストレーション及び交流会を行った(2/4、2/28)。
- ・ 演劇研修所第9期生が沖縄にて朗読劇「少年口伝隊一九四五」を上演した(8/2、沖縄県立博物館・美術館講堂 主催:戦後70年企画)。
- ・ 関連講座としてレクチャーやワークショップを実施し、演劇研修所の活動を紹介した。
 - ・ レクチャー「新国立劇場演劇研修所および朗読劇『少年口伝隊一九四五』について」 7/30、高校生以上対象
 - ・ ワークショップ「スタッフの仕事」 7/31、中学生・高校生対象
 - ・ 演劇ワークショップ 7/31・8/3 高校生向け、8/3 一般向け
 - ・ ワークショップ「朗読劇『少年口伝隊一九四五』の舞台設営の現場」 8/1、高校生以上対象
 - ・ バックステージツアー&トークセッション 8/2、高校生以上対象
 - ・ ワークショップ「制作クルー体験」 7/31-8/2、中学生以上対象

(3) 伝統芸能分野と現代舞台芸術分野の相互交流

- ・ 五館合同特別講義、研修生交流会 12月4日
講師:永井和子(声楽家、オペラ研修所長)
講義内容:「良き舞台人になるために」
参加者:研修生56名

(4) 公演制作者・舞台技術者等に対する研修の受入れ、協力

- ・ 舞台技術者、インターン等の受入れを行うとともに、劇場・音楽堂等連絡協議会と連携して劇場にて総会を実施したほか、公益社団法人劇場演出空間技術協会によるJATET劇場演出空間技術展2016開催に協力した。また公益社団法人日本芸能実演家団体協議会受託による沖縄県での講座に職員を講師として派遣、東京都公立文化施設協会や全国公立文化施設協会への職員の派遣、提携大学の学生に向けた講義等、新国立劇場の人材及び施設を活用した取組を行った。

【特記事項】

- ・ 演劇研修第9期生が韓国国立劇団研修所を6月に訪問し、稽古見学や特別授業の受講、研修生同士の交流を行った（共催：国際交流基金）。

《自己点検評価》

○ 自己評価

B

（根拠）

- ・ オペラ研修生5名、バレエ研修生5名、演劇研修生9名が修了し、年度計画における目標を達成した。
 - ・ 研修発表会等について、計画どおり実施した。
 - ・ 国際交流基金の支援を得て、演劇研修所が韓国国立劇団研修所との交流事業を実施した。第9期生が韓国を訪問し、稽古見学や授業に参加するなど研修生同士の交流を行い、経験を積むことができた。
 - ・ 演劇研修所第9期生が、沖縄で朗読劇公演を行った。
 - ・ 舞台技術者等の研修については、関係諸団体と協力し、新国立劇場の人材及び施設を活かして積極的に実施した。
- 良かった点・特色ある点
- ・ 第一線で活躍する講師陣のもと、実践的・体系的なカリキュラムによって研修を実施した。その成果は、発表会、試演会、修了公演等で広く示され、観客及び専門家から高い評価を得ることができた。
 - ・ 昨年度から開始された研修事業委員会では、外部専門家である研修事業委員と各研修所所長が研修所の現状を確認し、研修所の環境、研修内容の改善について意見を交わし、今後の方向性を検討することができた。
 - ・ 研修事業について、ホームページやFacebookを活用した多様な広報活動により広く関心を喚起するとともに、修了生については、最新の活動状況のホームページ掲載、研修公演会場におけるパネル展示等により、その成果の周知を図ることができた。
 - ・ 演劇研修所において、韓国国立劇団研修所との交流事業を実施し、日韓相互の研修所間で意見交換を行うなど、研修生が経験を積むことができた。
 - ・ 演劇研修の現状を踏まえ、募集人数の弾力化、進級審査の導入、奨学金支給年次等を見直し、今年度募集の第12期生より適用した。
- 見直し又は改善を要する点
- ・ 研修事業への各方面からの大きな期待に応えるべく、研修内容、研修事業の在り方や展望については、引き続き研修事業委員会や講師会等において検討を重ねていく必要がある。
 - ・ 研修施設等については、関係各所と相談し、引き続き見直しを検討していきたい。

3-(2)-① 研修の実施

《研修方針》

オペラ研修所では、プロのオペラ歌手としての舞台活動を目指している人のために、国際的なレベルの研修を行うことを目的として3年制の研修を行う。各種音楽レッスンをを行う他、語学、演技、発声法等、オペラ歌手として必要な技能を総合的に研修する。また、コンサート、試演会、修了公演等聴衆を意識した演奏や舞台経験を積み、新国立劇場主催公演への出演をはじめ、海外歌劇場の舞台に立てる人材育成を目指す。

バレエ研修所ではプロのダンサーを目指す者のために、ダンサーとして必要な技能の研鑽、知識と教養の付与及び舞台実習を行うことを目的として、2年制の研修を行う。また、予科生を募集し、資質や将来性ある若年層に、心身の柔軟な時期に古典バレエの基礎的技術を徹底して習得する機会を提供する。

演劇研修所は、明晰な日本語を使いこなし、柔軟で強度のある精神と身体を備えた次世代の演劇界を担える人材の育成を目的として、3年制の研修を行う。1、2年次は基礎的俳優訓練とともに、第一線の演出家や俳優指導の専門家を軸とする講師陣によるシーンスタディを展開し、3年次には修了公演に向けて数本の舞台実習公演を行う。

《業務実績詳細》

1. 研修の実施

区分	研修期間	研修実績	うち修了者	年度計画	中期計画(25～29年度)	
					修了者累計	目標
オペラ	16期(3年次)	5名	5名	5名	15名	25名程度
	17期(2年次)	5名	—	5名		
	18期(1年次)	5名	—	5名		
バレエ	11期(2年次)	5名	5名	5名	17名	30名程度
	12期(1年次)	6名	—	6名		
バレエ 予科	6期(2年次)	2名	2名	2名	7名	—
	7期(1年次)	5名	—	5名		
演劇	9期(3年次)	9名	9名	9名	29名	60名程度
	10期(2年次)	8名	—	8名		
	11期(1年次)	13名	—	14名		

2. 主な授業及び回数

区分	授業内容		
オペラ	実技	第16期 計413回 第17期 計409回 第18期 計416回	オペラ実習、身体表現
	座学	第16期 計89回 第17期 計49回 第18期 計92回	特別講義(サロン)、五館合同特別講義、語学(英・独・伊)
	その他	第16期 計30回 第17期 計31回 第18期 計32回	舞台実習ほか
バレエ	実技	第11期 計375回 第12期 計360回	クラシック・バレエ、身体表現ほか
	座学	第11期 計55回 第12期 計54回	特別講義(サロン)、五館合同特別講義、語学(英)ほか
	その他	第11期 計8回 第12期 計8回	舞台実習ほか

バレエ 予科	実技	第6期 計348回 第7期 計343回	クラシック・バレエ、身体表現ほか
	座学	第6期 計49回 第7期 計49回	特別講義（サロン）、語学（英）ほか
	その他	第6期 計13回 第7期 計13回	舞台実習ほか
演劇	実技	第9期 計143回 第10期 計304回 第11期 計419回	演劇実習ほか
	座学	第9期 計2回 第10期 計4回 第11期 計20回	講義、特別講義（サロン）、五館合同特別講義
	その他	第9期 計10回 第10期 計116回 第11期 計100回	観劇ほか

3. 研修発表会等の実施

(1) 研修公演

(オペラ研修)

- ・ オペラ試演会「ドン・パスクワレ」「こうもり」
7/18・19、2回、中劇場、入場者数：676人（入場率47.0%）
- ・ 「NNTT Young Opera Singers Tomorrow 2015」
11/17、1回、中劇場、入場者数：306人（入場率50.9%）
- ・ 研修所修了公演「フィガロの結婚」
2/19～21、3回、中劇場、入場者数：1,515人（入場率55.7%）

(バレエ研修)

- ・ 「バレエ・アステラス 2015」
7/19、1回、オペラ劇場、入場者数：1,028人（入場率57.4%）
- ・ 「第11期生・第12期生発表公演オータム・コンサート」
11/21・22、2回、中劇場、入場者数：1,118人（入場率56.0%）
- ・ 「エトワールへの道程 2016 新国立劇場バレエ研修所の成果」
2/27・28、2回、中劇場、入場者数：1,422人（入場率78.0%）

(演劇研修)

- ・ 朗読劇「少年口伝隊一九四五」
8/14～16、3回、小劇場、入場者数：758人（入場率87.7%）
- ・ 試演会「血の婚礼」
10/23～27、6回、小劇場、入場者数：949人（入場率64.8%）
- ・ 修了公演「噛みついた娘」
1/8～13、6回、小劇場、入場者数：1,160人（入場率78.7%）

(2) その他出演

- ・ バレエ研修生がJ.P.モルガン協賛による（豊学校生徒を対象とした）レッスン見学会を行った。
12/20、1回、会場：バレエリハーサル室
- ・ バレエ研修生が高齢者交流ボランティア活動を行った（協力：J.P.モルガン）。
2/4、渋谷区総合ケアコミュニティ・せせらぎ
2/28、中劇場
- ・ 演劇研修所第9期生が沖縄にて朗読劇「少年口伝隊一九四五」を上演した（8/2、沖縄県立博物館・美術館講堂）。

(3) 海外研修

- ・ オペラ研修所第17期生が海外研修を実施した(9/14～10/2、イタリア ミラノスカラ座アカデミー)。

4. 募集・選考の状況、今後の募集に向けた取組・検討

コース	選考日	応募者数	受験者数	合格者数
オペラ	10/12～19	40名	36名	5名
バレエ	1/16～30	42名	39名	7名
バレエ予科	12/5～6	31名	30名	2名
演劇	1/18～24	70名	67名	16名

5. 外部専門家等の意見聴取、成果の検証、対象分野・人数等の不断の見直し

- ・ 研修事業委員会での成果検証に基づき、今後の方向性の検討を行った。
- ・ 研修事業委員に授業、公演の視察を依頼し、レポートにて意見を聴取した。
- ・ 演劇研修所において、研修内容及び奨学金支給方法等の見直しを図った。
- ・ 各研修所において定期的に講師会等を開催し、研修内容や今後の方向性について話し合いを行った。

【特記事項】

- ・ 演劇研修所では、第9期生9名が6月12日～20日に韓国に滞在し、韓国国立劇団研修所（次世代演劇人スタジオ）との交流事業を実施した。韓国国立劇団研修所の卒業公演の稽古見学、特別授業の受講や研修生同士の交流を行った（共催：国際交流基金）。

《自己点検評価》

○ 良かった点・特色ある点

(オペラ研修)

- ・ 個々の研修生のアリア技量の向上を目指すだけでなく、オペラの舞台で必須となるアンサンブル稽古の充実や、身体訓練などの新規授業により、成果をあげることができた。
- ・ 海外研修については、昨年度に続きイタリア最高峰といえるミラノスカラ座アカデミーへ派遣した。研修生にプロとしての自覚、将来の目標、世界の舞台を意識させる貴重な機会となった。
- ・ 研修公演においては、研修生はそれぞれ日頃の研修成果を大いに発揮してレベルの高い公演が出来た。アンケート調査においても非常に高い満足度を得ることが出来た。

(バレエ研修)

- ・ コンテンポラリーダンスや演劇の授業を実施し、ダンスの幅を広げることができた。
- ・ 「バレエ・アステラス 2015」に参加し、国内の複数バレエ団のダンサー、海外で活躍するダンサーとの交流を深め、同じ舞台に立ったことは、研修生にとって貴重な機会となった。
- ・ 研修公演においては、海外バレエ学校でも優秀な修了生が揃った年に上演されるといわれる「眠れる森の美女」(抜粋)等を上演でき、研修の成果として高く評価された。
- ・ 入所希望者を対象とした夏期講習会を開催したほか、ホームページや研修公演において研修所の紹介動画を配信、上映する等、研修の内容とその意義について広く周知に努めた。

(演劇研修)

- ・ 第9期生の研修公演について、沖縄でも朗読劇公演を行い、経験を深め実践的な舞台実習を行うことができた。多くの観客に研修の成果を見ていただくことができたと同時に、マネジメント事務所への積極的な働きかけが奏功して関係者が多数来場し、修了生の進路選定に寄与した。
- ・ 第9期生が韓国国立劇団研究所との交流事業に参加し、稽古見学、特別講義の受講や研修生同士の交流を行った。
- ・ 第10期生、11期生も研修公演において舞台裏や表周りのスタッフ、プロンプとして参加し、多くのことを学ぶ貴重な機会となった。
- ・ 主に入所希望者を対象としてオープンスクール及び説明会を実施し、研修所の特徴をよく理解した上で受験する者が増えた。
- ・ 募集人数の弾力化、進級審査の導入、奨学金支給年次等の見直しを行い、第12期生募集から適用したことにより、16名を合格者とした。
- ・ ホームページ及びFacebookでの授業の風景や研修生の紹介、稽古場の写真等を随時掲載し、情報発信を一層充実させることができた。

○ 見直し又は改善を要する点

(オペラ研修)

- ・ 試演会の会場について、引き続き劇場関係部署とともに検討していきたい。

(バレエ研修)

- ・ より多くの優秀な人材を確保するため、成果の出ている予科生クラスの充実など、従来の制度について見直しを視野に入れていきたい。

(演劇研修)

- ・ 事前の説明会やオープンスクールは、入所前に研修内容や方針について理解を深める上で有用であるため、それらの実施回数を増やしていきたい。

3-(2)-② 実施に当たっての留意事項

《業務実績詳細》

1. 広報活動の充実

- ・ ホームページや Facebook を活用し、研修の実施状況、研修公演の稽古、公演の様子などを随時発信した。
- ・ 修了生の活動状況を定期的に把握し、その成果をホームページに掲載するとともに研修公演会場におけるパネル展示等で紹介した。
- ・ 研修所の存在及び研修内容を広く周知し、将来的に優秀な研修生の確保に資することを目的として、バレエ研修所では 8 月に夏季特別講習会、演劇研修所では 11 月にオープンスクール、12 月に説明会を開催した。

2. 研修生等の実演機会の充実及び現代舞台芸術の振興・普及のための活動

(バレエ研修)

- ・ バレエ研修生が J.P. モルガン協賛による聾学校生徒を対象としたレッスン見学会を行った。
12/20、1 回、会場：バレエリハーサル室
- ・ バレエ研修生が J.P. モルガン協賛による特別養護老人ホーム等でのレッスンデモンストレーション及び交流会を行った。
2/4、渋谷区総合ケアコミュニティ・せせらぎ
2/28 修了公演、中劇場

(演劇研修)

- ・ 演劇研修所第 9 期生が沖縄にて朗読劇「少年口伝隊一九四五」を上演した（8/2、沖縄県立博物館・美術館講堂 主催：戦後 70 年企画）。

3. 伝統芸能分野と現代舞台芸術分野の相互交流

- ・ 五館合同特別講義、研修生交流会 12 月 4 日
講義：新国立劇場リハーサル室（地下 2 階）、交流会：マエストロ（新国立劇場 3 階）
講師：永井和子（声楽家、オペラ研修所長）
講義内容：「良き舞台人になるために」
参加者：研修生 56 名（オペラ研修所第 18 期生 5 名、バレエ研修所第 12 期生 6 名、演劇研修所第 11 期生 13 名、歌舞伎俳優 9 名、竹本 2 名、鳴物 1 名、長唄 1 名、寄席囃子 6 名、能楽 2 名、文楽 3 名、組踊 8 名）

4. 公演制作者・舞台技術者等に対する研修の受入れ、協力

- ・ 舞台技術者、インターン等の受入れを行うとともに、劇場・音楽堂等連絡協議会と連携して劇場にて総会を実施したほか、公益社団法人劇場演出空間技術協会による JATET 劇場演出空間技術展 2016 開催に協力した。また公益社団法人日本芸能実演家団体協議会受託による沖縄県での講座に職員を講師として派遣、東京都公立文化施設協会、全国公立文化施設協会にも職員を派遣、提携大学の学生に向けた講義等、新国立劇場の人材及び施設を活用した取組を行った。

《自己点検評価》

○ 良かった点・特色ある点

- ・ 研修事業について、ホームページや Facebook を活用して継続的に情報を発信した。また、その内容を主催公演の Twitter アカウトと共有することで、幅広い層の目に留まるよう努めた。
- ・ 国内外での修了生の活躍を積極的に発信し、研修事業の意義やそのレベルの高さを広く知らしめる

ことができた。

- 五館合同特別講義、研修生交流会を通じ、伝統芸能分野との相互交流を進めることができた。
- 演劇研修所第9期生が沖縄にて朗読劇公演を行い、経験を深め実践的な舞台実習を行うことができた。
- オペラ劇場のホワイエや小劇場を使用したフォーラム等の開催、研修会等や提携大学への講師の派遣など、他団体と連携して新国立劇場の人材及び施設を大いに活用することができた。

○ 見直し又は改善を要する点

- 国内外の新しい講師との出会いを模索するなど、より幅広い視野を持たせる研修内容の充実を図りたい。
- 日本各地の関係団体・劇場等との連携を深め、研修事業の活動の幅を広げていきたい。

I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するため
とるべき措置

伝統芸能及び現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用

伝統芸能に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用

伝統芸能に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用 p.139

- 伝統芸能の調査研究 p.141
- 伝統芸能の資料の収集・活用 p.144
 - 資料の収集と公開 p.145
 - 収集資料の活用 p.145
 - 文化デジタルライブラリー等の整備と公開 p.146
 - 展示公開 p.147
- 公演記録の作成・活用、普及活動の実施 p.151
 - 公演記録の作成・活用 p.151
 - 公開講座等、普及活動の実施 p.152

現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用

現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用 p.156

- 現代舞台芸術の調査研究 p.157
- 現代舞台芸術の資料の収集・活用 p.159
 - 資料の収集と公開 p.159
 - 展示公開 p.160
- 公演記録の作成・活用、普及活動の実施 p.162
 - 公演記録の作成・活用 p.162
 - 公開講座等、普及活動の実施 p.163

4- (1) 伝統芸能に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用

《中期計画の概要》

- 4 伝統芸能及び現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用
 伝統芸能の公開の充実等に資するとともに、その理解の促進を図るための調査研究及び資料の収集、並びに研究者や国民一般への成果の提供
- (1) 伝統芸能に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用
- ア 伝統芸能に関する調査研究を次のとおり実施
- ① 上演資料集の作成
 - ② 日本各地の歌舞伎・文楽を主とした演劇興行に関する記録の調査研究、組踊等沖縄伝統芸能の上演に関する記録の調査研究
 - ③ 伝統芸能に関する古文献等についての調査研究、復刻・刊行等
- イ 伝統芸能に関する資料の収集及び活用を次のとおり実施
- ① 伝統芸能関係図書、歌舞伎錦絵等博物資料等の収集及び分類整理、閲覧、図録等の作成、博物館施設等への貸与等
 - ② 収集した資料のデータベース化、デジタルコンテンツの充実
- ウ 収集した資料等の展示公開
- ・ 伝統芸能情報館資料展示室 年3企画程度
 - ・ 演芸資料館資料展示室 年3企画程度
 - ・ 能楽堂資料展示室 年4企画程度
 - ・ 文楽劇場資料展示室 年4企画程度
 - ・ 国立劇場おきなわ資料展示室 年4企画程度
- (3) 公演記録の作成・活用、普及活動の実施
- ア 演技・演出等の記録の作成・保存、閲覧・視聴
- イ 公演記録映像の鑑賞会等の開催による有効活用
- ウ 講座、展示等の実施

《年度計画の概要》

- 4 伝統芸能及び現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用
- (1) 伝統芸能に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用
- ア 中期計画の方針に従い、伝統芸能に関する調査研究を次のとおり実施
- ① 歌舞伎、文楽及び組踊等沖縄伝統芸能公演の実施に当たり、過去の公演記録、演出等を調査した上演資料集を作成
 - ② 日本各地の歌舞伎・文楽を主とした演劇興行に関する記録及び組踊等沖縄伝統芸能の上演に関する記録の調査研究調査研究を次のとおり実施
 - (a) 「近代歌舞伎年表」名古屋篇第十巻の刊行及び第十一巻の刊行準備
 - (b) 「義太夫年表 昭和篇」第三巻の刊行及び第四巻の刊行準備
 - ③ 伝統芸能に関する古文献等について調査研究を行い、次のとおり復刻・刊行等を実施
 - (a) 歌舞伎資料選書・12「芝居見たまま 明治篇」第四巻の刊行
 - (b) 未翻刻戯曲集第二十二巻の刊行
 - (c) 正本写真合巻集(2冊)の刊行
 - (d) 「国立能楽堂調査研究」(10)の刊行
- イ 中期計画の方針に従い、伝統芸能に関する資料の収集及び活用を次のとおり実施
- ① 図書・資料の収集及び分類整理、閲覧のための提供
 伝統芸能全般に関する図書・資料のほか、主として各館で公開する分野に関する図書・資料を収集
 開架図書の充実、一般利用の促進
 - ② 収集した資料等を活用し、次のとおり刊行
 また、博物館施設等に対し、収集した資料を貸与
 - (a) 特別展示図録の刊行(能楽堂)
 - (b) 英文演目解説「The Guide to Noh of National Noh Theatre」(5)刊行(能楽堂)

- ③ 収集した資料のデータベース化やデジタルコンテンツの充実及びインターネットによる公開
 - (a) 図書、資料及び公演記録等について、次の情報のデータベース化を実施
 - ・ 図書（本館公演プログラム）
 - ・ 錦絵
 - ・ ブロマイド
 - ・ 公演記録情報（上演情報、公演記録写真、扮装図鑑）
 - (b) デジタルコンテンツを次のとおり作成
 - ・ 文化デジタルライブラリー
舞台芸術教材「文楽編作品解説 義経千本桜」
 - (c) 文化デジタルライブラリーホームページ目標アクセス件数：455,000件
- ウ 収集した資料等を別表8のとおり展示公開
- (3) 公演記録の作成・活用、普及活動の実施
 - ア 演技・演出等の記録を録音・録画・写真等により適切に作成・保存し、閲覧・視聴のために提供
 - イ 公演記録映像を公演記録鑑賞会、講座・レクチャー等で活用
 - ウ 公開講座等、普及活動の実施
 - ① 公開講座等を別表9のとおり実施
広報活動の強化
アンケート調査の実施、目標満足回答率80%以上
 - ② 公演関連講座、展示等を適宜実施、内容に応じてホームページ等で公開
 - ③ 教員免許更新制における免許状更新講習を実施
 - ④ 組踊等沖縄伝統芸能について、学校等に対して、解説DVDの貸出及びパンフレット等の提供

4-(1)-① 伝統芸能の調査研究

《方針》

- ・ 日本各地の歌舞伎を中心とした演劇興行についての年表・資料である「近代歌舞伎年表」を作成する。すでに刊行した「大阪篇」全九巻十冊、「京都篇」全十巻十一冊に続き、27年度は「名古屋篇」第十巻の刊行及び第十一巻刊行に向けての基礎調査、原稿準備を行う。
- ・ 「義太夫年表 昭和篇」第三巻、同第四巻以降の刊行に向けた準備、資料収集を行う。
- ・ 能楽に関する古文献等について調査研究を行い、復刻・刊行等を行う。

《主要な業務実績》

- ・ 伝統芸能に関する調査研究を実施し、その成果として以下の刊行及び刊行準備を計画どおり実施
上演資料集（歌舞伎6冊、文楽5冊、組踊3冊）
「近代歌舞伎年表 名古屋篇」第十巻（刊行）、同第十一巻以降（刊行準備・資料収集）
「義太夫年表 昭和篇」第三巻（刊行）、同第四巻以降（刊行準備・資料調査）
- ・ 伝統芸能に関する古文献等について調査研究を実施し、その成果として以下の復刻・刊行等及び刊行準備を計画どおり実施
歌舞伎資料選書・12「芝居見たまま 明治篇」第四巻（刊行）、同第五巻（文献調査）
未翻刻戯曲集・22「実成金菊月」（刊行）、同23（古文献調査）
正本写合巻集・16「金瓶梅曾我賜宝」（刊行）、同17「勸善懲悪観槐機」（刊行）、その他古文献調査
国立能楽堂調査研究（10）
- ・ 外部専門家等の意見聴取
調査事業委員会において外部専門家等より意見を聴取し、後の事業運営に活用
- ・ アンケート調査を実施
満足度：上演資料集（歌舞伎・文楽・組踊）91.1%、「近代歌舞伎年表 名古屋篇」第十巻96.1%
「義太夫年表 昭和篇」第三巻87.3%

《業務実績詳細》

1. 刊行実績

事項	実績
上演資料集	歌舞伎6冊、文楽5冊、組踊3冊 合計14冊
近代歌舞伎年表 義太夫年表	刊行：「近代歌舞伎年表 名古屋篇」第十巻（28年3月） 「義太夫年表 昭和篇」第三巻（27年10月） 刊行準備：「近代歌舞伎年表 名古屋篇」第十一巻のデータ集積、一部原稿作成 「義太夫年表 昭和篇」第四巻の刊行準備 調査作業：「近代歌舞伎年表 名古屋篇」第十一巻以降の資料調査 「義太夫年表 昭和篇」第四巻以降の資料調査
古文献の復刻等	刊行：「芝居見たまま 明治篇」第四巻（歌舞伎資料選書・12）（28年2月） 「実成金菊月」（未翻刻戯曲集・22）（28年3月） 「金瓶梅曾我賜宝」（正本写合巻集・16）（28年1月） 「勸善懲悪観槐機」（正本写合巻集・17）（28年3月） 「国立能楽堂調査研究」（10）（28年3月） 刊行準備：「芝居見たまま 明治篇」第五巻（歌舞伎資料選書・12）の文献調査 「未翻刻戯曲集・23」の古文献調査 「正本写合巻集」2冊の古文献調査及び原稿準備

2. 外部専門家等の意見及びアンケート調査

(1) 外部専門家等の意見

- ・ 調査事業委員会において外部専門家等より意見を聴取し、後の事業運営に活用した。主な意見は以下の通り。
 - ・ 上演資料集並びに近代歌舞伎年表・義太夫年表をはじめ、資料選書等、毎年非常に充実した形で、継続的に実施されており、大変貴重な仕事である。
 - ・ 刊行物については、非常によく研究されている。こういう刊行物は商業的な出版では維持でき

ないので、振興会がやる意味がある。民間の商業ベースではできないクオリティの高いことを継続的に維持していかないといけない。

- ・ 民間ではなかなかこのような調査研究まで手が届かないので、今後もしっかり続けてほしい。
- ・ 上演資料集は、上演に関わる様々な角度からの資料を集め、もちろん上演のためではあるが、研究資料としても、劇評などの執筆者にとっても、大変貴重な資料として活用されている。
- ・ 歌舞伎資料選書「芝居見たまま 明治篇」は、実際の上演と照らし合わせながら見ると、大変興味深い資料で、貴重な仕事を着実に続けている。
- ・ 未翻刻戯曲集は、比較的時代が新しいものがどんどん刊行されているが、今後の上演などに結び付いていくのか期待したい。
- ・ 正本写合巻集は、毎年刊行され、巻を重ねて大変貴重な資料になってきている。
- ・ 刊行物の寄贈については、研究への貢献や評価につながるよう、研究機関のニーズを踏まえつつ新たな寄贈先を模索してはどうか。
- ・ 義太夫年表の昭和篇は、第三巻で昭和 21 年～29 年の戦後の文楽の大変厳しかった時代が資料的に整理され、今後の文楽を考える上でも、非常に貴重な資料になって行くのではないかと。
- ・ 義太夫年表の昭和篇は、文楽劇場ならではの貴重な成果であり、昭和末年までの継続を切望する。

(2) アンケート調査

- ・ 「上演資料集」
 - ・ 歌舞伎 No. 597 : 回答者数 46 人 (配布数 97 人、回答率 47.4%)、97.8%の回答者から満足との回答を得た (45 人)。
 - ・ 文楽 No. 599～600 : 回答者数 48 人 (配布数 91 人、回答率 52.7%)、97.9%の回答者から満足との回答を得た (47 人)。
 - ・ 組踊 No. 38 : 回答者数 30 人 (配布数 48 人、回収率 62.5%)、70.0%の回答者から概ね満足との回答を得た (21 人)。
- ・ 「近代歌舞伎年表 名古屋篇」第十巻 : 回答者数 51 人 (配布数 101 人、回答率 50.5%)、96.1%の回答者から満足との回答を得た (49 人)。
- ・ 「義太夫年表 昭和篇」第三巻 : 回答者数 55 人 (配布数 70 人、回答率 78.6%)、87.3%の回答者から満足との回答を得た (48 人)。

《自己点検評価》

○ 自己評定

B

(根拠)

- ・ 振興会が刊行する資料、年表、文献類は、伝統芸能のみならず江戸期以降の歴史研究において基礎的資料となるものであり、これまでの刊行物に対して研究者等から高く評価されている。これらの調査研究の成果は刊行後すぐに現れるものではなく、長期的計画のもと確実に行われることが最重要である。
- ・ 伝統芸能に関する調査研究を不断に実施し、年度計画どおり各刊行物を作成した。次年度以降の刊行物の準備についても、資料集積、原稿作成等の作業を計画どおり進めた。
- ・ 上演資料集では、上演作品の背景となる資料の充実に努めながら、各公演の上演のため参考となる資料を掲載し、演技演出に役立てることができた。
- ・ 外部専門家から、「毎年刊行され、巻を重ねて大変貴重な資料になってきている」「民間の商業ベースではできないクオリティの高いことを継続的に維持していかないといけない」との評価を得た。
- ・ アンケートでは、「満足」との回答が、歌舞伎の「上演資料集」で 97.8%、「近代歌舞伎年表 名古屋篇」第十巻で 96.1%、「義太夫年表 昭和篇」第三巻で 87.3%など、好評を得た。

○ 良かった点・特色ある点

- ・ 上演資料集では、上演作品の背景となる資料の充実に努めながら、各公演の上演のため参考となる資料を掲載し、演技演出に役立てることができた。特に、文楽公演は度々上演される演目が多いため 12 月文楽公演の「紅葉狩」、2 月文楽公演の「靉猿」など新たな資料の掲載に努めた。また、12 月文楽公演で通算 600 号を迎えたため、文楽 600 号、歌舞伎 602 号に上演資料集の「演目別索引」「刊行一覧」を付して、利便性の向上と資料集の活用促進を図った。

- ・ 国立劇場おきなわの上演資料集第 36 集「久志の若按司」では、沖縄県教育委員会の調査（『沖縄の組踊Ⅰ』）から約 30 年が経過していることから、演目が伝承されている 36 か所の地域に対し、継承状況についてアンケート調査を行い、その結果を掲載した。
 - ・ 「近代歌舞伎年表 名古屋篇」は、近代における名古屋の歌舞伎を始めとした芸能や興行状況を明らかにするだけでなく、京阪や東京との関係性を知る上でも貴重な基礎資料として好評を得た。
 - ・ 「国立能楽堂調査研究」(10)において、近年国立能楽堂が受贈した資料や本年度の展示で紹介した資料に関連する論文を掲載することができた。
 - ・ 「義太夫年表 昭和篇」について、文楽劇場では、昭和 21 年から 29 年までの公演プログラム、チラシの他、新聞・雑誌の演芸欄や広告欄の記事調査により、昭和 24 年からの文楽座の二派分裂時期の活動を詳細に収録した。分裂時期の両派の動きを一覧に付しそれぞれの活動を追える頁を設け、ラジオ等の出演についても別頁を立てるなど、戦争による影響や社会情勢を反映した採録方法を採用した。
- 見直し又は改善を要する点
- ・ 刊行物の寄贈先については、研究機関の要望やアンケートの回答により常に見直しを行っているが、今後は外部専門家等の意見を聴取しながら新たな寄贈先について検討する。

4-(1)-② 伝統芸能の資料の収集・活用

《方針》

伝統芸能全般に関する基本的な新旧の図書、雑誌、博物資料の収集を主軸に実施する。歌舞伎については、錦絵・番付・ブロマイド写真・上演台本を、大衆芸能については、落語・講談の速記本、見世物・曲芸の絵画資料と映像・音声資料（ビデオ・CD）等の収集を行う。また、図書情報のデータベース化を進め、研究者及び一般の利用に供する。

能楽堂では主として能楽に関する研究書、実演資料、図録、一般図書等の芸能図書及び能楽の普及・伝承・研究の上で、特に意義があると認められる資料の収集を行う。

文楽劇場では、収集資料の貸与等、文楽をはじめとする伝統芸能に対する理解の促進に努める。

国立劇場おきなわでは、組踊等沖縄伝統芸能を主とし、伝統芸能全般に関する図書・資料、博物資料等の収集及び分類整理を行い、閲覧に供する。

《主要な業務実績》

1. 資料の収集と公開

- ・ 伝統芸能全般の文献（図書・解説書・台本・雑誌等）、図画（錦絵・番付・絵画等）、写真、映像・音声資料、舞台装置等の資料について、収集、分類整理を各館で実施

2. 収集資料の活用

- ・ 整理した資料等を、展示、閲覧、講座、公演記録鑑賞会等で活用
- ・ 能楽堂資料展示室での特別展示のための調査結果をもとに図録を刊行し、研究者及び研究機関等へ配布、一般販売
 - ・ 特別展示図録「一橋徳川家の能」（27年9月）
 - ・ 企画展示「近世大名家の能楽」展示目録（28年1月）
 - ・ 英文演目解説「The Guide to Noh of the National Noh Theatre」5（28年3月）
- また、企画展示では展示資料の解説のために目録（無料）を作成し、一般配布
- ・ 外部展示への資料の貸出
 - ・ 島根県立石見美術館企画展「森英恵展」への歌舞伎資料貸出
 - ・ 町田市立博物館における「国立能楽堂コレクション能・狂言の面と装束」への収蔵資料貸出
 - ・ 阪急百貨店内阪急うめだギャラリーの「文楽の世界展」への文楽資料貸出展示
 - ・ 文楽を中心とした古典芸能振興事業実行委員会主催（大阪市・公益財団法人文楽協会）「ムムム！文楽シリーズ『まちなか文楽』」に文楽人形、三味線及び文楽紹介DVD映像を貸出
 - ・ 豊中市立伝統芸能館の展示に文楽人形及び展示パネルなどを貸出
 - ・ 木津川市へ文楽紹介映像DVDを貸与し、「泉川座の人形浄瑠璃」の展示会場にて上映
 - ・ 伝統芸能情報館図書閲覧室にて、毎月の公演・展示に関するコーナーを設け、関連文献を配架

3. 文化デジタルライブラリー等の整備と公開

- ・ 計画どおり収集資料のデータベース化を引き続き実施
- ・ 文化デジタルライブラリーの舞台芸術教材「文楽編作品解説 義経千本桜」を作成するとともに、錦絵図録15巻及びブロマイド263点を登録・公開するなどデジタルコンテンツを充実
- ・ 文化デジタルライブラリーのアクセス件数は目標（455,000件）を大きく上回る680,018件
- ・ 平成26年度末に行った歌舞伎事典の改修によって、滞在時間（コンテンツ視聴時間）が伸長
- ・ スマートフォンにより、案内リーフレットの印刷情報から動画視聴サイトに誘導する方法を導入し、サイトへのアクセスが増加

4. 展示公開

- ・ 収集資料の展示公開を計画どおり実施し、19企画で入場者数213,495人（目標185,120人 達成度115.3%）
- ・ 伝統芸能情報館情報展示室及び演芸場資料展示室では、歌舞伎・文楽・大衆芸能に興味と理解を深めることを目的に展示を実施
- ・ 15年ぶりに国立劇場で上演された新派公演にあわせて新派に関する展示を実施
- ・ 大阪市の阪急百貨店において出張展示「文楽の世界展」を行い、同店の無料展示における来場者数の過去最高（34,991人）を記録
- ・ 国立劇場おきなわでは、自主公演と関連付けて企画展を実施
- ・ 国立劇場おきなわ県外公演に合わせて、会場のウェスタ川越（8月7～9日）と茅ヶ崎市民文化会館

(2月20日)で、組踊・琉球舞踊の衣裳・小道具等の展示を行った。

5. 外部専門家等の意見及びアンケート調査

- ・ 調査事業委員会において外部専門家等より意見を聴取し、後の事業運営に活用
- ・ アンケート調査を実施
満足度：図書閲覧室（全館）92.6%、資料展示室（全館）85.1%

《業務実績詳細》

<1>資料の収集と公開

1. 収集・公開実績

区 分	収 集	公 開
伝統芸能 情報館	収集図書：4,097冊 収集資料：1,420点	閲覧室利用者数：4,719人（開室253日） 写真複製使用件数：495件 博物資料閲覧6件、視聴利用1,071件
能楽堂	収集図書：737冊 収集資料：7,875点	閲覧室利用者数：3,972人（開室247日） 写真複製使用94件 博物資料閲覧3件、視聴利用2,254件
文楽劇場	収集図書：6,799冊 収集資料：853点	閲覧室利用者数：1,786人（開室242日） 写真複製使用33件 博物資料閲覧1件、視聴利用561件
国立劇場 おきなわ	収集図書：1,421冊 収集資料：1,160点	レファレンスルーム利用者数：1,735人（開室166日） 写真複製使用14件、視聴利用1,250件

2. 外部専門家等の意見及びアンケート調査

(1) 外部専門家等の意見

なし

(2) アンケート調査

- ・ 伝統芸能資料館図書閲覧室（2月8日～3月22日）
回答者数206人。回答者の92.7%が概ね満足と答えた（191人）。
- ・ 能楽堂図書閲覧室（11月2日～11月28日）
回答者数94人（配布数100人、回収率94.0%）回答者の95.7%が概ね満足と答えた（90人）。
- ・ 文楽劇場図書閲覧室（7月2日～11月27日）
回答者数40人（配布数40人、回収率100%）、回答者の85.0%が概ね満足と答えた（34人）。

【特記事項】

- ・ 伝統芸能情報館情報展示室は、社会人のための歌舞伎鑑賞教室・文楽鑑賞教室の公演日において、来場者の利用に配慮して開室時間の延長（20:00まで）を行った。
- ・ 国立文楽劇場では開室日をこれまでの週3回から週5回にした。
- ・ 国立劇場おきなわでは、レファレンスルームにおいて、「ジャワの宮廷ガムランと舞踊」（11月）「狂言」（2月）の各公演にあわせた関連図書資料を紹介するコーナーを設置した。

<2>収集資料の活用

1. 活用実績

(本館)

- ・ 島根県立石見美術館企画展「森英恵展」へ歌舞伎資料の貸出
- ・ 株式会社JTBコミュニケーションズ主催のポスター展へ国立劇場主催公演ポスターの貸出
- ・ 大佛次郎記念館の「大佛次郎の愛した舞台 - バレエも、歌舞伎も」展へ公演プログラムの貸出
- ・ 伝統芸能情報館図書閲覧室にて、毎月の公演・展示に関するコーナーを設け、関連文献を配架

(能楽堂)

- ・ 以下を刊行した。
 - ・ 特別展示「一橋徳川家の能」展示図録（27年9月）
 - ・ 企画展示「近世大名家の能楽」展示目録（28年1月）

- ・ 英文演目解説「The Guide to Noh of the National Noh Theatre」5 (28年3月)
- ・ 「国立能楽堂調査研究」(10) (28年3月)
- ・ 町田市立博物館における「国立能楽堂コレクション 能・狂言の面と装束」に対し、収蔵資料 103 点を貸与した (10月31日～12月20日)。
- ・ 京都国立博物館の特別展覧会「琳派 京を彩る」、東京藝術大学大学美術館「うらめしや～、冥途のみやげ」展に収蔵資料を貸与した。

(文楽劇場)

- ・ 文楽を中心とした古典芸能振興事業実行委員会主催 (大阪市・公益財団法人文楽協会) で大阪市の地下街で開催した「ムムム！文楽シリーズ『まちなか文楽』」に文楽人形、三味線及び文楽紹介 DVD 映像を貸出した。(10月9日～12日)
- ・ 豊中市立伝統芸能館が開催する展示に文楽人形及び展示パネルなどを貸出し、展示した。(11月17日～23日 人形展示は21日のみ)
- ・ 木津川市へ文楽紹介映像DVDを貸与し、「泉川座の人形浄瑠璃」の展示会場にて上映した。(11月20日～12月18日)

<3>文化デジタルライブラリー等の整備と公開

1. 実績

(1) データベース化

事 項	実 施 内 容
図 書	逐次刊行物等 4,000 件 本館所蔵の他劇場の公演プログラム 4,000 件を、図書管理システム・国立情報学研究所のデータベースに登録した。
資 料	ブロマイド 263 点 新たに考証・整理が終了したブロマイド写真 (戦前の歌舞伎俳優) 263 点を、文化デジタルライブラリーに追加登録した。
上演情報	146 公演 歌舞伎 10 公演、文楽 17 公演、舞踊・邦楽 9 公演、雅楽・声明 2 公演、民俗芸能 2 公演、特別企画 4 公演、能・狂言 51 公演、大衆芸能 51 公演の公演情報を、文化デジタルライブラリーに登録した。
公演記録 写真	18,046 点 国立劇場及び国立演芸場で 26 年 12 月から 27 年 9 月までに撮影した全ジャンルの公演記録写真 8,101 点、国立能楽堂で 22 年 9 月から 27 年 11 月に撮影した公演記録写真 9,945 点を文化デジタルライブラリーに登録した。
扮装図鑑	18 公演 国立劇場で 22 年 1 月から 27 年 6 月に上演された歌舞伎公演 (鑑賞教室含む)・文楽公演 (鑑賞教室含む) に上演された公演の「扮装図鑑」を、文化デジタルライブラリーに登録した。

(2) デジタルコンテンツの作成

- ・ 文化デジタルライブラリー舞台芸術教材「文楽編作品解説 義経千本桜」

(3) 文化デジタルライブラリーホームページへのアクセス件数

680,018 件 (計画: 455,000 件)

(4) 文化デジタルライブラリーシステム改修

- ・ 現在公開中のコンテンツにおいて、スマートフォンやタブレット PC では視聴できない部分の改修方法の調査・検討を行い、仕様書を作成した。

2. 外部専門家等の意見

- ・ 調査事業委員会において外部専門家等より意見を聴取し、後の事業運営に活用した。
 - ・ 教育現場では ICT 教育が盛んになってきていて、タブレットを使った授業の研究が進められている。特に若年層の教育現場や、邦楽器が必須科目となった音楽の現場では教材作成に苦心している。先生方が簡単に活用できるデータベースの作成と発信が今後求められる。
 - ・ 文化デジタルライブラリーの情報発信は、次世代の人材教育の観点から、小中高校生及び海外に目を向けるべきだと考える。
 - ・ コンテンツに英語表記が増えた。東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けては、フ

ランス語・中国語・韓国語などの検討も考えられるが、まずは英語表記の充実を図るべきである。

<4> 展示公開

1. 展示公開の実績

展示室	企画数	開催日数	来場者数	
			実績	計画
伝統芸能情報館 資料展示室	4回	334日	49,966人	43,900人
演芸場 資料展示室	3回	277日	40,333人	33,700人
能楽堂 資料展示室	4回	236日	34,545人	30,670人
文楽劇場 資料展示室	4回	258日	76,333人	64,850人
国立劇場おきなわ 資料展示室	4回	281日	12,318人	12,000人
総計	19回 (計画19回)		213,495人	185,120人

(伝統芸能情報館)

- 「文楽入門」では、主に初心者を対象として、文楽の歴史をはじめ三業（太夫・三味線・人形遣い）の解説や、人形の首（かしら）など実際に使用されている資料、舞台模型などを展示することにより、人形浄瑠璃文楽の紹介と理解を深めてもらうための展示を行った。
- 「歌舞伎入門—妹背山婦女庭訓の世界—」では、歌舞伎の演目の中でも重要な作品の一つである「妹背山婦女庭訓」を取り上げて、舞台写真や錦絵などの資料、衣裳・小道具などを展示し、歌舞伎鑑賞の手引きとなるような展示を行った。
- 「芝居の一年—歌舞伎の年中行事—」では、芝居の世界の独特な年中行事や「曾我狂言」「弥生狂言」「盆狂言」で上演される作品に関する資料を展示することにより、顔見世興行に始まる江戸時代の芝居の一年を理解し、楽しんでもらうための展示を行った。
- 「新派の華—面影と今日—」では、国立劇場では15年ぶりの上演となる3月新派公演の理解の促進と観劇への誘導を図るため、新派の誕生から現代に至るまでの上演の歴史を関連資料などで振り返る展示を行った。
- 東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて増加が見込まれる海外からの観光客や観劇客の理解と興味を深めるため、「芝居の一年」ではパネル解説、「新派の華」では展示目録を英語で作成した。

(演芸場)

- 今年度は「寄席の四季」をテーマに、「春から初夏」「夏から秋」「冬から初春」の三回に分けて、落語に関連する資料を中心に、真打昇進、襲名披露にまつわる資料、錦絵、番付、寄席ビラ、怪談の小道具、写真、速記本、色物芸の道具類、レコード等により、寄席の四季と演芸作品の中で表現される季節感を感じられる展示を行った。

(能楽堂)

- 「収蔵資料展」では、国立能楽堂が収蔵する能面・能装束を紹介した。また絵画資料は自主公演の演目に関連する絵画の頁をその都度替えて展示した。
- 入門展示「能楽入門」では、装束入門をテーマに能舞台模型から、面・装束・絵画まで幅広く展示した。また7月の公演プログラム表紙と関連して町入能に関する摺物をまとめて展示紹介した。
- 特別展示「一橋徳川家の能」では、茨城県立歴史館所蔵品を中心に4機関より資料を借用し、収蔵資料も活用して面・装束・扇・歴史資料を展示した。また一橋徳川邸復元模型も製作、展示し、近世武家邸内における能の位置づけの一例を分かりやすく示した。
- 企画展示「近世大名家の能楽」では、文部科学省により「共同利用・共同研究拠点」として認定されている野上記念法政大学能楽研究所の「能楽の国際・学際的研究拠点」における研究プロジェクト「江戸時代の能楽についての総合的研究」の一環として、同研究所の協力により、同所所蔵資料と収蔵資料とで面・装束・歴史資料を展示紹介した。

(文楽劇場)

- 「初代・二代目吉田玉男」(4月～5月)では、初代の偉大な功績を偲びつつ、二代目玉男の今後の活躍を期待する展示とした。また、4月文楽公演との相乗効果により、目標来場者数(11,340人)を大幅に超えた(16,688人)。
- 「文楽入門」(6月～8月)では、会期中に文楽鑑賞教室と夏休み文楽特別公演の観客層(生徒、学生、親子)を対象に、文楽を構成する太夫・三味線・人形等の基本的内容の紹介で、より理解が深ま

るような展示とした。

- ・ 「玉藻前」(9月～11月)では、錦秋文楽公演にちなんだ資料として文楽作品以外の他の史料やコミックなども紹介し、来場者の興味を引く企画とした。
- ・ 「文楽入門」(1月～2月)では、企画コーナー「初春文楽公演の演目にちなんで」において文楽座技芸員旧蔵の舞台衣裳や作者(近松門左衛門)に関連した資料を取り上げ、さまざまな角度から上演作品を紹介した。
- ・ 大阪市北区梅田の阪急百貨店において出張展示「文楽の世界」(7月1日～13日)を行い、同店の無料展示における来場者数の過去最高(34,991人・平均2,692人/日)を記録した。

(国立劇場おきなわ)

- ・ 5月定期公演「雑踊名作選」にちなみ、明治期に数多くの雑踊を生んだ玉城盛重と伊良波尹吉にスポットを当てた企画展「琉球舞踊 雑踊～盛重と尹吉～」(4～6月)を行った。2人に関する資料や、関連する映像記録等も紹介した。
- ・ 大宜見小太郎の遺族から協力を得て開催した「沖縄芝居入門」(7月～9月)をはじめとする各企画展では、公演に関連した写真、小道具及び衣裳など、公演への理解を深められる展示を行った。
- ・ 企画展「組踊 敵討」(10～12月)は、10月定期公演「久志の若按司」にちなみ開催した。現在伝えられている組踊の演目の半数以上をしめる「敵討物」をテーマとし、登場人物の特徴に焦点を当てて、衣裳や小道具、映像等で解説した。
- ・ 企画展「狂言入門」(1～3月)では、企画公演「狂言～野村万作・野村萬斎～」に合わせ、国立能楽堂の協力により、狂言への関心と理解を深めてもらうため、装束や面、きょうちゃこと鬘桶等、組踊と狂言の関わりについての展示を行った。
- ・ 国立劇場おきなわ県外公演に合わせて、開場のウエスタ川越(8月7～9日)と茅ヶ崎市民文化会館(2月20日)で、組踊・琉球舞踊の衣裳・小道具等の展示を行った。

2. 目録等刊行物の実績

(伝統芸能情報館) 展示目録「文楽入門」「歌舞伎入門」「芝居の一年」「新派の華」

(演芸場) 展示目録「寄席の四季―春から初夏―」「寄席の四季―夏から秋―」「寄席の四季―冬から初春―」

(能楽堂) 特別展示図録「一橋徳川家の能」 展示目録「近世大名家の能楽」

3. 外部専門家等の意見及びアンケート調査

(1) 外部専門家等の意見

- ・ 調査事業委員会において外部専門家等より意見を聴取し、後の事業運営に活用した。主な意見は以下の通り。
- ・ いずれも毎年充実した企画で展示を実施している。

(伝統芸能情報館・演芸場)

- ・ 雅楽から歌舞伎・演芸まで古典芸能を一度に見られる「古典芸能フェア」のような企画は、日本芸術文化振興会以外ではできないことだと思うので今後も期待している。

(能楽堂)

- ・ 能楽関係の資料で非常に鮮やかな写真も掲載されていたりして、きちんとした読み物の側面と視覚的な側面と両方が相まって、充実した内容である。
- ・ 国立能楽堂の展示「一橋徳川家の能」図録は、素晴らしい収録作品と、堅実な図録解説にて、関係者の努力が伝わる。
- ・ 今回の特別展示は、面・装束だけでなく、能の周辺資料(演能記録、能舞台図面、絵画資料等)にも目が行き届き、とくに能舞台を含む一橋邸の図面を立体的で精巧な模型にして展示して目に見える形で提示したことは画期的である。一般の来場者にも分かりやすいものとなったし、能楽史的にも意義があり、展示に対する意欲と努力が感じられる。

(文楽劇場)

- ・ 阪急うめだ本店における展示は展示内容がすばらしく、また普段文楽に馴染みのない数多くの人に文楽に触れてもらい、非常に意義深かった。
- ・ 阪急うめだの展示は、その効果を商業的に換算したら、ものすごい価値となるであろう。

(2) アンケート調査

(伝統芸能情報館)

- ・ 「文楽入門」(4/1～5/25)期間中に実施。回答数50人。回答者の94%が概ね満足と答えた(47人)。

- ・ 「歌舞伎入門—妹背山婦女庭訓の世界—」(6/2～9/23) 期間中に実施。回答数 110 人。回答者の 81.8% が概ね満足と答えた (90 人)。
- ・ 「芝居の一年—歌舞伎の年中行事—」(10/3～1/27) 期間中に実施。回答数 88 人。回答者の 87.5% が概ね満足と答えた (77 人)。
- ・ 「新派の華」(2/6～3/31) 期間中に実施。回答数 35 人。回答者の 94.3% が満足と答えた (33 人)。

(能楽堂)

- ・ 特別展示「一橋徳川家の能」(9/25～12/12) 期間中に実施。回答数 305 人。回答者の 80.0% が概ね満足と答えた (244 人)。

(文楽劇場)

- ・ 常設展示「文楽入門」(企画コーナー「初春文楽公演の演目にちなんで」) の 1/19 に実施。回答者数 95 人。回答者の 91.6% が概ね満足と答えた (87 人)。

(国立劇場おきなわ)

- ・ 全展示期間中に実施。回答数 124 人。回答数の 87.9% が概ね満足と答えた (109 人)。

【特記事項】

(伝統芸能情報館)

- ・ 島根県立石見美術館で開催された企画展「森英恵」に、新作歌舞伎「斑雪白雪城(はだれゆきはっこつじょう)」上演の際、同氏がデザインした黒田官兵衛孝高、鶴姫の衣裳一式を貸出した。
- ・ 株式会社JTBコミュニケーションズ主催の観光・ビジネス情報センター(丸の内KITTE内)における国立劇場ポスター展へ、自主公演ポスター15点を貸出し、伝統芸能の啓発および国立劇場の周知に寄与した。
- ・ 大佛次郎記念館開催「大佛次郎の愛した舞台」展へ、「武原はん舞の会」「花柳宗岳創作舞踊発表会」の公演プログラムを貸出した。

(文楽劇場)

- ・ 大阪市北区梅田の阪急百貨店において出張展示「文楽の世界」(7月1日～13日)を行い、同店の無料展示における来場者数の過去最高(34,991人・平均2,692人/日)を得た。

(国立劇場おきなわ)

- ・ 国立劇場おきなわ県外公演に合わせて、開場のウェスタ川越(8月7～9日)と茅ヶ崎市民文化会館(2月20日)で、組踊・琉球舞踊の衣裳・小道具等の展示を行った。

《数値目標の達成状況》

【文化デジタルライブラリーホームページへのアクセス状況】

年間アクセス件数：実績680,018件／目標455,000件(達成度149.5%)

【展示公開の実施状況】実績19回／目標19回(達成度100.0%)

【展示公開の来場者数】実績213,495人／目標185,120人(達成度115.3%)

《自己点検評価》

○ 自己評価

A

(根拠)

- ・ 計画どおり資料の収集を行い、閲覧・展示・貸出等に活用した。
- ・ 展示公開の来場者数は合計213,495人であり、年度計画目標の達成度は115.3%に至った。
- ・ 収集資料を活用した刊行物を計画どおり作成した。
- ・ 収集資料のデータベース化を計画どおり実施した。
- ・ 文化デジタルライブラリーの舞台芸術教材「文楽編作品解説 義経千本桜」を作成した。また、デジタルコンテンツの充実等により、アクセス件数は目標を大きく上回り、目標達成度は149.5%であった。
- ・ 大阪市北区梅田の阪急百貨店において出張展示「文楽の世界展」を行い、同店の無料展示における来場者数の過去最高を記録した。
- ・ 国立劇場おきなわ県外公演に合わせて、開場のウェスタ川越(8月7～9日)と茅ヶ崎市民文化会館(2月20日)で、組踊・琉球舞踊の衣裳・小道具等の展示を行った。

○ 良かった点・特色ある点

(文化デジタルライブラリー)

- ・ 文化デジタルライブラリーホームページへのアクセス件数が年間目標数を大幅に上回った。
- ・ 今年度作成した舞台芸術教材「文楽編作品解説 義経千本桜」の「早わかり」に英文表記を行い、外国人向け対応を実施した。

(伝統芸能情報館・演芸場)

- ・ 情報館展示「文楽入門」「歌舞伎入門」では、舞台上で使用している道具や衣裳・小道具等展示することで、初心者が関心を持ち、理解を深める内容とした。
- ・ 伝統芸能情報館、演芸場の展示に関連する講座を伝統芸能サロンで行い、各種の伝統芸能や資料に対する理解と興味を促した。
- ・ 展示解説や目録の英語版を作成し、海外からの来館者にも理解と興味を深めるように努めた。

(能楽堂)

- ・ 能楽堂では全展示で入場者数が目標を上回った。特に入門展は目標を大幅に上回った。
- ・ 特別展示「一橋徳川家の能」で能舞台を含む一橋邸全体の模型を製作し展示した。絵図では分かりにくいものを立体物としたため好評だった。
- ・ 企画展示「近世大名家の能楽」では展示目録 1 万部を無料配布した。目録を片手に展示を見る新しい試みとなり、目録の充実した内容についても好評だった。
- ・ 町田市立博物館において「国立能楽堂コレクション 能・狂言の面と装束」が開催され、収蔵資料103点が展示された。

(文楽劇場)

- ・ 阪急百貨店における出張展示「文楽の世界展」の成功が7月～8月の劇場来場者数増につながり、公演とともに展示室来場者数の目標を大きく上回った。
- ・ 外部専門家から、企画展示「玉藻前」について、「展示品がバラエティに富んでいて、興味深かった。絵巻、錦絵など歴史的史料にとどまらず、現代のコミックなどまで展示されており、広い世代の興味を引こうとする努力が窺えた」、「文楽入門」(1月～2月)について、「NHK時代劇「ちかえもん」とのコラボレーションがあった展示では近松のドラマを興味深く紹介しており、正月らしい楽しさが演出されたと思う」という意見を得た。

(国立劇場おきなわ)

- ・ 展示公開を計画どおり実施し、来場者数は目標を達成した。
- ・ 国立劇場おきなわ県外公演に合わせて、開場のウェスタ川越(8月7～9日)と茅ヶ崎市民文化会館(2月20日)で、組踊・琉球舞踊の衣裳・小道具等の展示を行った。

4-(1)-③ 公演記録の作成・活用、普及活動の実施

《方針》

(公演記録の作成・活用)

- ・ 主催公演を中心に記録された録画・録音・写真等を適切に作成し、今後の伝統芸能の振興・普及に活用するため、閲覧・視聴に供する。

(公開講座等、普及活動の実施)

- ・ 伝統芸能に関する理解の促進と普及を図るため、公演記録鑑賞会や入門講座のほか、公演に合わせた関連講座等を適宜実施する。また、教員免許状更新講習も昨年に引き続き実施する。公演記録鑑賞会については過去の貴重な映像を選択する工夫をし、鑑賞者の増加に努める。

《主要な業務実績》

1. 公演記録の作成・活用

- ・ 主催公演について、映像・写真等による記録を作成
本館・演芸場65公演、能楽堂51公演、文楽劇場15公演、国立劇場おきなわ30公演
- ・ 各館図書閲覧室・視聴室において、公演記録写真・公演記録映像を出演者及び公演関係者と一般来場者の閲覧・視聴に供するとともに、出演者、教科書等の出版社及び放送局等の依頼に応じて複製物を作成・提供

2. 公開講座等、普及活動の実施

- ・ 伝統芸能に関する理解の促進と普及を図るため、公演記録映像を活用した以下の鑑賞会等を開催
「公演記録鑑賞会」伝統芸能情報館 12回、文楽劇場 12回、国立劇場おきなわ 4回
「能楽鑑賞講座」能楽堂 12回
- ・ その他講座等普及活動の実施
伝統芸能サロン（伝統芸能情報館、6回）、能楽特別講座（能楽堂、1回）、伝統芸能講座（文楽劇場、1回）、沖縄伝統芸能講座（国立劇場おきなわ、4回）
- ・ 鑑賞会、講座等の普及活動は計 52 回で参加者数 6,865 人（目標 5,930 人 達成度 115.8%）
- ・ 教員免許状更新講習を引き続き実施
- ・ 日本の伝統芸能を題材にした英語教材の作成

《業務実績詳細》

<1> 公演記録の作成・活用

1. 作成実績

区分	記録件数・内容
本館・演芸場	映像・音声・写真 65 公演、扮装図鑑 6 公演、文楽人形等 5 公演
能楽堂	映像・音声・写真 51 公演
文楽劇場	映像・音声・写真 15 公演、文楽人形等 5 公演
国立劇場おきなわ	映像・音声・写真 30 公演、小道具写真 3 公演

- ・ 公演内容に応じて、扮装図鑑・下座の附帳・文楽人形・小道具等の写真による記録を作成した。

2. 公演記録映像・音声の活用

- ・ 出演者・演出家等に、公演記録映像・音声を複製・提供し、他劇場を含めて公演制作等に資するとともに、出版社・放送局等に複製物を提供し、伝統芸能の普及に努めた。
- ・ 能楽堂では、公開講座において、講演と合わせて公演記録映像を活用した。
- ・ 文楽劇場では、伝統芸能講座において、講演と合わせて公演記録映像を活用した。

3. 活用実績

(1) 視聴（映像資料及び音声資料）利用件数総計：件（時間）

区分	一般	関係者(出演者等)	合計
本館	721 件 (1,847 時間)	350 件 (442 時間)	1,071 件 (2,288 時間)
能楽堂	1,557 件 (2,993 時間)	697 件 (987 時間)	2,254 件 (3,980 時間)
文楽劇場	31 件 (58 時間)	530 件 (549 時間)	561 件 (607 時間)

国立劇場おきなわ	284件 (161時間)	966件 (785時間)	1,250件 (946時間)
----------	--------------	--------------	----------------

(2) 複製 (映像資料及び音声資料)

区分	関係者(出演者等)
本館	185件 (325時間)
能楽堂	242件 (265時間)
文楽劇場	153件 (434時間)
国立劇場おきなわ	32件 (34時間)

※ 複製は出演者等に対してのみ実施。

<2>公開講座等、普及活動の実施

1. 伝統芸能に関する公開講座等

会場	名称	区分	回数	参加者数	アンケートによる 有意義回答の割合
伝統芸能 情報館	伝統芸能サロン	実績	6回	588人	89.4%
		計画	6回	570人	
能楽堂	公演記録鑑賞会	実績	12回	1,357人	94.4%
		計画	12回	1,140人	
能楽堂	能楽鑑賞講座	実績	12回	1,837人	84.8%
		計画	12回	1,800人	
文楽劇場	能楽特別講座	実績	1回	85人	88.9%
		計画	1回	100人	
文楽劇場	公演記録鑑賞会	実績	12回	2,023人	91.1%
		計画	12回	1,500人	
国立劇場 おきなわ	伝統芸能講座	実績	1回	156人	97.3%
		計画	1回	60人	
国立劇場 おきなわ	公演記録鑑賞会	実績	4回	552人	87.2%
		計画	4回	600人	
国立劇場 おきなわ	沖縄伝統芸能公開講座	実績	4回	267人	96.0%
		計画	4回	160人	
合計		実績	52回	6,865人	90.8%
		計画	52回	5,930人	

(伝統芸能情報館)

- 主催公演の映像記録を活用して公演記録鑑賞会を12回行った。5月、6月、12月、3月において歌舞伎を取り上げ、六代目中村歌右衛門の国立劇場初出演公演、没後30年の初代尾上辰之助を偲び出演作品を上映した。4月、7月、10月、11月には文楽を取り上げ、二代目玉男襲名にあわせ初代玉男の代表作のほか、四代目竹本越路太夫・四代目竹本津太夫が同じ床に並ぶ珍しい舞台などを上映した。また、8月は色物に特化した演芸公演、9月には邦楽の旋律をめぐる公演、1月には初春にふさわしい曾我物の舞踊、3月には15年ぶりの新派公演にちなみ初代水谷八重子の代表作を上映した。
- 伝統芸能サロンは6回開催し伝統芸能の普及に努めた。実演家・研究者を講師に招き、演芸・舞踊・文楽・新派をテーマにした内容と情報館・演芸場展示の列品解説の講座を実施した。

(能楽堂)

- 公開講座として、「能楽鑑賞講座」を12回(各月1回)、展示と連携した「能楽特別講座」を1回(1月)開催した。
- 能楽鑑賞講座では、「能楽をより楽しむために」と題して、初歩的なことから専門的な奥深いところまで、幅広い層を対象にして開催した。
- 能楽特別講座は、特別展示「一橋徳川家の能」と連携して、茨城県立歴史館首席研究員笹目礼子氏による一橋徳川家の歴史と能との関係の講演を行った。

(文楽劇場)

- 公演記録鑑賞会は、二代目吉田玉男襲名にあわせて二代目の思い入れの深い作品を取り上げた。また26年度に実施したアンケートでリクエストの多かった作品も取り上げた。
- 伝統芸能講座「近松と人形」は、近松門左衛門時代の人形についての講演を国文学研究資料館名誉教

授である武井協三氏が行った。また、文楽座技芸員の桐竹勘十郎氏による一人遣い人形の実演も行った。
(国立劇場おきなわ)

- ・ 公演記録鑑賞会では東京国立劇場の琉球舞踊、歌舞伎、民俗芸能の公演記録等により、4回(6, 8, 10, 1月)開催した。
- ・ 沖縄伝統芸能公開講座では、5月に6月沖縄芝居「いのちの簪」の上演に合わせて沖縄芝居の重鎮を招いて「語やびら沖縄芝居 役者・八木政男」を、8月に8月「親子のための組踊鑑賞教室」に合わせて風車を作って踊る「子ども伝統芸能体験講座」を、9月に11月アジア・太平洋地域の芸能「ジャワの宮廷ガムランと舞踊」に合わせて「レクチャー&ワークショップ ガムラン入門」を沖縄県立芸術大学で、1月に2月「狂言」にあわせて「狂言体験講座」を計4回開催した。

2. 公演の実施にあわせた関連講座等

名 称	会 場	日 程	回 数	参加者数
あぜくらの夕べ 「国立劇場 5月文楽公演吉田玉女改め二代目吉田玉男襲名披露特別座談会」	国立劇場小劇場	5/8	1回	519人
石見大元神楽の魅力 ―受け継がれる舞と神事―	伝統芸能情報館 レクチャー室	5/28	1回	105人
納涼あぜくらの夕べ 能「松風」特別座談会	国立能楽堂 大講義室	8/24	1回	146人
「四谷怪談」「忠臣蔵」ゆかりの地バスツアー	都内(於岩稲荷 田宮神社・泉岳 寺他)	10/13	1回	47人
あぜくらの夕べ 「谷崎潤一郎と古典芸能」	伝統芸能情報館 レクチャー室	11/16	1回	130人
あぜくらの集い「新派と昭和という時代―花柳章太郎と初代水谷八重子―」	伝統芸能情報館 レクチャー室	1/30	1回	120人
5月舞踊・邦楽公演関連プレ講座 「地歌舞のたのしみ」	文楽劇場 小ホール	4/30	1回	120人
9月特別企画公演関連プレ講座 「絵画史料にみる戦国時代の京都」	文楽劇場 小ホール	8/29	1回	85人
第105回「文楽のつどい」 「生写朝顔話」の見どころ・聞きどころ ほか	文楽劇場 文楽茶寮(食堂)	6/23	1回	75人
第106回「文楽のつどい」 お話「三国伝来の九尾の狐」、お話と実演「玉藻前の人形」 ほか	文楽劇場 小ホール	10/29	1回	162人
第107回「文楽のつどい」 生國魂神社及び浄瑠璃神社参拝とお話 ほか	生國魂神社	12/21	1回	67人
第108回「文楽のつどい」 お話「花魁蒼八総」について、実演「花魁蒼八総」行女塚の段・伴作住家の段、対談「花魁蒼八総」の復曲について	文楽劇場 小ホール	3/16	1回	155人
芸能文化フォーラム (6月企画公演 沖縄芝居「いのちの簪」関連)	国立劇場おきな わ共通ロビー	6/13	1回	約100人
出前講座「狂言教室」 (2月企画公演 「狂言」関連)	南風原小学校 松島小学校 宮城小学校	1/12 ～13	3回	約500人

3. 教員免許状更新講習

学校教育の現場における伝統芸能普及の裾野を広げることを目的とした「教員免許状更新講習」を実施(本館、7月20日～23日)、体系的に伝統芸能の知識を身につけることができるよう、全19時間の講習を、各種芸能に関する講義・公演見学(歌舞伎鑑賞教室)・舞台見学・邦楽(義太夫節)の実演体験等で構成し、免許の更新期限を迎える現職教員等79名が受講した(定員80名)。講習の実施に当たっては、講座内容、講師等を見直し、その充実を図った。

4. 学校等における組踊等沖縄伝統芸能等の普及活動

- ・ 組踊等の沖縄伝統芸能の普及のため、国立劇場おきなわ県外公演に合わせて、埼玉県・ウェスタ川越では「組踊と琉球舞踊」(8月7日～9日)、神奈川県・茅ヶ崎市民文化会館では「琉球王朝の華 組踊と琉球舞踊」(2月20日)と銘打ち、組踊や琉球舞踊の紹介を中心とした展示を行った。銀座わしたショップの協力により賑わいを創出し、劇場を紹介する写真や解説パネル、衣裳・小道具などのほか組踊を紹介するDVDの視聴コーナーも設けた。
- ・ 国立劇場おきなわ2月企画公演「狂言」に合わせて、小学生を対象とした出前講座「狂言教室」を3校で実施した(1月12～13日、参加者計約500人)。

5. 日本の伝統芸能を題材にした英語教材の作成

「大規模改修基本構想」の基本方針にある「ナショナルセンターとしての機能強化」に係る取組の検討を先進的に開始した。このうち、伝統芸能の教育普及に向けた取組の一環として、児童生徒が簡単な英語で日本の文化を説明できるようになるための教材の製作を企画し、伝統芸能(歌舞伎)を題材に、平成28年度中の完成を目指して準備を進めた。

《数値目標の達成状況》

【講座等の実施状況】実績52回／目標52回(達成度100.0%)

【講座等の参加者数】実績6,865人／目標5,930人(達成度115.8%)

【講座等の満足度】実績90.8%／目標80%(達成度113.5%)

《自己点検評価》

○ 自己評定

B

(根拠)

- ・ 教員免許状更新講習を計画どおり実施し、定員を超える応募があった。また講習の実施に当たっては、講座内容、講師等を見直し、その充実を図った。
 - ・ 公演記録の作成について、計画どおり実施した。
 - ・ 公開講座は、各館において目標参加者数を達成した。またアンケートにおいても有意義回答の割合が目標を達成した。
 - ・ 伝統芸能サロンや、文楽劇場の公演記録鑑賞会及び伝統芸能講座等においては、目標を大幅に上回った。
 - ・ 国立劇場おきなわでは計画した講座の他に、沖縄芝居に関する「芸能文化フォーラム」や近隣の小学生を対象とする出前講座「狂言教室」を3校で実施した。
 - ・ 「大規模改修基本構想」の基本方針にある「ナショナルセンターとしての機能強化」を図るため、伝統芸能の教育普及に向けた取組の一環として、伝統芸能を題材とした英語教材の作成に先進的に取り組んだ。
- 良かった点・特色ある点
- ・ 伝統芸能サロンについて、「日本舞踊は面白い」では現在ではなじみが薄くなりつつある日本舞踊の理解を深める講座となった。
「女優・初代水谷八重子と国立劇場」では、新派の主演俳優を講師に招き、国立劇場では15年ぶりの上演となる新派公演と、企画展示「新派の華」と連動させた講座とした。
「昭和・平成の演芸界を語る」では、戦前戦後の落語界の話を最古参の三遊亭金馬氏に伺う企画とした。展示の監修者を招いての「聴いて楽しく鑑賞」「寄席の四季、演芸の一年」では、列品解説を交えた講座で、展示への理解がより深まる講座となった。
 - ・ 公演記録鑑賞会は、歌舞伎・文楽公演の上映は例年と同様参加率が高く安定したものであった。8月演芸場特別企画、9月邦楽公演、2月新派公演の上映は、鑑賞する機会の少ない公演記録を取り上げて参加者から好評を得た。
 - ・ 国立能楽堂能楽鑑賞講座は、今年度は「能楽をより楽しむために」というシリーズ名で開催したが、ほとんどの回で定員(160人)を大幅に上回る応募があった(応募者数は前年度比1.4倍)。特に最終回は400人を超える応募があった。

- 文楽劇場の公演記録鑑賞会は、二代目吉田玉男襲名にあわせて二代目の思い入れの深い作品を上映演目として並べ、26年度に実施したアンケートでリクエストの多かった作品も取り上げ、来場者の期待に応える工夫をした。
 - 文楽劇場の伝統芸能講座「近松と人形」は、近松門左衛門時代の人形についての考察と実演を行った。一人遣い人形の実演という珍しさも相まって、注目を集めた。1月3日からの「文楽入門」の企画コーナーの近松に関する展示資料も相乗してさらに知識を深めるものとなった。
 - 国立劇場おきなわでは、能楽堂と連携して行った「国立劇場おきなわ伝統芸能公開講座－狂言体験講座」に伴い、小学生を対象とした出前講座「狂言教室」を実施し、3校約500名の児童が狂言に触れることができた。
- 見直し又は改善を要する点
- 公演記録鑑賞会は、アンケート調査による参加希望者のニーズを踏まえるとともに、28年度は開場50周年記念で参加が殺到することも想定されるので、円滑な運営と参加者の安全のため、次年度より先着順から往復はがきでの事前申込制にする等見直しを行う。
 - 国立劇場おきなわでは、公演記録鑑賞会の参加者数が目標に及ばなかった。歌舞伎やアイヌの民俗芸能など、沖縄伝統芸能以外の記録上映の会の参加者数が少なかった。上映演目の検討とともに、引き続きマスコミを利用した広報に努めていきたい。

4- (2) 現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用

《中期計画の概要》

4 伝統芸能及び現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用

現代舞台芸術の公演の充実等に資するとともに、その理解の促進を図るための調査研究及び資料収集、研究者や国民一般への成果の提供

(2) 現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用

- ア 上演作品等についての資料調査
- イ 図書、資料等の収集及び分類整理、閲覧、貸与
- ウ 収集した資料等の展示公開
 - ・ 新国立劇場内 年2企画程度
 - ・ 舞台美術センター資料館 年1企画程度

(3) 公演記録の作成・活用、普及活動の実施

- ア 演技・演出等の記録の作成・保存、閲覧・視聴
- イ 公演記録映像の鑑賞会等を開催による有効活用
- ウ 講座、展示等の実施

《年度計画の概要》

4 伝統芸能及び現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用

(2) 現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用

ア 新国立劇場で上演する現代舞台芸術の主催公演等に関し、上演作品等についての資料調査を実施

- ① 戯曲に関する調査を実施、調査結果の活用
- ② 海外の主要劇場等の情報を収集・活用、公開
- ③ 主催公演の公演記録映像、写真、舞台演出・美術資料などについて、整理・保存

イ 現代舞台芸術に関する図書、資料等の収集及び分類整理、閲覧のために提供、他の劇場施設等への貸与

- ① 開架図書の充実、一般利用の促進
- ② 図書等の情報のデータベース化
- ③ 過去の寄贈資料の情報のデータベース化

ウ 収集した資料等を、別表8のとおり展示公開

(3) 公演記録の作成・活用、普及活動の実施

ア 演技・演出等の記録を録音・録画・写真等により適切に作成・保存し、閲覧・視聴のために提供

イ 公演記録映像を鑑賞会、講座・レクチャー等で活用

ウ 公開講座等、普及活動の実施

- ① 公開講座等を別表9のとおり実施
 - 広報活動の強化
 - アンケート調査の実施、目標満足回答率80%以上
- ② 公演関連講座、展示等を適宜実施、内容に応じてホームページ等で公開
- ⑤ オンラインコンテンツの充実

4-(2)-① 現代舞台芸術の調査研究

《方針》

- ・ 戯曲等に関する調査を行い、その成果として、各種講座、トークイベント、ワークショップ等を開催し、ホームページ等によって広く公開する。
- ・ 主催公演の実施にあたり、観客の作品内容への理解を促進するため、公演プログラムを作成し、外部出版社と連携して新訳戯曲等を刊行する。
- ・ 海外の主要劇場等に関する調査を行い、その概要を公演プログラムやホームページで広く公開する。
- ・ 主催公演に関する資料等について、引き続き整理・保存を行い、活用を図る。

《主要な業務実績》

- ・ 現代舞台芸術に関する調査を行い、その成果として、「マンスリー・プロジェクト」を12講座開催
- ・ 民間出版社と連携し、新訳戯曲を刊行
- ・ 海外の劇場や演劇祭等についての調査研究の成果を公演プログラムやホームページで広く発信
- ・ 主催公演に関する資料等について整理・保存及び活用

《業務実績詳細》

1. 現代舞台芸術に関する調査研究・活用

宮田慶子演劇芸術監督及び3名の企画サポート委員による「企画サポート会議」を定期的で開催した。その成果として、下表のとおり、演劇へ多角的にアプローチするイベント「マンスリー・プロジェクト」を開催し、その概要をホームページで公開した。

日程	内容	参加者数
4/18	演劇講座「テレンス・ラティガンの世界」	234人
5/24・26	リーディング公演「スザンナ」	162人 177人
6/14	演劇講座「東海道四谷怪談の魅力」	305人
7/12	トークセッション「子どものための芝居って…」	170人
8/23	ワークショップ「プチ・ミュージカルをやってみる？」	26人
9/11・12	演劇講座「スティーブン・ソンドハイムの音楽」	87人 103人
10/25	演劇講座「『パッション』のスタッフワーク」	348人
11/21	演劇講座「チャーホフの魅力」	188人
12/12	演劇講座シリーズ「世界の演劇の今」Ⅶーアメリカ2ー	130人
1/29・30	演劇講座「都市と劇場」Ⅰ	78人 73人
2/14	ワークショップ「リーディングをやってみる？」	27人
3/20	演劇講座「韓国演劇事情を語る」	159人
	12講座	2,267人

(目標参加者数：1,100人)

2. 出版物の刊行

- ・ 民間出版社と連携して下記新訳戯曲を刊行した。
 - 5月演劇公演「海の夫人」(早川書房刊「悲劇喜劇」平成27年5月号)
- ・ 現代舞台芸術に関する調査研究の成果を記事として掲載する下記公演プログラムを作成した。
 - ・ オペラ 10冊
 - ・ バレエ 6冊
 - ・ 演劇 8冊

3. 海外の主要劇場等の情報収集・活用

- ・ 7カ国（オーストラリア、ノルウェー、イスラエル、オーストリア、ロシア、台湾、フランス）の演劇祭についての調査研究の成果を、公演プログラム（7冊）やホームページに掲載し、広く発信した。
- ・ 国内外の劇場の組織、職員数、公演入場率、財政等について、劇場のホームページや年報等の情報を基に調査・比較を行った。

4. 公演記録の整理・保存

- ・ ポスターなどの主催公演資料を管理システムに登録した。
- ・ 新国立劇場が実施する公演の上演資料の整理を進め、劇場内外の利用に供するよう、資料の保存及び公開の方法について検討を進めた。

《自己点検評価》 _____

○ 自己評価

A

(根拠)

- ・ マンスリー・プロジェクトにおいて、主催公演と連動した演劇講座やトークセッション、リーディングやミュージカルを体験するワークショップ等、多角的に演劇にアプローチする企画を実施し、目標（1,100人）を大きく上回る参加者を得た（参加者2,267人、達成度206.1%）。
 - ・ 特に、今年度はお客様アンケートにあった要望を受け、スタッフワークに視点を当てた演劇講座「『パッション』のスタッフワーク」を10月に中劇場で実施した。講師に招いた宮田慶子（演出）、伊藤雅子（美術）、中川隆一（照明）、半田悦子（衣裳）、澁谷壽久（舞台監督）の各氏から公演制作に即した貴重な話題が提供され、大変好評であった（参加者348人）。
 - ・ 7カ国（オーストラリア、ノルウェー、イスラエル、オーストリア、ロシア、台湾、フランス）の演劇祭についての調査研究の成果を、公演プログラム（7冊）やホームページに掲載し、広く発信した。
 - ・ 民間出版社と連携して5月演劇公演「海の夫人」の新訳戯曲を刊行した（早川書房刊「悲劇喜劇」平成27年5月号）。
- 良かった点・特色ある点
- ・ マンスリー・プロジェクトにおいて、主催公演と連動した演劇講座やトークセッション、リーディングやミュージカルを体験するワークショップ等、多角的に演劇にアプローチする企画を実施し、年度計画の目標参加者数を大きく上回った。今年度はお客様アンケートにあった要望を受け、スタッフワークに視点を当てた演劇講座「『パッション』のスタッフワーク」を実施し、大変好評であった。
 - ・ 海外の主要劇場等の調査に続き、海外の演劇祭についても調査を開始し、その成果を公演プログラムで発信した。
- 見直し又は改善を要する点
- ・ マンスリー・プロジェクトを演劇部門以外でも実施することを検討したい。
 - ・ インターネット環境を構築するとともに閲覧室等の利用環境を整備するなど、利便性を向上させ、調査研究の結果を、より広く公開するための方策を検討したい。
 - ・ 民間の舞台創造の現場や技術の参考となり、公演の実施に役立つ資料を広く舞台制作者や研究者の利用に供するための方策を検討したい。

4-(2)-② 現代舞台芸術の資料の収集・活用

《方針》

- ・ 現代舞台芸術に関する資料、主催公演の上演情報等を収集、分類整理して、公演の実施に活用し、閲覧に供する。
- ・ 開架図書を充実させ、ホームページ等での所蔵資料検索サービスを提供する。
- ・ 図書資料、公演関連資料等について管理システムに登録する。
- ・ 収集した資料等を情報センター、舞台美術センター等において展示公開する。実施にあたっては来場者の利便性の向上と広報活動の強化を図る。

《主要な業務実績》

1. 資料の収集と公開

- ・ 現代舞台芸術に関する図書資料・視聴覚資料等を収集、分類整理
- ・ 情報管理システムの更新により、閲覧室における公演記録映像の視聴環境の向上
- ・ 外部専門家と担当職員により構成される「情報センターの在り方に関する検討委員会」を開催し、情報センターの機能、主催公演の上演資料等の保存方法、データベースの作成等今後の活動指針について検討

2. 展示公開

- ・ 舞台美術センター及び新国立劇場内において展示公開を実施

《業務実績詳細》

<1>資料の収集と公開

1. 収集・閲覧等

区分	収集	活用
新国立劇場情報センター	収集図書：5,951冊 収集視聴覚資料：374件	閲覧室利用者数：25,248人（開室242日） うち、ビデオブース利用者数：2,215人 ビデオシアター利用者数：2,907人 図書貸出件数：1,012件
舞台美術センター資料館	—	利用者数：717人（開室260日） うち、AVコーナー利用者数：137人

2. 情報センター等の利用促進

- ・ 芸術鑑賞システムの更新に伴い、タブレット端末（10台）を導入した。ビデオシアターでは公演記録映像をそのままの高画質・高音質で視聴できるシステムとした。また、出演者等の検索キーワードを詳細に登録することにより希望する映像の選択を容易にした。
- ・ 情報センターにおいて、主催公演の公演内容にあわせ、プログラムや関連書籍を開架資料とするなど、観劇の一助となる情報を提供した。
- ・ 公演開催日にあわせて開室するなど、利用者の利便性を高めた。
- ・ 開室時間や講座等の案内を表示するデジタルサイネージを劇場1階に設置し、来場者の利用促進を図った。

3. 図書資料管理システムのデータベースの充実

- ・ 単行本、台本、公演プログラム等の図書資料や映像資料、公演ポスター（主催公演・貸劇場公演等260件）等を登録し、収集情報をホームページで公開した。
- ・ 国立劇場、文楽劇場等で使用している管理システムおよび文化デジタルライブラリーを新国立劇場においても共同利用し、利用者の利便性を高めることについて検討を始めた。

4. 所蔵品管理システムへの登録

- ・ 映像資料、ポスター（主催公演等205件）、展示衣裳・小道具等の資料を新たに登録し、公演の充実に資するとともに、収集情報をホームページで公開した。

<2> 展示公開

1. 展示公開の実績

展示室	企画数	開催日数	来場者数	
			実績	計画
舞台美術センター	4回	260日	717人	900人
新国立劇場内	4回	242日	—	—

- ・ 舞台美術センターでは、常設展「オペラハウスの感動」「現代演劇ポスター展」、企画展「シェイクスピア生誕450年記念展」のほか新たに企画展として「舞台のデザイン～模型で見る新国立劇場のオペラ・バレエ～」を実施した。
- ・ 新国立劇場内では、ギャラリーでの舞台衣裳、公演記録写真の常設展示のほかに、情報センター閲覧室において「青山劇場の30年」で同劇場公演パンフレットの展示と「情報センター所蔵書展示[パリの舞台俳優]」を実施した。
- ・ 上記の他に、「パッション」「桜の園」「イエヌーフア」ほか、計15公演の公演関連展示（舞台模型、プロマイド、錦絵、衣裳、関連公演プログラム、オペラ原作者文学資料、長崎キリシタン関連資料、チェコ音楽やモラヴィア地方に関する資料等）を会場ホワイエ等で、また情報センター「夏のこどもシアター」開催時のキッズコーナーでバレエ、オペラの絵本や小道具の展示を行った。

2. 他団体による展示

- ・ バレエ公演の舞台衣裳をプロモーション展示のために貸出した。
("KIDS BALLET STYLE" ～<chacott> POP UP SHOP～、6/13-30、伊勢丹新宿店)

【特記事項】

- ・ 外部専門家と担当職員により構成される「新国立劇場情報センターの在り方に関する検討委員会」を3回開催し、情報センターの今後の活動指針について検討した。

《数値目標の達成状況》

- 【展示公開の実施状況（舞台美術センター）】実績4回／目標3回（達成度133.3%）
- 【展示公開の来場者数（舞台美術センター）】実績717人／目標900人（達成度79.7%）
- 【展示公開の実施状況（新国立劇場内）】実績4回／目標4回（達成度100.0%）

《自己点検評価》

○ 自己評定

B

(根拠)

- ・ 舞台美術センター及び新国立劇場内において、計画どおり実施した。
 - ・ オペラ、バレエ、現代舞踊、演劇各分野の15公演について、公演内容の理解促進を図るため各劇場のホワイエ等で関連展示を実施し、多数の観客に見てもらうことができた。
 - ・ 寄贈された滞架資料の整理・登録、公開を進めた。
 - ・ 外部専門家と担当職員による委員会を開催し、情報センターの今後の活動指針の検討を行った。
- 良かった点・特色ある点
- ・ 前年度設置した「新国立劇場情報センターの在り方に関する検討委員会」では、外部専門家と担当職員が主催公演の上演資料等の保存方法やデータベースの作成等について意見を交わし、今後の活動指針の検討を行うことができた。
- 見直し又は改善を要する点
- ・ 情報センター閲覧室の書架の配置、開架資料の選定など、利用者の要望を踏まえ、より利便性の高い施設にすることを検討したい。
 - ・ 展示については、インターネットの利用の促進等、情報や資料がより広く閲覧、利用されるよう展示の方法を検討したい。
 - ・ 舞台美術センター資料館の来場者数は目標を下回った。講座や展示について見直しを行い、引き続

き施設の活用方法について検討するとともに、来場者の利便性の向上と広報活動の強化を図りたい。

4-(2)-③ 公演記録の作成・活用、普及活動の実施

《方針》

- ・ 主催公演を中心に、録音・録画・写真等による記録を作成し、閲覧・視聴に供する。また、過去の上演作品および関連情報について、著作権処理や違法コピー対策等を行った上で、常時来場者に向けて公開する。
- ・ 公演記録映像について、鑑賞会を開催するとともに、企業・学校等の団体鑑賞及びオペラ・バレエ鑑賞教室における事前レクチャーでの利用、各国の劇場関係者及び学校等の施設見学や舞台技術研修での上映、DVDの作成など、現代舞台芸術の普及のために活用を図る。

《主要な業務実績》

1. 公演記録の作成・活用

- ・ 主催公演を中心に、録音・録画・写真等による記録を作成
- ・ 主催公演の公演記録映像のデータベース化を実施
- ・ 主催公演の公演記録映像を情報センター閲覧室にて追加公開
- ・ 新国立劇場ホームページにて、開場以降ほぼ全ての公演に関して、公演記録写真及び公演情報等を公開
- ・ 公演記録映像を利用して、HPの公演特設サイトなどで関連動画が視聴できるようにし、広く公演内容の理解促進をはかった。

2. 公開講座等、普及活動の実施

- ・ 舞台美術センター資料館において現代舞台芸術入門講座として舞台美術センターコンサートを実施（2回、参加者数279人）
- ・ 舞台美術センター資料館においてDVD現代舞台芸術鑑賞会を実施（12回、参加者数90人）
- ・ 新国立劇場において現代舞台芸術講座として「マンスリー・プロジェクト」を実施（12講座15回、参加者数2,267人）
- ・ 情報センターにおいて現代舞台芸術鑑賞会として月例の「情報センター上映会」に加え、「夏のこども劇場」の一環として「夏のこどもシアター」を実施（13企画16日間28回、参加者数487人）
- ・ オペラ「イエヌーフア」の上演にあたり、大使館関係機関との共催で作曲家の生涯を描いた伝記映画の上映会を実施（2回、参加者数1,054人）
- ・ 公演内容に対する理解の促進を図るため、上演に合わせて説明会、オペラトーク及びシアタートークを実施（14件、参加者数2,979人）
- ・ 団体観劇者・学校・劇場見学者を対象に、公演記録映像を利用した公演観劇前のレクチャーや、劇場施設紹介映像によるオンラインツアーを、情報センター内ビデオシアターで実施（21件351名）

《業務実績詳細》

<1>公演記録の作成・活用

1. 公演記録の作成

主催公演を中心に、録音・録画・写真等による記録を作成した（38公演48件）。

2. 公演記録の活用

- ・ 記録映像
主催公演の公演記録映像を情報センター閲覧室にて追加公開した（15公演20件）。
- ・ 記録写真
ホームページの「舞台写真・公演記録」ページにて主催公演の公演記録写真を追加公開した（45公演）。
- ・ 公演記録写真を雑誌社、放送局等へ貸出した（26件）。
- ・ 武蔵野美術大学の舞台美術家展に、新国立劇場の記録映像を貸出した。

3. その他

- ・ 早稲田大学演劇博物館が主催した舞台映像のアーカイブに関するシンポジウムにパネリストとして参加し、劇場の記録映像保存の状況を説明した。

<2>公開講座等、普及活動の実施

1. 現代舞台芸術に関する公開講座等

会場	名称	区分	回数	参加者数	アンケートによる 有意義回答の割合
舞台美術 センター	現代舞台芸術入門講座	実績	2回	279人	92.7%
		計画	1回	150人	
	DVD 現代舞台芸術鑑賞会	実績	12回	90人	—
		計画	12回	70人	
新国立 劇場	現代舞台芸術講座 ※マンスリー・プロジェクトとして既出	実績	15回	2,267人	95.9%
		計画	13回	1,100人	
	現代舞台芸術鑑賞会 (情報センター上映会)	実績	28回	487人	94.9%
		計画	12回	180人	
	映画「白いたてがみのライオン～ 大作曲家ヤナーチェクの激しい 生涯～」上映会	実績	2回	1,054人	92.6%
		計画	0回	0人	
合 計		実績	59回	4,177人	94.8%
		計画	38回	1,500人	

- 現代舞台芸術入門講座（舞台美術センター資料館）
現代舞台芸術の理解の促進と普及を図るために、現代舞台芸術の関連展示に加えて、舞台美術センター資料館においてオペラコンサートを実施した。
舞台美術センター オペラコンサート「銚子!?!のいい仲間たち」
日程：10月19日（月）11:00（一般）/14:00（銚子第七中学校貸切）
出演：新国立劇場合唱団員4名、ピアニスト
場所：新国立劇場舞台美術センター資料館 1F展示ホール
参加者数：279名
- 現代舞台芸術鑑賞会（新国立劇場情報センター）
月例の情報センター上映会に加え、「夏のこども劇場」の一環として、こどものためのバレエ劇場「シンデレラ」公演期間中に「夏のこどもシアター」を実施した。あわせて、閲覧室をファミリー層に開放し、舞台芸術の関連の入門図書を開架するとともに大型モニターで新国立劇場紹介ビデオを上映した。
情報センター「夏のこどもシアター」
日程：7月22日（水）～25日（土）
場所：新国立劇場情報センター閲覧室・シアター
こどものためのバレエ劇場「しらゆき姫」8回、こどものためのオペラ劇場「ジークフリートの冒険」4回、こどものためのオペラ劇場「スペース・トゥーランドット」4回上映。
参加者数：260名
- 映画「白いたてがみのライオン～大作曲家ヤナーチェクの激しい生涯～」上映会
オペラ「イエヌーフア」の上演にあたり、公演内容の理解促進のために、作曲家の伝記映画を上映した。多数の参加者数を得るとともに、参加者へのアンケート調査で高い有意義回答率を得る充実した内容であった。また併せて、チェコ音楽やチェコ・モラヴィア地方に関する資料を借り受けて上映会場で展示を行った。
日時：2月2日（火）14:00/19:00（2回）
場所：新国立劇場中劇場
参加者数：1,054人
アンケートによる有意義回答率：92.6%
共催：チェコセンター

2. 公演の実施にあわせた関連講座等

内 容	名 称	回数	参加者数
オペラ関連	オペラ「沈黙」公演関連展示解説レクチャー、2016/2017 シーズンオペラ演目説明会、オペラトーク（「イエヌーフア」「ウェルテル」）	4回	550人
バレエ・現代舞踊関連	2016/2017 シーズンバレエ&ダンス演目説明会	1回	130人
演劇関連	シアタートーク（「ウィンズロウ・ボーイ」「海の夫人」「東海道四谷怪談」「かがみのかなたはたなかのなかに」「パッション」「桜の園」「バグダッド動物園のベンガルタイガー」「焼肉ドラゴン」）、ちょこっとトーク「東海道四谷怪談」	9回	2,300人

- ・ 公演記録映像を利用して、団体観劇者・学校・劇場見学者を対象に、公演観劇前のレクチャーや劇場見学を情報センター・ビデオシアターで実施した（21件351名）。

3. 現代舞台芸術の普及のための公演関連映像の公開等

映像でわかりやすく伝えるオンラインコンテンツ「劇場をあるく」「オペラのつくりかた」「バレエのつくりかた」「演劇のつくりかた」の一部の内容を更新し、引き続き新国立劇場のホームページで公開することにより、現代舞台芸術の魅力をより多面的に、幅広い層に向けて発信した。

《数値目標の達成状況》

【講座等の実施状況】実績 59 回／目標 38 回（達成度 155.3%）

【講座等の参加者数】実績 4,177 人／目標 1,500 人（達成度 278.5%）

【講座等の満足度】実績 94.8%／目標 80%（達成度 118.5%）

《自己点検評価》

○ 自己評定

A

（根拠）

- ・ 公演記録の作成を計画どおり実施した。
 - ・ マンスリー・プロジェクト（現代舞台芸術入門講座）の参加者数が大きく上回った。公演に関連した適切なテーマと内容を工夫したことにより、公開講座全体の参加者数（4,177人）が年度計画目標（1,500人）を大きく上回った（達成度率278.5%）。
 - ・ 公開講座について、有意義回答の割合（94.8%）が目標（80%）を大きく上回った。
 - ・ 現代舞台芸術鑑賞会について、「夏のこども劇場」の公演開催と連動して「夏のこどもシアター」を新たに企画・実施し、多数の参加者を得た。
 - ・ オペラ「イエヌーフア」上演に当たり、大使館関係機関の協力により、作曲者の伝記映画を上演するという新しい試みを実施し、公演内容の理解促進を図るとともに多数の参加者と高い有意義回答率を得た（2/2、中劇場、2回、参加者数1,054人、アンケートによる有意義回答率92.6%）。
- 良かった点・特色ある点
- ・ 公開講座について、公演に関連した適切なテーマと内容を工夫し実施した結果、参加者数と有意義回答の割合が目標値を大きく上回った。
 - ・ オペラ「イエヌーフア」上演に当たり、大使館関係機関の協力により、公演関連映画の上演という新しい試みを実施した。広報を十分に行い、多数の参加者数と高い有意義回答率を得て、公演内容の理解促進に資することができた。
 - ・ 芸術鑑賞システムを更新した。これまでのブースに加え、タブレット端末10台を導入し、閲覧室内のどこでも他の資料と映像を同時に利用できるようにした。また、ビデオシアターでは、収録映像を高画質、高音質で視聴できるようにした。
- 見直し又は改善を要する点
- ・ インターネットや通信技術を利用し、展示の方法の工夫や資料利用の利便性の向上を図りたい。

II 業務運営の効率化に関する目標を達成するために とるべき措置

業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置 p.165

- 効率化に関する取組 p.167
 - 情報システムの活用 p.167
 - 事務手続きの簡素化 p.168
 - 省エネルギー、リサイクルの推進 p.168
 - 組織機構の在り方の検討 p.169
 - 保有資産の有効利用 p.172
 - 内部統制の充実・強化 p.173
 - 効率化に関する目標の達成状況 p.175
- 給与水準の適正化 p.177
- 契約の適正化 p.178

II 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

《中期計画の概要》

II 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 サービスその他の業務の質の向上を考慮しつつ、次の取組を行い、事務及び事業を改善

(1) 一般管理費等の削減

運営費交付金を充当して行う業務について、平成24年度予算を基準として中期目標期間中に、退職手当、特殊要因経費を除き、一般管理費などの事務的経費については15%以上、事業費についても毎事業年度につき1%以上効率化

(2) 効率化に関する取組

- ア 効率的な情報システムの整備による各事業の効果的・効率的な運営の支援
- イ 手続きの簡素化等による業務運営の効率化及び利用者の利便性の向上
- ウ 国立劇場等の管理運営業務について、外部委託の範囲拡大による経費削減
- エ 省エネルギー、廃棄物減量化、リサイクル、ペーパーレス化等の推進

(3) 給与水準の適正化等

役職員の給与について、国家公務員の給与見直しの動向を見つつ、必要な措置を実施、適正化に関する検証結果や取組状況について公表

(4) 契約の適正化

- 原則として一般競争入札等によることとし、次の取組により、契約の適正化を推進
- 監事による監査を受けるとともに、財務諸表等に関する監査の中で会計監査人によるチェックを要請
- ア 「調達等合理化計画」に基づく取組を着実に実施、取組状況を公表
- イ 一般競争入札等により契約を行う場合であっても、競争性、公正性及び透明性が十分確保される方法により実施

(5) 組織機構の在り方の検討

組織機構の在り方について検討を行い、必要な措置を実施

(6) 保有資産の有効利用

- 保有する劇場施設等の資産の一層の有効利用に資するための方策を検討・実施
- 金融資産の適切な管理・運用

(7) 内部統制の充実・強化

- ア 評価委員会において、組織、運営、事業などについて評価、評価結果の公表と組織の改善、事業の見直し、事務の改善等に反映
 - イ 人員・劇場等施設及び運営費交付金等を有効に活用し、理事長のマネジメントの強化や監査機能の充実について検討、検討結果の逐次活用
 - ウ 分かりやすく説明する意識を徹底、ホームページにおける情報アクセスを容易にするなど情報開示を推進
- 法令等に基づき適切に情報を開示、適切な情報セキュリティ対策を推進

《年度計画の概要》

II 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 業務運営の効率化を進めるため、次の措置を実施

(1) 効率化に関する取組

- ア 情報システムの活用
 - ① 業務システムの安定稼働、財務会計等システムと文書管理システムの最適化
 - ② 次期グループウェアやネットワーク環境等の情報基盤の調査・分析
 - ③ ファイルサーバーに保管されているデータの運用手順の整理
- イ 事務手続きの簡素化
 - 事務手続きの効率化、決裁事務の簡素化
- ウ 契約の適正化

- ① 「調達等合理化計画」に基づく契約の適正化、取組状況の公表
- ② 契約監視委員会による契約の点検、その結果を踏まえた見直しの実施
- ③ 電子入札を一部の案件で実施
- エ 省エネルギー、リサイクルの推進
 - ① 二酸化炭素（CO2）の削減を推進
 - ② 光熱水量の節減
 - ③ 廃棄物の減量化
 - ④ ペーパーレス化
 - ⑤ 環境配慮物品等の調達を行い省エネルギー、リサイクルを促進
- (2) 給与水準の適正化
 - 役職員の給与について、国家公務員の給与制度に関する総合的見直し等の動向を見つつ、必要な措置を実施
 - 適正化に関する検証結果や取組状況について公表
- (3) 組織機構の在り方の検討
 - 人員配置など組織機構の在り方について検討、必要な措置を実施
- (4) 保有資産の有効利用
 - 施設の適切な管理・運用
 - 各劇場施設の使用効率の向上及び利用者の増加を図る取組
 - 金融資産の適切な管理・運用
- (5) 内部統制の充実・強化
 - ア 平成26年度の事業の実施結果について、自己点検評価及び外部専門家からの意見聴取を実施
 - イ 上記の自己点検評価をもとに、評価委員会による業務の実績に関する評価を実施
 - 評価結果の公表、事業の見直し及び事務の改善等に反映
 - ウ 理事長がリーダーシップを発揮できる環境及び監事の機能を強化する組織体制を整備、内部統制の充実・強化
 - エ 情報開示を推進、分かりやすく説明する意識を徹底
 - 法令等に基づき適切に情報を開示、各職員の情報セキュリティ自己点検及び専門家による情報セキュリティ研修を実施

II-1 効率化に関する取組

《主要な業務実績》

1. 情報システムの活用
 - ① 業務システムの安定稼働
 - ・ 財務会計等システムと文書管理システムの更新
 - ・ 仮想化技術によるサーバーの更新
 - ② プログラム脆弱性対策の実施
 - ③ ファイルサーバーに保管されているデータの整理
 - ④ 情報セキュリティ対応の実施
 - ⑤ ネットワーク環境等の情報基盤の調査・分析
2. 事務手続きの簡素化
 - ・ 規程の改正手続きについて簡素化を検討
3. 省エネルギー、リサイクルの推進
 - ・ 光熱水量の削減について、観劇環境や業務に支障のない範囲で節電対策を実施
 - ・ 廃棄物について、引き続き減量化を図るとともに種別分別を徹底
 - ・ ペーパーレス化促進のため、両面コピー、グループウェアの活用等を実施
4. 組織機構の在り方の検討
 - ・ 各部間の問題調整を行う審議役を設置
 - ・ 大規模改修推進本部に「特命プロジェクト本部」業務を追加
5. 保有資産の有効利用
 - ・ 「独立行政法人の職員宿舎の見直し計画」等に沿って、実物資産を適切に管理運営
 - ・ 各種金融資産について、適切に管理・運用を実施
6. 内部統制の充実・強化
 - ・ 内部統制の充実・強化を図り、評議員会、公演専門委員会ほか外部専門家等の意見を事業に反映
 - ・ 国立劇場等大規模改修懇談会を開催
 - ・ 日本芸術文化振興会文化プログラム実行委員会を開催
 - ・ 内部統制委員会を開催
 - ・ リスク管理委員会を開催
 - ・ 内部統制に関する研修会を開催
7. 効率化に関する目標の達成状況
 - ・ 一般管理費は基準額である24年度運営費交付金予算額に対し5%の効率化を達成、事業費は前年度からの繰越執行等により前年度予算額に対し0.46%減となったが、24年度運営費交付金予算額に対し4%の効率化を達成

《業務実績詳細》

<1>情報システムの活用

- ① 業務システムの整備
 - ・ 財務会計等システム及び文書管理システムについてサーバー等機器の更新及びシステムの更新を実施し、業務の効率化を図った。
 - ・ 業務システムサーバーについて、仮想化技術を活用することにより集約化し、機器台数や保守等の運用業務の効率化を図った。
 - ・ 「歌舞伎」キーワードによるWEB検索結果の改善を図る（SEO対策）ため、国立劇場歌舞伎公演についての総合情報ウェブサイト（国立劇場歌舞伎情報サイト）を開設し、利用者の利便性を図った。
- ② プログラム脆弱性対策
 - 脆弱性情報の報告を受け、振興会内の全情報システムを調査し、以下の脆弱性対策を行い、情報セキュリティを確保した。
 - ・ DNSサーバソフトウェア「BIND」、暗号化通信用ソフトウェア「OpenSSL」、Webサーバー用ミドルウェア「MySQL」等のバージョンアップ

- ・ インターネットブラウザ「Internet Explorer11」へのバージョンアップ
- ③ ファイルサーバーのデータ整理
 - ・ 各館設置のファイルサーバーの状況調査に基づき、不要データの削除及び退避を実施した。
- ④ 情報セキュリティへの対応
 - ・ 「情報セキュリティポリシー対策実施基準」に従い、販売計画課を対象に、総合チケットシステムについて監査を実施し、情報セキュリティの対応状況を確認した。
 - ・ 情報セキュリティ対策についての意識の向上を図るため、自己点検の実施に加え、専門家を招いて情報セキュリティ研修を行った。
 - ・ 振興会Webサイトへの攻撃対策として遠隔監視間隔を見直しセキュリティを強化した。
- ⑤ ネットワーク環境等の情報基盤の調査・分析
 - ・ 更新に向け、振興会全体のクライアント機器及びソフトウェアの棚卸しを実施した。
 - ・ グループウェアやネットワーク基盤の更新に向け、外部サービスの活用について調査した。

<2>事務手続きの簡素化

マニュアル化、館内LANを介しての一斉通知等により、引き続き事務手続きの効率化に努めた。規程の改正手続きについて、効率化の観点から見直しを検討した。

<3>省エネルギー、リサイクルの推進

1. 光熱水量の節減 ※ 光熱水量は、食堂・売店等テナントの使用量を除く。

事 項	区 分	使用量	対前年度増減
電気	本館・演芸場	4,911,389kwh	0.5%
	能楽堂	814,489kwh	3.5%
	文楽劇場	1,508,955kwh	△ 8.0%
	合 計	7,234,833kwh	△1.1%
ガス	本館・演芸場	161,426 m ³	△ 7.8%
	能楽堂	83,176 m ³	3.8%
	文楽劇場	103,946 m ³	△ 17.5%
	合 計	348,548 m ³	△8.6%
水道	本館・演芸場	35,499 m ³	1.1%
	能楽堂	6,769 m ³	6.3%
	文楽劇場	13,288 m ³	△ 12.7%
	合 計	55,556 m ³	△2.0%

- ・ 引き続き各館において、観劇環境や業務に支障のない範囲で以下の節電対策を行った。
 - ・ 執務室、会議室、通路等の照明を業務に支障のない範囲で間引き・減灯した。
 - ・ 事務所部分を中心に夏季の軽装を奨励するとともに、冷暖房の抑制（夏季ピーク時の制限、設定温度の制限）を実施した。
 - ・ 文楽劇場では、空調設備の清掃の徹底化と運用の効率化により、ガス使用量を大幅に削減することができた。

2. 廃棄物の減量化

事 項	区 分	処理量	対前年度増減
一般廃棄物	本館・演芸場	49,055kg	5.0%
	能楽堂	6,671kg	2.2%
	文楽劇場	18,765kg	△ 6.7%
	合 計	74,491kg	1.6%
再利用廃棄物	本館・演芸場	75,986kg	86.7%
	能楽堂	7,376kg	75.5%
	文楽劇場	13,260kg	4.7%
	合 計	96,622kg	67.9%

産業廃棄物	本館・演芸場	16,968kg	206.1%
	能楽堂	3,143kg	△1.2%
	文楽劇場	5,260kg	△16.8%
	合計	25,371kg	68.7%

- ・ 引き続き廃棄物の減量化に努めた。
 - ・ 本館・演芸場では、一般廃棄物と再利用廃棄物の種別分別を徹底したことにより、再利用廃棄物が増加した。また機器及び機材等の整理を進め、経年劣化や不要と判断される物の廃棄に努めたため産業廃棄物が増加した。なお、廃棄物の総量については、過去5年の平均値に対して△11.2%である。
 - ・ 能楽堂では、一般廃棄物と再利用廃棄物の種別分別を徹底したことにより、再利用廃棄物が増加した。なお、廃棄物の総量については、過去5年の平均値に対して△19.8%である。
 - ・ 文楽劇場では、26年度に機材等の整理を進め、不要と判断される物の廃棄に努め産業廃棄物が多かったため、産業廃棄物処理量が前年度に比べて減となった。

3. ペーパーレス化

事項	区分	使用量	対前年度増減
コピー枚数	本館・演芸場	1,051,626枚	8.1%
	事務棟	1,559,871枚	10.3%
	伝統芸能情報館	234,722枚	△5.8%
	能楽堂	238,578枚	3.7%
	文楽劇場	289,250枚	16.3%
	合計	3,374,047枚	8.3%
	うち管理部門	1,041,405枚	2.6%
コピー用紙 購入枚数	本館・演芸場・事務棟・ 伝統芸能情報館	3,176,500枚	△4.2%
	能楽堂	304,000枚	△6.5%
	文楽劇場	433,500枚	△10.2%
	合計	3,914,000枚	△5.1%

- ・ 27年度は、新規部署の設置により、機器及び会議実施回数の増等から、事務棟におけるコピー枚数が増加した。引き続き、両面コピー、グループウェアの活用等によりペーパーレス化促進に努める。
- ・ 文楽劇場では、27年度は義太夫年表昭和篇の刊行年だったので校正用資料をコピーする需要が増えたため及び図書閲覧室の開室日を増やし利用者が増加したため、コピー枚数が増加した。ただし、在庫管理を見直して、より細かく在庫調整をしたことにより、用紙購入枚数は減少した。

4. グリーン購入法に基づく調達

事務用消耗品を中心に、環境物品等の調達の推進を図るための方針に基づいた物品購入等を行い、可能な限り環境への負荷の少ない物品等の調達に努めた。

<4>組織機構の在り方の検討

1. 人員配置等組織機構の在り方の検討

(1) 27年4月に以下の組織改正を実施した。

① 監事室の設置

監事を補佐し監査機能を強化する。

② 監査室の設置

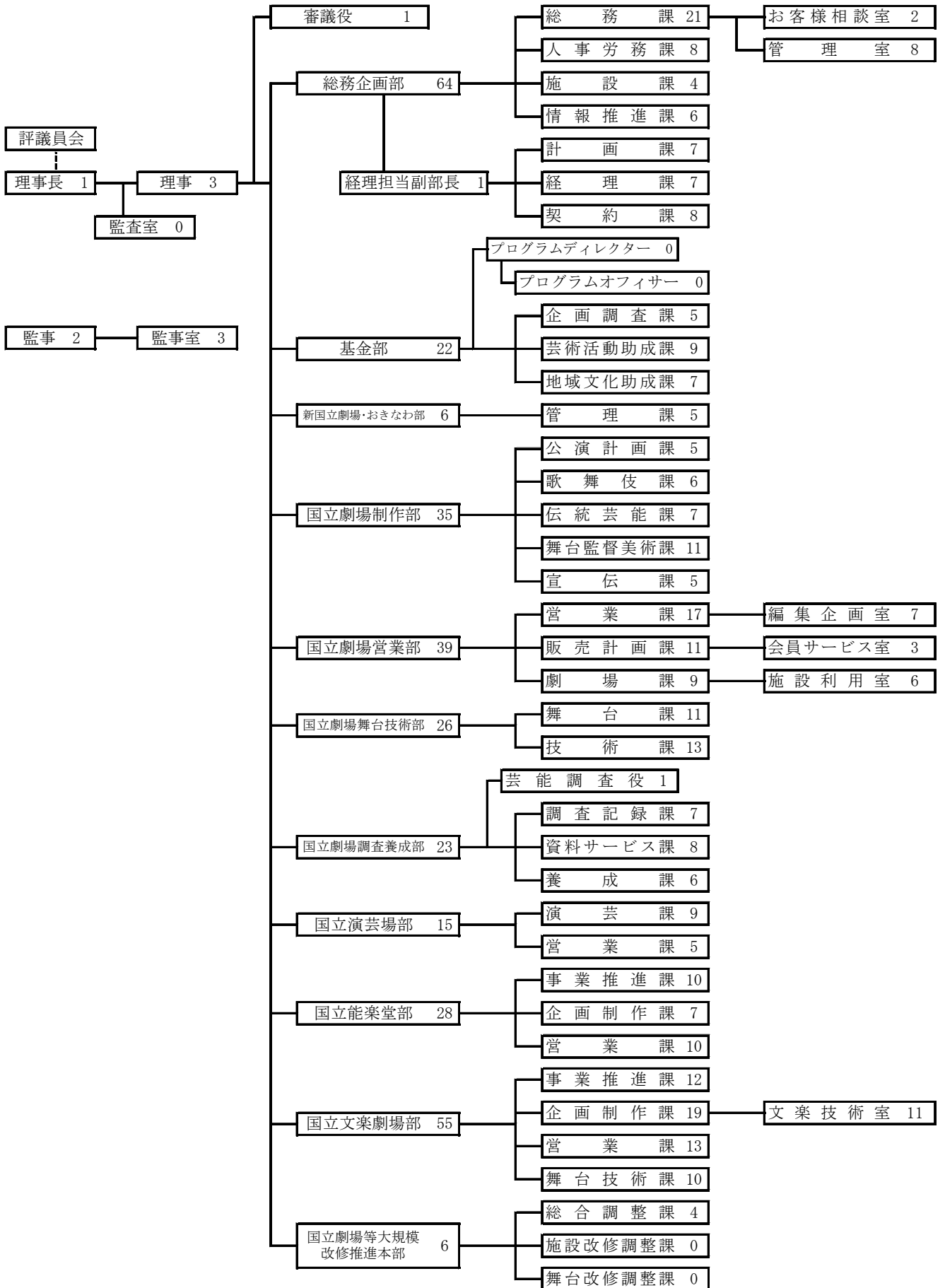
内部監査を担当し、併せて内部統制の推進に係る総括及び管理に当たる。

③ 国立文楽劇場部を改組し、文楽技術室を企画制作課に移管

公演の企画、準備段階から、公演制作と文楽技術の間で公演情報を共有することで、公演制作と文楽技術を緊密とし文楽技術の経験と知識を公演制作に反映させるなどし、公演実施体制の強化を図る。

- ④ 国立劇場等大規模改修推進本部に「特命プロジェクト本部」業務を追加
平成 32（2020）年東京オリンピック・パラリンピック競技大会において振興会が実施する文化プログラムの推進や、国立劇場開場 50 周年記念公演に向けた「国立劇場通り」等の屋外環境整備など、理事長が必要と認め、命じられた業務を推進する。
- (2) 28 年 3 月に以下の組織改正を実施した。
- ・ 審議役の設置
振興会の事務に関する重要事項についての企画及び立案並びに調整に関する事務を総括整理する。
- (3) 28 年 4 月に以下の組織改正を実施することとした。
- ・ 基金部を改組し、芸術活動助成課に調整係を設置
日本版アーツカウンシルの本格導入に伴い配置されているプログラムディレクター・プログラムオフィサー及び文化芸術活動調査員による事後評価及び公演調査等の実施に関する業務を行う。

[組織図] ※ 数字は役員及び常勤職員数 (28年4月1日現在)



<5>保有資産の有効利用

1. 実物資産の保有状況等

(1) 資産の概要と保有目的・利用状況

施設名(数)	所在地	用途	保有目的及び利用状況
国立劇場 本館・演芸場(1)	東京都千代田区	劇場施設	伝統芸能の保存・振興を図るための拠点施設として設置され、伝統芸能の公開、伝承者の養成等の事業を安定的、継続的に実施するために必要な施設である。 27年度の稼働率の実績：P. 113 参照
国立能楽堂(1)	東京都渋谷区		
国立文楽劇場(1)	大阪府中央区		
国立劇場おきなわ(1)	沖縄県浦添市		
新国立劇場(1)	東京都渋谷区	劇場施設	現代舞台芸術の振興・普及を図るための拠点施設として設置されたものであり、現代舞台芸術の公演、実演家の研修等の事業を安定的、継続的に実施するために必要な施設である。 27年度の稼働率の実績：P. 113 参照
新国立劇場舞台美術センター(1)	千葉県銚子市	保管施設	現代舞台芸術の公演に必要な舞台装置・衣装等を保管し、新国立劇場におけるレパトリー公演を安定的、継続的に実施するために必要な施設であり有効に活用されている。
職員宿舎(8)	東京地区(7) 大阪地区(1)	職員宿舎	東京・大阪に事業所を保有しており、円滑な人事異動など業務上の必要から、安定的かつ継続的に職員宿舎を確保する必要がある、養成研修生の利用も含めた適切な管理運営を図っている。なお借上げ宿舎については23年度に6戸、24年度に3戸、25年度に1戸廃止した。保有宿舎については26年度に14戸廃止した。 保有宿舎全33戸(廃止宿舎、廃止予定宿舎及び改修中の宿舎を除く)、入居率は72.7%(28年4月末現在)。その他、借上宿舎が1施設(1戸)あり、入居率は100%。(大阪地区)

- ・ 「独立行政法人の職員宿舎の見直し計画」(24年4月3日行政改革実行本部決定)及び「独立行政法人の職員宿舎の見直しに関する実施計画」(24年12月14日行政改革担当大臣)に沿った見直しを進めている。23年度に6戸の借上げ宿舎を廃止したことに続き、24年度には東京地区の借上げ宿舎3戸、25年度には大阪地区の借上げ宿舎1戸、26年度には東京地区の保有宿舎14戸を廃止した。引き続き、宿舎の適切な管理運営に努めるとともに、入居者の円滑な退去等に配慮しつつ、職員宿舎の削減を図る。このため、宿舎の利用状況(28年4月末時点)は、全体(保有及び借上)で73.5%の入居率となっている。
- ・ 一部の宿舎については、養成研修生への貸与を実施している。
- ・ 27年度決算において、廃止が決定された宿舎のうち当年度中に使用しなくなるとされた宿舎14戸に関して減損を認識した。

2. 金融資産の保有状況

① 金融資産の名称と内容、規模

- ・ 有価証券 1,300,000,000円
- ・ 投資有価証券 73,070,301,128円
- ・ 長期性預金 2,000,000,000円

② 保有の必要性(事業目的を遂行する手段としての有用性・有効性)

芸術文化振興基金については、芸術文化振興基金の運用の基本的考え方を踏まえ、毎年度芸術文化振興基金運用計画を策定し、長期的・安定的な運用を行っている。

政府出資金見合いの資金については、「政府出資金見合いの資金及びその運用に関する基準」に従い、伝統

芸能の公開事業及び現代舞台芸術の公演事業を安定的に継続するため、可能な限り長期的な運用を行うこととしている。

- ③ 資産の売却や国庫納付等を行うものとなった金融資産の有無、取組状況
該当する金融資産はない。

3. 資金運用の実績

主な資金である芸術文化振興基金の運用実績はP. 10 を参照。

<6>内部統制の充実・強化

1. 自己点検評価の実施、外部専門家等からの意見聴取

- ① 26年度の業務実績に関する自己点検評価について
27年2月～3月 各公演専門委員会、事業委員会において事業に対する意見聴取を実施
27年3月～4月 各部において自己点検評価を実施
27年4月～5月 総務企画部計画課を中心に自己点検評価を取りまとめ
27年5月8日 理事長により自己点検評価を決定
27年6月28日 評議員会において、26年度の業務の実績に関する評価を審議・決定
- ② 27年度の業務の実績に関する自己点検評価について
自己点検評価は膨大な作業量となるため、毎月の業務実施状況について定期的に役員会で報告するとともに、公演事業については四半期ごとに自己点検評価を実施して、作成業務の効率化と内容の充実を図った。

2. 外部評価委員会における検討・評価、評価結果の公表・事業への反映

① 評議員会の開催

第38回(6/26)、第39回(10/28)、第40回(3/29)の3回開催した。

議題等：26年度評価及び26年度決算についての審議、26年度評価結果についての報告、27年度計画実施状況の報告、28年度計画についての審議、国立劇場等大規模改修に係る審議等

② 評価委員会の開催

26年度第2回(5/14)、第3回(6/10)、第4回(6/23)、27年度第1回(10/22)の4回開催した。

議題等：26年度評価の実施、26年度評価についての審議等

③ 公演専門委員会、事業委員会、芸術文化振興基金運営委員会の開催

・ 公演専門委員会

議題等：27年度公演状況の報告、28年度公演計画の説明、28年度公演計画についての意見聴取等

歌舞伎公演専門委員会 2回開催 (6/12・3/15)

文楽公演専門委員会(本館) 2回開催 (6/9・3/17)

舞踊公演専門委員会 2回開催 (6/22・3/23)

邦楽公演専門委員会 2回開催 (6/17・3/14)

雅楽・声明公演専門委員会 2回開催 (6/18・3/9)

民俗芸能公演・琉球芸能公演専門委員会 2回開催 (6/9・3/14)

大衆芸能公演専門委員会 2回開催 (6/19・3/24)

能楽公演専門委員会 2回開催 (2/4・3/8)

文楽公演専門委員会(文楽劇場) 2回開催 (5/25・2/24)

文楽劇場短期公演等専門委員会 2回開催 (5/20・3/9)

・ 事業委員会

議題等：26年度評価結果の報告、27年度の事業実施状況、28年度事業計画についての意見聴取等

養成事業委員会 2回開催 (12/10・3/23)

調査事業委員会 2回開催 (12/17・3/23)

・ 芸術文化振興基金運営委員会 3回開催 (9/8・1/21・3/16)

議題等：26年度事後評価結果の決定、28年度審査基準・助成対象活動募集案内の決定、28年度助成金の分野別配分予算案の決定、28年度助成対象活動及び助成金交付予定額の決定等

④ 国立劇場等大規模改修懇談会の開催

第4回(2/24)の1回開催した。

議題等：国立劇場等大規模改修事業の整備手法についての意見聴取等

⑤ 日本芸術文化振興会文化プログラム実行委員会の開催

第1回（6/15）、第2回（7/21）、第3回（9/7）、第4回（10/5）の4回開催した。

議題等：平成 32（2020）年東京オリンピック・パラリンピック競技大会において振興会が実施する文化プログラム案についての審議等

3. 内部統制の充実・強化

(1) 理事長がリーダーシップを発揮できる環境の整備

① 役員会の開催

○ 役員会を開催し、振興会の業務に係る重要事項を審議した（開催回数：23回）。

【役員会における目標管理の状況】

- ・ 中期計画、年度計画の遂行に関わる、目標達成状況、収支状況、予算執行状況等を定期的に理事長に報告
- ・ 状況把握に基づき、理事長より各部署に改善等を指示
- ・ 各部署は対策を案出し、措置状況を役員会で報告

② 情報伝達

- 理事長の経営方針等を、館内 LAN 等を介して全職員に周知した。
- 全役員及び総務企画部長による会合を役員会の前に実施し、情報共有を図った。
- 事故等発生時の際は、定められた方法により関係者間の情報共有、理事長への報告を行った。
- 利用者から寄せられた要望・苦情、それに対する回答内容を、月毎に集約して理事長に報告するとともに、館内 LAN を介して全職員に周知した。

③ 内部統制に関する規程の整備、委員会の開催

- 内部統制の推進に関する規程及びリスク管理規程を制定し、内部統制システムの整備を図った。
- 理事長、理事、内部統制推進総括責任者で構成する内部統制委員会を新たに設置し、内部統制の推進に係る体制を整備した（開催回数：1回）。

(2) 監査

① 監事監査

定期監査、重要書類の回付等により業務の執行状況及び会計経理事務の処理状況を監査した。

< 定期監査（業務監査及び平成 26 事業年度決算監査） >

- 監事監査計画提出（4月20日 提出先：理事長）
- 監査実施（5～6月）
- 監査報告書提出（6月25日 提出先：理事長）
- 意見書「平成 27 年度監事監査の結果に基づく検討希望事項」提出（9月25日 提出先：理事長）
（検討希望事項 3件）
 - ・ 起案文書の決裁について
 - ・ 総合文書管理システムについて
 - ・ 公印使用状況について

< 監事の意見書への対応 >

- 監事からの意見を受けて各部署で講じる措置状況を取りまとめ、監事に報告

② 内部監査

内部監査要綱に基づき内部監査を実施した。本年度は、施行後 1 年を期にマニュアル等の見直しを行った現金取扱細則（26 年 1 月 1 日施行）の運用状況を監査した。

- 内部監査計画の作成（12月1日 同日監事に通知）
- 監査実施（1～2月）
- 監査事項
 - ・ 勤務時間の管理状況（27 年度分）
 - ・ 旅行命令、旅費の状況（27 年度分）
 - ・ 法人文書の管理状況（26 年度分）
 - ・ 物品・役務等、調達手続きの状況（26 年度分）

- ・物品の管理状況（26年度分）
- ・現金取扱細則の運用状況
- ・切手、はがき、乗車ICカード（Suica等）の管理状況
- ・その他必要な事項

○監査報告書提出（3月15日 提出先：理事長 3月18日 監事に写しを送付）

○意見書「平成27年度独立行政法人日本芸術文化振興会内部監査結果に基づく事務処理の適正化及び改善を要する事項について」提出（監査報告書に添付）

③監事の機能を強化する組織体制の整備

本年度新たに設置された監事室において、監事の職務の遂行を補佐した。

(3)情報開示の推進

- ホームページの情報掲載に当たっては、迅速な発信とともに、表現、掲載位置等を工夫し、より確実に情報が伝わるよう努めた。
- 情報開示請求等に適切に対応するため、情報公開・個人情報保護制度の運用等に関する研修に職員を参加させた。

(4)リスク管理

①リスク管理委員会の開催

- リスク管理総括責任者及びリスク管理責任者で構成するリスク管理委員会を新たに設置し、リスクの発生防止又はリスクが発生した場合の損失の最小化を図るための体制を整備した。（開催回数：1回）

<7>効率化に関する目標の達成状況

1. 一般管理費

以下の数式により効率化の達成状況を計っている。

A: 平成24年度の一般管理費予算額（退職手当を除く）

※運営費交付金算定の基礎となった額

B: 当該年度の一般管理費決算額（退職手当を除く）

増減比率：(B-A) ÷ A

(単位：百万円、%)

区分	種別	27年度
基準額(A)	一般管理費	513
	人件費	537
	計	1,050
金額(B)	一般管理費	245
	人件費	753
	計	998
増減比率		△5%

2. 事業費

以下の数式により効率化の達成状況を計っている。

A: 前年度の事業費予算額(退職手当を除く)

※運営費交付金算定の基礎となった額

B: 当該年度の事業費決算額(退職手当を除く)

増減比率：(B-A) ÷ A

(単位：百万円、%)

区分	種別	27年度
基準額(A)	事業費	6,597
	人件費	1,849
	計	8,446

金額(B)	事業費	6,523
	人件費	1,884
	計	8,407
増減比率		△0%

※ 前年度からの繰越執行により前年度予算額に対し0.46%減となったが、24年度運営費交付金予算額(8,751百万円)に対し4%の効率化を達成した。

《自己点検評価》

○ 自己評定

B

(根拠)

- ・ 内部統制の充実・強化を図り、内部統制の推進に関する規程等を制定したほか、外部意見や評価結果等を事業に反映させた。評議員会、評価委員会、公演専門委員会、事業委員会（調査、養成）、芸術文化振興基金運営委員会を計画どおり適切に開催し、さまざまな有用な意見を得た。また監事監査、内部監査を引き続き実施した。
- ・ 情報システムの活用につき、計画どおり必要な措置を講じた。
- ・ 省エネルギー、リサイクルの推進に引き続き取り組んだ。光熱水量を前年度よりも減らすことができた。
- ・ 国立の文化施設として振興会が文化プログラムに積極的に参加する推進体制を整えることができた。
- ・ 理事長、理事、部長を対象とした研修会を開催したことで、内部統制に関する共通認識を持つことができた。
- ・ 内部統制委員会を設置したことで、理事長のリーダーシップの下に内部統制の推進を図るための基本的な体制を整備することができた。
- ・ リスク管理委員会を設置したことで、リスクの発生防止又はリスクが発生した場合の損失の最小化を図るための基本的な体制を整備することができた。
- ・ 一般管理費、事業費の効率化を達成した。

○ 良かった点・特色ある点

- ・ インターネットブラウザのバージョンアップやプログラム言語等の脆弱性対策を実施することにより、情報セキュリティを確保した。
- ・ 遠隔監視間隔の短縮等により障害への迅速な対応及び情報セキュリティの強化が図られた。
- ・ サーバーの導入において仮想化技術を導入することにより、物理サーバー数の削減や保守等の運用業務の効率化を図られた。
- ・ ペーパーレス化促進について、両面コピー、グループウェアの活用等に努めた。
- ・ 監事の提言により、理事長、理事、部長を対象とした内部統制に関する研修会を開催した。
- ・ 外部専門家による各委員会等を開催し、意見等を事業に反映するよう努めた。
調査事業委員会は、第1回を初めて能楽堂で開催し、施設見学を行い委員の理解を深め有意義であった。美術館運営の経験や、文学・芸能研究の専門的立場からの意見は、伝統芸能の調査・研究及び資料収集・活用業務において、貴重な意見である。
養成事業委員会は、昨年度より1回増やして2回開催した。歌舞伎、文楽、能楽、演芸という各研修ジャンルの専門家が一堂に会し、幅広い意見を聞くことができる貴重な機会となった。
- ・ 国立劇場等大規模改修懇談会では、国立劇場等大規模改修事業の整備手法及びその他改修事業全般について、さまざまな有用な意見を得た。

○ 見直し又は改善を要する点

- ・ 業務システムの開発において納入遅延が発生していることから、開発計画及び管理方法を見直す。
- ・ 監査の実効性を高めるため、指摘事項等に対するフォローアップを行う。
- ・ 廃棄物減量化に取り組む姿勢を堅持する。引き続き適正な分別及び総量の圧縮に努める。

II-2 給与水準の適正化

《主要な業務実績》

- ・ 国家公務員の給与改定に倣い、給与の改定を実施
- ・ 俸給表の改定にあたっては、世代間の給与配分の観点から若年層に重点をおきながら水準を引き上げ
- ・ 前年度の給与水準に関する検証結果や取組状況について公表
- ・ 前年度の給与水準に対する文部科学大臣の検証結果は適正

《業務実績詳細》

1. 給与水準の適正化に関する検証結果・取組状況の公表

- ・ 引き続き、国家公務員との給与の比較を行い、ホームページに「独立行政法人日本芸術文化振興会の役職員の報酬・給与等について」を掲載し、給与水準に係る適正化に関する検証結果及び取組状況を公表した（26年度ベース）。
- ・ ラスパイレス指数（※）は、105.5（地域・学歴勘案=92.4）であり、地域・学歴を勘案した指数では国家公務員の水準未満であった。
- ・ また、全独立行政法人のラスパイレス指数は、101.9（地域・学歴勘案=100.4）であり、当振興会の水準は、地域・学歴を勘案した指数では全独立行政法人の水準未満であった。

（※）ラスパイレス指数＝国の一般職俸給表適用者の給与を100としたときの給与水準の指数
<国からの財政支出>
支出予算の総額に占める国からの財政支出の割合 77.2%
（国からの財政支出額 15,108 百万円／支出予算の総額 19,561 百万円（26年度予算））

2. 効率的な事業遂行のための職員配置及び採用

人員配置については、各部長から要望を広く聞き、適切な人事異動を行うとともに、任期を定めた採用の強化等、人件費の抑制を踏まえた採用を実施した。

3. 人事・給与制度の検討

(1) 国家公務員の給与改定に準じた役職員の給与改定

- ・ 国家公務員の給与改定に倣い若年層に重点を置きながら俸給表の水準を引き上げた（改定率0.3%）。
- ・ 賞与の支給月数を引き上げた（年間支給月数：4.04ヶ月→4.14ヶ月）。引き上げ分は、勤務実績に応じた評価による給与支給の推進のため、勤勉手当に配分した。

(2) 国家公務員の給与見直しに準じた給与制度の総合的見直しを実施することとした（27年度以降）。

- ・ 地域手当率を段階的に上げた。
- ・ 国家公務員の給与改定に倣い、単身赴任手当を引き上げる。
- ・ 55歳を超える課長補佐級以上の職員に実施している減額支給措置（△1.5%）は、経過措置終了後に廃止する。（平成30年度以降）

《自己点検評価》

○ 自己評定

B

（根拠）

- ・ 役職員給与について、国家公務員給与の改定に倣い、給与の改定を実施した。
- ・ 前年度の給与水準について、検証結果や取組状況を公表した。

○ 良かった点・特色ある点

- ・ 東京、大阪の大都市に事務所があることや大学卒以上の職員の比率が高いことから、地域と学歴を勘案した対国家公務員比較指標は92.4であり、適正であると考えられる。

II-3 契約の適正化

《主要な業務実績》

- ・ 「調達等合理化計画」に基づく一般競争入札の取組状況に関し、「日本芸術文化振興会契約監視委員会」において、定期的な契約の点検を実施し、報告書を理事長に提出
- ・ 入札参加の機会の拡大を図るため、ホームページ上の「調達情報」に仕様書のほか、セキュリティ面において公開することに問題があると判断されるものを除き、その他すべての資料を掲載
- ・ 工事及び設計・コンサルティング業務について、文部科学省文教施設企画部施設企画課契約情報室ホームページへ入札情報を掲載するとともに、電子入札を実施
- ・ 一者応札・応募事案の事後点検体制として要因分析を実施

《業務実績詳細》

1. 契約監視委員会の開催、「調達等合理化計画」に関する取組

- ・ 外部有識者を含めた委員による「日本芸術文化振興会契約監視委員会」（第13回、第14回）において、定期的な契約の点検を実施し、報告書を理事長に提出した。
- ・ 7月30日に第13回契約監視委員会を開催し、競争性のない随意契約、多数回入札となった案件を中心に点検審議を行い、高落札率の改善について検討した。
- ・ 12月15日に第14回契約監視委員会を開催し、26・27年度連続一者応札・応募等事案について点検を行い、一者応札・応募の改善等について検討した。
- ・ 公正性・透明性を確保しつつ、自律的かつ継続的に調達等の合理化に取り組むことを目的として、27年度から新たに「調達等合理化計画」を策定し、公表した。
- ・ 「調達等合理化計画」を推進するため調達等合理化検討会を組織し、計画に定める各事項を着実に実施した。
- ・ 「調達等合理化計画」に基づき、適正な調達手続きの周知、理解を徹底し、不祥事の発生の未然防止を図るため、経理業務説明会及び施設担当職員研修会を開催した。
- ・ 「調達等合理化計画」に基づき、調達に関するガバナンスの徹底のため、調達等合理化検討会随意契約検証チームにおいて、新たに随意契約を締結することとなる案件について点検を行い随意契約に関する内部統制の確立に努めた。

2. 契約内容及び入札方法の見直し等外部委託の推進

案件ごとに業務内容を精査し、以下のとおり契約方法を見直して、より効率的な外部委託を推進した。

(27年度契約からの移行業務)

- ・ 「平成27年度「義太夫年表」昭和編調査・編集業務」（一般競争入札から随意契約へ移行し、労働者派遣から個人業務委託へ変更）

(28年度契約に向けて見直しを行った業務)

- ・ 「平成28年度「日本芸術文化振興会ニュース」製造」（仕様を見直し、業務を分割して委託内容の適正化を図ることとした。）
- ・ 「平成28年度「日本芸術文化振興会ニュース」発送業務」（仕様を見直し、業務を分割して委託内容の適正化を図ることとした。）
- ・ 「平成28年度メール便（角形2号サイズ）請負業務」（仕様を見直し、業務を分割して委託内容の適正化を図ることとした。）
- ・ 「平成28年度メール便（角形0号サイズ）請負業務」（仕様を見直し、業務を分割して委託内容の適正化を図ることとした。公募から随意契約に移行。）
- ・ 「平成28年度国立演芸場舞台照明設備定期保守点検業務」（仕様を見直し、業務を分割して委託内容の適正化を図ることとした。随意契約から一般競争入札に移行。）
- ・ 「平成28年度国立文楽劇場自主公演字幕表示等業務」（一般競争入札から随意契約に移行）

また、業務の質的な面での特殊性を検証した上で適正な契約方法を検討し、以下のように実施した。

(27年度契約からの移行業務)

- ・ 「平成27・28年度国立劇場構内で使用するガス」（随意契約から一般競争入札に移行）

- ・ 「平成 27・28 年度国立劇場大劇場、小劇場及び国立演芸場舞台音響業務」 (単年度から 2 年間の複数年契約へ移行)
 - ・ 「平成 27・28 年度国立劇場大劇場、小劇場及び国立演芸場舞台照明業務」 (単年度から 2 年間の複数年契約へ移行)
 - ・ 「平成 27・28 年度国立劇場大劇場、小劇場及び国立演芸場の座席の設置・撤去業務」 (単年度から 2 年間の複数年契約へ移行)
 - ・ 「平成 27・28 年度国立劇場本館等舞台及び楽屋業務」 (単年度から 2 年間の複数年契約へ移行)
 - ・ 「平成 27・28 年度国立文楽劇場舞台操作及び楽屋業務」 (単年度から 2 年間の複数年契約へ移行)
 - ・ 「平成 27・28 年度国立文楽劇場舞台照明業務」 (単年度から 2 年間の複数年契約へ移行)
 - ・ 「平成 27・28 年度国立文楽劇場舞台音響・映像業務」 (単年度から 2 年間の複数年契約へ移行)
- (28 年度契約に向けて見直しを行った業務)
- ・ 「平成 28 年度国立文楽劇場構内で使用するガス」 (随意契約から一般競争入札に移行)

3. 入札機会の拡大

(1) 一者応札・応募をリストアップし、以下の見直しを行った。

① 仕様書の内容の見直し

- ・ 特定の業者しか参加することができない条件を見直す。

② 公告期間の見直し

- ・ 一般競争入札について、10 日以上としている公告期間を 10 営業日以上確保する。
- ・ 公募については、20 日以上としている公告期間を 20 営業日以上確保する。

③ 入札参加要件の緩和

- ・ 過去の請負実績等の条件を緩和する。

(2) 契約情報提供の充実

- ・ 入札公告などを劇場敷地内に掲示するとともに、入札機会の拡大を図るため、ホームページ上の「調達情報」に仕様書のほか、セキュリティ面において公開することに問題があると判断されるものを除き、その他すべての資料を掲載した。
- ・ 工事及び設計・コンサルティング業務について、文部科学省文教施設企画部施設企画課契約情報室ホームページへ入札情報を掲載するとともに、電子入札を導入している。

(3) 一者応札・応募事案の事後点検体制

仕様書を取り寄せる等調達に関心を示したが、応札を行わなかった業者に対してその理由を聴き取るなど、一者応札・応募となった要因分析を行い、一者応札・応募の改善を図った。

《自己点検評価》 _____

○ 自己評価

B

(根拠)

- ・ 確実な取組と不断の見直しを行い契約の適正化を推進した。
- ・ 契約の適正化に係る制度に基づき、調達等合理化計画を策定し、公表した。また、契約監視委員会を開催して契約の点検を行った。

○ 良かった点・特色ある点

- ・ 「調達等合理化計画」について職員への周知を図るとともに、計画に基づき、引き続き競争性のある契約への移行を推進した。
- ・ 調達等合理化検討会随意契約検証チームによる、新たに締結しようとする随意契約案件の点検を行い、調達に関するガバナンスの確保に努めた。
- ・ 入札情報入手の利便性向上を図るため、ホームページ (調達情報) に掲載する情報を公示するだけでなく、仕様書等も掲載することなどにより、一層充実させることができた。新規参入も含めた入札参加者の増加を図るため、23 年から引き続き工事及び設計コンサルティング業務について、文部科学省文教施設企画部施設企画課契約情報室ホームページへ入札情報の掲載を行っている。

- ・ 入札事務の効率化を図るほか、入札参加者の利便性向上のため、工事及び設計・コンサルティング業務について電子入札を導入している。
- 見直し又は改善を要する点
 - ・ 業務効率の向上、事務作業の軽減、経費の削減効果を得られることが見込まれる契約については、複数案件の包括契約や複数年での契約締結について引き続き検討していく。
 - ・ 入札辞退の理由について確認する体制に関し、仕様書・入札説明書等情報を入手後又は入札参加申請書提出後に参加を辞退する場合、辞退届の提出を求める等、できる限り理由を調査することを継続して行い、更に広く参加者を募るための参考とする。

Ⅲ 財務内容の改善に関する事項

財務内容の改善に関する事項 p.181

- 財務状況 p.181
- 剰余金 p.183
- 運営費交付金債務 p.184
- 外部資金の獲得状況 p. 184
- 短期借入金 p. 184

Ⅳ その他主務省令で定める業務運営に関する事項

その他主務省令で定める業務運営に関する事項 p.185

- 人事に関する計画 p.187
- 施設及び設備に関する計画 p.189
- 積立金の使途 p.191
- その他振興会の業務運営に関し必要な事項（運営委託） p.192

Ⅲ 財務内容の改善に関する事項

《中期計画》

Ⅲ 予算（人件費の見積もりを含む）、収支計画および資金計画

収入面に関しては、実績を勘案しつつ、国民の鑑賞機会の確保と芸術活動の独創性等に十分留意した上で劇場入場料等自己収入の増加を図ることや税制措置を活用した寄附金の確保等により、計画的な収支計画により運営各事業年度において、適切な効率化を見込んだ予算により運営

Ⅳ 短期借入金の限度額：10億円

Ⅴ 不要財産又は不要財産となることが見込まれる財産の処分：計画なし

Ⅵ 重要な財産の処分等：計画なし

Ⅶ 剰余金の使途

決算において剰余金が発生したときは、次の経費等に充当

- 1 助成事業の充実
- 2 公演事業の充実
- 3 伝統芸能伝承者養成事業・現代舞台芸術実演家等研修事業の充実
- 4 調査研究・資料の収集活用・公演記録の作成活用等事業の充実
- 5 研修器具、芸能資料等の購入・修理
- 6 観劇者サービス、情報提供の質的向上、老朽化対応等のための施設・設備の充実

《方針》

収入面に関しては、実績を勘案しつつ、外部資金等を積極的に導入することにより、計画的な収支計画による運営を図る。また、管理業務の効率化を進める観点から、各事業年度において、適切な効率化を見込んだ予算による運営を図る。

《業務実績詳細》

1. 財務状況

(1) 予算

(単位：千円)

区分	計画額	実績額	増△減
収入			
運営費交付金	9,781,212	9,781,212	0
文化芸術振興費補助金	3,732,448	3,718,295	△ 14,153
施設整備費補助金（注1）	776,301	1,647,027	870,726
助成事業収入	1,165,860	1,127,846	△38,014
公演事業収入	2,775,422	2,643,973	△ 131,449
研修事業収入（注2）	36,680	32,028	△ 4,652
調査研究事業収入（注3）	10,261	11,466	1,205
国立劇場おきなわ事業収入	2,124	2,434	310
新国立劇場事業収入	232,044	235,337	3,293
受託事業収入（注4）	7,306	24,306	17,000
一般管理収入（注5）	21,753	9,053	△ 12,700
計	18,541,411	19,232,977	691,566
支出			
文化芸術振興費	3,732,448	3,623,896	108,552
施設整備費（注1）	776,301	1,647,027	△870,726
助成事業費	1,200,605	1,238,385	△37,780
公演事業費	5,608,408	5,398,786	209,622
研修事業費（注6）	426,436	371,230	55,206
調査研究事業費（注7）	803,173	642,629	160,544

国立劇場おきなわ事業費	657,269	652,312	4,957
新国立劇場事業費	4,165,037	4,177,490	△12,453
受託事業費(注4)	7,306	20,988	△13,682
一般管理費	1,164,428	1,189,343	△24,915
計	18,541,411	18,962,085	△420,674

(注記) 計数は、それぞれ四捨五入により単位未満を処理しているため、合計において一致しない場合がある。

主な増減理由

- (注1) 平成26年度予算事業の繰越配分による増
- (注2) 劇場入場料の減
- (注3) 文献販売収入の増
- (注4) 受託事業の増
- (注5) その他の雑益等の減
- (注6) 出演費・舞台費等の公演費の減
- (注7) 施設整備事業の翌年度への繰越による支出減

(2) 収支計画

(単位：千円)

区 分	計画額	実績額	増△減
費用の部			
基金助成事業費	4,933,053	4,876,485	△56,568
公演事業費	5,331,270	5,199,772	△131,498
研修事業費	363,910	371,348	7,438
調査研究事業費(注1)	682,830	549,673	△133,157
国立劇場おきなわ公演等事業費	638,892	638,525	△367
受託事業費(注2)	7,306	20,988	13,682
新国立劇場公演等事業費	3,858,264	3,896,906	38,642
一般管理費	1,128,698	1,176,874	48,176
減価償却費	992,303	971,235	△21,068
固定資産除却損	0	3,309	3,309
計	17,936,526	17,705,114	△231,412
収益の部			
基金助成事業収入	4,933,053	4,805,343	△127,710
公演事業収入	5,331,270	5,317,697	△13,573
研修事業収入	363,910	371,691	7,781
調査研究事業収入	682,830	591,785	△91,045
国立劇場おきなわ公演等事業収入	638,892	643,953	5,061
受託事業収入(注2)	7,306	24,306	17,000
新国立劇場公演等事業収入	3,858,333	3,965,146	106,813
一般管理収入	1,128,629	1,203,070	74,441
資産見返運営費交付金戻入(注3)	992,303	644,197	△348,106
資産見返寄附金戻入	0	34,971	34,971
計	17,936,526	17,602,159	△334,367
純損失	0	102,955	102,955
積立金取崩額	0	0	0
総損失	0	102,955	102,955

主な増減理由

- (注1) 施設整備事業の翌年度への繰越による減
- (注2) 受託事業の増
- (注3) 取得資産の減少等

(3) 資金計画

(単位：千円)

区 分	計画額	実績額	増△減
資金支出	24,687,000	31,613,273	6,926,273
業務活動による支出 (注1)	17,444,000	22,715,833	5,271,833
投資活動による支出	1,597,000	1,972,199	375,199
財務活動による支出 (注2)	0	347,528	347,528
翌年度への繰越金	5,646,000	6,577,714	931,714
資金収入	24,687,000	33,847,822	9,160,822
業務活動による収入	18,265,000	23,167,166	4,902,166
運営費交付金による収入	9,780,000	9,781,212	1,212
文化芸術振興費補助金による収入	3,732,000	3,718,295	△13,705
公演事業による収入 (注3)	2,999,000	2,659,579	△339,421
受託事業による収入	7,000	40,035	33,035
基金運用による収入	1,146,000	1,116,352	△29,648
その他の収入 (注4)	601,000	5,851,693	5,250,693
投資活動による収入	776,000	1,634,108	858,108
施設整備費補助金による収入	776,000	1,634,020	858,020
その他の収入	0	88	88
財務活動による収入	0	600,440	600,440
民間出えん金受入れによる収入	0	600,440	600,440
前年度よりの繰越金	5,646,000	6,211,559	565,559

主な増減理由

(注1) 有価証券、投資有価証券の取得による支出増

(注2) リース債務の返済による支出

(注3) 劇場入場料等の収入減

(注4) 有価証券、投資有価証券の払戻による収入増

2. 剰余金

(1) 損益計算の結果、27 事業年度の当期純損失は 102,955 千円である。

(2) 損失が生じた主な理由

[収入支出決算]

① 助成事業において、73,682 千円の収支差減が生じた。その主な内容は次のとおり。

(減要因)

- ・ 助成事業収入のうち基金運用収入の 29,948 千円の収入減
- ・ 助成事業収入のうち交付決定取消等による過年度助成金返還の減による 7,360 千円の収入減
- ・ 助成事業費のうち減額される助成金の減少により 47,758 千円の支出増

② 公演事業において、15,754 千円の収支差減が生じた。その主な内容は次のとおり。

(増要因)

- ・ 公演事業費のうち歌舞伎公演、文楽公演などの公演費の 105,640 千円の支出減
- ・ 公演事業費のうち解説書作成費などの附帯事業費の 43,582 千円の支出減

(減要因)

- ・ 公演事業収入のうち歌舞伎公演、文楽公演などの劇場入場料収入の 127,237 千円の収入減
- ・ 公演事業収入のうち解説書収入などの附帯事業収入の 6,460 千円の収入減
- ・ 公演事業費のうち消費税納付により 27,108 千円の支出増

[損益計算]

③ 自己財源で取得した資産の減価償却により 30,854 千円の支出増が生じた。

④ 前期末収収益より今期末収収益が増加したことにより 13,744 千円の収益増が生じた。

⑤ 文化芸術振興費補助金精算に伴う返還金の発生により、94,399 千円の収益減が生じた。

3. 運営費交付金債務

(1) 28年3月31日現在における運営費交付金債務残高は473,561千円である。(単位：千円)

区分	期首残高/受入額	費用進行基準 による振替額	会計基準第81第3項 による収益化額	期末残高
平成25年度運営費交付金	152,172	41,084	0	111,088
平成26年度運営費交付金	61,321	0	0	61,321
平成27年度運営費交付金	9,781,212	9,480,060	0	301,152
計	9,994,705	9,521,144	0	473,561

(2) 期末残高のうち繰り越して執行する運営費交付金債務の主な内容は次のとおりである。

(平成28年度執行予定)

- ・施設改修工事 (257,985千円)
- ・舞台設備改修工事 (88,445千円)
- ・情報基盤整備 (118,865千円)

4. 外部資金の獲得状況 (53件、851,910千円)

- ・スーパー能「世阿弥」等の受託事業収入 (3件、24,306千円)
- ・文化庁芸術祭主催公演等における負担金による収入 (7件、25,330千円)
- ・芸術文化復興支援基金への募金 (29件、1,834千円)
- ・助成調査研究への寄附 (1件、200,000千円)
- ・芸術文化復興基金に対する民間出せん金 (13件、600,440千円)

5. 短期借入金

なし

《自己点検評価》

○ 自己評定

B

(根拠)

- ・ 管理業務の効率化の実現のため、効率的な業務運営を見込んだ予算の策定及び執行管理を行った。

○ 良かった点・特色ある点

- ・ 公演事業において、入場料収入や附帯事業収入は実績額が予算を下回ったが、公演費や附帯事業費の削減等により、11,354千円の収支差増となった。しかしながら、消費税納付による27,108千円の支出増により、最終的に15,754千円の収支差減となった。
- ・ 受託事業において、日生劇場ファミリーフェスティバル2015「ニッセイ親子文楽」を新規に企画するなどにより、3,818千円の収支差増となった。

○ 見直し又は改善を要する点

- ・ 入場料収入や施設使用料収入のより一層の増収を図るとともに、引き続き外部資金の獲得に努める。

IV その他主務省令で定める業務運営に関する事項

《中期計画の概要》

VIII その他主務省令で定める業務運営に関する事項

1 人事に関する計画

(1) 方針

ア 職員の計画的、適正な配置、効果的な人事交流を実施

イ 次の取組により、事務能率の維持、増進

① 職員に対する実務研修等の充実

② 適切な労務管理の実施

(2) 人員に係る指標

常勤職員について人件費を抑制

(参考) 中期目標の期間中の人件費見込み 10,006百万円（役員報酬並びに職員基本給、職員諸手当及び超過勤務手当に相当する範囲の費用）

2 施設及び設備に関する計画

各劇場等施設の長期的な視野に立った整備計画を策定、施設・設備に関する計画に沿った整備を推進

国立劇場本館が開場以来50年を経過することに鑑み、事業の安定的、継続的实施のため、整備の実施計画を策定し、改修工事に着手

3 積立金の使途

前期中期目標の期間の最終年度において、独立行政法人通則法第44条の処理を行ってなお積立金があるときは、文部科学大臣の承認を受け、次の必要な費用に充当

(1) やむを得ない事由により前中期目標期間中に完了しなかった業務

(2) 芸術文化振興基金の運用収入を充てるべき業務

(3) 次期へ繰り越した経過勘定損益影響額等に係る会計処理

(4) 自己財源により取得した固定資産の未償却残高相当額に係る会計処理

4 その他振興会の業務の運営に関し必要な事項

(1) 国立劇場おきなわの管理運営については、沖縄芸能・文化の独自性とその伝統を活かし、地方自治体等地域の協力を得るため、公益財団法人国立劇場おきなわ運営財団に委託

新国立劇場の管理運営についても、芸術家、芸術団体等の創意、工夫を取り入れるとともに民間等の協力を得るため、公益財団法人新国立劇場運営財団に委託

委託に当たっては、経費の見直しや自己収入の確保等の方策により収支構造の改善等に計画的に取り組むとともに、契約内容の検証を行い、更に効率化

(2) 「公共サービス改革基本方針」（平成24年7月20日閣議決定）に基づき、劇場等の管理・運営等業務について、民間競争入札の実施の可否等を引き続き検討

《年度計画の概要》

V その他主務省令で定める業務運営に関する事項

1 人事に関する計画

(1) 職員の計画的、適正な配置、外部機関との人事交流、多様な人材を確保・育成

(2) 各種研修による各職員の能力開発、専門性の確保及び意識改革、適切な労務管理を実施

ア 接遇、公演業務等の内部研修の実施

イ 会計、人事関係業務等の外部研修の活用

ウ 職員の心身の健康の保持増進

2 施設・設備に関する計画

(1) 長期的な視野に立った整備計画を策定、別紙4のとおり施設・設備に関する計画に沿った整備を推進、舞台設備等の機能維持に必要なメンテナンスを実施

国立劇場本館・演芸場等準町地区の施設・設備の改修について、実施計画策定に向けた検討を開始、具体的な調査研究の実施

大規模改修事業のPFI導入可能性調査の実施

(2)整備内容の検討及び実施

3 その他振興会の業務の運営に関し必要な事項

公益財団法人国立劇場おきなわ運営財団及び公益財団法人新国立劇場運営財団への運営委託
収支構造の改善等への取組、契約内容の検証

IV-1 人事に関する計画

《主要な業務実績》

- ・ 国の機関、国立大学法人、国立劇場おきなわ運営財団及び新国立劇場運営財団との人事交流を実施
- ・ 内部研修や外部研修を積極的に導入
- ・ 産業医、外部機関と連携し、職員のメンタル不全対策を実施
- ・ 新卒採用職員を振興会に支障なく定着できるようにサポートすることを目的として、メンター制度を実施

《業務実績詳細》

1. 職員の計画的・適正な配置、適切な人事交流の実施

- ・ 27年度は、新規採用の一般事務職員、舞台技術職員、中途採用の58歳以上を対象とした高齢者雇用制度による一般事務職員及び任期付きの事務員を採用した。
- ・ 国の機関、国立大学法人等との人事交流を実施し、多様な人材の確保によって組織の活性化を図った。
- ・ 国立劇場おきなわ運営財団及び新国立劇場運営財団の要請により振興会職員を派遣し、両財団における円滑な委託業務の実施に資することができた。

(受入)

国の機関及び国立大学法人から出向者の受入（14人）

(派遣)

国の機関への職員の派遣（2人）

国立劇場おきなわ運営財団への職員の派遣（4人）

新国立劇場運営財団への職員の派遣（11人）

2. 研修の実施による職員の能力開発、職員の専門性の確保、適切な労務管理の実施

(1) 職員研修の実施

- ・ 新規採用職員を対象とした観客サービス研修・電話マナー研修や、営業部門の職員を対象とした電話対応研修を行い、職員の能力を向上させるとともに、顧客サービスの充実を図った。
- ・ 採用後2年以内の職員を対象とした公演研修を行い、専門的知識の習得と意識の向上を図った。併せて、採用後3年以内の職員を対象として、各部課長を講師とした業務研修を行い、振興会の業務全体の理解を促した。
- ・ 情報セキュリティの向上を図るため、全職員を対象として、振興会情報セキュリティポリシーに基づき、情報セキュリティ研修を実施した。また、全職員を対象としてパソコン研修を実施し、事務作業に必要な知識、技術の習得を図った。
- ・ 施設整備研修を実施し、技術的諸課題及び予算、契約等の事務執行について、共通の理解を深めるとともに効率的な業務実施を図った。
- ・ 経理部門所属職員が講師となり、各課の経理業務を担当している職員に対して、予算制度・収入支出業務・契約業務等についての経理関係業務研修を実施し、知識の習得に努めた。
- ・ 文楽劇場では、特に専門性が求められる文楽技術室に勤務する非常勤も含めた若手職員を地方公演や東京公演に同行させ、他劇場公演の対応方法等のOJT研修を行い、技術の継承を図った。
- ・ その他、内部研修や外部研修の積極的な導入を行い、業務に必要な専門的知識の習得に努めた。
- ・ 公益社団法人全国公立文化施設協会主催の外部研修に参加及び協力を行い、それを通じ、アートマネジメントに関する専門的知識を得るとともに、他の劇場との交流の機会を得た。

(2) 職員の専門性の確保

- ・ 職員の専門性の確保を図るため、新規採用職員に対し、20年度より実施している公演研修を27年度もを行い、伝統芸能の公演制作過程の実習を行うとともに観劇レポートの提出を課題とする新人研修を実施した。
- ・ 採用2年次の職員についても能楽や舞踊、邦楽等の公演に関する事前レクチャーと観劇及びレポート作成を義務付け、加えて26年度に引き続き振興会が行う教員免許状更新講習の「伝統芸能にみる日本のこころ」を聴講させた。
- ・ 文楽技術室の衣裳担当においては、26年度に非常勤職員（アルバイト）、27年度に嘱託職員として勤務した者を、28年度から常勤職員として採用し、組織内での技術指導を行う。

- ・ 引き続き、組織内での技術指導を行い、技術の伝承に努める。
- (3) 適切な労務管理の実施
- ・ 引き続き、心の健康に関する相談窓口業務を外部専門業者に委託し、連携を密にしなが電話・メール・面談等によってプライバシーの保護に配慮し気軽に相談できる環境を整えた。
 - ・ 24年度より医務室の医師に委嘱しているメンタルヘルスの専門医と連携し、メンタル不全者の復職支援、相談業務、係長級を対象とした研修等を実施した。
 - ・ また、メンタルヘルス対策として、入職して数年の職員及び管理職員を対象としたコミュニケーション研修を行い、職場内外における意思の伝達を円滑にする技術の習得を図った。
 - ・ 職員のストレスチェックを実施するとともに、入職2、3、4、7、10年目の職員に対して専門のカウンセラーによる個別面談を実施した。併せて、ストレスチェックの結果が良好でない若年層に対して、人事労務課職員による個別面談を実施し、若年層職員の心の健康維持を図った。
 - ・ 新卒採用職員が振興会に支障なく定着できるようにサポートすることを目的として、若手先輩職員をメンターとするメンター制度を実施した。

《自己点検評価》

○ 自己評定

B

(根拠)

- ・ 新規採用の一般事務職員、舞台技術職員、中途採用の任期付職員及び58歳以上を対象とした一般事務職員を採用するとともに、国の機関、国立大学法人等との人事交流を実施することにより、多様な人材の確保、育成を実施した。
 - ・ 内部研修や外部研修の積極的な導入を行い、各職員の能力開発を実施した。
 - ・ 若手の一般事務職員については、公演研修により専門性の確保を図った。若手の舞台技術職員については、業務を通じての教育、技術の継承に加え、外部の研修会に参加させることで、専門性の確保を図った。
 - ・ 心の健康に関する相談窓口の設置、メンタルヘルスを専門とする産業医による面談及び研修会、ストレスチェックの実施及びその結果を受けての外部カウンセラー、人事労務課職員による個別面談、メンター制度の実施により、適切な労務管理を実施した。
- 良かった点・特色ある点
- ・ 外部研修の積極的な導入を図り、業務に必要な専門知識を集中的に学ぶ機会を持った。
 - ・ 24年度より委嘱しているメンタルヘルスの専門医と連携し、休職者の復職支援に注力し、円滑な職場復帰を進めることができた。
 - ・ ストレスチェックを実施するとともに、その結果を受け、迅速に職員の個別面談を実施し、ストレスの軽減を図り良好な職場環境を目指した。
 - ・ メンター制度を実施し、新卒採用職員が振興会に支障なく定着できることを目指した。
- 見直し又は改善を要する点
- ・ 27年度に実施したストレスチェックの結果を、次年度以降の労務管理の参考にするとともに、研修内容や専門医との面談について検討し、より効果的なメンタル不全対策の実施を図る。

IV-2 施設・設備に関する計画

《主要な業務実績》

- ・ 国立劇場大劇場 2 階客席のバリアフリー対策工事を実施
- ・ 国立劇場等大規模改修の整備手法の検討のため、PFI 事業導入可能性調査を実施
- ・ 国立劇場等大規模改修事業について、実施計画策定に向けた具体的な調査研究を実施
- ・ 屋外の段差、路面標示、案内看板等の新設・改修等の環境整備を実施

《業務実績詳細》

1. 施設整備費補助金による施設・設備の整備等

- ・ 国立劇場等大規模改修工事等 27,818 千円
- ・ 国立劇場舞台機構設備改修工事 92,689 千円
- ・ 国立劇場音響調整卓設備整備 229,770 千円
- ・ 国立演芸場調光卓設備整備 100,002 千円
- ・ 国立文楽劇場舞台吊物機構更新工事 124,956 千円
- ・ 国立文楽劇場エレベーター等改修工事 89,186 千円
- ・ 国立文楽劇場客席椅子及びカーペット等改修工事 128,196 千円
- ・ 新国立劇場ワイヤレスマイクシステム更新工事 93,064 千円
- ・ 新国立劇場舞台機構設備改修工事 384,696 千円
- ・ 新国立劇場キューランプ設備及び映像モニター設備整備工事 376,650 千円

2. 運営費交付金による施設・設備の整備等

- ・ 国立劇場館内共聴用カメラ更新 5,724 千円
- ・ 国立劇場大劇場及び小劇場 DMX ノード購入 5,184 千円
- ・ 国立劇場ポスターボード等補修 5,184 千円
- ・ 国立文楽劇場受水槽他改修工事 7,992 千円
- ・ 新国立劇場（オペラ劇場）オペラカーテン更新 一式 29,052 千円
- ・ 新国立劇場舞台美術センター外灯設備改修工事 7,376 千円
- ・ 新国立劇場（小劇場）舞台照明直電源整備工事 29,160 千円
- ・ 新国立劇場舞台照明 1 灯用蛍光灯器具更新 6,588 千円

（本館）

- ・ 来場者が目的の施設に迷わず行けるよう劇場への案内表示の再検討を行い、視認性の高いデザインに統一した。
- ・ 路面標示の修正及び駐車スペース等のライン引き直しを行い、来場者の安全性・利便性の向上を図った。
- ・ 敷地内を安全に歩行するため段差の解消や注意喚起のための白線引き等を行った。

3. 長期的な視野に立った整備方針の検討

- ・ 国立劇場等の施設・設備は、経年により老朽化が進んでおり、大規模改修までの間、劇場運営において安全性を確保するため、予防保全を目指して計画的に保守・点検等を行うこととしている。
- ・ 施設・設備の維持管理及び整備等については、「文部科学省インフラ長寿命化計画（行動計画）」を踏まえ「日本芸術文化振興会インフラ長寿命化計画（行動計画）」を策定し、長寿命化に向け自主的に取組を推進する必要がある。
- ・ 国立劇場等大規模改修の基本計画を外部有識者の意見等を踏まえて策定し、第 2 回役員会（4 月 20 日開催）において決定した。
- ・ 国立劇場等大規模改修の整備手法について、PFI 事業導入可能性調査を実施した結果 PFI 事業方式での実施が適当であるとの結論が得られた。
- ・ 国立劇場等大規模改修の整備手法として PFI 事業方式を導入することについて、第 40 回評議員会（3 月 29 日開催）において了承された。

《自己点検評価》

○ 自己評定

B

(根拠)

- ・ 国立劇場等大規模改修基本計画の策定を計画的に実施した。
- ・ 事務棟のエレベーターは、経年劣化が進行し、かつ部品供給が困難となっているため、制御盤及び連動する地震時管制運転装置等の基本部分を新規装置に改修することにより、突発的に使用不能となる事態を回避する事ができた。
- ・ 国立劇場大劇場2階客席のバリアフリー化は、2階ロビーから段差無く2階客席の一部に移動ができ、十分な幅を有する臨時的客席通路を確保することが可能となり、観客の安全性・利便性の向上が図られた。
- ・ 来場者が目的の施設に迷わず行けるよう劇場への案内表示の再検討を行い、視認性の高いデザインに統一した。
- ・ 敷地内を安全に歩行できるよう段差の解消や注意喚起のための白線を引いた。
- ・ 路面標示の修正及び駐車スペース等のライン引き直しを行い、来場者の安全性・利便性の向上を図った。
- ・ 新国立劇場では、開場以来使用してきた舞台機構、照明、音響といった各設備の改修及び更新を行い、舞台の安全性の確保とともに、多様化する演出への対応も図ることができた。

○ 良かった点・特色ある点

- ・ 事務棟のエレベーター改修工事は、新たに遠隔監視の導入を図るなど、安全性を図ることができた。
- ・ 国立劇場大劇場2階客席のバリアフリー対策工事は、2階客席の3列目床面と2階ロビー床面を同一レベルにするとともに、通路幅を拡幅し、通路の手摺を電動式で傾斜する機構とし、観劇時のサイトラインに支障がないようにした。
- ・ 国立劇場等大規模改修の整備手法について、PFI事業導入可能性調査を実施した結果、PFI事業方式での実施が適当であるとの結論が得られ、整備手法の方針を固めることができた。
- ・ 屋外環境整備の取組は、国立劇場開場50周年記念事業に向けた整備としてだけでなく、国立劇場等の大規模改修事業における屋外環境のあり方を検討する意義のある取組であった。
- ・ 新国立劇場では、映像モニター設備をデジタル化する等、部品供給が困難となっている設備の改修及び更新を進め、舞台運用の更なる安定化に努めた。

○ 見直し又は改善を要する点

- ・ 隼町地区の施設・設備の更新・改修工事に当たっては、公演日程との調整及び更新機器の搬入等計画について早期検討が必要である。
- ・ PFI事業導入可能性調査を実施した結果から得られた課題については早期検討が必要である。

IV-3 積立金の使途

《業務実績詳細》

(単位：千円)

区分	期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高
通則法 44 条 1 項積立金	370,064	20,932	0	390,996
通則法 44 条 3 項積立金				
施設整備事業積立金	7,131	0	7,131	0
基金助成事業積立金	73,351	0	0	73,351
公演事業等整備積立金	0	76,046	0	76,046
前中期目標期間繰越積立金	797,501	0	0	797,501
計	1,248,047	96,978	7,131	1,337,894

※ 通則法 44 条 3 項積立金の当期増加額は、前年度の未処分利益 96,978 千円の一部について主務大臣の承認を受けて公演事業等整備積立金に振り替えたものであり、それを除いた 20,932 千円を通則法第 44 条第 1 項積立金に振り替えております。施設整備事業積立金の当期減少額 7,131 千円は、施設・設備の充実のために固定資産を取得したものであります。

《自己点検評価》

○ 自己評定

B

(根拠)

- ・ 中期計画に定められた剰余金の使途に則って積立金を使用した。

IV-4 その他振興会の業務運営に関し必要な事項

《主要な業務実績》

- ・ 国立劇場おきなわ及び新国立劇場の運営委託を適切に実施

《業務実績詳細》

1. 国立劇場おきなわ運営委託（公益財団法人国立劇場おきなわ運営財団）

(1) 委託契約の状況

27年4月1日付けで、27年4月1日から28年3月31日までの組踊等沖縄伝統芸能に係る業務及び劇場の管理運営に関する業務委託契約について598,521,000円を限度として締結した。委託費の確定額は598,521,000円である。

(2) 委託内容

- ① 沖縄伝統芸能等の公演
- ② 組踊（立方・地方）伝承者の養成
- ③ 沖縄伝統芸能に関して調査研究を行い、また資料を収集し、利用に供すること
- ④ 劇場施設を沖縄伝統芸能の振興又は普及を目的とする事業その他のための利用に供すること
- ⑤ 劇場施設の管理運営
- ⑥ 前各号の業務に附帯する業務

(3) 運営に関する協議及び報告の状況

- ① 業務委託に係る規程の改正等を協議
- ② 各四半期終了後に受託業務状況報告書を受領
- ③ 委託期間終了後に受託業務実績報告書を受領
- ④ 固定資産取得報告書及び不用通知書を受領

(4) 運営委託の方針・連絡体制の整備等

- ・ 運営財団の業務が業務委託契約書に定める事業計画書及び収支計画書に沿った形で実施されていることについて、意見交換や受託業務状況報告書により、検証を行っている。また、財団の理事会、評議員会には常に振興会職員が出席するなど、連絡体制の強化に努めている。

(5) 効率化状況等

① 効率化状況等

- ・ 委託費の状況 (単位：千円)

年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
金額	616,640	610,162	617,897	600,319	598,521
前年度比	99.9%	98.9%	101.3%	97.2%	99.7%

② 委託先における業務の効率化等

ア 効率化に関する取組

a. 情報システムの活用

財団内のネットワークシステムを活用し、関係者への迅速な連絡、スケジュール管理及び供用施設の予約状況の確認を行うことで、財団全体の情報共有化を図り、業務効率を向上させる工夫を行った。またこれまでのチケット販売システムでは利用者の増加や支払方法の多様化などに十分な対応ができなかったことから、新システムを導入した。

b. 事務手続きの簡素化

複数年契約の導入を推進し、入札業務の簡素化に努めた。

c. 外部委託の推進

入札公告などは劇場敷地内に掲示するとともに、ホームページで競争入札参加に必要な公示（入札参加資格等入札情報を含む入札公告等）を掲載し、入札機会の拡大を図った。

d. 省エネルギー、リサイクルの推進

ペーパーレス化について、会議資料等の両面コピー及び両面印刷を実施している。

事項	区分	使用量/処理量	対前年度増減
光熱水量	電気使用量	2,343,132kwh	△4.0%

	ガス使用量	28,160 m ³	22.1%
	水道使用量	3,789 m ³	△13.6%
廃棄物	一般廃棄物	2,630kg	4.0%
	産業廃棄物	1,058kg	13.8%
ペーパーレス化	コピー枚数	570,033 枚	△16.9%
	用紙購入枚数	645,000 枚	0.8%

- ・ ガス使用量は、供給会社のガスの原料切り替え(8月)による増
- ・ 産業廃棄物は使用済み蛍光管等の廃棄(前年度実績 930kg)

イ 情報開示の推進

公益財団法人国立劇場おきなわ運営財団の業務及び財務等に関する情報を開示するため、ホームページにより以下の情報を公開している。

定款、役員名簿、事業報告書、正味財産増減計算書、貸借対照表、財産目録、事業計画書、収支予算書、委託に係る事業概要、組織図、事務分掌

2. 新国立劇場運営委託（公益財団法人新国立劇場運営財団）

(1) 委託契約の状況

27年4月1日付けで27年4月1日から28年3月31日までの現代舞台芸術の公演等及び劇場の管理運営に関する業務委託契約について3,751,077,000円を限度として締結した。委託費の確定額は3,735,077,000円である。

(2) 委託内容

- ① 現代舞台芸術の公演
- ② 現代舞台芸術の実演家その他関係者の研修
- ③ 現代舞台芸術に関して調査研究を行い、資料を収集し、利用に供すること
- ④ 劇場施設を現代舞台芸術の振興又は普及を目的とする事業その他のための利用に供すること
- ⑤ 劇場施設の管理運営
- ⑥ 附帯する業務

(3) 運営に関する協議及び報告の状況

- ① 業務委託契約に関する規程の改正を協議
- ② 各四半期終了後に受託業務状況報告書を受領
- ③ 委託期間終了後に受託業務実績報告書を受領
- ④ 固定資産取得報告書及び不用通知書を受領

(4) 運営委託の方針・連絡体制の整備等

運営財団の業務が業務委託契約書に定める事業計画書及び収支計画書に沿った形で実施されていることについて、定期及び随時に行う業務に関する意見交換や受託業務状況報告書により、検証を行っている。また、財団の主要な会議には常に振興会職員が出席するなど、連絡体制の強化に努めている。

(5) 効率化状況等

① 効率化状況等

- ・ 委託費の状況

(単位：千円)

年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
金額	4,013,428	3,977,840	3,778,596	3,826,811	3,751,077
前年度比	93.2%	99.1%	95.0%	101.3%	98.0%

② 委託先における業務の効率化等

ア 効率化に関する取組

a. 情報システムの活用

- ・ 前年度に引き続き、情報基盤及び情報の活用におけるセキュリティ確保を組織的に行うための基礎となる情報セキュリティポリシーの整備に向けた検討を行った。また、職員全体のセキュリティに関する意識をより向上させるためにセキュリティ研修を実施した。
- ・ 現代舞台芸術情報鑑賞システム及び閲覧用機器を更新し、付加情報登録機能及び検索機能等を充実させるとともに、利用者自身が閲覧用タブレット端末で情報センター閲覧室内の好む場所で映像を視

聴できるようにする等、利用者の利便性を向上させた。また、ビデオシアターの大型ディスプレイ等 AV 機器も合わせて更新し、高品質・高音質の映像を公開できるようにしたほか、機材の縮小化やディスプレイの壁掛け等を行い、室内の狭隘さを解消した。

- ・ 営業システム（業務支援システム）の改修を行うことで、チケットの販売状況等の情報をリアルタイムかつ詳細に分析できるようになり、より効果的な営業計画の立案を行えるようになった。
 - ・ 新国立劇場 Web サイト上で稼動する CMS をより高機能のものに更新し、情報更新におけるワークフロー運用の導入、情報公開期間のタイマー制御、出演者等と安全にスケジュールを共有するためのブログ機能の整備等、多面に渡る管理・運用の強化を行った。
 - ・ メール送信におけるセキュリティ強化ツールを導入し、メール送信時の一時留保、添付ファイルの強制暗号化等の機能の運用を開始し、誤操作による情報漏えいのリスクを低減した。
 - ・ インターネット上での新国立劇場の各種の催し物への参加申込み、アンケートの受付等については、これまで複数の仕組みを利用してきていたが、新規に共通基盤を導入し、効率性と安全性を向上させた。
 - ・ 業務支援システムについて、現状に増して効率的かつ効果的に業務を行えるようにすることを念頭におきつつ、関係部署と再来年度のシステム更新への協議を開始した。
 - ・ 利用者の利便性向上と経費節減を一層推進することを目的として、日本芸術文化振興会の図書システム及び文化デジタルライブラリーシステムに、将来、新国立劇場の図書、展示資料、ポスター、貴重書、公演情報等のデータを搭載するための仕組み構築のために関係部署との協議を開始した。
- b. 事務手続きの簡素化
- ・ 情報基盤の積極的な利用の推進及びそのためのマニュアルを整備することにより、事務手続きの簡素化を図った。
- c. 随意契約の見直し及び外部委託の推進
- 外部委託のうち、委託業務 24 件、物品の製造、販売、工事等 4 件の合計 28 件について一般競争入札を行った。また、すでに過年度に一般競争入札あるいは総合評価落札方式による複数年契約を行った委託業務が 16 件あるので、外部委託全 50 件のうち、44 件が一般競争入札等による契約を行ったことになる。
- d. 省エネルギー、リサイクルの推進

事 項	区 分	使用量/処理量	対前年度増減
光熱水量	電気使用量	6,783,044kwh	0.5%
	ガス使用量	4,790 m ³	△17.7%
	水道使用量	11,824 m ³	△9.5%
廃棄物	一般廃棄物	35,826kg	△9.9%
	再利用廃棄物	36,511kg	0.5%
	産業廃棄物	16,835kg	△2.8%
ペーパーレス化	コピー枚数	1,111,539 枚	△9.2%
	用紙購入枚数	2,676,000 枚	△0.2%

光熱水量については、地域冷熱（冷水、蒸気）が大きなウエイトを占めるが、地域冷熱の使用量の節減に努め、基本料金（契約量）の低減につなげている。地球温暖化対策計画においても、省エネルギー対策を実施している。なお、ガス使用量は厨房器具の更新及び電化により減少となっている。

イ 給与水準の適正化等

- ・ 新国立劇場運営財団の職員給与については、振興会職員給与規程に準拠した規程を整備し、適正に執行している。
- ・ 人事院勧告に基づく振興会の措置に準じ、給与及び手当の改定を行った。

ウ 情報開示の推進

- ・ 公益財団法人新国立劇場運営財団の業務及び財務等に関する情報を開示するため、ホームページにより以下の情報を公開している。

定款、役員名簿、事業報告、収支計算書、正味財産増減計算書、キャッシュ・フロー計算書、貸借対照表、財産目録、事業計画書、収支予算書、目的・事業、組織、調達情報

《自己点検評価》

○ 自己評定

B

(根拠)

- ・ 国立劇場おきなわ及び新国立劇場の運営委託について、継続的に効率化を図りつつ、適切に運営した。
 - ・ 両財団の運営状況の検証、振興会との連絡体制の強化に引き続き努めた。
- 良かった点・特色ある点
- ・ 引き続き、一般競争入札等の推進により外部委託の効率化を図り、仕様や公示方法の見直しを行い、競争を活性化させたい。また一部調達につき、日本芸術文化振興会との共同購入の検討を行うことで調達の効率化を試みた。
 - ・ 光熱水量については、各部署において節約に努めた。また地球温暖化対策計画において、省エネルギー対策目標を達成出来た。
 - ・ 情報システムを有効的に利用することにより、業務の効率化、情報セキュリティの強化を行うことができた。
- 見直し又は改善を要する点
- ・ 一般競争入札等による効率的な外部委託を推進しているが、業務内容の変化への対応など、業務の質を担保した入札とするのは困難な場合もある。これに対応するため、引き続き、企画提案型の導入など、調達方法の多様化を進めていきたい。
 - ・ 省エネルギー、リサイクルの推進については、引き続き職員への啓発活動や協力要請を重ねて行う。
 - ・ 情報セキュリティポリシーの策定及び実施により、情報基盤及び情報の活用におけるセキュリティ確保をより強化していきたい。

独立行政法人日本芸術文化振興会

平成 27 事業年度業務実績報告書

平成 28 年 6 月 30 日発行

発行：独立行政法人日本芸術文化振興会 (Japan Arts Council)

編集：総務企画部計画課

〒102-8656 東京都千代田区隼町 4 番 1 号

TEL：03-3265-7411 (代表) / FAX：03-3265-8782

<http://www.ntj.jac.go.jp/>